



2014

宝塚大学
宝塚大学大学院

はじめに

平成3年（1991年）7月に大学設置基準が改正され、教育課程に関する法的規制の大綱化が示された。それに伴い、各大学は自主的かつ自律的に自己点検・評価に努め、大学教育の水準を向上させ、活性化を図ることが最重要の課題となった。平成15年（2003年）4月からは自己点検及び評価の義務化が学校教育法に明記された。

本学では、いち早く平成3年（1991年）10月より、大学の自己点検・評価に関する準備委員会を発足、定期的に自己点検・評価を実施する具体案の検討を重ねてきた。

その結果、自己点検の大綱をまとめ、さらに自己点検・評価に関して、本学としての理念・目的をふまえ、教授会の審議・承認をへて理事会に上申、自己点検運営委員会規程（現自己点検・評価委員会規程）並びに大学評価審議会規程の成立をみるに至った。

この両規程の内容を要約すれば次の通りである。すなわち、大学自己点検・評価委員会で大学の実状を点検し、改善・改革すべき点を明らかにし、その結果を大学評価審議会に報告、同審議会では点検内容を評価すると共に、本学のその時点における基準を策定した上、理事会の承認を得て、その基準に達しているか否かを認定する、いわゆるア krediteーション（Accreditation）の任務をもつ。

なお、大学評価審議会の委員には、客観性と妥当性を保つべく、学外の学識経験者らによる、第三者評価の意義を深めている。

本学は平成20年度に認証評価機関による審査を受け、「基準を満たしている」と認定された。次回の平成27年度を受審への準備を進めている。

本誌は、大学評価に向けての第一段のプロセスである、平成25年度における本学の自己点検の結果の概要を報告するとともに、大学評価審議会の審議の資料とするものである。また大学の内外に本学の教育研究の全容を公表する資料である。

平成26年（2014年）3月

宝塚大学

UNIVERSITY ACCREDITATION

目 次

はじめに

目次	2
改訂 第21版の発行にあたって	4
1. 宝塚大学 建学の精神と教育理念	5
2. 学園の沿革	6
3. 大学組織	8
4. 教育研究組織・委員会組織	9
4-1 教育研究組織	9
4-2 委員会組織	10
5. 教員組織（平成25年度）	11
6. 学部の構成と特徴	14
6-1 教育課程編成の基本方針	14
6-2 学部・学科の特徴	14
造形芸術学部	14
制作力創造学科	14
想像力創造学科	15
東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科	15
看護学部 看護学科	16
博物館学芸員課程	16
教育職員免許課程	16
6-3 授業科目	17
7. 大学院の特徴と教育方針	21
7-1 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻 メディア・コンテンツ専攻の構成と特色	21
7-2 研究分野(修士課程)の内容/博士課程の趣旨と特色	21
7-3 大学院修士課程の研究領域と授業科目	22
7-4 大学院博士(後期)課程の研究領域と授業科目	24
8. 教員略歴・学会・社会における活動および研究・制作活動	25
学部	25
大学院	76
専任教員の研究活動等	77
9. 委員会活動状況	79
10. 教育の改善と活性化対策	93
10-1 授業計画(シラバス)の編集・発行	93
10-2 学外見学・学外研修	94
10-3 学生による授業評価(2001年度まで)	108

10-4	学生による授業評価からの教育内容・方法の改善について（2002年度）	109
10-5	学生による授業評価の改善（2002年度）	110
10-6	学生による授業評価のその後の改定（2004年度以降）	111
10-7	職員による授業評価	115
10-8	学生による授業評価の今後の課題	116
10-9	科目履修ガイダンス	121
10-10	特別講座の開催	123
10-11	大学紀要-ARTES-の発行	126
10-12	マンガコース「ZOOOKA COMICS」「NEO」の発行	134
11.	学修支援及び学生支援	135
11-1	オフィスアワー、T Aによる学修支援等	135
11-2	経済的支援、奨学金等の状況	136
11-3	健康相談・メンタルケアの状況	136
12.	本学におけるネットワーク整備の現状	138
	学内LAN(キャンパス情報ネットワーク)	138
13.	大学の地域社会・地方自治体との連携と協力	139
14.	学生の受入れ	161
14-1	学生受入れの概要（学部/3年次編入/大学院）	161
14-2	学生募集状況と入学選考結果	169
14-3	年度別卒業生並びに修了者数	176
14-4	入学前教育の実施	177
15.	図書館	180
15-1	施設の実態	180
15-2	図書、雑誌、視聴覚資料	180
15-3	利用状況	180
15-4	蔵書・資料の今後の収集方針	181
16.	学生の活動	182
16-1	クラブと活動状況	182
16-2	公募展受賞	183
16-3	学生の地方自治体への協力	189
17.	卒業生の進路状況	190
17-1	卒業生の進路状況・就職ガイダンス実施状況・インターンシップ参加状況	190
17-2	卒業生の就職企業リスト	200
18.	校地・校舎の概要	205
19.	大学自己点検・評価委員会の設置	214
20.	大学評価審議会の設置	216
21.	大学機関別認証評価	225
21-1	認証評価結果	225
21-2	総評	225
21-3	基準ごとの評価	226
	おわりに	231

改訂 第21版の発行にあたって

本学は平成22年度に大阪梅田キャンパスに看護学部を設置したのを機に名称を宝塚造形芸術大学から宝塚大学へと変更した。またこれに伴って、宝塚キャンパスの造形学部及びメディア・コンテンツ学部の2学部を造形芸術学部1学部に統合し、平成25年度には学科・コースの大幅な見直しを行い、制作力創造学科と想像力創造学科の2学科に再編成した。

ここに刊行する第21版は平成25年度における教育研究活動の記録であり、芸術分野と医療（看護）分野、宝塚・梅田・新宿の3つのキャンパスを持つ本学の特色をいかして、どのように教育研究を進めるべきかを模索した報告である。

2014年3月

宝塚大学

1. 宝塚大学 建学の精神と教育理念

1-1. 建学の精神「芸術と科学の協調」

「本学は、人間形成の一環として、芸術・科学に関する学問を素地とし、芸術的体験と通じて、情操の陶冶につくすとともに、科学の理解力と豊かな感性・創造性・実践力を育成し、更に将来に対する深い洞察力の涵養により、生活文化の向上と産業社会の発展に貢献し、国際社会に対応し得る人材の育成を図ります。」

本学の教育目的と大学の個性・特色は「芸術と科学の協調」の追求による、社会的人間の養成にあり、大学設置以来、一貫してこの趣旨にそった教育研究組織及び教育課程の整備・拡充を行ってきたところである。ここでいう「芸術と科学の協調」とは、芸術的思考、すなわち美的感性による思考と、科学的思考、すなわち仮説と推論によって組み立てる厳密な方法に基づく思考の協調と融合をはかるということである。

1-2. 教育理念

人間の「生きる力」を支える、心に働きかける芸術と看護教育

「<「芸術」と「看護」の宝塚大学>

宝塚大学には芸術と看護という2分野の学びがあります。芸術は作品制作を通じて、いまここにはいない相手とのつながりを求める行為です。一方の看護は、目の前にいる人間に対するアプローチです。いっけん異なるもの同士に見える芸術と看護ですが、実は原点は同じです。

<ともに人間の心に働きかける行為>

それはふたつとも、人間の気持ちに癒しを与え、人間を開放していく行為だからです。芸術と看護をめぐる最近の状況に目をやると、メディアの多様化・細分化により芸術表現の幅は大きく広がりました。医療の進展は多くの病を克服できる状況をもたらしました。しかしそのことによって、人びとの気持ちが豊かになったり不安が軽減されたりしたかと言えば、必ずしもそうはなっていません。そこでいま、「生きる力」として必要な芸術と看護、人間の心に働きかける芸術や、看護を実践できる人材が求められているのではないのでしょうか。その点、芸術・看護の2分野をもつ本学なら、心に働きかける創造や医療という本質を見失わない教育が可能だと考えています。

<学生の可能性。創造性を引き出す教育>

絵やマンガを描くことに興味がある。人のお世話が好き。学生たちの入学の動機はさまざまですが、最初はそうした漠然とした気持ちでもいい。それを開花させるのが本学の役目だからです。多くの若者は、自分が潜在的にもつ大きな可能性、創造性に気づいていません。若者の内に秘めた可能性を引き出す。それが本学の最大の特色です。そのため最初から方向性を限定せず、学生のおもいと個性を尊重しながら、教育を進めます。教員は学生一人ひとりに寄り添います。たとえ小さな空想でも、きっかけ一つで大きな創造に飛躍します。ぜひそれを、本学での学びを通して実感してください。」

1-3. 大学(学部、大学院)の目的

大学学部

宝塚大学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、美術、デザイン、芸術情報及びメディア・コンテンツに関する理論及び表現並びに看護・保健に関する専門の学術について深く教授研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。

大学院

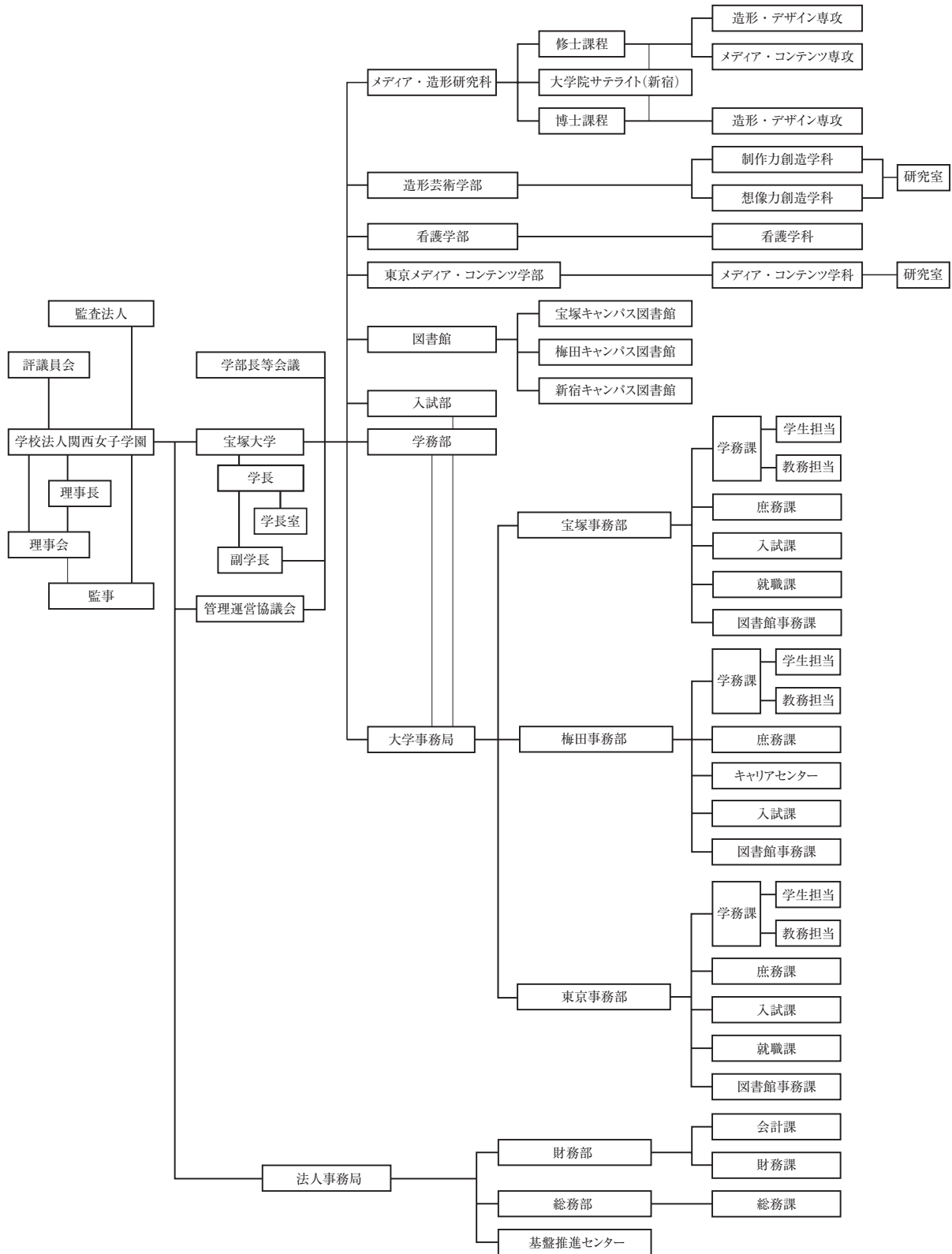
宝塚大学大学院は、美術、デザイン、芸術情報及びメディア・コンテンツに関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め又高度の専門性が求められる職業を担うため、深い学識及び卓越した能力を培い文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 学園の沿革

昭和42年	1月	学校法人関西女子学園及び関西女子学園短期大学(デザイン美術科入学定員120人)設置認可を受ける
昭和42年	4月	関西女子学園短期大学デザイン美術科開設 (所在地:大阪府箕面市稲5丁目5番1号)
昭和50年	5月	関西女子学園短期大学を関西女子美術短期大学に改称
昭和52年	1月	関西女子美術短期大学デザイン美術科入学定員120人を200人に入学定員増変更認可を受ける
昭和52年	6月	宝塚造形芸術大学設立準備委員会設置
昭和61年	12月	文部大臣から宝塚造形芸術大学造形学部美術学科(入学定員25人) 産業デザイン学科(入学定員75人)設置認可を受ける (1383,74㎡)の第1期工事完成
昭和62年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部開設 (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つじが丘7番27号)
平成2年	12月	関西女子美術短期大学デザイン美術科に期間を付した入学定員100人の増加に係る許可を受ける
平成2年	12月	文部大臣から宝塚造形芸術大学に期間を付した入学定員(美術学科入学定員15人・産業デザイン学科入学定員45人)の増加に係る認可を受ける
平成5年	3月	宝塚造形芸術大学大学院造形研究科造形・デザイン専攻修士課程 (入学定員10人)設置認可を受ける
平成5年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程開設 (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つじが丘7番27号)
平成6年	12月	関西女子美術短期大学デザイン美術科入学定員300人を250人に入学定員変更認可を受ける
平成6年	12月	宝塚造形芸術大学造形学部映像造形学科(入学定員50人)設置認可を受ける
平成7年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部映像造形学科開設 (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つじが丘7番27号)
平成8年	2月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科・産業デザイン学科教育職員 免許法による教育職員課程(美術)の認定を受ける(美術学科・産業デザイン学科)
平成8年	4月	関西女子美術短期大学を関西芸術短期大学に改称
平成10年	12月	関西芸術短期大学デザイン美術科入学定員250人を200人に入学定員増変更認可を受ける
平成10年	12月	宝塚造形芸術大学造形学部芸術情報学科(入学定員50人・編入学定員5人)設置認可を受ける
平成11年	1月	宝塚造形芸術大学の運動場施設工事完成する
平成11年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部芸術情報学科開設 (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つじが丘7番27号)
平成11年	10月	宝塚造形芸術大学造形学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う入学定員増認可を受ける
平成11年	12月	宝塚造形芸術大学大学院造形研究科造形・デザイン専攻博士課程(入学定員3人)設置認可を受ける
平成12年	4月	宝塚造形芸術大学大学院博士課程開設 (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つじが丘7番27号)
平成12年	10月	宝塚造形芸術大学造形学部映像造形学科入学定員50人を100に入学定員増認可を受ける
平成12年	12月	関西芸術短期大学デザイン美術科入学定員200人を150人に入学定員変更認可を受ける
平成13年	4月	関西芸術短期大学を宝塚造形芸術大学短期大学部に改称
平成13年	5月	宝塚造形芸術大学映像スタジオ(350,96㎡)完成
平成13年	12月	宝塚造形芸術大学短期大学部デザイン美術科入学定員150人を110人に入学定員変更認可を受ける
平成13年	12月	宝塚造形芸術大学造形学部産業デザイン学科入学定員120人を160人に入学定員増認可を受ける
平成13年	12月	宝塚造形芸術大学大学院造形研究科造形・デザイン専攻修士課程入学定員10人を40人に入学定員増認可を受ける
平成14年	12月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科入学定員40人を60人に映像造形学科入学定員100人を170人に 芸術情報学科入学定員50人を70人に入学定員増認可を受ける
平成15年	3月	宝塚造形芸術大学造形学部芸術情報学科に教育職員免許法による教育職員課程(情報)の認定を受ける (芸術情報学科)
平成15年	4月	宝塚造形芸術大学短期大学部学生募集停止する
平成15年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程大阪梅田サテライト開設 (所在地:大阪府大阪市北区芝田一丁目13番16号)
平成15年	11月	宝塚造形芸術大学大学院デザイン経営研究科デザイン経営専攻専門職学位課程(入学定員40人)設置認可を受ける
平成16年	4月	宝塚造形芸術大学大学院専門職学位課程開設 (所在地:大阪府大阪市北区芝田一丁目13番16号)
平成16年	5月	宝塚造形芸術大学短期大学部廃止認可を受ける (所在地:大阪府箕面市稲5丁目5番1号)

平成16年 11月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科(入学定員170人)コンテンツ・プロデューサ学科(入学定員150人)設置に伴う入学定員増の認可を受ける (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つつじが丘7番27号)
平成17年 4月	宝塚造形芸術大学造形学部映像造形学科学生募集停止する
平成17年 4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科及びコンテンツ・プロデューサ学科開設 (所在地:兵庫県宝塚市花屋敷つつじが丘7番27号 :大阪府大阪市北区芝田一丁目13番16号)
平成17年 4月	宝塚造形芸術大学造形学部産業デザイン学科の入学定員160人を190人に 芸術情報学科入学定員70人を40人に メディア・コンテンツ学部映像造形学科170人を270人に コンテンツ・プロデューサ学科150人を50人に変更する収容定員変更届出書が受理される(実施年度:平成18年4月)
平成17年 6月	宝塚造形芸術大学大学院造形研究科造形・デザイン専攻(修士課程)を大学院メディア・造形研究科造形・デザイン専攻(入学定員40人)とメディア・コンテンツ専攻(入学定員40人)の2専攻とするに変更届及び入学定員を造形・デザイン専攻40人・メディア・コンテンツ専攻40人の合計80人とする変更届が受理される (実施年度:平成18年4月)
平成18年 4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程東京新宿サテライト開設 (所在地:東京都新宿区西新宿七丁目11番1号)
平成18年 7月	宝塚造形芸術大学東京メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科(入学定員130人)設置に伴う入学定員増の認可を受ける
平成19年 4月	宝塚造形芸術大学東京メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科開設 (所在地:東京都新宿区西新宿七丁目11番1号)
平成19年 4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科の学科名称をメディア・コンテンツ学科とし 入学定員270人を320人に変更 同時にコンテンツ・プロデューサ学科を廃止する変更届(実施年度20年4月)が受理される
平成20年 4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科をメディア・コンテンツ学科に名称変更を行う
平成20年 3月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科入学定員270人を320人に入学定員増の認可を受ける
平成20年 4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科コンテンツ・プロデューサ学科を学生募集停止する
平成20年 4月	宝塚造形芸術大学大学院博士課程東京新宿サテライト開設 (所在地:東京都新宿区西新宿七丁目11番1号)
平成20年 4月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科入学定員60人を40人に 産業デザイン学科入学定員190人を160人にメディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科入学定員320人を170人に入学定員減の収容定員関係学則変更届出を行う(実施年度21年4月)
平成20年 4月	宝塚造形芸術大学大学院専門職学位課程入学定員40人を20人に入学定員減の収容定員関係学則変更届出を行う
平成21年 4月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科入学定員60人を40人に 産業デザイン学科入学定員190人を160人にメディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科入学定員320人を170人に入学定員減の実施を行う
平成21年 4月	宝塚造形芸術大学大学院専門職学位課程入学定員40人を20人に入学定員減の実施
平成21年 10月	宝塚造形芸術大学看護学部看護学科(入学定員100人)設置認可を受ける
平成22年 4月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科・産業デザイン学科・芸術情報学科及びメディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科の2学部4学科を造形芸術学部アート・デザイン学科(入学定員150人)メディア・デザイン学科(入学定員160人)の1学部2学科に改組を行う
平成22年 4月	宝塚造形芸術大学造形学部産業デザイン学科及び芸術情報学科学生募集停止する
平成22年 4月	宝塚造形芸術大学を宝塚大学に改称
平成22年 4月	宝塚大学看護学部看護学科を開設
平成23年 10月	宝塚大学専門職大学院デザイン経営研究科を廃止する
平成24年 3月	コンテンツ・プロデューサ学科を廃止する
平成25年 4月	宝塚大学造形芸術学部アート・デザイン学科を制作力創造学科に、メディア・デザイン学科を想像力創造学科に、それぞれ名称変更

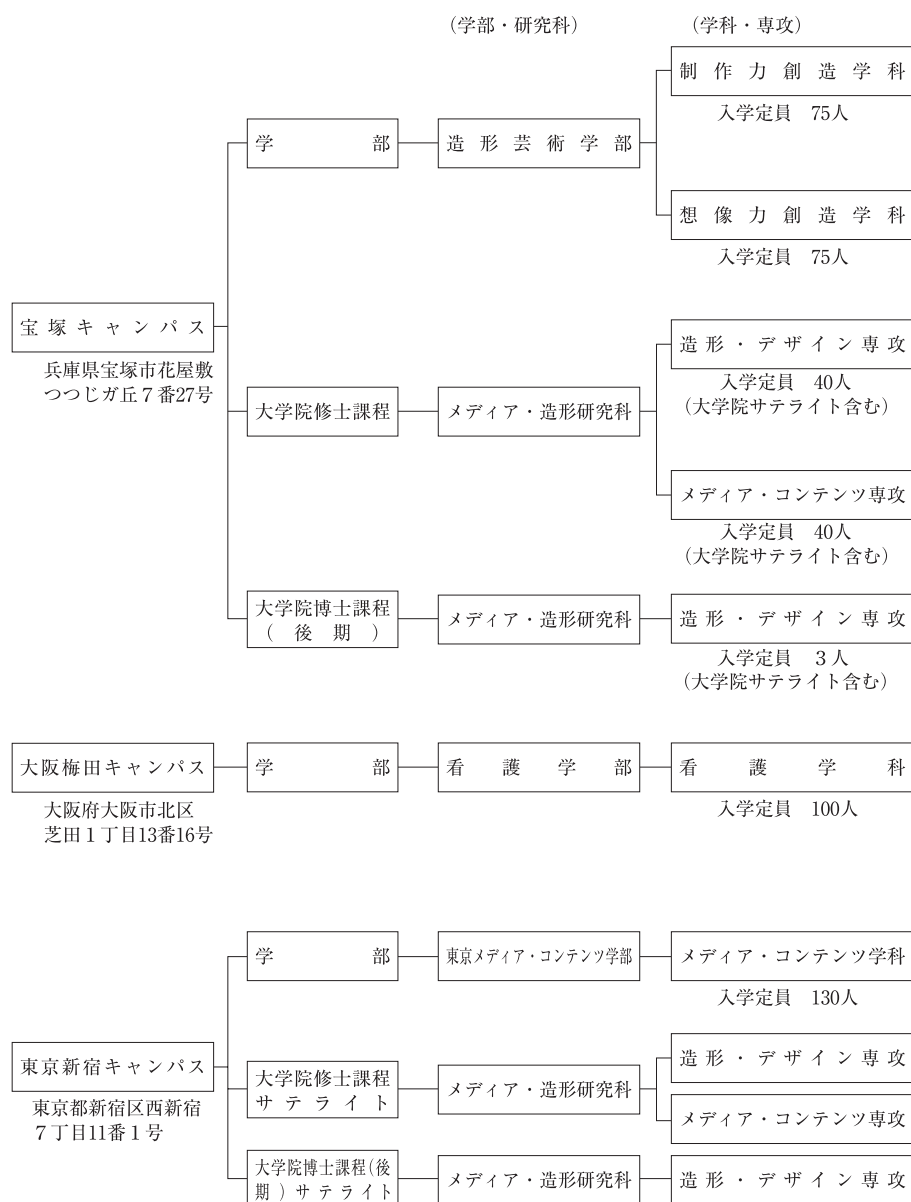
3. 大学組織



4. 教育研究組織・委員会組織

4-1. 教育研究組織

2013. 4. 1現在



4-2. 宝塚大学 委員会組織

2013. 4. 1現在

造形芸術学部 [宝塚キャンパス]	教務委員会
	F D・S D委員会
	学生委員会
	入試委員会
	図書・展示・紀要委員会
	学生募集部会（入試委員会部会）
	卒業制作展・造形展作業部会 （図書・展示・紀要委員会部会）
看護学部 [大阪梅田キャンパス]	教務委員会
	学生委員会
	入試委員会
	図書委員会
	実習委員会
	国家試験対策委員会
	キャリア支援委員会
	紀要編集委員会
	倫理委員会（ハラスメント）
	研究倫理委員会
	F D委員会
東京メディア・ コンテンツ学部 [東京新宿キャンパス]	教務委員会（兼F D・紀要）
	学生委員会
	入試委員会
	就職委員会

5. 教員組織（平成25年度）

教員組織表

学 長	小清水 漸
副学 長	柴田 恭亮
図書館 長	炭釜 啓人
入試 部長	北澤 嘉浩
学務 部長	炭釜 啓人
(学生担当部長)	山口 尚
人権・同和研究室 長	桂 正孝

〔学 部〕

造形芸術学部

学 部 長	吉川 直哉
-------	-------

制作力創造学科

学 科 長	大河 繁					
教 授	大河 繁	北澤 嘉浩	北田 研索	小清水 漸	児玉 靖枝	
	炭釜 啓人	曲子 明良	吉川 直哉			
准 教 授	木村 智博	楠田 雅史	水上 雅章	村田 大輔	森口まどか	
専任講師	上田 順平	植松 陽一	角南登紀子	木村 貴嗣		
助 教	岡田 大貴	合田 望				

想像力創造学科

学 科 長	吉村 誠				
教 授	大関 弘政	柳 隆雄	吉田 浩	吉村 誠	
准 教 授	高橋 一郎	林 勇氣	村上 佳明	山口 尚	
専任講師	葛佐 博	高垣 勝康	長久保光弘	沼田 浩一	
助 教	秋元 務	神澤 孝宣	田村 知視	松野 一樹	

教養科目・外国語科目・教職・博物館学芸員課程

教 授	朝野 富三	桂 正孝	倉澤 行洋	巽 圭太	藤木 隆義
	ホルスト・ヘンネマン		森田耕太郎	山下 幹生	
准 教 授	潘 山海				
兼任講師	尼子 章男	荒木 康裕	安藤 俊雄	安藤 福光	五十嵐 修
	生原 良幸	池田 敏夫	井ノ内博康	井口 征士	今村 悟
	今村 文彦	岩 琢磨	岩田 晶	岩村 卓	江原ひとみ
	大石 楠妮	大橋 泰弘	岡田 康志	尾中 哲夫	織田 紳也
	上久保真理	河内 厚郎	川尻 潤	河底美由紀	岸本 功喜
	北 義昭	清源友香奈	楠田 尊子	小林 繁樹	佐藤 晴美
	重田 謙	島村 漱	杉山 一雄	鈴木 洋昭	鷺見 昭雄
	竹中真希子	田中 理	田中 慶江	田端 拓哉	出川 哲朗
	寺澤 慎吾	中川 光	中村 伸之	成瀬 國晴	西 敏彦
	ニール・ブレットバーク		東 明	藤脇 慎吾	前川 友介
	増田妃早子	松岡 敬興	眞山 直則	丸山 耕市	溝邊 敬一
	森岡 厚次	安井 紫折	保田 淑郎	山田 毅	横越谷勝雄
	吉岡 千尋	吉田 義久	吉村 文彦	若井 喜治	

東京メディア・コンテンツ学部

学 部 長 竹内 一郎

メディア・コンテンツ学科

学 科 長	北見 隆								
教 授	井上 幸喜	川村 順一	北見 隆	櫻木 晃彦					
	竹内 一郎	成田 裕介							
特任教授 (新宿)	月岡 貞夫	二村 克彦	松本 零士						
准 教 授	古瀬 登	渡邊 哲意							
専 任 講 師	芦谷 耕平	市野 治美	高田 美苗	安田 隆浩	吉岡 章夫				
助 教	大成 拓								
兼 任 講 師	イエス小池	池田 宏	岩田 明子	薄井 隆	海老澤 敏	尾崎 史郎			
	勝又 俊雄	加藤みち子	河合 塁	川崎 弥生	小高みちる	佐野 哲郎			
	四宮 義幸	柴田こずえ	城芽ハヤト	高橋 信之	武澤 啓之	只野 信也			
	たちばないさぎ		竹内 敦	たぶき正博	多和田 吏				
	デイビッド・マーティン		鳥井 邦男	中川 明博	中路 真紀	ナシモトタオ			
	鍋島 淳裕	萩原 京子	橋本 三郎	春田 克典	平野 靖士	平山 敬二			
	本田 孜	真島ヒロシ	松平 聡	松吉 太郎	御影 雅良	宮川 雅彦			
	宮下 善成	村松 哲文	保田 悠介	山田 耕大	吉澤 早苗	吉田 光彦			
	李 宏偉	林 暉	和田 俊彦						

看護学部

学 部 長 柴田 恭亮

看護学科

学 科 長	中馬 成子								
教 授	雨宮 浩	内山 和美	河合 洋子	柴田 恭亮	巽 圭太				
	中馬 成子	中山 直則	人見 裕江	福間 和美	藤原 正恵				
	吉永 茂美								
准 教 授	八田 勘司	原田 俊子	日高 庸晴	米倉 摩弥					
専 任 講 師	上山 直美	小神野雅子	片山 知美	木村 静	澤田 京子				
	藤田 俱子								
助 教	池内 里美	岩下真由美	郷司 律子	酒井喜久子	島田亜紀子				
	末廣 由夏	野島 敬祐	前原なおみ	美王 真紀	森岡 広美				
	吉井 紀子								
兼 担 講 師	朝野 富三	上田 順平	北澤 嘉浩	林 勇氣	潘 山海				
	藤木 隆義	森口まどか	吉田 浩						
兼 任 講 師	飯島 照仁	池田 方彩	池田美智子	伊藤 美余	井口 征士				
	今村 悟	今村ふみ子	江川 隆子	岡田 康志	奥村 和子				
	尾田 弘子	桂 正孝	角山 圭一	加畑公一郎	河内 厚郎				
	神崎 舞	北垣 博美	木村 千尋	国武 和子	小林 秀加				
	小林 将元	小松 寛明	佐藤 孝雄	重田 謙	柴田 克志				
	菅原 正博	鈴木 洋昭	炬口真理子	田端 拓哉	田淵 晉也				
	寺師 榮	長江美代子	中川 光	中村 貞夫	長谷川章子				
	林 貴啓	潘 建秀	福島慎太郎	前川 友介	増田 千景				
	松田 崇志	松本 鉄也	溝邊 敬一	宮阪 信次	村川 武志				
	保田 淑郎	山口 三郎	横越谷勝雄						

〔大学院〕
宝塚キャンパス

メディア・造形研究科

研究科長 吉川 直哉

造形・デザイン専攻、メディア・コンテンツ専攻

教 授	大河 繁	北澤 嘉浩	倉澤 行洋	小清水 漸	児玉 靖枝
	崎田喜美枝	炭釜 啓人	藤木 隆義	ホルスト・ヘンネマン	
	曲子 明良	山下 幹生	吉田 浩	吉村 誠	
准 教 授	森口まどか	林 勇氣	山口 尚	楠田 雅史	高橋 一郎
兼 任 講 師	上久保真理	出川 哲郎			

東京新宿キャンパス

メディア・造形研究科

研究科長 吉川 直哉

造形・デザイン専攻・メディア・コンテンツ専攻

教 授	井上 幸喜	北見 隆	川村 順一	倉澤 行洋	櫻木 晃彦
	竹内 一郎	成田 裕介	ホルスト・ヘンネマン		渡邊 哲意
特 任 教 授	月岡 貞夫				

6. 学部の構成と特徴

本学は、「芸術と科学の協調」を建学の精神とし、社会に貢献できる人材を育成することを教育・研究の目的としてきた。

平成22年度に大阪梅田キャンパスに看護学部を設置し、同時に宝塚キャンパスの造形学部及びメディア・コンテンツ学部を造形芸術学部1学部に統合した。

学部・学科構成は造形芸術学部（宝塚キャンパス）が制作力創造学科及び想像力創造学科の2学科、東京メディア・コンテンツ学部（東京新宿キャンパス）がメディア・コンテンツ学科1学科、看護学部（大阪梅田キャンパス）が看護学科1学科である。

6-1 教育課程編成の基本方針

各学部の特色を生かし、専門的な知識・スキルを身につける一方、学部間における科目の相互履修を取り入れて、専門性に偏らない教養的常識を養うように科目編成がなされている。例えば、看護学部の科目として、茶道・華道・書道など、伝統芸術に関する科目を設定し、看護師として必要な情操教育を実施している。また、造形芸術学部と東京メディア・コンテンツ学部及び看護学部との間をネットを介して結び、双方向のサイバー授業を行った。

また造形芸術学部及び東京メディア・コンテンツ学部においては、必修科目を選択科目にすることで、造形芸術、メディア・コンテンツについて幅広く学べるカリキュラム構成にしている。さらに学生が個々の資質に応じて、自らの将来を在学中に確立して行く教育手法と、初年次教育プログラム及びグループ学習によって、社会的適応性を高め、社会に対して積極的に貢献できる人材育成を図っている。

6-2 学部・学科の特徴

造形芸術学部

ファインアート、並びにデザインの専攻領域等を主に包含する制作力創造学科と、メディア・コンテンツ並びに舞台芸術の専攻領域を包含する想像力創造学科の2学科で構成される。一年次の前期には、複数の専任教員が担当して、8時限にまたがる演習「創造基礎」を設置している。個別のジャンルや基礎技術を見つける目的ではなく、すべての表現分野に繋がり、その本質を体験から見出して、学生の潜在能力の発掘するための授業である。平成22年度より、学生が狭い専攻領域に閉じこもるのではなく、造形芸術すべてにわたる広い視野とスキルを持てるように、全専攻領域にわたって必修科目数を大幅に減らし、他領域の専門科目も選択科目として履修できるようにした。科目の選択幅を広げたもう一つの理由は、学生各自が自らの適性と資質を自覚し、社会への出口を自分で見つけて行くための方策である。

平成24年度からは研究室制を導入し、学生が最も興味のある分野の研究室に所属して、そこを学びや創作の拠点とする。一つの専門分野を追及できるのはもちろん、複数の研究室を体験して独自の創造に取り組むこともできる。この柔軟な仕組みが、学科・領域の隔たりをなくし、一人ひとりの潜在能力を最大限に引き出す。

制作力創造学科

制作力創造学科には、美術領域とデザイン領域があり、美術領域では、洋画、日本画、立体造形（彫刻）、美術史、アートセラピーを、デザイン領域では、イラストレーション、ファッションデザイン、ビジュアルデザイン、広告、写真、プロダクトデザイン、インテリア空間デザインなどを専門分野として学ぶ。初年度には、「美術」や「デザイン」における基礎知識と技術を学習する。

各専門領域において優秀な人材となりうるために、一つの分野に偏らず、幅広い知識と技量を習得し、想像力豊かなクリエイターの育成をめざしている。

美術領域

絵画、立体造形、模写・模刻、美術史・美術理論、アートセラピーのすべてについて基本を学び、学年の進行とともに、自ら選んだ専攻の道を深めてゆく。

その他、デザイン領域、メディア・コンテンツ領域の科目、アートマネジメント関連科目も履修できる。

デザイン領域

「ファッションデザイン」「イラストレーション」「ビジュアルデザイン」「建築・インテリア」「プロダクトデザイン」「写真」など幅広いデザイン領域を通じて、それぞれの分野の基礎知識・技術、応用知識・技術の習得だけでなく、デザインの領域にアートを取り入れた芸術教育を通じて、時代を先取りできるマルチデザイナー、マルチクリエイターの養成を目指す。

想像力創造学科

想像力創造学科では映画、アニメ、サウンド、ゲーム、マンガ、映像メディア、ライブパフォーマンスなど、メディアを通して新しい世界を創作していくコンテンツデザインを学ぶ。これらの専門領域では、基礎から専門までのカリキュラム構成の中から、自分の専攻する領域に係らず、自由に科目を選択し、履修できるため、いろいろな分野の技術や知識を学ぶことができる。また、自由選択制を取り、一人一人の個性や希望にそったカリキュラムの構成を、担当の専任教員とともに作って行く。

コンテンツ業界において、新しい創造を生み出すには、各領域の技術・知識を相互に利用し、さらに幅広い知識の習得は非常に重要である。基礎をみっちりと学んだ上で、さらに幅広い知識と技量を習得し、質の高い、応用力のあるクリエイターの育成を目指す。

メディア・デザイン領域

「マンガ」「アニメ」「ゲーム」「映像」「放送」「舞台芸術」などの各メディアで、新しい創造世界を構築できるクリエイターを養成する。学科横断でブランドを企画する演習など、幅広い分野がある利点を活かして学ぶ。どの領域もコンピュータの利用が重要な技能となるため、IT・マルチメディアの実践力の習得にも励む。

東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科

メディア・コンテンツ分野を学ぶ大学としては、東日本でも先駆的な存在として平成19年4月に東京・新宿に開設された。5つのコースに分かれ、教員の多くは現在も第一線で活躍するクリエイターたちであり、実践的な学習を通じて次代を担うクリエイターたちの養成を目指す。クリエイターだけでなく、クリエイティブ業界全体に人材を輩出したいと考えている。

「クールジャパン」の言葉に代表されるように、マンガ、アニメ、ゲームは今なお世界をリードする日本のコンテンツである。そのことを強く意識しながら、基礎力の向上から最新の技術に対応できる専門性を修得させ、東京の中心部である新宿から国内のクリエイティブ業界へ、さらには世界へ発信できる人材を育成する。また、外国人の志望者にも広く門戸を開いている。

2013年度より、学生の多様な学びのニーズに対応するため、それまでの各コースの専門科目を自由に選択できる領域制を導入した。

マンガコース・領域

まず、手描きによる表現力をしっかりと身に付けたいという意識で、コンピュータ・グラフィックス（CG）などのデジタル技術を駆使した手法を学ぶ。マンガは絵だけではなく、魅力的なストーリーの展開が読者の心をつかむ。このため、シナリオ作り（原作方法）には特に重点を置き、4年間かけて物語の作り方を会得させる。アイデアの発想法、キャラクター制作、構図や背景処理など、マンガを描く上で欠かせないスキルの習得、さらに、プロの漫画家や編集者と実際の交流を通じて、ビジネスへの意識を高める指導も行っている。卒業後は、仕事に就きやすいという観点からアシスタント養成にも力を注いでいる。2013年度より、学生の多様な学びのニーズに対応するため、専門科目を自由に選択できる領域制を導入している。

アニメーションコース・領域

「商業価値の高い作品は芸術性も高い」。このコンセプトに沿って、作品のクオリティだけでなく、コンテンツとして広く活用できる付加価値の高い、売れるアニメーション制作を目指した学習を根幹にしている。授業を担当するのは、アニメの現場を知り尽くした教員たちで、彼らが実際に担当した番組などを題材に、時間枠など同じ条件を学生たちに与えて作品制作させる授業も。制約をクリアしながらの作品づくりによって、プロダクションなどの現場で通用する技術を磨く。学生たちの作品は国際アニメフェアにも出展する。

ゲームコース・領域

4年間でオリジナルなゲームを創ることができるようにカリキュラムを編成している。iphoneアプリケーションの開発など、グループで本格的な作品を共同制作することによって、プロジェクトのマネジメント手法やビジネス展開といった視点も採り入れ、総合的な理解力を図っている。学内にゲーム制作会社において学生が工房として利用し、進歩の度合いが速いゲーム業界の動向と常に向き合えるよう工夫をこらしている。工房で制作された学生のアプリ作品はすでに商品化されたものもあり、ゲーム・クリエイターが着実に育っている。

イラストレーションコース・領域

イラストレーションとは他者とのコミュニケーションの手段であると同時に、自己との対話でもある。4年間を通して行われるのは、自己のイメージネーションを具現化するための多様な技術指導と、より客観的な表現方法への導きである。自分は何故絵を描くのか、何を描くのが苦手で、何が苦手か。あくまでも手書きを重視した授業が中心となるが、

PCによる各種画像制作ソフトを使用した指導も行われる。イラストレーションという狭い枠にとらわれる事無く、絵本、版画、グラフィックデザイン、立体作品、壁画のボランティア制作や外部イベントでの共同制作等、さまざまな体験を通して自己の表現方法の追求が行われる。

映画コース

メディア芸術の中心である映像を学ぶところにこのコースがある。全体であれ部分的であれ映像が氾濫しているのが現代社会。その基礎となるのは映画である。シナリオをはじめ、撮影・照明・美術・録音・編集に至るまでの各技術の習得はもちろん、それに伴う知識と共用を育む為に実作を中心としたスタイルをとっている。具体的には各学年に応じた時間設定での作品制作を課題としている。映画は単独では出来ない共同制作であり、それ故総合芸術と呼ばれている。共同制作を通じ、コミュニケーション能力の向上と社会性を養うことも大切だが、何よりも他者を認識することを最終目的としている。あらゆる創作活動が、何よりも他者と認識することを最終目的としている。あらゆる創作活動が他者を認識しない表現行為は、独りよがりの自己満足に陥りやすい。他者を認識することにより、より豊かな想像力を持った表現者の育成に努める。

看護学部 看護学科

ヒューマニティーと創造性に溢れる看護師・保健師の育成を目標として、人間への深い理解と看護実践能力の基盤の育成を重視したカリキュラム編成をおこなっている。看護学教育では講義だけでなくグループワークや演習などの多様な授業形態を取り入れ、1年次には人間形成や人間と健康など専門分野を学習する上での基礎となる知識を習得する。2年次には専門基礎分野の知識を活用して、医学、保健学、社会福祉学などの近接領域の知識や技術を体系化し、看護学の概論を学習する。3年次・4年次には看護学の理解と技術を習得し、臨地実習や総合看護の実習をおこない、看護実践能力を養成する。4年間で幅広い教養と倫理観に富んだ豊かな人間性を形成し、保健医療福祉領域における看護学の役割・機能を理解し、人々の健康生活を支援するための看護実践能力の養成を図る。

博物館学芸員課程

博物館・美術館等で専門職員として従事するには、博物館法（昭和26年法律第285号）および同法施行規則（昭和26年文部省令第24号）に定められた学芸員の資格が必要であり、本学ではその資格を得るため全学部で博物館学芸員課程の認定を受けている。

学芸員の資格を取得するためには、次の要件を備えなければならない。

- * 学士の学位を有すること。（造形芸術学部を卒業すると学士（芸術学）（メディア・コンテンツ）の学位が得られる）
- * 博物館法および同法施行令に定める科目の単位を取得すること。

教育職員免許課程

教育職員免許の資格を得ようとするには、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に定められた授業科目を履修し、その単位を取得しなければならない。

本学では教育職員免許状の取得を希望する学生のために、平成8年4月から教職課程を開講している。現在、教職課程の認定を受けて開講している学部・学科は下記のとおりである。

(学 部)	(学 科)	(免許状の種類)
造形芸術学部	制作力創造学科 (アート・デザイン学科)	中学校教諭一種免許状（美術） 高等学校教諭一種免許状（美術）
造形芸術学部	制作力創造学科	高等学校教諭一種免許状（工芸）

6-3 授業科目

造形芸術学部

教養科目

論理の世界 現象を眼差・す 芸術学Ⅰ(芸術とことば) 芸術学Ⅱ(現代芸術論) 美学 文芸の世界 シェイクスピア劇と観客 ライティングスキル はなしことば 環境と生態 日本国憲法Ⅰ 知的財産権 メディア社会学Ⅰ メディア社会学Ⅱ 生きた人間学 民俗学 マンガ文化論 心理学への招待Ⅰ 心理学への招待Ⅱ ヒトの体のしくみと医療Ⅰ ヒトの体のしくみと医療Ⅱ 身体表現Ⅰa(体育実技) 身体表現Ⅰb(体育実技) 美術史概説 工芸史概説 工芸概論 デザイン概論Ⅰ デザイン概論Ⅱ 色彩学Ⅰ 色彩学Ⅱ 視覚情報伝達論 感性情報論 人間工学Ⅰ 人間工学Ⅱ コンピュータ基礎 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 身体表現Ⅱa(ダンス) 身体表現Ⅱb(ダンス)

外国語科目

英語Ⅰa 英語Ⅰb 英会話Ⅰa 英会話Ⅰb 基礎英語Ⅰa 基礎英語Ⅰb イタリア語Ⅰa イタリア語Ⅰb ドイツ語Ⅰa ドイツ語Ⅰb フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb 中国語会話Ⅰa 中国語会話Ⅰb ビジネス中国語Ⅰa ビジネス中国語Ⅰb 英語Ⅱa 英語Ⅱb 英会話Ⅱa 英会話Ⅱb 中国語会話Ⅱa 中国語会話Ⅱb ビジネス中国語Ⅱa ビジネス中国語Ⅱb

領域専門科目(美術)

基礎セミナー 基礎技術セミナーⅠ 基礎技術セミナーⅡ 基礎技術セミナーⅢ 基礎技術セミナーⅣ 洋画演習Ⅰ 洋画演習Ⅱ 日本画演習Ⅰ 日本画演習Ⅱ 立体造形演習Ⅰ 立体造形演習Ⅱ 美術理論Ⅰ 美術理論Ⅱ 美術理論演習Ⅰ 美術理論演習Ⅱ オープンラボⅠ オープンラボⅡ 絵画論 洋画演習Ⅲ 洋画演習Ⅳ 日本画演習Ⅲ 日本画演習Ⅳ 造形論 立体造形演習Ⅲ 立体造形演習Ⅳ 技法演習・研究Ⅲ 技法演習・研究Ⅳ オープンラボⅢ オープンラボⅣ 卒業研究 卒業制作・論文

領域専門科目(デザイン)

基礎セミナー 基礎技術セミナー スペースモデル演習 設計製図Ⅰ ファッションⅠ ファッションⅡ ファッション演習Ⅰ ファッション演習Ⅱ イラストレーションⅠ イラストレーションⅡ イラスト演習Ⅰ イラスト演習Ⅱ ビジュアルデザインⅠ ビジュアルデザインⅡ ビジュアル演習Ⅰ ビジュアル演習Ⅱ CAD実習 建築計画Ⅰ 建築マテリアル 建築設計Ⅰ 建築計画Ⅱ 設計製図Ⅱ プロダクトデザインⅠ プロダクトデザインⅡ プロダクトデザイン演習Ⅰ プロダクトデザイン演習Ⅱ 写真Ⅰ 写真Ⅱ 写真演習Ⅰ 写真演習Ⅱ オープンラボⅠ オープンラボⅡ ファッションⅢ ファッションⅣ ファッション演習Ⅲ ファッション演習Ⅳ イラストレーションⅢ イラストレーションⅣ イラスト演習Ⅲ イラスト演習Ⅳ ビジュアルデザインⅢ ビジュアルデザインⅣ ビジュアル演習Ⅲ ビジュアル演習Ⅳ アーバンデザインⅠ アーバンデザインⅡ 建築施工 建築計画Ⅲ 建築計画Ⅳ 建築設計Ⅱ 構造力学 建築法規 プロダクトデザインⅢ プロダクトデザインⅣ プロダクトデザイン演習Ⅲ プロダクトデザイン演習Ⅳ 写真Ⅲ 写真Ⅳ 写真演習Ⅲ 写真演習Ⅳ オープンラボⅢ オープンラボⅣ 卒業研究 卒業制作・論文

領域専門科目(メディア・デザイン)

基礎セミナー 基礎技術セミナー マンガⅠ マンガⅡ マンガ演習Ⅰ マンガ演習Ⅱ アニメーションⅠ アニメーションⅡ アニメーション演習Ⅰ アニメーション演習Ⅱ ゲームⅠ ゲームⅡ ゲーム演習Ⅰ ゲーム演習Ⅱ 映像Ⅰ 映像Ⅱ 映像演習Ⅰ 映像演習Ⅱ 舞台芸術Ⅰ 舞台芸術Ⅱ 舞台芸術演習Ⅰ 舞台芸術演習Ⅱ オープンラボⅠ オープンラボⅡ マンガⅢ マンガⅣ マンガ演習Ⅲ マンガ演習Ⅳ アニメーションⅢ アニメーションⅣ アニメーション演習Ⅲ アニメーション演習Ⅳ ゲームⅢ ゲームⅣ ゲーム演習Ⅲ ゲーム演習Ⅳ 映像Ⅲ 映像Ⅳ 映像演習Ⅲ 映像演習Ⅳ 舞台芸術Ⅲ 舞台芸術Ⅳ 舞台芸術演習Ⅳ オープンラボⅢ オープンラボⅣ 卒業研究 卒業制作・論文

共通科目

創造基礎 デザインの発想(ひらめきの鍵) 発想と企画 デッサン(静物) デッサン(人体)Ⅰ デッサン(石膏) アートセラピー概論 コンピュータグラフィックス基礎 コンピュータグラフィックスⅠ 図法・製図 工房基礎A(木・竹) 工房基礎B(木・竹) ビジュアルプレゼンテーション 企画とプレゼンテーション デッサン(人体)Ⅱ ドローイング(私⇄世界) 日本美術史Ⅰ 日本美術史Ⅱ 東洋美術史Ⅰ 東洋美術史Ⅱ 西洋美術史Ⅰ 西洋美術史Ⅱ 造形演習Ⅰ 造形演習Ⅱ 版画Ⅰ 版画Ⅱ 衣裳美術 ヒューマンドローイング インテリアコーディネータⅠ インテリアコーディネータⅡ クロッキーⅠ クロッキーⅡ 背景ドローイング 絵コン

テ作法 キャラクターデザイン コンピュータアート シナリオ研究 映像音響音楽Ⅰ 映像音響音楽Ⅱ 発声演習Ⅰ（声優からボーカルまで） 発声演習Ⅱ（声優からボーカルまで） 舞台・空間照明デザインⅠ 舞台・空間照明デザインⅡ 舞台美術論 デザインマネジメントⅠ デザインマネジメントⅡ コンテンツ管理 コンピュータグラフィックスⅡ Flash演習 3DCG基礎 WebプログラミングⅠ WebプログラミングⅡ Webデザイン演習（基礎 Webデザイン演習（応用） ガラス工芸基礎 工房基礎C（金属） 工房基礎D（金属） 染織基礎 デザインマネジメントⅢ デザインマネジメントⅣ インターンシップ 作品のアウトプット演習 工房基礎E（陶芸） 工房基礎F（陶芸）

東京メディア・コンテンツ学部

- I 基礎科目** 著作権法概論 世界観と人生観Ⅰ・Ⅱ 日本文化史Ⅰ・Ⅱ 西洋文化史Ⅰ・Ⅱ 芸術学Ⅰ・Ⅱ 生活の中の法律Ⅰ・Ⅱ 情報と経済Ⅰ・Ⅱ 新しい美術解剖学Ⅰ・Ⅱ 健康科学 メディア社会学Ⅰ 心理学への招待Ⅰ・Ⅱ ヒトと進化 芸術教養Ⅰ（書道と漢詩） 芸術教養Ⅱ（茶道） 日本と国際情勢 社会の中の芸術と科学
- II 外国語科目** 英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ 中国語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ
- III 専門科目**
- メディア・コンテンツ学科専門必修科目 創造基礎 教養基礎 コンテンツ基礎
- メディア・コンテンツ学科専門選択科目（2012年度入学者迄）/領域共通専門選択科目（2013年度入学者）
- コンピュータグラフィックスⅠ コンピュータデザイン基礎 コンピュータグラフィックス基礎 映像・演出Ⅱ 造形表現演習Ⅰ・Ⅱ デッサンⅠ・Ⅱ イラストレーション 広告表現概論 音響心理学 音響概論 音楽史 日本美術史Ⅰ・Ⅱ 東洋美術史Ⅰ・Ⅱ 西洋美術史Ⅰ・Ⅱ マルチメディアデザイン サウンドデザイン 総合芸術論 水墨画B 演劇表現 背景美術（水彩系） 非言語コミュニケーション論 ジェンダー論 アニメ背景美術基礎 ロックミュージック概論Ⅰ・Ⅱ デザイン概論Ⅰ・Ⅱ ポートフォリオ制作実習 ハリウッド映画史 ハリウッド・ビジネス プログラム基礎
- コース必修科目（2012年度入学者迄）/専門選択科目（2013年度入学者）
- 映画コース/映像領域
- （1年生以上対象）
シナリオ制作Ⅰ 映像表現論 撮影基礎 映画史Ⅰ
- （2年生以上対象）
録音技術 撮影技術Ⅱ シナリオ制作Ⅱ 映画制作演習Ⅰ 映画編集Ⅱ 西洋映画史
- （3年生以上対象）
撮影演習 録音演習 映画編集Ⅲ 映画製作演習Ⅱ CM表現研究 映画鑑賞批評 シナリオ制作Ⅲ
- （4年生以上対象）
映画ビデオ制作 卒業制作及び論文
- マンガコース/マンガ領域
- （1年生以上対象）
マンガ原作設定デザイン マンガワークショップ ヒューマンコミックス 短編マンガ基礎 マンガ背景美術基礎 マンガシナリオ基礎 マンガ人物描写基礎
- （2年生以上対象）
マンガ・アニメ文化論 メディアⅠ・Ⅱ マンガドローイングⅠ・Ⅱ 短編マンガ プロデュース論 マンガデジタル表現
- （3年生以上対象）
マンガストーリー論 マンガ原作作法 情報デザイン伝達論 ファンタジー概説 ファンシーキャラクター創作 デジタルマンガドローイング マンガ背景美術 漫画ペン画表現 オリジナル漫画制作Ⅰ・Ⅱ マンガ作家・作品研究
- （4年生以上対象）
マンガ制作 卒業制作及び論文
- アニメーションコース/アニメーション領域
- （1年生以上対象）
アニメ基礎・人間素描 背景美術Ⅰ アニメスキルⅠ メルヘンファンタジー（物語作法） ジャパニメーションの源流 アニメ描画基礎 アニメデジタル基礎
- （2年生以上対象）
シナリオ・コミック原作 アニメスキルⅡ（中割り） アニメスキルⅢ（中割り） アニメ制作Ⅰ・Ⅱ 背景美術Ⅱ
- （3年生以上対象）

音楽(劇場用 TV用 CM用 Web用) コンテンツ I・II キーフレーム インデペンデントアニメーション
動画技術 I (アニメ制作) 動画技術 II (アニメ制作) 演出論

(4年生以上対象)

アニメコンテンツ制作 卒業制作及び論文

●ゲームコース/ゲーム領域

(1年生以上対象)

コンテンツ産業論 企画・発想法とプレゼンテーション技法 インタラクティブデザイン 映像・演出 I コンピ
ュータグラフィックス I・II ゲームシナリオ制作

(2年生以上対象)

ゲーム企画演習 I・II 3DCG I・II ゲームキャラクターデザイン ゲームサウンド演習 ゲームプログラミ
ング入門

(3年生以上対象)

ゲーム企画演習 III・IV 3DCG III・IV キャラクターアニメーション演出論 ゲームビジネス研究 プロジェク
ト・マネジメント 映像制作演習 Webデザイン演習

(4年生以上対象)

デジタルコンテンツ制作 卒業制作及び論文

●イラストレーションコース/イラストレーション領域

(1年生以上対象)

イラストレーション I・II グラフィックデザイン I イラストレーション表現基礎 I 立体アート プリンティ
ングワーク イラストレーション概論 I

(2年生以上対象)

イラストレーション表現 キャラクターデザイン グラフィックデザイン II イラストレーション概論 II イラス
トレーション表現基礎 II イラストレーション技法 イラストレーション演習

(3年生以上対象)

絵本表現 I・II イラストレーションアート I・II グラフィックデザイン III エディトリアルデザイン I アニ
メーション原理 挿絵表現

(4年生以上対象)

プレゼンテーション実習 エディトリアルデザイン II イメージイラストレーション イラストレーション概論 III
卒業制作及び論文

■メディア・コンテンツ学科選択科目

映像・演出 II 造形表現演習 I 造形表現演習 II デッサン イラストレ
ーション 広告表現概論 イベントプロデュース論 I イベントプロデュース論 II 音響心理学 音楽史 日本美術
史 I 日本美術史 II 東洋美術史 I 東洋美術史 II 西洋美術史 I 西洋美術史 II コンピュータデザイン基礎 II
モーショングラフィックス基礎 3DCG基礎 マルチメディアデザイン サウンドデザイン 総合芸術論 水墨
画 非言語コミュニケーション論 演劇表現 背景美術(水彩系) ジェンダー論 アニメ背景美術基礎 3DCG
アニメーション コンピューター基礎 I ロックミュージック概論 I・II ポートフォリオ制作実習 ハリウッド
映画史 ハリウッド・ビジネス

看護学部

I 基礎分野

(人間と科学) 生きた人間学 統計学入門 論理の世界 心理学への招待 情報心理学 ヒトと生物学 環境と生態
化学

(人間と社会) 人間関係概論 教育学概論 発達心理学 ジェンダー論 情報化と社会 民俗学 メディア社会学
医療ジャーナリズム論 ヘルスケア・マーケティング ユニバーサルコンピュータシステムデザイン I ユニバー
サルコンピュータシステムデザイン II 生活の中の法律

(人間と文化) 文芸論 文章表現法 I 文章表現法 II ファッションアートサーヴェイ マスコミと報道 西洋美術
の源流 伝統芸術表現研究 I (茶道と香道の理論と表現) 伝統芸術表現研究 II (生け花の理論と表現) 伝統芸術
表現研究 III (書芸の理論と表現)

(人間と語学) 英語 I (Reading 1) 英語 II (Writing 1) 英会話 I (Listening&Speaking 1) 英会話 II
(Listening&Speaking 2) 英語 III (Reading 2) 英語 IV (Writing 2) フランス語 I フランス語 II 中国語会
話 I 中国語会話 II ビジネス中国語 イタリア語 I イタリア語 II ドイツ語 I ドイツ語 II

Ⅱ 専門基礎分野

(人間の理解) 医療概論 (生命倫理) 医療行動科学 生涯教育論 癒しと芸術 栄養と健康
(健康と疾病の理解) 人体構造機能論Ⅰ (人体の構造と機能) 人体構造機能論Ⅱ (人体の機能と生理) 病態治療学Ⅰ (総論と主な疾患) 病態治療学Ⅱ (内科系) 病態治療学Ⅲ (外科系) 生化学 薬理学 感染と免疫 疫学
医療と情報 (保健統計) 健康管理論 運動と健康
(関係の発展) 情報処理Ⅰ (入門編) 情報処理Ⅱ (応用編) 福祉情報技術 医療と経済 カウンセリング 社会保障と福祉 保健福祉行政論

Ⅲ 専門分野

(看護の基盤となる領域) 基礎看護学Ⅰ (概論) 基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション技術) 基礎看護学Ⅲ (健康教育) 基礎看護学Ⅳ-1 (基礎看護技術) 基礎看護学Ⅳ-2 (基礎看護技術) 基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント) 基礎看護学Ⅵ (看護過程)
(看護を発展させる領域) 成人看護学Ⅰ (概論) 成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論) 成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論) 成人看護学Ⅳ (援助方法論) 老年看護学Ⅰ (概論) 老年看護学Ⅱ (疾病と障害) 老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント) 老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン) 小児看護学Ⅰ (概論と保健) 小児看護学Ⅱ (主な疾患と看護) 小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助) 小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論) 母性看護学Ⅰ (概論) 母性看護学Ⅱ (女性生殖・周産期医療) 母性看護学Ⅲ (周産期アセスメント) 母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント) 精神看護学Ⅰ (精神保健) 精神看護学Ⅱ (主な精神疾患と精神症状) 精神看護学Ⅲ (施設における援助) 精神看護学Ⅳ (地域における援助) 地域看護学Ⅳ (学校・産業保健) 地域看護学Ⅴ (地域ケアシステム論) 在宅看護論Ⅰ (概論) 在宅看護論Ⅱ (訪問看護の展開方法) 在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習) 在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)
(看護を応用する領域) 看護と芸術Ⅰ-① (絵画療法) 看護と芸術Ⅰ-② (音楽療法) 看護と芸術Ⅰ-③ (笑い療法) 看護と芸術Ⅰ-④ (リハビリメイク) 看護と芸術Ⅰ-⑤ (陶芸療法) 看護と芸術Ⅱ (治療環境とアメニティ) 看護教育学 国際看護 看護マネジメント学Ⅰ (リスクマネジメント) 看護マネジメント学Ⅱ (看護管理) 地域リハビリテーション論 移植コーディネーション論 看護研究の方法 看護の探究 (看護の統合) 海外看護活動論
(看護の技を習得する領域) 基礎看護学実習Ⅰ (対象理解) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期) 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 地域看護学実習 在宅看護実習 在宅看護論実習 総合実習

7. 大学院の特徴と教育方針

7-1 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻 メディア・コンテンツ専攻の構成と特色

現在の造形芸術の分野は、デジタル技術の急速な発展と普及に伴い、従来の表現の領域またはジャンルを超えて複合・複雑化し、発展している。その現状から既存の知識と技術体系のみでは対応することが難しくなっている。

本学の大学院では、学部の教育体制とは別に、[7-2]に示す専攻において、大学院独自の高度な教育と研究を行ない、その結果、造形・デザインの分野における総合的な見識を持つ、芸術家、ディレクター、プロデューサー、教育者、技術者、および、研究者を養成している。

メディア・造形研究科修士課程を修了した者に授与する学位は、造形・デザイン専攻は修士（芸術学）（学術）、メディア・コンテンツ専攻は修士（メディア・コンテンツ）である。博士課程を修了した者に授与する学位は、博士（芸術学）、または博士（学術）である。

7-2 研究分野（修士課程）の内容

本研究科では、造形・デザイン専攻、およびメディア・コンテンツ専攻において、洋画、日本画、彫刻、アートプロデュース、ファッションデザイン、イラストレーション、ビジュアルデザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザイン、建築、写真、マンガ、アニメーション、映像、ゲーム、放送、舞台芸術および、それらを横断的するような先駆的な分野などを研究の対象とする。

開設授業科目

各分野の論および表現研究を基本に、自主テーマによる研究を加えた32単位以上を履修要件とする

博士課程（後期）の趣旨と特色

大学院メディア・研究科博士課程（後期）の目的

美術とデザインにおける理論と表現を一体として総合的に研究し、国際的に通用するような高度な研究者、教育者、芸術家および高度に専門的な職業人の養成を目的とする。すなわち各分野の研究における今日的な理論構築と創造的な技術力の発展などを求めることにある。

研究領域（博士後期課程）の内容

博士後期課程の研究領域は、主に美術、デザイン、建築・環境、マンガ、コンテンツ・デザイン等である。

教育研究の特色

主に美術ならびにデザインの分野における学術研究の上に立った理論研究と高度な表現研究を一体として深く教育研究することを本博士課程（後期）の特色とする。

大学院サテライト（東京新宿キャンパス）

本学は平成18年4月から東京新宿に東京新宿キャンパスを開設している。この大学院サテライトとしては、宝塚キャンパス同様に、高度な教育と研究を行なうことができる大学院メディア・造形研究科メディア・コンテンツ専攻の教育プログラムを組み、その結果、総合的な見識を持つ、芸術家、ディレクター、プロデューサー、教育者、技術者、および、研究者を養成している。授与する学位は修士（メディア・コンテンツ）である。また、博士課程を修了した者に授与する学位は、博士（芸術学）、または博士（学術）である。

7-3 大学院修士課程の研究領域と授業科目

メディア・造形研究科 <宝塚キャンパス>

	研究分野 授業科目の名称	履修 年次	単位数			専修免許 対象科目	備 考	
			必修	選択	自由			
授 業 科 目 の 概 要	「現象学と芸術」試論	1		4		○	修了要件 (1) 論及び表現研究 12単位 選択必修 ※但し、専修免許状の取得希望者は、所定の科目より24単位以上履修 (2) 自主テーマによる研究 20単位 必修 合計 32単位以上	
	平面美術論	1		4		○		
	平面美術表現研究（洋画）	1		2		○		
	平面美術表現研究（日本画）	1		2		○		
	立体美術論	1		4		○		
	立体美術表現研究（彫刻）	1		2		○		
	アートプロデュース論	1		4		○		
	西洋美術史・理論	1		4		○		
	東洋美術史・理論	1		4		○		
	ファッションデザイン論	1		4		○		
	ファッションデザイン表現研究	1		2		○		
	イラストレーション論	1		4		○		
	イラストレーション表現研究	1		2		○		
	ビジュアルデザイン論	1		4				
	ビジュアルデザイン表現研究	1		2				
	プロダクトデザイン論	1		4				
	プロダクトデザイン表現研究	1		2				
	建築デザイン論	1		4		○		
	建築デザイン表現研究	1		2		○		
	写真芸術論	1		4				
	写真芸術表現研究	1		2				
	アニメーション論	1		4		○		
	アニメーション表現研究	1		2		○		
	映像デザイン論	1		4		○		
	映像デザイン表現研究	1		2		○		
	デザインマネジメント論	1		4				
	自主テーマによる研究	2	20					
	メ デ ィ ア ・ コ ン テ ン ツ 専 攻	マンガ論	1		4			
		マンガ表現研究	1		2			
		アニメーション論	1		4			
		アニメーション表現研究	1		2			
		ゲーム論	1		4			
		ゲーム表現研究	1		2			
映画論		1		4				
映画表現研究		1		2				
映像デザイン論		1		4				
映像デザイン表現研究		1		2				
舞台芸術論		1		4				
舞台芸術表現研究		1		2				
自主テーマによる研究		2	20					

メディア・造形研究科 <東京新宿キャンパス>

授業科目の概要	研究分野 授業科目の名称	履修 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
メディア・コンテンツ専攻	映像デザイン研究	1		4		修了要件 (1) 論及び表現研究 12単位 選択必修 (2) 自主テーマによる研究 20単位 必修 合計 32単位以上
	映像デザイン表現研究	1		2		
	マンガデザイン論	1		4		
	マンガデザイン表現研究	1		2		
	アニメデザイン論	1		4		
	アニメデザイン表現研究	1		2		
	ゲームデザイン論	1		4		
	ゲームデザイン表現研究	1		2		
	プロデューサ論	1		4		
	プロデュース演習	1		2		
	コンテンツデザイン論	1		4		
	コンテンツデザイン表現研究	1		2		
	イラストレーション論	1		4		
	イラストレーション表現研究	1		2		
	人体構造論	1		4		
	人体機能論	1		4		
	自主テーマによる研究	2	20			

7-4 大学院博士（後期）課程の研究領域と授業科目

メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻 博士課程（後期） <宝塚キャンパス・東京新宿キャンパス>

	研 究 科 目	履修 年次	単 位 数			開講 キャンパス	備 考
			必修	選択	自由		
造形・ デザイン専攻	総合造形計画研究	1	2			宝塚 東京新宿	修了要件 (1) 総合造形計画研究 2単位 必修 (2) 理論研究・表現研究 8単位 選択必修 合計 10単位以上 (3) 博士論文（制作作品を含む） の提出（3年次）
	美術論	1又2		4		宝塚	
	西洋美術史論	1又2		4		宝塚	
	東洋美術史論	1又2		4		宝塚	
	平面美術表現研究（洋画）	1又2		4		宝塚	
	平面美術表現研究（日本画）	1又2		4		宝塚	
	立体美術表現研究（彫刻）	1又2		4		宝塚	
	ファッションデザイン論	1又2		4		宝塚	
	ファッションデザイン表現研究	1又2		4		宝塚	
	映像デザイン論	1又2		4		宝塚	
	映像デザイン表現研究	1又2		4		宝塚	
	建築環境論	1又2		4		宝塚	
	建築環境表現研究	1又2		4		宝塚	
	舞台美術論	1又2		4		宝塚	
	舞台美術表現研究	1又2		4		宝塚	
	マンガ論	1又2		4		東京新宿	
	マンガ表現研究	1又2		4		東京新宿	
	コンテンツデザイン論	1又2		4		東京新宿	
コンテンツデザイン表現研究	1又2		4		東京新宿		

8. 教員略歴・学会・社会における活動および研究・制作活動

[学長/教授]小清水 漸

京都市立芸術大学名誉教授、京都市文化功労者、紫綬褒章受章【受賞】第11回中原悌二郎賞優秀賞、第10回平橋田中賞、第35回芸術選奨文部大臣新人賞、第2回京都美術文化賞、第18回吉田五十八賞、第2回円空賞、京都府文化功労賞、宇部市野外彫刻美術館賞、埼玉県立近代美術館賞、東京国立近代美術館賞、毎日新聞社賞、岡田文化財団賞等【出展等】第7回パリ青年ビエンナーレ、第37回ヴェネチア・ビエンナーレ、第17回サンパウロ・ビエンナーレ、第39回ヴェネチア・ビエンナーレ、第10回日本国際美術展「人間と物質」、現代美術への視点・メタファーとシンボル（東京国立近美）、前衛芸術の日本1910-1970（ボンピドゥーセンター）、近作展1小清水漸（国立国際美術館）、MONOHA（ローマ大学）、ユーロパリア'89（ミデルハイム）、小清水漸展-彫刻・現代・風土（岐阜県立美術館・愛媛県立美術館）、JAPANESE ART AFTER 1945（グッゲンハイム・ソーホー）、1970年・物質と知覚（岐阜県立美術館他）、超克するかたち・彫刻と立体（千葉市美術館）、「かたち」の領分-機能美とその転生-（東京国立近代美術館工芸館）、第3回光州ビエンナーレ特別展、CENTURY CITY Art and Culture in The Modern Metropolis（TATE Modern）、Contemporary Art from Japan/1980 until now（クレラミュージアム美術館）、MONO-ha（School of Things）（ケトルズヤード、ケンブリッジ）、REQUIEM FOR THE SUN:THE ART OF MONO-HA（BLUE & POEギャラリー）

[副学長/学部長/教授]柴田 恭亮

関西大学卒業、鹿児島大学医療技術短期大学部教授（平成7年3月まで）、西南女学院大学 保健福祉学部看護学科教授・学科長（平成12年3月まで）、日本赤十字広島看護大学教授・学部長・評議員（平成16年3月まで）、大学院看護学研究科教授・図書館長（平成18年3月まで）、関西看護医療大学・学長・理事・評議員（平成22年3月まで）、文部科学省大学設置審議会専門委員（平成12年～平成15年）、大学評価・学位授与機構看護学・保健衛生学専門委員会委員（平成14年～18年まで）。【学会】日本精神保健看護学会、日本病院・地域精神医学学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会。【著書】精神科看護の臨床（編著、医学書院、2006）。ナースの精神医学（共著、中外医学社、pp.2-8、2011）。【論文】部分と全体-精神科看護の見取り図-（精神医療 第14号、20-27、1998）。個人診療情報としての精神科看護記録（精神医療、第25号、84-88、2002）。精神科看護の常識と非常識（精神保健看護学会誌、第12巻 第1号、175-177、2002）。看護実践能力を高めるための学内実習の実際：精神看護学コミュニケーションの演習と精神看護学事例検討（共著、Quality Nursing、Vol. 8、No.10、863-866、2002）。カルテ開示する時代にあって看護記録や実習記録は大丈夫か（共著、安全管理の授業別冊「看護教育」、51-59、2003）。精神科看護の1968年（共著、精神医療、60巻、40-48、2010）。

[図書館長/学務部長/教授]炭釜 啓人

武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業、Accademia Italia Moda（フローレンス）Istituto Europeo di Design（ミラノ）Istituto Marangoni（ミラノ）に留学【受賞】日本デザイン文化協会ファッションショー 大阪市長賞（1996）、同日本繊維新聞社賞（1997）、同朝日ファミリーニュース社賞（1999）、同大阪府知事賞（2000）、同毎日放送賞（2003）、同読売テレビ放送賞（2005）【学会等】大阪府建築士会会員、日本デザイン文化協会会員、日本デザイン文化協会評議員（1996）、同理事（2002）、日本服飾デザイン技能検定協会評議員（1997）【論文】「ファッションデザインの構成とその課程-イタリアにおけるコレクションの企画」宝塚造形芸術大学紀要No.7（1993）、「ファッションデザインの構成における要素-コレクションの企画にみる大衆心理とマーケティング」同誌No.8（1994）、「パタン・キヤドによるパタンングレーディングの分析」同誌No.9（1995）、「ファッションコミュニケーションとデジタル化」同誌No.11（1997）、「メンズウェア パターンドラフティング」同誌No.15（2001）、【制作】日本デザイン文化協会第64回NDKファッションショー「ニット&コート」朝日フェスティバルホール（1996）、同65回「イブニングドレス」（1997）、同66回「イブニングドレス」（1998）、同67回「カクテルドレス」（1999）、同68回「カクテルドレス」（2000）、同69回「イブニングドレス」（2001）、同70回「カクテルドレス」（2002）、同71回「カクテルドレス」（2003）、同72回「カクテルドレス」（2004）、同73回「タウンウェア」（2005）

[入試部長/教授]北澤 嘉浩

京都大学工学部建築学科卒業、有限会社ウィズ・アンド・パートナーズ・アンド・パートナーズ一級建築士事務所。【学会等】日本建築学会員、川西市都市計画審議会委員（2010～）、川西市シティプロモーション戦略検討委員会委員（2013～）。【受賞】京都まちなかこだわり住宅コンペ案（2006）入選。【論文】「なつかしの昭和・堀江展でのジオラマ製作」（2009）（「大坂春秋」No.124寄稿）。【制作】「川西音灯り」会場の空間演出デザイン（2011～）。京都伏見の家（2007）。Segreta鞞インテリアリノベーション（2005）。小田原市城下町ホールエスキースコンペ案（2005）。韓国釜山エコセンター国際設計コンペ案（2004年）。大阪駅北地区国際コンセプトコンペ案（2003）。熊野古道センター基本設計プロポーザル案（2003）。兼葭堂アート・フェスタ2002「Region Hi-Story」出品（2002）。ヴェルダ・リコ（2001）。大塔村百間谷溪谷バンガロー（2001）。佐世保フェリーターミナルコンペ案（2001）。京都下鴨の家（2000）。ポー・セジュール東山（2000）。聖ヴィアートル修道会北白川修道院（1997）。

[学生担当部長/准教授]山口 尚

株式会社ドワンゴ 大阪開発部部長 大阪学院大学商学部卒業. 大阪デジタルコンテンツ協議会 人材育成部会長. 大阪府中途退学者予防事業大阪ミライ大学研究所研究員 (2011)

【学会等】日本デジタルゲーム学会. 【制作】ゲームー：「ぐーちょDEパーク (PlayStation)」(プロデュース. 1996)「新テーマパーク (PlayStation SEGA SATURN)」(プロデュース. 1997). 「トゥームレイダー3 (PlayStation PC)」ローカライズ. 1999). 「トゥームレイダー4ラストレベレーション (PlayStation Dreamcast PC)」ローカライズ. 2000). 「E.O.E-崩壊の前夜- (PlayStation2)」(プロデュース. 2002). 「WAVE RALLY (PlayStation2)」(プロデュース. 2001). 「ストラガーデン (PC)」(プロデュース. 2004). 「アミーゴ・アミーガ (PC)」(プロデュース. 2007). 「恋姫+夢想forモバゲー (携帯)」(プロデュース. 2011). 教員と在学生によるコラボレーション展-むすぶ・ほどく・創る-「Touch the Stars (PC)」(企画、プロデュース. 2013). 映像—「AMA展2013-SHASHIN Festa- プロジェクションマッピング」(企画、プロデュース. 音楽. 2013). 青少年ふれあいデーテーマソング「世界で一番大事な家族へ」プロモーションビデオ (ディレクション、撮影. 2013).

[人権・同和研究室長]桂 正孝

大阪市立大学名誉教授. 大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学. 【学会等】日本教育学会会員. 関西教育学会会員. 日本教育方法学会会員. 関西教育学会理事 (1996—1999). 大阪市社会教育委員 (1996—2010). 兵庫県防災教育推進連絡会議委員 (2004—). 神戸市教育指導力向上審査委員会委員 (2004—). 兵庫県立教育研修所運営協議会委員 (2005—). 【著書】「おとなのための”子どもの権利条約”」共著 解放出版社 (1996). 「新しい学校像と教育改革」共著 明治図書 (1997). 「2020年—情報社会と教育改革」共著 勁草書房 (2000). 「部落問題・人権辞典」共著 解放出版社 (2001). 「人権文化をみんなの手に」共著 解放出版社 (2005). 「兵庫発の防災読本 いのち やさしさ まなび」共著 アドバンテージサーバー (2005). 「大阪発！人権教育と情報・メディア教育のコラボレーション」共著 明治図書 (2005). 「子どもとつくるキャリア教育 学習プラン・実践集」共著 大阪府人権教育研究協議会 (2009) 【論文】「人権・同和教育の意義と指導法」教育養成セミナー6 (2004). 「人権教育の観点からキャリア教育の構築を」部落解放研究164 (2005). 「子どもの貧困と学力問題」部落開放・人権研究報告書14 (2009). 「道徳教育論争」教育と文化59 (2010). 「いま、”教育改革”をめぐる相剋を読む」共生社会研究8 (2013).

造形芸術学部

[学部長/教授]吉川 直哉

大阪芸術大学大学院芸術文化研究科修士課程修了. 国際写真会議招聘 (ポーランド) (2000) 文化庁派遣芸術家在外研修 (アメリカ, サウスハンプトン大学美術&メディア学部客員研究員) (2000—2001). 延辺大学美術学院客員教授 (中国) (2003). 国際写真教育フォーラム・ゲストスピーカー (中国) (2004). チビテラ・ラニエリ・センター招聘フェロー (イタリア) (2004). ミオ写真奨励賞ディレクター (1998—, 天王寺ターミナルビル株式会社). 韓国コンテンツ振興院海外招聘講師 (2005). 【学会等】日本写真芸術学会会員. 日本写真協会会員. 日本映像学会会員. 【論文】「第4回東江国際写真祭と国際大学生写真キャンプ2005」同14 (2005). 「国際写真教育フォーラム報告」映像学73 (2004). その他—「米・サンフランシスコの最新写真事情報告」アサヒカメラ (2001). 「連載・写真の世界×写真の世界」TIDE (1999—2001) 日本写真年鑑 (2006—2014) 【制作】企画展—「国交80周年記念展・未来は現在」ポーランド, 日本巡回 (1999—2001). 「日蘭修交400年記念展・foto's en haiku」オランダ (2000). 「未来を担う美術家たちDOMANI明日」損保ジャパン東郷青児美術館 (2005). 「カサブランカ国際ビエンナーレ」モロッコ (2012). 「ポーランド・日本現代写真交流展 Towards the Essence」クラコフ美術館マンガ分館 (ポーランド) (2012). 「第4回大理国際写真フェスティバル」中国 (2012).

制作力創造学科

[学科長/教授]大河 繁

スタジオスペースシップ主宰、神戸デザイナー学院グラフィックデザイン科卒業【著書】「エアープラシアート in ジャパン作品」グラフィック社(1991)。「CG技のチップス作品」グラフィック社(1999)。「五感紙」共著 平和紙業(2000)。

【論文】「天王寺工事幕恐竜イラスト掲出」販促会議3月号(2003)。「イラストレーションワーク-イラストレーションの仕事を通して-」宝塚造形芸術大学紀要No.18(2005)。

【制作】「グループ展3人展」心斎橋SONYタワー(1989)。「小さな小さな大展示会」平和紙業(1994-2004)。作品-「ゲーム燃えろツインビー、頑張れゴエモンからくり道中」(株)コナミ(1986)。「ゲームボーイアドバンス、頑張れゴエモンからくり道中」同(2004)。和歌山リゾート博「海に住むクジラと魚」和歌山館(1994)。「地球の誕生から人類の誕生まで」鳥根県佐治村天文台(1996)。「高御座壁面イラスト」他大阪歴史博物館(2001)。「工事幕恐竜イラスト掲出」天王寺ステーションビル(2002)。

[教授]北田 研索

元毎日新聞社写真部長。関西大学経済学部卒業。【学会等】日本写真家協会会員。【受賞】「関西写真記者協会」協会賞企画部門賞(1987,1991)。「制作」印刷物-「'83大阪世界帆船まつり公式写真集(帆船賛美)」大阪港振興協会企(1987)。「米朝ばなし」写真担当 講談社文庫(1984)。「堀池秀人の建築読解」写真担当 JR社内誌L&G(1998~2000)。「第3回アジア競技大会大阪大会公式報告書」大会組織委員会フォトディレクター(2001)。報道写真-「千日デパート火災」「北陸トンネル列車事故」(1972)。「私鉄スト線路で遊ぶ」・「阪神江夏延長10回ノーヒットノーラン」(1973)。「小野田さん帰国」・「瀬戸内が死ぬ(水島重油流出事故)」(1974)。「行楽の浜へ赤潮」・「長良川・小豆島水害」(1976)。「三菱銀行狼銃強盗」・「福永洋一騎手落馬」(1979)。「日航機御巢鷹山事故」(1985)。「ダイアナ妃あでやか」・「地雷と飢えと…さ迷うアンゴラ難民」・「三原山爆発」(1986)。「サハリン横断1000キロ」(1991)。「阪神大震災」(1995)。「4割に乗りかかったイチロー君」(1996)。「第3回東アジア協議会公式記録報告書」(2001)など毎日新聞・サンデー毎日・毎日グラフ。佐渡裕&スーパーキッズオーケストラ東北被災地訪問・兵庫県立芸術文化センター公演(2012.9.12、2013.9.16 毎日新聞)

[教授]児玉 靖枝

京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了 芸術学修士【著書】『美と創造シリーズ 洋画を学ぶ(2)』共著 角川書店(2000)、『DIALOGUES』展覧会図録 共著 滋賀県立近代美術館(2007)、『プライマリー・フィールドII 絵画の現在-七つの<場>との対話』共著 展覧会図録 神奈川県立近代美術館(2010)【論文】「Reseau」平成17年度成安造形大学学術活動報告(2007)、「Dialogues」平成18年度成安造形大学学術活動報告(2008)【制作】「LINK-しなやかな逸脱」兵庫県立美術館(2009)、「児玉靖枝展」トアロード画廊(神戸)('86~'13まで24回)、「館蔵油彩名品展-資生堂ギャラリーと戦後の絵画と」資生堂アートハウス掛川(静岡)(2010)、「プライマリー・フィールドII 絵画の現在-七つの<場>との対話」神奈川県立近代美術館葉山(2010)、「児玉靖枝展深韻2010」アトスペース虹(神戸)(2010)、「児玉靖枝展深韻2011-わたつみ」MEM(東京)・Oギャラリーeyes(大阪)(2011)、「児玉靖枝展 深韻-風の棲処」ギャラリー21+yo-j(東京)、「新インキュベーションIV-ゆらめきとけゆく」京都アートセンター(京都)(2012)、「児玉靖枝展深韻-水の系譜」Oギャラリーeyes(大阪,2013)・MeM(東京,2014)、「クインテット 五つ星の作家たち」損保ジャパン東郷青児美術館(東京)(2014)【受賞】1999年 京都府文化賞 奨励賞、2005年 兵庫県芸術奨励賞、2009年 亀高文子記念-赤艸社賞

[教授]曲子 明良

京都教育大学特修美術科日本画卒業【学会等】日展会員、日春展会員、京都日本画家協会会員、真魚のグループ会員【受賞】「雪雲来る」第16回日展 特選(1984)、「悠」第19回日展 特選(1987)、「冬の日」第10回日春展 奨励賞(1975)、「春を待つ」第14回日春展 日春賞(1979)、「冬日」第18回日春展 奨励賞(1983)、「海光る」第22回日春展 外務大臣賞(1987)【制作】第24回日展「夜明け」(1992)、第25回日展「残春」(1993)、第26回日展「雨あがり」(1994)、第27回日展「水辺早春」(1995)、第28回日展「暮色」(1996)、第29回日展「冬日」(1997)、第30回日展「暮秋」(1998)、第31回日展「溪谷」(1999)、第32回日展「寂光」(2000)、第33回日展「揺」(2001)、第34回日展「惜春」(2002)、第35回日展「月白」(2003)、第36回日展「行く秋」(2004)、第37回日展「芽吹く頃」(2005)、第38回日展「夕照」(2006)、第39回日展「薄陽」(2007)、第40回日展「浄晨」(2008)、第41回日展「岸辺浅春」(2009)、第42回日展「暮れゆく」(2010)、第43回日展「残照」(2011)、第44回日展「月出づ」(2012)、第45回日展「山峡の春」(2013)、真魚グループ展：第1回展(1970)より毎年出品、日春展：毎年出品

[准教授]木村 智博

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修了。【受賞】東レデジタルクリエーションアワーズ2002「最優秀賞」Web上(2002)。文化庁メディア芸術祭ノンインタラクティブ部門「審査委員会推薦作品」(2004)。あたらしい創作絵本大賞「優秀賞」(2010)。【論文】「コンピュータグラフィックスと絵画制作を融合した絵画表現法」宝塚造形芸術大学紀要「ARTES」No17(2004)。「デジタルペインティング」宝塚造形大学紀要「ARTES」No20(2007)。「デジタル作品の展開についての考察」宝塚造形芸術大学紀要「ARTES」No22(2009)。「CGアート及びイラストレーションにおける3DCGの表現についての考察」宝塚造形大学紀要「ARTES」No24(2011)。【制作】「東レデジタルクリエーションアワーズ『再生』」Web上(2003)。「伝説」中日韓CG作品交流展2003 Sinograph(中国北京)(2003)。「天使」アジアグラフィック2005愛・地球博【制作】「Up」Design Style selection Part2〜響感の創造〜(東京)(2012)。「Pattern」CODE(大阪)(2012)。「Up and Down」2012 アジアデジタルアート大賞(福岡)(2013)。「Angel#002」Nippon Art(サンタモニカ)(2013)。「休息」EAST-WEST ART AWARD COMPETITION 2013(ロンドン)(2013)。「Mind」ASIAGRAPH2013inTOKYO(東京)(2012)。

[准教授]楠田 雅史

京都市立大学美術学部デザイン科卒業、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了 芸術学修士【制作】三菱地所複合施設・天神IMS(Inter Media station)装飾・展覧会演出、宝塚市立手塚治虫記念館(手塚プロダクション) 展示計画・会場構成デザイン、森ビル流通システム、森センターアーツギャラリー・ラフォーレ原宿ミュージアム(森ビル流通システム株式会社) 展示構成、会場デザイン、アニメのふるさと環境マガジン「アニッコ」(日本動画協会/西武鉄道) アートディレクション、にっぽん丸ギャラリー(にっぽん丸・商船三井船舶所有船内)企画・設立・キューレーション、にっぽん丸ギャラリーウェブサイト(株式会社商船三井)リニューアル企画・制作、PARCO出版ウェブサイト(株式会社PARCO出版)リニューアル企画・制作、公益財団法人吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京 展示企画・アートディレクション・コンサルテーション、北九州市立みちの郷土資料館(北九州市)トータルプロデュース・アートディレクション(2001)、「福岡空港国際線ターミナルクリスマス装飾」福岡空港・福岡(2011)、「Bansky Wall and Piece」装丁デザイン(2011)、バンダイ・カーニバル王国 店舗開発(名古屋、仙台、神戸アンパンマンミュージアム&モール)(2010,2011,2013)。世田谷文学館 展示計画(星新一展・斉藤茂吉と「検家の人々」展、(2010, 2013)。植田正治写真美術館 展示計画(2013)

[准教授]水上 雅章

京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了、美術学修士【論文】「Foolish Bombers」京都市立芸術大学美術教育研究会研究誌「美」第171号(2006)【制作】石の椅子展(石房無有/1988)、第1回〜第4回 現代日本木刻フェスティバル(関市文化会館/1988~1994)、石+α展(石房有無/1991)、第1回現代美術交流展IN横浜(神奈川県民ホール/1992)、神戸タウンギャラリー(ローズガーデン/1993)、「椅子100展」(名鉄百貨店/1995)、朝日現代クラフト展(阪急百貨店/1998)、GRASS&WOOD CRAFT SHOW(ART de ART/2001)、WOOD(信濃橋画廊/2002)、家具になったオブジェ(ギャラリーマロニエ/2002)、「Foolish Little boy & Foolish Fat man」(アートスペース/2003)、「彫刻の力」(ギャラリーCASO/2006)、「Foolish Bombers」(信濃橋画廊/2007)、「Please never kick the stool」(信濃橋画廊5/2008)、「カルトグラムチェア(自殺の場合)」(信濃橋画廊5/2008)、丹波篠山・まちなみアートフェスティバル(篠山市河原町/2008~2012)「Balancing table」(信濃橋画廊5/2009)、「カルトグラムチェア(社会保障の場合)」(信濃橋画廊5/2010)、「カルトグラムチェア(人助けの場合)」(アートスペース虹/2013)【受賞】'98朝日現代クラフト展 優秀賞

[准教授]村田 大輔

京都市立芸術大学美術学部油画科卒業フランス政府給費留学生【学会等】白日会準会員、大学版画学会会員【受賞】「日仏現代作家展」審査員特別賞(1998)【制作】第89回白日展「ブルターニュの女(冬)」東京新美術館(2013)、第1回白騎の会「無意識の飛行」アートサロンESPACE KYOTO(2013)

【准教授】森口 まどか

神戸女学院大学文学部卒業、Goldsmiths college、University of London 大学院美術史(20世紀美術史)専攻修了、芸術批評誌『diatxt. (ダイアテキスト)』(京都芸術センター発行) No.9-No.16 編集長【学会等】美術史学会、民族芸術学会、美術評論家連盟会員【著書】「美術のゆくえ、美術史の現在-日本・近代・美術」平凡社(1999)(共著)、「小清水漸」(CD-ROM版)監修およびテキスト、東京画廊(2001)、「モードと身体」角川書店(2003)(共著)【論文】「A History of the Tokyo National Museum 1872-1900 A potted Japanese Museum History」The Goldsmiths college、University of London(1997)、「日本の80年代インスタレーション-モダニズムと反モダニズムのはざまに」(京都精華大学研究紀要第18号)(2000)【主な著述】「FLAT LAND展に寄せて」『FLAT LAND-絵画の力』展カタログ 京都市立芸術大学(2010)、「揺るぎなき友禅作家として」『民族藝術』Vol.26号 民族芸術学会(2010)、「アフリカで現代美術家であること」『民族藝術』Vol.27号 民族芸術学会(2011)、「現代の染めに向けて」『民族藝術』Vol.28号 民族芸術学会(2012)、「『LOVE:アートにみる愛のかたち』についての展覧会」『民族藝術』Vol.30号 民族芸術学会(2014)【展覧会企画】「Real Life Sensibility-物とイメージの往還から」京都芸術センター(2009)、「On a Knife Edge-二つの向こう岸」京都芸術センター(2010)、「FLAT LAND-絵画の力」京都市立芸術大学ギャラリー・アクア(2010)

【専任講師】上田 順平

京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科陶磁器専攻終了 芸術学修士五島記念文化財団研修員としてメキシコに滞在【制作】「帰ってきたウラシマピーターパン/カンゲン」イムラアートギャラリー/京都(2010)「きょう・せい」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都(2010)「BASARA」スパイラルガーデン/東京(2010)「Proyecto JAPOMEX」Galeria Parada 54/メキシコシティ、メキシコ(2010)「ZIPANGU展-31人の気鋭作家が切り拓く現代日本のアートシーン」日本橋高島屋/大阪高島屋/京都高島屋(2011)「New Millennium Japanese Ceramics」Northern Clay Center/ミネソタ、アメリカ(2011)「TARO LOVE展 岡本太郎と14人の遺伝子」西武百貨店/東京(2011)「JUMPEI UEDA Taller de Cerámica」パハカリフォルニア自治大学ギャラリー/メヒカリ、メキシコ(2011)「CONTENEDORES IMAGINARIOS」カルメン寺院/チアパス、メキシコ(2012)「BIWAKO BIENNALE2012」滋賀県近江八幡市旧市街、東近江市五個荘/滋賀(2012)「ジバング展 沸騰する日本の現代アート」新潟県立万代島美術館/高崎市美術館/八戸市美術館/秋田県近代美術館(2012)「KYOTO ARTISTS MEETING」Antena Media、京都(2013)「おいしい展覧会 ~art dining~」galerie 16、京都(2013)【受賞】「京都市立芸術大学卒業制作展」大学院市長賞(2005)「京都府美術工芸新鋭選抜展 2006-新しい波-」工芸部門・最優秀賞(2006)「第11回 岡本太郎現代芸術大賞展」岡本敏子賞(2008)五島記念文化賞 美術新人賞(2010)第31回京都府文化賞 奨励賞(2013)

【専任講師】植松 陽一

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了。【学会等】日本デザイン学会、日本広告学会。【発表】研究発表産学連携を通じてのコミュニケーションの実施研究(日本デザイン学会第60回研究発表大会。2013) 作品発表を通じた教育のコミュニケーション向上の可能性(日本デザイン学会第60回研究発表大会。2013) 能勢電鉄株式会社のせでん妙見里山こども自然体験学習への取り組みV 産官学連携事業(NPO法人コミュニティ事業支援ネット。2011)【論文】「デザインを通じたコミュニケーションプロセスの重要性」宝塚大学紀要No26(2013)。「産学連携事業の実践取り組みと展望~2011年度の取り組み事例を通じて」宝塚大学紀要No25(2012)「報告:産学協同事業「タイヤデザインコンテスト」に取り組んだ実践授業」宝塚大学紀要No24(2011)【制作】のせでん開業100thデコるヘッドマークプロジェクト(能勢電鉄株式会社。2013) 大阪梅田Nu茶屋町デコるスノーマン100ワークショッププログラム(阪急電鉄株式会社。2013。2012) イオンモール伊丹昆陽せせらぎの森広場イルミネーション(イオンモール株式会社。2013。2012。2011) 100万人のキャンドルナイト大阪梅田茶屋町CITY(2013。2012。2011)【産学連携事業】川西市ご当地ナンバープレート制作への取り組み 産官学連携事業(川西市。2011) 尼崎商工会 地域連携への取り組み 100th記念事業ポスター制作(尼崎商工会議所。2011) 磯じまん株式会社オリジナルラベルデザインへの取り組み 産官学連(磯じまん株式会社。2011)

【専任講師】角南 登紀子

関西女子美術短期大学卒業。【学会等】ファッションデザイン学会会員。【受賞】NDK日本デザイン文化協会第60回ファッションショー(フォーマルウェア出品)日本服装新聞社賞(1992)。【著書】ファッションブランディング(崎田喜美枝著)ファッションブランド制作企画:ファッションブランディングの下流工程とMOT [1](P132~141)宝塚造形芸術大学出版局(2006)。ファッションアート(崎田喜美枝著)においてデジタルデザイン担当(2003)。立体裁断DRAPING(崎田喜美枝著)においてデジタルデザイン 同(2002)。ベーシックソーイング(崎田喜美枝著)デザインルームテクニック:ブラウス(P48~61)デザイン・パターン・縫製、コンピュータパターンメイキング&デジタルデザイン担当同(2000)。【論文】「新世代アイドルによる流行発信」宝塚大学出版局宝塚大学紀要「ARTES」No.25(2012)。「こどものファッションスタイルにみる団塊ジュニア世代の感性」宝塚造形芸術大学出版局宝塚造形芸術大学紀要「ARTES」No.23(2010)。【制作】NDK日本デザイン文化協会第55回ファッションショー(カジュアルウェア出品)(1987)。

[専任講師]木村 貴嗣

イラストレーションスタジオワーク設立(1976～).京都高等工芸学校商業デザイン科卒業.【著書】「家なき子」共著小学館世界名作第7巻(1998).【制作】作品-「月刊誌Lマガジン表紙イラスト・デザイン」京阪神Lマガジン(1980～1990).「カレンダー」日本ペイント株式会社(1984～1985).「国際花と緑の博覧会EXPO'90公式ポスター」国際花と緑の博覧会協会(1989).「オープンレンジカタログ表紙イラスト」シャープ(1987).「ヒューマンパピリオン'92」パナホーム(1992).「東京エアーレポートレストラン壁画」サッポロビール(1993).「アプラスC&L季刊誌表紙イラスト」アプラス(1994).「志摩スペイン村全景イラスト」日本近畿鉄道(1994).「四国電力パンフレット表紙イラスト」四国電力(1994).「クラブ化粧品クリームパッケージ」クラブ化粧品(1995).「読売恐竜博ポスター」読売新聞社(1997).「ミスタードーナツポスター」ダスキン(1999).「ジュラシックパークイラスト」ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(1999).「立命館大学全景イラスト」立命館大学(2001).「きもの中刷りポスター」阪急百貨店(2004).「日本酒干支ラベル」月桂冠(2007).展覧会-「木村貴嗣オリジナル展」阪急ファイブ(1984).「ウィットとシュールの世界木村貴嗣イラストレーション展」ソニータワー(1990).「木村貴嗣イラストレーション展」ギャラリーベルハウス(1996)

[助教]岡田 大貴

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了.修士(芸術学)(2002) 2013年度 TAKARAZUKA UNIV.CREATIVE FESTA サテライト展 二人展「鼓動」(2014)

[助教]合田 望

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了 修士(芸術学)(2002)【学会等】国画会会員、日本美術家連盟会員【受賞】第34回関西国展 関西国画賞(1999)、第75回国展 K氏奨励賞(2001)、第4回天橋立美術展 天橋立賞(2001)、第76回国展 新人賞(2002)、第80回国展 準会員優秀賞(2006)【制作】第32回～第40回関西国展 京都市立美術館(1997～2005)、第73回～第80回国展 東京都美術館・大阪市立美術館(1999～2006)、第3回～第9回京滋作家展 京都府立芸術会館(1999～2005)、若手芸術家によるCRIA展 京都芸術センター(2001)、国展名古屋巡回展 愛知芸術文化センター(2001)、第24回～第28回国画会彫刻部秋季展 銀座洋協ホール(2001～2005)、国画会彫刻部秋季展巡回「豊田展」豊田市美術館(2001・2004・2005)、国画会写真&彫刻ジョイント展 ギャラリー「樹」(2002)、国画会彫刻部秋季展巡回「北の風」展 盛岡市民文化ホール(2002)、第1回アトリエ遊木民舎展 ギャラリー「ル・バルク」(2003)、国画会彫刻部企画青蓮院展「古刹都現代彫刻の融合」京都・青蓮院(2003)、アトリエ遊木民舎展 ギャラリー「青い風」(2005)

想像力創造学科

[学科長]吉村 誠

朝日放送(株)事業メディア局事業部兼社長室部長プロデューサー、東京大学文学部社会学科卒業【制作】ディレクター・プロデューサーとして「シャボン玉プレゼント」「ワイドサタデー」「新婚さん!いらっしゃい」「パーティ野郎ぜ!」「ナイトINナイト」「晴れ時々たじん」「ワイドABCD E～す」等の番組制作を担当

[教授]柳 隆雄

立命館大学文学部Ⅱ部史学科(日本史)卒業。【学会等】(社)日本漫画家協会会員。【受賞】「遭遇」第6回国際ビエンナーレ・ユーモアと風刺の館 ブルガリア(1983)。「アワワ」第5回読売国際漫画大賞 読売新聞(1985)。「名人芸」第8回同(1987)。「ロイヤルサービス」第14回同(1992)。「レクイエム」第19回同(1998)。「やさしいメーター」第10回ポーランド国際漫画展 ワルシャワ(1988)。「ボンドアロンアルファ」第5回読売ユーモア広告賞 読売新聞(1991)。「客」第8回黒潮まんが大賞 高知新聞(1996)。「ひまでひまで」第10回同(1998)。「師」第14回同(2002)。「著書等」【紳士の条件】イラストレーション担当 ぎょうせい(1987)。「やってみよう」イラストレーション担当 くもん出版(1991)。「脱マニュアル宣言」サンケイ新聞(1998)。「ニュース・コミック」共著 日刊アスカ紙(1992)。「スポーツ快刀乱魔」共著 週間金曜日(1994~1997)。「読売ライフ」読売ライフ(2002)。「楽園」芳文社(2002)。「教育イラストレーション〈自由自在〉」増進堂受験研究社(1971-)。「諷刺漫画〈The・読売〉」読売新聞社(1994-1997)。「世相漫画〈ウィークリー絵っ声〉」スポーツニッポン社(1987-89)。「同〈定年後〉」朝日新聞社(1993-94)。「思い出ほろほろ劇場」上方芸能(2004)

[教授]吉田 浩

神戸大学工学部建築学科卒業。同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程中退。【学会等】ACM SIGGRAPH会員。【論文】「フラクタルサウンド」宝塚造形芸術大学紀要No.11(1998)。「フラクタルサウンドによるアニメーション」同No.18(2005)。「1/fゆらぎによるアニメーション」同No.21(2008)。「ARによるアニメーション」同No.23(2010)。「制作」作品一「ORIX Braves西宮球場 オープニング コンピューターグラフィックス」(1990)。(1991)。「神戸市グリーンスタジアム コンピューターグラフィックス」(1991)。「住友化学Sumix Supra VP-コンピューターグラフィックス」「阪神高速VP-コンピューターグラフィックス」(1990)。「NHKスペシャル(アレルギー)CG」「NHK教育DREAMS オープニングCG」(1990)。「クラフト牛乳からできたチーズCM」(1991)。「雪印 切れてるチーズCM」(1991)。「月桂冠 純米酒CM」(1991)。「日本テレビ プロ野球中継スポット コンピューターグラフィックス」(1991)。「石堂ガラス 3D-Web映像」(2003)。

[准教授]高橋 一郎

フリー監督。日本大学芸術学部映画学科卒業。【受賞】日本記録映画作家協会「同協会賞」(1991)。「地球環境映像祭「環境教育映像賞」(1996)。「日本映画復興協会「日本映画復興奨励賞」(1996)。「論文」「川西市子どもオンブズパーソン教材ビデオの製作プロセス」宝塚造形芸術大学紀要No.16(2002)。「制作」作品一「風ものがたり」自主制作(1996)。「きみがたいせつ オンブズパーソンからのメッセージ」川西市(2001)。「田んぼ作りと里の生き物」国営讃岐まんのう公園(2002)。「紙しばいがはじまるよ!」自主制作(2004)。「大助花子の男と女どっちが得?」滋賀県(2004)。「坪田譲治ふるさと・子ども・愛」岡山デジタルミュージアム(2005)。

[准教授]林 勇気

宝塚造形芸術大学造形研究科造形デザイン専攻修士課程修了。【学会等】映像学会【受賞】イメージフォーラムフェスティバル審査員特別賞(2002)。「論文」「コンピュータグラフィックスの模造的映像の表出」宝塚造形芸術大学紀要ARTES20号(2007)。「ネットワークと携帯電話を使用した映像制作演習の試み」宝塚造形芸術大学紀要ARTES22号(2009)。「On the cynchrony between figure movement and sound change」共著 In Empirical Studies of the Arts.N.Y.Press(2003)。「画像と音響の同期」共著 宝塚造形芸術大学紀要No.17(2004)。「報告:学内LANおよび携帯電話を用いたインタラクティブ授業の実施」共著 同(2004)。「パーソナルコンピュータがアニメーション制作者にあたえる影響と変遷」同(2004)【制作】「バンクーバー国際映画祭」(2002)。「香港国際映画祭」(2003)。「トロント・リール・アジア国際映画祭」(2006)。「トランスメディアール」ドイツ(2007)。「個展「世界の終り」世田谷ものづくり学校 IID gallery(2008)。「個展「あること being/something」兵庫県立美術館(2011)。「Re:remembering Next of Japan」Doosan art center / 韓国(2009)。「human-frames」Kunst im Tunnel/ ドイツ(2011)。「個展「planetarium」柏プラネタリウム(2012)。「あなたがほしい i want you」WELTKUNSTZIMMER / ドイツ(2013)。

[准教授]村上 佳明

京都市立芸術大学美術学部日本画科卒業。【学会等】日本映像学会会員。【受賞】AVA国際映像ソフトフェア'86映像ソフト大賞CG部門静止画賞。山形コンピュータアートコンテスト銀賞(86)。CG OSAKA '88 CGデザインコンテスト優秀賞。PIXEL CGグランプリ一般静止画部門佳作賞。Sapporo Multimedia & CG'92 CGコントロールプロ部門優秀賞。日本CGグランプリ'94静止画・一般部門優秀賞。LACDA Internatinal Juried Competition (2005), Second place。【論文】「コンピュータグラフィックスの方法と展開」宝塚造形芸術大学紀要No.9 (1995)。「インタラクティブアートの試み - 外部入出力装置の導入 -」宝塚造形芸術大学紀要No.13 (1999)。「3次元CGによる平面表現 - 造形プロセスとフォルムの関係 -」No.24 (2010)。【制作】あおもり版画トリエンナーレ (2004)。東レDigital Creation Awards 2004。震災復興10周年記念公募展兵庫国際絵画コンペティション (2005)。International Print - Triennial Krakow 2006。"Top 40" LACDA International Juried Competition (2007)。第7回高知国際版画トリエンナーレ展 (2008)。中華民国第13回国際版画ビエンナーレ展 (2008)。International Print Triennial-Krakow 2009。第8回高知国際版画トリエンナーレ展。LACDA New Media Festival Winners Exhibit (2012)。3rd Miedzynarodowe Biennale Grafiki Cyfrowej Gdynia 2012。

[専任講師]葛佐 博

徳島県立城北高等学校卒業【著書】「三歳までの発熱急変にあわてない本」講談社 (2001)「ホームページづくりの奥義」講談社 (2002)「MANGA CVN 73」Commander USNaval Forces Japan (2008) (共著)「くらしの税金百科2004~2005」納税協会連合会 (2004)「くらしの税金百科2005~2006」納税協会連合会 (2005)「くらしの税金百科2006~2007」納税協会連合会 (2006)「くらしの税金百科2007~2008」納税協会連合会 (2007)「くらしの税金百科2008~2009」納税協会連合会 (2008)「くらしの税金百科2009~2010」納税協会連合会 (2009)「くらしの税金百科2010~2011」納税協会連合会 (2010)「くらしの税金百科2011~2012」納税協会連合会 (2011)「くらしの税金百科2012~2013」納税協会連合会 (2012)「吹田市小学生体育副読本1・2年」吹田市教育委員会 (2011) 共著「吹田市小学生体育副読本3・4年」吹田市教育委員会 (2012) 共著「吹田市小学生体育副読本5・6年」吹田市教育委員会 (2013) 共著【制作】「オルカ通信展1」主催ギャラリーWORP (2005)「オルカ通信展2」主催ギャラリーWORP (2006)「オルカ通信展3」主催ギャラリーWORP (2007)「東日本大震災復興支援チャリティイベントHtoHライブ」主催 (2011)「中学道徳副読本」マンガ担当(株)シーズプランニング (2011)「中央大学生協パンフレット」イラスト担当(株)シーズプランニング (2013)。

[専任講師]高垣 勝康

金沢美術工芸大学美術工芸学部美術学科彫刻科卒業、金沢美術工芸大学美術工芸研究科絵画彫刻専攻修士課程終了【制作】「FAKE」「予見者」金沢彫刻展 (1986) (1988)、「みなも」「羽文様」「円月の石」池田石の道石彫シンポジウム (1993)、「黒いまなこ」第9回国民文化祭、三重'94美術展 (入選) (1994)、「パレット」第8回吉野工芸の里フェスタ特別企画展「器」20人の表現展 (1997)、「パピヨン」彫刻2人展、大阪府立現代美術センター (1999)、「残像」第10回吉野工芸の里企画展 (1999)、「incarnation」個展、東京銀座小野画廊 (1999)、奈良ギャラリーK (2003)、「incarnation」天理ビエンナーレ (2001) (2003)、「incarnation」高橋清彫刻展-連なる魂- (2009)、「ikon」「heaven in a wild flower」2011金沢美大OB在学生合同企画「わart展」東京、ニューヨーク (2011)、「incarnation」高橋清オマージュ展存在とレガシーメキシコベラクルス州立大学 (2012)、「受賞」「TOTEM」金沢美術工芸大学卒業制作展 (買い上げ賞) (1989)、「先住者」北大路タウン彫刻コンペティション (買い上げ) (1995)、「incarnation、月籠り」アート&クラフトin御仏供杉'12 (大賞) (2012)。

[専任講師]長久保 光弘

宝塚造形芸術大学造形学部産業デザイン学科卒業。京都精華大学大学院美術研究科デザイン専攻視覚伝達デザイン修士課程修了。【学会等】三次元映像のフォーラム会員。日本デザイン学会会員。日本映像学会会員。【論文】「立体映像における特異な視覚表現」宝塚造形芸術大学紀要No.15 (2001)。「インタラクティブイメージコンテンツ」宝塚造形芸術大学紀要No.18 (2004)。「インタラクティブコンテンツおよび立体画像」宝塚造形芸術大学紀要No.21 (2007)。「制作」作品 - 「3D LOVE~立体視への招待~映像工夫館展 (立体映像出品)」東京都写真美術館 (1993)。「3D STUDIOステレオ・プレイ!展 (立体映像出品)」SAM MUSEUM (TEMPOZAN CONTEMPORARY MUSEUM) (1994)。「3D BEYOND THE STEREOGRAPHY (立体映像出品)」東京都写真美術館 (1996)。「ソフトウェアTEO (CGデザイン)」(株)富士通 (1995)。「双方向性立体映像」日本映像学会第24回大会 (1998)。

[専任講師]沼田 浩一

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科映像造形デザイン専攻修士課程修了。【論文】「映像における動画表現の推移」宝塚造形芸術大学紀要No.18 (2005)。【制作】「〈ウルトラマンゼアス2〉CGデザイン」円谷プロ (1997)。「COMIC RACE」Visual Contents in KANSAI (審査員特別賞) (2002)。

[助教]秋元 務

宝塚造形芸術大学造形学部映像造形課程卒業、宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了【学会等】芸術科学会

[助教]神澤 孝宣

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了 修士 (芸術学) (2004)。【学会等】日本マンガ学会、情報コミュニケーション学会。【社会活動】大阪観光局・大阪POPアドバイザー (2013)。兵庫県朝来市商工会「竹田城キャラクター」審査委員長 (2013)。「COOL JAPAN WEST ガチャコン関西in大阪2011」(2011)。【論文】「振れるかわいさ」宝塚大学紀要ARTES No.24 (2011)。「マンガ家と読者の皮膚感覚」宝塚造形芸術大学紀要ARTES No.23 (2010)。「アニメ制作現場の現状と課題」宝塚造形芸術大学紀要ARTES No.22 (2009)。「ソーシャル・メディアによるコンテンツの拡がり—膨脹するカーニバル型コンテンツ—」宝塚造形芸術大学紀要ARTES No.22 (2008)。「二極化するキャラクター消費—マンガ・アニメ産業からみたキャラクター消費行動の考察」宝塚造形芸術大学紀要ARTES No.23 (2007)。【制作等】兵庫県朝来市生野町観光協会事業「生野義拳キャラクター」制作ディレクション (2012)。大阪府泉北郡忠岡町商工会「忠岡まるごとキャラ化計画」制作ディレクション (2012)。「宝塚市第5次総合計画〈マンガ版〉」編集 (2011)。「ZOOKA COMICS 第6号」編集 (2009)。「ZOOKA COMICS 第5号」編集 (2007)。「ZOOKA COMICS 第4号」編集 (2006)。「ZOOKA COMICS 第3号」編集 (2006)。「ZOOKA COMICS 第2号」編集 (2005)。「ZOOKA COMICS 第1号」編集 (2005)。

[助教]田村 知視

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了 修士 (芸術学) (2002) 兵庫県川西市総合センター勤務 (嘱託職員) (2002) 宝塚造形芸術大学勤務 (現宝塚大学) (2005)「Web漫画の表現方法の考察」(個人) 宝塚造形芸術大学紀要ARTES No.20 (2006)「サンディエゴ・コミック・コンヴェンション報告—ジャパン・クールは本当か」(共著) 宝塚造形芸術大学紀要ARTES No.21 (2007) 宝塚大学卒業制作展・修了制作展併設教員と在学生によるコラボレーション展 - むすぶ・ほどく・創る - へ「Catch The Star」(共同制作ゲーム) 出展 (2013) 親子で楽しむサイエンス〜あべの科学博2013に「Catch The Star」(共同制作ゲーム) を出展、参加 (2013) サテライト展 二人展「鼓動」(2014)。

[助教]松野 一樹

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了 修士（芸術学）（2005）．【論文】「幻想芸術を制作するための一考察」（宝塚造形芸術大学紀要「ARTES」No.22）（2008）（単著）
【制作】『第40回 日本漫画2009展』出展 東京銀座 地球堂ギャラリー（2009）個展『松野和貴展』開催 東京六本木 Gareilly 12G.（2011）『Femme展2011』出展 銀座 Gallery Art Point（2011）『東日本大震災チャリティー展』出展 新宿 Art Complex Center of Tokyo（2012）『imaginairre 2012』出展 銀座 Gallery Art Point（2012）個展『Petit 松野和貴展』開催 京都 Cafe Pulpo Art Gallery（2012）『Life 2012』出展 銀座 Gallery Art Point（2012）個展『松野和貴展』開催 にっぽん丸ギャラリー（2013）『New year selection2014』出展 銀座 Gallery Art Point（2014）

[教授]朝野 富三

毎日新聞大阪本社編集局長、役員待遇東京本社事業部長、早稲田大学第1文学部哲学専攻卒業．【学会等】毎日放送番組審議会委員（2000～2002）．【受賞】日本ジャーナリスト会議（JCJ）本賞、坂田記念ジャーナリズム賞．【著書】「細菌戦部隊と自決した二人の医学者」共著 新潮社（1982）．「奇病流行性出血熱」共著 新潮社（1985）．「昭和史ドキュメント ゴー・ストップ事件」三一書房（1989）．「いつか君に ダウン症児 愛と死の記録」三一書房（1998）．「愛の目アトム的心」三一書房（1998）．「育児室からの亡霊」共訳毎日新聞社（2000）．「三畳小屋の伝言」新風書房（2013）

教養・外国語・教職・学芸員課程

[特任教授]大関 弘政

学習院大学政経学部政治学科卒業．【学会等】日本演劇協会会員．【制作】脚本・作・演出－「若き日の歌は忘れじ」宝塚歌劇団（1993）．「鬼んこおぼこ」劇団わらび座（2000）．「男鹿の於仁丸」（2003）．「春秋山伏記」同（2003）．

[教授]巽 圭太（後掲）

【教授】藤木 隆義

英知大学教授。元宝塚造形芸術大学助教授。元夙川学院短期大学助教授。龍谷大学文学部卒業。龍谷大学大学院修士課程修了。【学会等】日本英文学会。日本中世英語英文学会。【著書】『シェイクスピア劇への招待』共編注（1984）。南雲堂。『イギリス・文学と歴史』共編（1985）。木村桂文社。『コングリーブの英語』藤木白鳳（著）藤木隆義編集責任（1991）。大阪教育図書。【論文】「『善女列伝』に見られる女性の「愛』についてⅠ」宝塚造形芸術大学紀要No.1（1987）。「チョーサーの「愛の庭園』について」同誌No.6（1992）。「チョーサーのファッション描写について」同誌No.7（1993）。「チョーサーの詩における“壁”について」同誌No.9（1995）。「チョーサーの「悲劇』について—「修道僧の話」と「トロイルスとクリセイデ」を中心に—」同誌 No.11（1997）。「Fatalism in the 'Knight's Tale」Journal of Research on Language and Culture Vol. 5（1998）。「Troilus and Criseydeにおける『夜』と『夜明け』」宝塚造形芸術大学紀要No.13（1999）。「チョーサーの頭巾に因む諺」英知大学論叢41（2007）。「Chaucerのフランドルの諺」『伊藤孝治先生古希記念論文集—英語学、言語・文化・教育、英文学、米文学に関する研究』大阪教育図書（2007）。「諺：言葉は行動の従兄弟でなければならない」をめぐって—詩人そして巡礼レポーターとしてのチョーサー—」聖トマス大学論叢43（2009）

【教授】森田 耕太郎

奈良教育大学教育学部美術科卒業。京都市立芸術大学美術専攻科（現大学院）彫刻専攻修了。筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術専攻彫塑分野修了（芸術学修士）【学会等】日本美術教育学会、美術科教育学会、大学美術教育学会、日本美術教育連合、日本基礎造形学会、京都市立芸術大学美術教育研究会、大阪彫刻家会議、InSEA（国際美術教育学会）、芸術表現学会 各会員【著書】『高等学校芸術科美術、工芸指導資料 指導計画の作成と学習指導の工夫』株式会社東洋館出版社（1992）（共著）、『美術教材事典』日本文教出版株式会社（1994）（共著）、『すべての子どもに必修美術がなぜ必要か この国に将来に必要な美術教育』京都市立芸術大学美術教育研究会（1997）（共著）他【論文】「高等学校芸術科美術における『彫刻』の現状と課題」（2001）、「人こそ宝」単書『教育美術』第68巻第1号（2008）、「芸術系特定非営利活動法人（NPO法人）における地域の芸術文化活動との協働実践報告」単書『教育美術』第69巻第12号（2009）【制作】特定非営利活動法人Arts Planet Plan from IGA代表理事、柏原ビエンナーレ作家会代表、日韓現代美術作家会運営委員、「1/3×3、1、2・・・∞」第7回韓日現代美術同行展（韓国・ソウル市立美術館慶喜宮別館）（2011）、「わかちあうきもち2012柏原Version」第5回柏原ビエンナーレ（柏原市）（2012）、「連続と乖離2013尼崎Version」尼崎アートフェスティバル2013（尼崎市総合文化センター）（2013）他多数

【准教授】潘 山海

大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士（グローバル・ビジネス）（大阪市立大学,2005）。【学会等】内蒙古翻訳家協会会員。中国林学会会員。中国乾旱区資源と環境学会会員。同内蒙古地区幹事（1985～1989）。中国旅遊観光学会会員。同張家界地区幹事（1991～1999）。日本経営学会会員。日本ビジネス中国語協会会員。日本広報学会会員。【受賞】文部科学省外国人研究者研究奨励賞（2003,2004）。【論文】「Development Features and Recent Trends of China's Village and Township Enterprises」経営研究55（大阪市立大学経営学会誌）（2005）。「文化と異文化について」（株）Neos社報2012年4月第1期）。「Sur Les Problems Dela Communication Et Dela Globalization」ARTES NO.22（宝塚造形芸術大学紀要）（2008）。「Discussion On Globalization & Localization Roles Played by Service Design」ARTES No.21（宝塚造形芸術大学紀要）（2007）。「A preliminary Study On the Evolution of Design Management」ARTES No.20（同紀要）（2006）。【研究報告】「グローバル時代の異文化コミュニケーションについて」ARTES No.27（同紀要）（2013）。「広報概念・用語とその実態を日米で比較する」（日本広報学会関西西部会報告書、2008年9月版）。

【特任教授】倉澤 行洋（無庵）

神戸大学名誉教授、京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、文学博士（京都大学）（1986）【学会等】関西哲学会会員、美学会会員、芸能史研究会会員、美術史学会会員、民族芸術学会会員、日本ショーペンハウアー協会会員、京都宗教学会委員（1987～）、茶の湯文化学会会長（2001～）、国際伝統芸術研究会会長（2010～）、寧波東亞茶文化研究センター榮譽主任、中国陸羽茶文化研究会名誉会長（1996～）、中国江西省社会科学院名誉研究員（1996～）、日本宗教学会理事（1998～）、心茶会会長（1997～）、中国国際茶文化研究会榮譽理事（2000～）、中国国際茶文化研究会學術顧問（2005～）、中国呉覚農茶学思想研究会榮譽理事（2001～）、法門寺中国茶文化研究中心顧問（2004～）【著書】「対極 桃山の美」淡交社（1983）、同増補（1992）、「芸道の哲学」東方出版（1983）、「増補藝道の哲学—宗教と藝の相即」（1987）「一期一会 井伊直弼茶書」燈影舎（1988）、「和英対照日本美術用語辞典」東京美術（1990）、同補訂（2000）、「東洋と西洋」東方出版（1992）、「禪と芸術」ペリかん社（1997）、「自然主義と人本主義」東西方文化交流選書Macau Foundation（1994）、「南方録」『日本文化と仏教』岩波書店第5巻（1996）、「禪の芸術をめぐって」『禪と日本文化』ペリかん社（1997）、「世界における茶道」『海外の茶道』淡交社（2000）、「珠光—茶道形成期の精神」淡交社（2002）、「芸術と茶の哲学」燈影舎（2003）

[特任教授]ホルスト・ジークフリート・ヘンネマン
沖縄県立芸術大学教授・ボツフム・ルール大学大学院東亜学部日本学専攻、中国学副専攻博士課程修了。哲学博士。（ボツフム・ルール大学）（1973）。大学教授資格（同大学、1990）不審庵表千家教授（1993～）。【学会等】東方学会会員。日本研究教会会員。日本美学会会員。茶の湯文化学会会員。茶の湯文化学会理事（1997～）。沖縄県立現代美術館（仮称）美術品蒐集委員会委員（1997～1999）。【著書】Chasho. Geist und Geschichte der Theorien japanischer Teekunst. ハラッソピッツ社（1974）。【論文】「Shin, gyō, sō : Stil und Methode. Die Ästhetik der Teekunst des "Yamanoue no Soji no ki" und "Nampo-roku"」美学会誌. Aesthetics（1990）。「『大和の風』—琉球王朝と茶の湯」沖縄県立芸術大学附属研究所（1995）。「琉球王朝と茶の湯—受容史における実像と利休流伝来の一考察」芸術文化叢書 I（1998）。「茶の湯文化論への問いかけ」茶の湯文化学（2005）「書かざる芸術論-『宗旦遺書』を例に」沖縄県立芸術大学紀要18（2010）。「茶の湯の普遍と特殊」-「伝統芸術」の内外に関して 国際伝統芸術研究2（2013）等。その他—「琉球王朝と茶の湯文化」琉球新報（1995）。「芸術理論に寄せる期待」沖縄タイムス（1995）等。

[兼任講師]尼子 章男

京都市立芸術大学美術学部デザイン科卒業、フラッグ株式会社代表取締役社長

[兼任講師]荒木 康裕

神戸大学大学院文化科学研究科文化構造外国言語文化論専攻博士課程単位取得満期退学。【学会等】日本アメリカ文学会会員。神戸英米学会会員。【論文】「A Mystery All Insoluble（解き得ぬ謎）—Edgar Allan Poeの『アッシャー家の崩壊』について—」神戸英米論叢6（1992）。「メイジーの欲したもの—『What Maisie Knew』試論—」同7（1993）。「ファンタジーを紡ぐMarcher—『The Beast in the Jungle』論」同8（1994）。「情熱と所有—『ポイントンの蒐集品』論—」同11（1997）。

[兼任講師]安藤 俊雄

㈱ハートスSE、グループデザイン。大阪芸術大学芸術学部芸術計画学科卒業。【学会等】(社)日本照明家協会(LDEAJ)会員。【受賞】「北米照明学会」優秀賞（2004）。「日本の空間デザイン サインデザイン」奨励賞（2005）。「第22回日本照明家協会賞」奨励賞（2003）。「日本の空間デザイン サインデザイン」第38回（2004年）SDA 奨励賞。

[兼任講師]安藤 福光

筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科 単位取得退学
修士(教育学) 兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 准教
授【学会】日本カリキュラム学会、日本教育学会、日本教育
経営学会【著作】森山賢一編著(2013)『教育課程編成論』
学文社、田中統治・根津朋実編著(2009)『カリキュラム評
価入門』勁草書房、品川区教育政策研究会編(2009)『検証
教育改革』教育出版【論文】安藤福光・根津朋実(2010)
「公立小中一貫校の動向にみる『カリキュラム・アーティキ
ュレーション』の課題」『教育学研究』第77巻第2号、pp.
183-194、安藤福光(2005)「中高一貫校のカリキュラム開
発とその教員組織に関する調査研究-カリキュラム・アーテ
ィキュレーション論の視点から-」『カリキュラム研究』第
14号、pp. 75-88.

[兼任講師]五十嵐 修

神戸電子専門学校情報処理学科卒業、E C C コンピュータ専
門学校講師

[兼任講師]生原 良幸

日本写真専門学校本科写真専修学科卒業。「生原良幸写真事
務所」設立(1975)。「学会等」(社)日本写真家協会会員、
(社)日本広告写真家協会会員。「受賞」「VENUS83」(ポー
ランド) グランプリ受賞(1984)。U.S.A. 31st CLIO賞
(1990)。32nd CLIO賞(1991)入賞。神戸新聞社広告コン
クール、グランプリ(1994)。第38回日本雑誌広告賞、銀賞
(1995)。読者が選ぶ広告コンクール銅賞(1996)。第51回広
告電通賞(1998)。全国カレンダー展、日本マーケティング
協会賞(2006)【著書】「生原良幸写真集『後期』」フジア
ート出版(1982)。「世界の子どもたち『メキシコ』『ブラジル』
『ボリビア』」偕成社(1987)。同写真集世界各国で出版(ア
メリカ)(カナダ)(韓国)(中国)(1992~1995)。「素顔の紳
士録」関西ジャーナル社(2001)「おおさか原人録」コミュ
ニティ企画(2003)。「関西あんな人・こんな人」(僕の出逢
った100人の人達)大阪日日新聞社(2006)。「制作」「後期」
Nippon Club Gallery, N.Y. (1983)。「KINUGINU 1・2」
Espase Can, Paris (1985)。「オリジナルプリント展」苔洞画
廊(1990)。「PICTURES」東京/大阪 フジフォトサロン
(1994)。「素顔の紳士録」センチュリークラブ東京/シテイ
クラブ大阪(2001)「日いづる国への道行き」東京、大阪キ
ャノンサロン(2001)。「おおさか原人録」大阪中央中之島公
会堂(2003)。

[兼任講師]池田 敏夫

大阪教育大学中学課程数学科卒業

[兼任講師]井口 征士

大阪大学名誉教授。大阪大学大学院工学研究科博士課程満期退学。工学博士（大阪大学）（1969）。【学会等】システム制御情報学会理事（1986～1989）。同 会長（1997～1998）。計測自動制御学会理事（1991～1993）。電子情報通信学会理事。情報システムサイエティ会長（1999～2000）。日本音楽知覚認知学会理事（1996～2004）。日本感性工学会顧問（1999～2004）。大阪市産業教育審議会委員長（1992～1996）。NHK近畿地方放送番組審議会委員長（1997～1999）。科学技術振興機構 戦略的創造事業「メディア芸術創造の高度化を支える先進的科学技術の創出」アドバイザー（2004～）。【受賞】「新技術開発財団市村賞」学術貢献賞（1976）。「システム制御情報学会」論文賞（1985）。「ICPR/MVA」「ヒューマンインタフェース学会」論文賞（2005）。【著書】「感性情報処理」共著 オーム社（1994）。「感性の科学」共著 サイエンス社（1997）。「文字と音の情報処理」共著 岩波書店（2000）。「感じる・楽しむ・創りだす感性情報学」監修 工作舎（2004）。【論文】「ThermoPainter：熱画像を用いたタブレット型入力装置とそのインタラクティブ描画システム」共著 情報処理学会論文誌46（2005）。「感性情報の抽出と表現」電子情報通信学会誌89（2006）。ほか多数。

[兼任講師]井ノ内 博康

京都市立美術大学美術学部工芸学科卒業。関西芸術短期大学教授。【論文】「ヘアピンから宇宙衛星までを彩る塗料と塗装について」関西芸術短期大学紀要第10号（1999）。第11号（2001）。その他－「サイン（看板・ネオン・標識）用語集－媒体・デザイン・材料・電気・照明・施行・ディスプレイの7分冊」関西ペイント(株)（1995）。【制作】「Welcome to ICHINOMIYA（デザイン協力）」東邦ガス球型タンク修景マーキングデザイン（一宮市）（1996）。

[兼任講師]今村 悟

立命館大学非常勤講師。日本大学文理学部卒業。西ドイツ体操学校修了。【学会等】日本体操学会理事（2004～）。スポーツ国際交流団体ISPOA代表（2005）。【受賞】ドイツ連邦共和国ノルトライン州マイナーツハーゲン市スポーツ功労賞。【著書】翻訳書「ドイツ体操祭—ドイツ体操運動の構築—」共訳 見洋書房（2003）。「新・スポーツと健康の科学」共著2007年 見洋書房【論文】「我が国のスポーツ実践にともなう環境問題について」大阪体育学研究28、29（1991）。「体育・スポーツの意思決定における女性の参画についての研究—ドイツにおける女性体操運動の歴史を手がかりに—」共著 京都学園大学人間文化学会紀要（2002）。

[兼任講師]今村 文彦

今村建築計画事務所〔一級建築士事務所〕代表、一級建築士。九州芸術工科大学（現九州大学）芸術工学部環境設計学科卒業。京都大学大学院工学研究科建築学専攻建築計画学講座所属研究生。【制作】「下鴨の家」担当Mega（1999）＜掲載誌：住宅建築'99.09＞。「南山城学園櫟寮」担当Mega（1999）＜掲載誌：新建築'99.12＞。「東濃ひのき間伐材利用バス停」（2004）＜掲載：岐阜新聞'05.05.27＞。「洛西のアトリエ」（2005）。「上里の家」（2006）「日だまりの家」（2008）。「山崎の家」（2009）＜掲載誌：建築と社会'10.03＞。「東泉堂町の家」（2010）。

[兼任講師]岩 琢磨

京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学 梵語
梵文学専攻（現 文献文化学東洋系インド古典学専修）【学会
等】説話伝承学会会員，東海印度学仏教学会会員，大阪大学
言語社会学会会員【論文】「ナラ物語のジャイナ教伝本の発
展」、『東海佛教』，第38輯，pp.71-82（1993）「ナラ物語のジ
ャイナ教伝本の発展Ⅱ」、『東海佛教』，第42輯，pp.91-106
（1997）「ジャイナ教説話について」、『古代文化』，vol.50
no.8，pp.42-48（1998）「説話伝承の際に起きる改変の一例」
（説話伝承学会 93年度秋期大会発表）。

[兼任講師]岩村 卓

[兼任講師]岩田 晶

大阪商業大学商経学部商学科卒業，学校法人キャットミュー
ジックカレッジ専門学校コンピュータミュージック科講師，
同専門学校ベース専攻講師，【受賞】リットーミュージック
主催第4回オリジナル・テープ音楽祭審査員特別賞受賞。

[兼任講師]江原 ひとみ

兵庫県立宝塚北高等学校演劇科卒業。大阪音楽大学短期大学
部音楽科声楽専攻卒業。各種イベント、ホテル、ライブハウ
ス、ブライダル等にソロヴォーカリスト、コーラスグループ
で多数出演。ミュージックスクール、芸能プロダクション等
でヴォイストレーニング、ポピュラーヴォーカル講師として
務める。RSミュージカルにて、「MARIA～マリア～」兵庫
県立芸術文化センター（2011）、「ヘンゼルとグレーテルと仲
間たち」三田市総合文化センター郷の音ホール（2011）、「ピ
ッピのゆかいな大冒険」兵庫県立芸術文化センター（2012）、
大阪NHK児童劇団「トムとハックと子ども達」NHK大阪
ホール（2013）音楽指導。

[兼任講師]大石 楠梶

京都市立美術大学美術学部西洋画科卒業、Ecole Publique Mixte de Bijouterie修了/Certificat d'Aptitude Professionnelle (Bijoutier)取得、慶應義塾大学文学部美学卒業芸術学士.美学学士【学会等】民俗芸術学会会員、(社)日本オリエント学会会員【受賞】ダイヤモンドインターナショナル賞(DIA)(1982)、ユーゴスラヴィア国際ジュウェリー展銅賞(1985)【論文】「ミケナイ美術の工芸—出土金属製品を中心に」宝塚造形芸術大学紀要No.10(1997)

[兼任講師]岡田 康志

大阪工業大学工学部電子工学科卒業、大阪大学法学部法学科卒業(1994)、大阪大学国際公共政策研究科比較公共政策専攻博士前期課程修了(1996)、大阪大学国際公共政策研究科比較公共政策専攻博士後期課程単位取得退学(2003)【学会等】日本公共政策学会会員【論文】「電気通信産業(テレコミュニケーション)における競争政策の新潮流」国際公共政策研究(大阪大学)2(1998)、「フィリピンにおける電気通信政策の変遷と今後の課題—競争政策を中心に—」国際公共政策研究3(1999)、「電気通信産業における電話普及と相互接続に関するクロス規制—フィリピンの事例を通して」情報通信総合研究所彙報21(2000)。

[兼任講師]大橋 泰弘

武蔵野美術大学造形学部産業デザイン科卒業【学会等】日本舞台美術家協会会員【受賞】日本舞台美術家協会奨励賞(1997)。

[兼任講師]織田 紳也

大阪府立大学大学院総合科学研究科修士課程修了 大阪府立大学大学院人間文化科学研究科博士後期課程単位取得退学

[兼任講師]尾中 哲夫

夙川学院短期大学、奈良芸術短期大学非常勤講師。京都市立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修士課程修了。【受賞】「ギャラリーピクチャーイラスト大賞展」銀賞（1993）。「第9回クリエイターズ・サマーフェスティバル」大賞（2002）。「オリンピック・スポーツ&アート・コンテスト2004国内選考会」銀賞（2003）。「第2回えひめスポーツ俳句大賞・ハイブリッド部門」金賞（2004）。【制作・作品】「大阪市天王寺動物園両生類爬虫類生態館解説プレートイラストレーション105点」（1995）。「済州島国際市民マラソンポスターイラストレーション」（1995）。「ニュー・イヤー・ユース・サッカーポスターイラストレーション」日本サッカー協会（1999）。「東京国際マラソンポスターイラストレーション」日本陸上競技連盟（1997）。「第19回～第23回京都新聞チャリティー美術作品展」京都新聞社社会福祉事業団（2001～2005）。「神戸ウイングスタジアムミックスゾーン絵画7点」（2002）。

[兼任講師]上久保 真理

京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了 芸術学修士。大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士課程後期美学・芸術学専攻 修了 芸術文化学博士。【学会等】美学会、現象学会。【論文】「〈病〉としての絵画 - 形象・言語・身体 -」雑誌『美学』第40巻第1号（美学会）、「転回する真理 - 比喩あるいはイメージについての考察 -」大阪芸術大学大学院芸術文化研究科紀要『藝術文化研究』第6号（2002年）他。【その他】ベーシック・ワークショップ案「白い部屋」 「MINAMO」他『1day Kyokasho 2008』（京都造形芸術大学ワークショップデザイン研究室）、KAM主催神戸アートマルシェ内 学生プロジェクト「#tubumuko -つぶやきのむこう-」企画運営（2010年）。

[兼任講師]河内 厚郎

一橋大学法学部卒業。舞台芸術学院（夜間）卒業（1978）。文芸誌「関西文学」編集長（1987～2008）。【学会等】歌舞伎学会・楽劇学会会員。【受賞】第14回読売賞（1989）「咲くやこの花賞」（1991）。【著書】「街は劇場」関西書院（1990）。「阪神観」共著 東方出版（1994）。「天神祭」共著 東方出版「神戸からの伝言—瓦礫に響いたバッハ」（1996）。「阪神学事始」神戸新聞総合出版センター（1994）。「手塚治虫のふるさと・宝塚」神戸新聞総合出版センター（1996）。「大阪の海。二千年の歴史」東方出版（1996）。「もうひとつの文士録—阪神の風土と芸術」沖積舎（2000）。「宝塚映画製作所」共著 神戸新聞総合出版センター（2001）。「阪神文学史年表」兵庫県阪神県民局（2001）。「阪神演劇史年表」兵庫県阪神南県民局（2004）。「わたしの風姿花伝」沖積舎（2006）。「淀川ものがたり」読売広告社（2007）。「大阪探偵団」沖積舎（2008）。「上町学 再発見 古都おおさか」共著 産経新聞社（2011）。

[兼任講師]川尻 潤

美術家、陶芸家、東京芸術大学美術学部デザイン専攻卒業、東京芸術大学大学院博士課程デザイン専攻修了、【受賞】日本現代工芸展工芸賞（2002）、日展特選（2004）、日展無鑑査（2005）、日本現代工芸展京都新聞社賞（2011）【著作】「歪みを愛でる」ポラ出版（2002）「サンケイエクスプレス」コラム（2006～2008）【制作】神戸国際ビル、陶芸オブジェ制作（2009）。

[兼任講師]河底 美由紀

大阪芸術大学芸術学部舞台芸術学科舞台美術専攻卒業、宝塚歌劇団衣装デザイン担当

[兼任講師]北 義昭

日本写真映像専門学校卒業

【受賞】 ナショナルジオグラフィック（日本語版）コンテストでグランプリ受賞 ヤングポートフォリオ 清里フォトアートミュージアム所蔵 **【制作】** “Primal Mement” Photo Gallery International（東京）（2010）. “Eyes” Gallery [illum]（韓国 ソウル）（2007）. “Ninos” Nikon Salon（東京 新宿）（2003）. Hampden Gallery（アメリカ マサチューセッツ）（2013）. Pyeong Chang Biennale 2013（韓国）（2013）. GuCang Modern Art Gallery（日本の現代写真家展）（中国蘭州）（2012）. Art&Ecoマッチングプロジェクト（地球環境と美術）（ギャラリー矢田）. 窓の表面（スロー&テンスアートモスフィア）（韓国・ソウル）. パーモント・アートフェスティバル出展（アメリカ）. art-fair “art KARLSRUHE 2010”（ドイツ）（Galerie pack of patches）. 「禅 ZEN」展 ギャラリー・カンテルモ（アメリカ ニューヨーク）. Bravo Beijing Olympic（Free Tibet）展 ARTBIT GALLERY（韓国 ソウル）. スイス パーゼル（スイス） ニューヨーク SCOPE（アメリカ）（2013）. 台北写真フェスティバル（台湾） パーモンド・アート・フェスティバル（2012）. シカゴ・アートフェスティバル（アメリカ） ソウル・フォト 2010（韓国）（2012）.

[兼任講師]岸本 功喜

天理大学体育学部卒、神戸大学大学院発達科学部中退、アークスインターナショナル株式会社代表取締役、宝塚看護学校講師 **【学会等】** 日本演劇学会会員、舞踊学会会員 **【受賞】** 横浜ダンスコンペティション最優秀振付賞 **【制作】** ミュージカル「ズボン船長」.

[兼任講師]清源 友香奈

[兼任講師]楠田 尊子

関西芸術短期大学講師。奈良県立桜井高等学校。伊東衣服研究所研究科卒。【学会等】社団法人日本デザイン文化協会会員。同評議員（2000～）。理事（2006～）・一般社団法人に独立。【制作】作品－第66回NDKファッションショー。大阪フェスティバルホール。努力賞（1998）。第67回同。産経新聞社賞（1999）。第68回同「タウンウェア」（2000）。第69回同産経新聞社賞（2001）。第70回同「フォーマルウェア」（2002）。第71回同「タウンウェア」（2003）。第72回同毎日新聞社賞（2004）。第73回同「タウンウェア」（2005）。第74回同「タウンウェア」（2006）。第75回同デザイン賞（2007）。第76回同デザイン賞（2008）。第77回同NHK大阪ホール「タウンウェア」（2009）。第78回同デザイン賞（2010）。第79回同。関西テレビ放送賞（2011）。第80回同。知事賞（2012）。第81回同。「タウンウェア」（2013）。

[兼任講師]小林 繁樹

南山大学大学院文学研究科修士課程修了 文学修士 【学会等】日本民族学会会員（1974～）。日本オセアニア学会会員（1978～）。民族芸術学会会員（1992～）。道具学会会員（1997～）同理事（1999～）。

[兼任講師]佐藤 晴美

嵯峨美術短期大学陶芸科卒業【著書、作品等】「白きアニマ」ティームコスモプロダクツ（1980）。「翼の記憶」朝日ソノラマ（1981）。「メシア・聖戦」東京三世社（1983）。「50億のマーサ」笠倉出版（1985）。「飛べ跳べアニマ」（講談社）（1986）。「ワーウルフ」ラ・ポート（1988）。「トワイライト・トーン」大陸書房（1988）。「マイロード」白泉社（1990）。「リョク上・下」大都社（1991）。「神化」大都社（1992）。「動物たちの仁義なき戦い」講談社（1994）。「翼のない天馬たち（1）、（2）、（3）」KKベストセラーズ（1994）。「ゾウの鼻はなぜ長い」講談社（1996）。「絶滅動物誌」講談社（2000）。「絶滅する日本の動物」講談社（2003）。「くらしの税金百科」清文社（1995-2001）。「ひょうごウォーク。兵庫県広報情報イラスト」月刊神戸っ子（2004）。「小学1～6年算数指導書・社会教科書イラスト」大阪書籍株式会社（2004）。「KOBEポートウォッチングマップイラスト」神戸港を考える会（2004）。

[兼任講師]重田 謙

大阪大学文学部卒業／京都大学人間・環境学研究科修了、大阪大学文学研究科博士後期課程修了、大阪大学文学研究科招聘研究員、非常勤講師

[兼任講師] 島村 漱

撮影カメラマン (フリー)、立命館大学経済学部卒業。【学会等】日本映画撮影監督協会会員、同理事 (1992)。【受賞】全日本シーエム放送連盟 (ACC) ACC秀作賞:「敷島製パン」(1975)。「大阪ガス」(1981)。「両口屋是清」(1984)。同ACC賞:「丸善石油」(1977)。「守口漬総本家」(1983)。同地域ACC賞大賞「大阪ガス」(1987)。同地域秀作賞「守口漬総本家」(1987)。【制作】「僕の見た夢」高知県土佐町ほか (1996)。「伝統と灯火のゆらめき」岐阜市伝統工芸品記録保存ほか (1997)。「桃山学院大学VP」ほか (1998)。「大阪外国語大学VP」ほか (1999)。「松山市”両界曼陀羅を描く”」NHKサービスセンターほか (2000)。「PRドラマ『夢のかたち』東建コーポレーション藤田まこと篇 (2001)」。CM「退職者医療制度」浜村淳篇ほか (2001)。「シャルレ〈肌日和〉デビューVP・CM」。「モビット114」114銀行15"CM。「CM・VP<OSAKA 永住光都>トミーズ雅篇ほか (2002)。「グランスイート中之島タワー」。シアター映像「パークグラン西岡本」ほか (2003)。HDシアター「ルネシーズンズガーデン西宮名塩」畑正憲篇CM・VPほか (2005)。

[兼任講師] 杉山 一雄

東海大学文学部広報学科卒業 関西テレビ放送(株)アナウンス部長【研究会等】フジテレビ系列アナウンス用語委員 日本新聞協会放送分科会用語懇談会委員【担当番組】ニュース、ドキュメンタリー「笑魂」(芸術祭参加作)、「脱北者たち」(坂田記念ジャーナリズム賞受賞作) など50本以上、報道特番「昭和天皇崩御」「関西空港開港」「阪神淡路大震災」、情報番組「マイ大阪」「奥様リビング」「料理番組」「ハイ!土曜日です」「となりのトナリ」「京都ちゃちゃちゃ」、娯楽番組「エンドレスナイト」「光速脳天ベタキング」検証番組「月刊カンテレ批評」など【本学講座歴】「アナウンス・ディスクジョッキー演習」「日本語概論」「ことばとコミュニケーション」「言語表現」「放送論」「放送文化論」【現在】帝塚山大学人文学部非常勤講師 京都勤労者学園市民講座講師。

[兼任講師] 鈴木 洋昭

大阪樟蔭女子大学教授、大阪教育大学教育学部卒業、京都大学大学院文学研究科博士課程修了。【学会等】日本社会学会会員、関西社会学会会員、服飾社会学会会員。【著書】「社会学講義」八千代出版 (1994)。共著。【論文】「大阪府出身の貴族院議員」樟蔭女子短期大学紀要文化研究5 (1991)。「戦前の国会議員 岐阜県出身の貴族院議員について」岐阜女子大学地域文化研究所報告9 (1991)。「保護者の海外生活と家族」大阪教育大学社会学研究会 (1993)。「日本人学校と子どもの生活 (1)」大阪教育大学社会学研究会 (1993)。「香港日本人学校の変容についての社会学的研究」文化研究12 (1998)。

[兼任講師] 鷺見 昭雄

元三和総合研究所 (現三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社) 経営相談室室長、元宝塚造形芸術大学 (現宝塚大学) 教授、京都大学法学部卒業、税理士、社会保険労務士、第一種情報処理技術者。【学会等】日本税法学会会員、日本簿記学会会員、日本会計研究学会会員、食博覧会・大阪監事 (1997~2013)、社会福祉法人隆生福祉会監事。【著書】「アメリカの企業財務と税制」共著 清文社 (1987)。「Q&A誰も書かなかった! 事業用借地権のすべて」共著 民事法研究会 (1994)。「ガイダンス事業承継税制」三和総合研究所 (1995)。「不動産税制のポイント」三和総合研究所 (1997)。「平成16年版税務資料」UFJ総合研究所 (2004)。「Q&A LLPの設立と実務—法律・登記・会計・税務」共著 民事法研究会 (2007)。【論文】「初級簿記習得者に対する間接法によるキャッシュ・フロー計算書作成技法の教授法」宝塚大学紀要第25巻 (2011)。その他 - 「圧縮記帳の税務と会計」UFJ総合研究所情報ライブラリー (2003)。「産業再生にかかわる税務問題1, 2」daily UFJ総研No.3 (2003)。「人材投資 (教育訓練) 促進税制の創設」同 No.5 (2005)。「平成17年度税制改正 (案) について」UFJ総研情報ライブラリー 101849 (2005)。

[兼任講師] 竹中 真希子

大分大学教育福祉科学部准教授、大分大学大学院教育学研究科准教授、神戸大学発達科学部（非常勤講師）、大分県立芸術文化短期大学（非常勤講師）、神戸大学発達科学部人間発達学科卒業、神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程修了 博士（学術）（神戸大学）【学会等】日本理科教育学会会員、日本科学教育学会会員、日本教育工学会会員、教育システム情報学会会員、コンピュータ利用教育協議会会員、日本教育方法学会会員、日本生活科・総合的学習教育学会会員【受賞】日本教育学会年会発表賞（2004）、APSC E Award for Best Paper（2004）、日本教育学会年会発表賞（2005）、日本教育学会奨励賞（2005）、日本教育学会研究会第6部会・若手の会2005ベストプレゼンテーション賞（2005）、日本教育工学会研究奨励賞（2006）、日本科学教育学会論文賞（2007）

[兼任講師] 田中 理

大阪芸術大学美術学科卒業
元西宮市立浜脇中学校校長

[兼任講師] 田中 慶江

京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻後期博士課程修了、京都大学博士（教育学）、関西国際大学人間科学部准教授【著書】「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」共編・共著（創元社）、「見つめあいから生まれてくるもの」『心理臨床におけるこころとからだ』「京大心理臨床シリーズ9」共著（創元社）、「心理臨床におけるまなざし体験の生成」単著（日本評論社）、「心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン—スーパーヴィジョン学の構築—」分担執筆（日本評論社）【論文】「いじめにあった中学2年女子の箱庭・はり絵・折り紙遊び」単著、「13才少女のイニシエーションに関する一考察」単著、「心理臨床における関係のはじまり」単著。

[兼任講師] 田端 拓哉

大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位修得退学修士（文学）【学会等】日本心理学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本健康心理学会、関西心理学会【論文】「社会的アイデンティティの多様性と調和性が精神的健康に与える影響——大都市部大学生の場合——」共著 都市文化研究（2012）。「自我脅威状況における補償的自己高揚の検討」共著 社会心理学研究（2011）。「自我脅威状況下での補償的平均以上効果の検討——特性自尊心の水準を考慮して—— 人文研究（2010）。「気分誘導が平均以上効果に及ぼす影響」単著 四條畷学園短期大学紀要（2006）。「学生生活のある2時点における平均以上効果の検討——入学直後と最初の夏期休暇前の比較平均的他者の抽象性を考慮して——」単著 教育方法の探究（2005）。

【兼任講師】出川 哲朗

大阪大学基礎工学部卒業、大阪大学文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻博士課程前期修了【学会等】美術史学会会員、美学会会員、民族芸術学会会員、東洋陶磁器学会会員【著書】「昭和の文化遺産（工芸1）」共著 ぎょうせい（1990）、「芸術現代論」共著 昭和堂（1991）、「近代絵画と北方ロマン主義の伝統」岩崎美術社（1988）、「明末清初の民窯」共著 平凡社（1997）、「故宫博物院 宋元の陶磁」共著 NHK出版（1997）、「アジア陶芸史」昭和堂（2001）【論文】「呉須赤絵について」陶説443号 日本陶磁協会（1990）、「耀州窯について」『耀州窯』展図録 大阪市立東洋陶磁美術館（1991）、「青磁刻花牡丹唐草文瓶」国華第1177号 国華社（1993）、「現代陶芸の自立的な展開」『94現代陶芸7つのメッセージ』展図録 毎日新聞社（1994）、「唐から北宋の越州窯」『越州窯の青磁2』展図録 大阪市立東洋陶磁美術館（1994）、「東洋の梁付」共著 大阪市立東洋陶磁美術館（1997）、「封印された南宋陶磁」朝日新聞社（1999）、「中国陶磁の至宝デヴィッド・コレクション」読売新聞社（2000）、「クレイワークの自立的な展開」『大地の芸術』展図録 国立国際美術館（2003）、「汝窯青磁水仙盆」国華第1297号（2003）

【兼任講師】中川 光

大阪外国語大学非常勤講師、大阪外国語大学イタリア語学科卒業、京都大学大学院文学研究科イタリア語イタリア文学専攻修士課程修了、同博士課程単位取得退学【学会等】イタリア学会会員【著書】「Un po' di Italiano 新版」共著 南欧図書（2003）、「翻訳書—「イタリア ルネサンス事典」共訳 東信堂（2003）【論文】『「PROSE」におけるベンボの文学的構想』イタリア学会誌38（1998）、「宮廷語論の諸相」イタリア学会誌42（1992）、「『宮廷人』における新プラトン主義」池田廉教授停年退官記念論文集（1993）、「デッラ・カーサ『ガラテオ』の考察」AULA NUOVA No.2（1999）、「G.B.Gelli『Capricci del Bottai』 研究ノート」AULA NUOVA No.3（2001）、「プルチの『モルガンテ』におけるマルグッティ像」近畿大学文芸学部論集16（2005）。

【兼任講師】中村 伸之

京都大学農学部林学科卒業【学会等】都市環境デザイン会議会員【受賞】「京の新しいすまい—環境に配慮した住宅」デザインコンペ特別賞（共同制作、2000）【著書】「地域個性を形成する団地緑地に関する考察」（「ランドスケープ研究」Vol.68 No.2）2004、「ランドスケープアーキテクトになる本—RLA資格認定試験ガイドブック」共著、2009、「わがまち城巽—京都町衆物語」編著（城巽学区パンフレット）2010、「JUDI関西—仕事の軌跡と展望」（都市環境デザイン会議 関西ブロック）2011、「三陸海岸におけるランドスケープの復興」（国際シンポジウム発表論文集、台湾・東海大学学際的本地域研究センター）2011、「海と漁業のまちの復興の姿—「復興の姿研究会」からの提案—」共著（都市環境デザイン会議関西ブロック）2012、「鴨川・まちと川のあゆみ」編著（NPO法人京都景観フォーラム）2013【制作】ニュータウンの近隣公園設計1980～90年代、戎公園（四条畷市）、鳥谷公園（精華町）、仰木東公園（大津市）、道頓堀水辺再生デザイン（2002年～2005年、大阪市）K幼稚園の園庭改修デザイン（2005年、京都市）、里山再生ワークショップ（2007年～、木津川市）、遊歩道の景観設計（プロポーザル1位入選、2010年～11年、永平寺町）、H保育園の森づくりプロジェクト（2012年～、神戸市）。

【兼任講師】成瀬 國晴

イラストレーター【学会等】日本漫画家協会会員【受賞】大阪府知事文化芸術功労者表彰、大阪府市民表彰・文化功労部門（社）日本漫画家協会賞・文部科学大臣賞【著書】「イラスト教室」保育社（1981）、「画集大相撲」京都書院（1993）、「なにお難波のかやくめし」東方出版（1998）、「画集 天神祭」東方出版（1999）、「画集 夢は正夢・阪神タイガースの20年」たる出版（2003）、「アナログ時代のテレビ絵史」たる出版：その他—読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞等さし絵、テレビタイトル・スタジオバックなどのイラスト（KTV、MBSほか）、「大阪の風俗—なにお難波かやくめし」朝日新聞社（1996～1997）、「西川きよし」吉本文芸館（1998）、「初代桂春団治」ワッハ上方（1999～2001）、「画集 夢は正夢・阪神タイガースの20年」たる出版（2003）【制作】個展—「ドキュメンタリースケッチPART4、春場所はっけよい」大阪ナミヤギャラリー、名古屋AOIギャラリー（1992）、「ドキュメンタリースケッチPART6、初場所はっけよい」東京永谷ホール（1993）、「大相撲絵展」オーストラリア、ゴールドコースト（1994）、「天神祭水墨画展」大阪松坂屋（1999）、「絵馬」高津宮絵馬堂（1999）、「掛軸展」大阪松坂屋（2000）、「迎春墨絵展」大阪松坂屋（2001）、「貴乃花ありがとう」元精華小・特設ギャラリー（2003）、「夢は正夢・阪神タイガースの20年」阪神百貨店・美術画廊（2003）、「夢をありがとう」東京渋谷東急百貨店美術画廊・Bunkamuraギャラリー（2005）、「目指せ！日本—」大阪OBPアトリウム（2005）、「成瀬國晴と落語の世界展」池田市落語ミュージアム。

[兼任講師]西 敏彦

金沢美術工芸大学美術工芸学部美術学科絵画専攻日本画卒業

【学会等】 日展会友 **【制作】** 第9回日展（東京都美術館）より連続出展、第25回「牛舎」（1993）、第26回「暮れ行く頃」、第27回「かえりみち」（特選）、第28回「通天閣」、第29回「すってんてん」、第30回「夜の道」、第31回「市場」、第33回「四角い空」、第34回「暮れゆく」、第35回「沿線」、第36回「晴れ間」、第37回「雲合い」、第45回「湖畔」（1994～2013）

[兼任講師]東 明

京都市立芸術大学美術学部美術科卒業、**【制作】**「Force of Nature」ノースキャロライナ州立大学シャーロット校（2006）、「第24回国民文化祭しずおか2009」ふじさんめっせ（2009）、「華、踊ル」秋吉台国際芸術村（2009）、「Nairobi Residence 2011」ケニア（2011）、「境谷小レジデンス」京都市立境谷小学校（2011）、「空間の巢」プラザノース（2012）、「Art Court Frontier 2012#10」アートコートギャラリー（2012）、「groundwork」アートスペース虹（2012）、「なつのかくれが」広島市現代美術館（2013）、「京都府美術工芸新鋭展」京都文化博物館（2014）**【受賞】**「ほぼ日作品大賞」ひびのこづえ賞受賞（2010）。

[兼任講師]ニール・ブレッドバーグ, Neal Bredberg

Research Assistant.Univ.Illinois（1982）. 米国イリノイ大学（人類学／言語学）イリノイ大学大学院在籍20単位以上取得（Department of Communications University, of Illinois, U.S.A.）丸紅パーソナルサポート(株)、リングラマ・ランゲージ・インスティテュートで英語指導**【論文】**「Using Dialogues with Contextual Cues」宝塚造形芸術大学紀要No.14（2000）。

[兼任講師]藤脇 慎吾

京都市立芸術大学美術学部デザイン科卒業。**【著書】**「F.O.B HOMES BOOK」共著 INAX出版（2005）。**【制作】**「（スイス）レストランルーザー『シルフィード』シンボルマーク」（GRAPHIS LOGO 2 入選）（1994）。「城崎地ビール『GUBIGABU』」（グッドデザイン賞）（1999）。「神戸国際会館VI」（日本タイポグラフィー年鑑VI部門入賞）（2000）。「スーパー回転すし『魚中 UONT YOU』京阪電鉄」（日本タイポグラフィー年鑑審査委員賞）（2001）。「『F O B A』VI」（東京アートディレクタークラブ賞：日本タイポグラフィ年鑑入選）（2003）。「京阪三条『KYOUEN』」（日本タイポグラフィ年鑑入選）（2004）。「中ノ島新線駅デザインコンペ」優秀賞（2005）。「CAFE丸福珈琲店VI」（日本タイポグラフィ年鑑入選）（2006）。「日本むかし話かちかち山」（日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク）（2007）「卒業設計日本一決定戦京都展」（GRAPHIS LOGO 7 入選）「WEST Agaho」（GRAPHIS POSTER GOLD）（2013）「淡路人形浄瑠璃館 淡路人形座」（日本タイポグラフィ年鑑入選）（2013）

[兼任講師]前川 友介

大阪学院大学商学部経営学科卒。卒業後、鍵盤楽器、弦楽器の演奏家、ピアノ調律師として活動。1979年ローランド(株)入社、電子楽器の演奏をおこなうとともに国内外の音楽家と広く交流、CM音楽、効果音などの制作もおこなう。1987年デザイン工房ワイズを設立。1998年からはWebデザイナー、プランナーとして活動。CM音楽、PV「阪急電鉄」「西日本住宅(株)」等。記録映像「広島丸」(撮影、音楽)等。

[兼任講師]眞山 直則

宮城県仙台第二高等学校卒業／慶應義塾大学総合政策学部中退、兵庫県立尼崎少年創造劇場劇団員、兵庫県宝塚市北高等学校非常勤講師

[兼任講師]松岡 敬興

兵庫教育大学大学院修士課程学校教育研究科修了、大阪府立大学大学院博士後期課程人間文化学研究科単位修得満期退学、【学位】修士(学校教育学)、博士(学術)、【専攻】特別活動、道徳教育、生徒指導(進路指導を含む)、【学会】日本特別活動学会(研究開発委員会委員)、日本道徳教育方法学会、日本生徒指導学会、日本教育心理学会

[兼任講師]丸山 耕市

企画室TEPPEN主宰。(有)関西デジタルパレット取締役。九州産業大学芸術学部卒業。

[兼任講師] 溝邊 敬一

大阪大学名誉教授。大阪市立大学文学部卒業。同大学大学院文学研究科ドイツ語・ドイツ文学専攻修士課程修了。【学会等】日本独文学会会員。阪神ドイツ文学会会員。日本ゲーテ協会会員。大阪大学言語文化学会会員。【著書】翻訳書—H. カウフマン著『ドイツ現代文学批判』共訳 ミネルヴァ書房 (1970)。N. エリアス「文明化の過程」共訳 法政大学出版局 (1978・2004)。【論文】「抒情詩における大都市—ゲオルク・ハイムの場合—」『言語文化研究』(大阪大学言語文化部・言語文化研究科) (1991)。「表現主義時代のベルリン—ベンと大都市ベルリン—」同上誌 (1993)。「ゴットフリート・ベンと20世紀ドイツ抒情詩」同上誌 (2000)。

[兼任講師] 森岡 厚次

京都造形芸術大学非常勤講師、梅花女子大学短期大学部非常勤講師、台湾崑山科技大学客員教授、京都精華大学大学院美術研究科修士課程修了、【学会等】日本写真芸術学会会員、韓国写真学会海外会員、京都彫刻家協会会員、【著書】京都造形芸術大学紀要二〇〇七GENESIS12共著、二〇〇八GENESIS 13共著、【受賞】第41回全関西美術展開展賞第二席、京都美術工芸展97優秀賞、2000優秀賞、第49回西宮市展西宮市長賞第50回西宮市長賞、M I O写真奨励賞2001グランプリ、第1回京都デザインビエンナーレ2002佳作、第13回ART BOX大賞展高梨豊賞、神戸ビエンナーレ2007浮遊するオブジェ優秀賞、審査員特別賞、2010県展第二席・兵庫県立美術館賞、【制作】京都府美術工芸新鋭選抜展～2001新しい波～(同展覧会2002,2006年選抜出品)/京都府立文化博物館、2005新鋭美術選抜展/京都市美術館、Forest a collaboration between UK and Japan/Brewery Art Center・英国 (2006)、個展 京都造形芸術大学企画展/ギャラリー R A K U (2008)、日中韓国際大学生撮影交流展/延辺大学芸術学院ギャラリー・中国 (2009)、CRIA展/京都芸術センター (2010)、台・日・韓 舊新語織當代藝術交流展/崑山科技大学 Art Center・台湾 (2012) LJUSTROJEKT IV 招待作家/KULTURHUSET VITA SKOLAN・スウェーデン (2012)、TWO ASPECTS OF ESSENCE /日本技術美術博物館・ポーランド (2012)、京都写真ビエンナーレ2013 (2013)

[兼任講師] 安井 紫折

愛知県立長久手高等学校卒業/愛知学院大学中途退学
ミュージックスクールCAKEWALK代表

[兼任講師] 保田 淑郎

宝塚造形芸術大学名誉教授、大阪府立大学名誉教授。浪速大学農学部卒業。農学博士 (九州大学) (1971)。【学会等】日本昆虫学会名誉会員 (2005)。日本環境動物昆虫学会会員。日本昆虫学会会長 (1993-1994)。日本環境動物昆虫学会会長 (2002-2004)。「河川・水辺の国勢調査アドバイザー」国土交通省 (1990～)。【著書】「原色日本蛾類幼虫図鑑」共著 保育社 (1969)。岩波「生物学辞典」分担 岩波書店 (1997)。「となりの生き物たち」共著 毎日新聞社学芸部編 (1989)。「ノシバ・コウライシバ」分担 ソフトサイエンス社 (1993)。「日本原色虫えい図鑑」分担 全国農村教育協会 (1996)。「日本動物大百科」分担 平凡社 (1997)。「小蛾類の生物学」文教出版 (1998)。「フォーラム堺学 第5集」分担 堺都市政策研究所 (1999)。「照葉樹林文化論の現代的展開」分担 北海道大学図書刊行会 (2001)。【論文】「The Japanese species of the genus Adoxophyes Meyrick (Lep. Tort.)」Trans.Lepid.Soc49 (1998)「照葉樹林における伝統的農村の持つ環境保全機構」共著 日本生命財団 (1998)。「槇尾川ダム地域の自然」共著 大阪府 (1999)。「自然豊かな淀川をめざして」共著 淀川環境委員会 (2002)。「和泉葛城の蛾類相」共著 貝塚の自然5 (2003)。「貝塚市の蝶」貝塚の自然記念号 (2003)。「続槇尾川ダム地域の自然」共著 大阪府 (2004)。

[兼任講師]横越谷 勝雄

元関西芸術短期大学助教授。増本色彩造形研究所卒業。【学会等】日本デザイン文化協会大阪支部会員。同理事(1982)。同本部評議員(1992)。【著書】「ファッションドローイング」同朋舎(1998)。【論文】「ファッションデザインにおける造形上の基本構成－基礎形態についての考察－」関西芸術短期大学紀要7(1994)。「ファッションデザインにおける造形上の基本構成－美的形態についての考察－」同8(1995)。「ファッションデザインにおける造形上の基本構成－色彩・素材についての考察－」同9(1997)。「ファッションデザインの発想における造形上の現実的形態としてのシルエット」同10(1999)。「ファッションデザインの発想における造形上の現実的形態としてのディテール」同11(2001)。ファッションIMCの体系化－ファッションブランディングアプローチ－宝塚造形芸術大学紀要ARTES21(2007)【制作】日本デザイン文化協会第64～70回NDKファッションショー「タウンウエア、パンフレット用ドローイング」朝日フェスティバルホール(1996～2002)。同第71回同「カクテルドレス、同」(2003)同第72,3回同「タウンウエア、同」(2004,2005)。同第74回～第79回「タウンウエア、同」NHK大阪ホール(2006～2010)

[兼任講師]吉岡 千尋

【略歴】京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了【受賞歴】「京展2005」京都市美術館,京都市長賞【著書】境谷小レジデンス京都市立芸術大学と京都市立境谷小学校1年半の記録(2013)共著【制作】「吉岡千尋展」Oギャラリーeyes,大阪(2008)「FIX展」元立誠小学校,京都(2009)「VOCA展 2009現代美術の展望－新しい平面の作家たち」上野の森美術館,東京(2009)「オープスタジオuzumasa」ウズイチstudio,京都(2010)「ガラスのライオン(非在の庭)」アーツスペース虹,京都(2010)「skannata」ART COURT Gallery,大阪(2012)「一幕の絵、小説の建築」アーツスペース虹,京都(2013)「KYOTO STUDIO」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA,京都(2013)「境谷小学校作品展」京都市立境谷小学校,京都(12)(13)(2014)「京都府美術工芸新鋭展」京都文化博物館,京都(2014)アーティスト・イン・レジデンス「境谷小レジデンス」京都市立境谷小学校,京都(2011～2012)。

[兼任講師]吉田 義久

大阪スクールオブビジネス芸術学部放送芸術学科卒業、(株)エキスパート代表取締役・映像制作プロデューサー・ディレクター【テレビ番組】おはよう朝日です(朝日放送)・旅サラダ(朝日放送)・ナイトinナイト(朝日放送)・ワイドABCDE～す(朝日放送)・関西ラブストーリー(朝日放送)・美味彩葉(朝日放送)・桂小枝のゴルフがんばろ～と(朝日放送)・今時の若者たち(関西テレビ)・スーパーニュース(東海テレビ)・峰竜太の事件ファイル(東海テレビ)・チャンプチャリティーゴルフ(サンTV)・【VTR制作】佐々木望のプライベートビデオ・関西電力発電所入構案内・JTBあなたの街から・イヤーバンクお母さんの子守唄を聞かせたい・ニュージーランド観光案内トラジャル入学案内・KASD入学案内・宅地建物取引主任者国家資格取得講座ビデオ全23巻【CM】ディックファイナンスカジノ編・ミラクルスリー・和歌山マリーナシティ。

[兼任講師]吉村 文彦

13才よりドラムを始める。一般財団法人ヤマハ音楽振興会ポピュラーミュージックスクールドラム科講師。くらしき作陽大学音楽学部音楽学科講師。学校法人大阪創都学園キャットミュージックカレッジ専門学校ドラム科講師。小出シンバル・サウンドアドバイザー。2009年よりチナ・サダオ楽団に参加。共演、共作アーティスト－Ken Navarro (Gt). Dave McMurray (Sax). Bob James (Pf). Eric Marienthal (Sax). Jeanne Newhall (Pf). Kelly Mittleman (Vo). Dan Siegel (Pf). ネーネーズ. BEGIN. 知名定男(三線). 菅沼孝三(Drs). 2005年アルバム「Local Technology Life」発表。

[兼任講師]若井 喜治

大阪府立春日丘高等学校卒業、代々木アニメーション学院取締役・大阪校教務部長、専修学校マルチメディアアート学園理事・校長、三鷹アニメーションミュージアムアニメーションアドバイザーを歴任。【制作】「巨人の星」制作進行、「ムーミン」色彩設計、「宇宙戦艦ヤマト2, 3」色彩設計・制作デスク。【受賞】北海道ピクチャーストーリーコンテスト北海道新聞社賞。

東京メディア・コンテンツ学部

[学部長/教授]竹内 一郎

横浜国立大学教育学部心理学科卒業、九州大学博士（比較社会文化）、九州大谷短期大学助教授、専修大学ネットアーク情報学部非常勤講師【学会等】日本劇作家協会、日本演劇協会会員、日本文芸家協会会員【受賞】「戯曲・星に願いを」五月書房で、文化庁・舞台芸術創作奨励賞佳作受賞（1989）、「哲也 雀聖と呼ばれた男」講談社漫画賞受賞（2000）、「手塚治虫＝ストーリーマンガの起源」（講談社）で、サントリイ学芸賞受賞（2006）【著書】「戯曲・星に願いを」五月書房（1989）、「フィリピンの民話」青土社（1995）、「哲也 雀聖と呼ばれた男」共著講談社（1995～2002）、「賭博師 梟」共著講談社（2001）、「少年無宿 シンクロウ」共著講談社（2005～2006）、「人は見た目が9割」新潮社（2005）、「手塚治虫＝ストーリーマンガの起源」講談社（2006）、「中学生日記」共著NHK出版（2007）、「天狼」小学館（2007）、「アストライアの天秤Vol. 1～3」講談社（2008～2010）、「ツキの波」新潮社（2009）、「声は見た目よりものをいう」潮出版社（2010）【論文】「ノン・バーバル・コミュニケーション研究（1）－顔の形が伝える情報－」九州大谷研究紀要第24号（1998）、「ノン・バーバル・コミュニケーション研究（2）－マンガの表現技術－」九州大谷研究紀要第25号（1999）、「戯曲 彼方へ、流れの彼方へ」共著九州大谷研究紀要第32号（2005）、「手塚治虫＝ストーリーマンガの起源」九州大学学位論文（博士）（2005）

メディア・コンテンツ学科

[学科長/教授]北見 隆

武蔵野美術大学商業デザイン科卒業 【受賞】第13回サンリオ美術賞、プラチスラバ国際絵本原画ビエンナーレ金のリングゴ賞 【著書】（イラスト、装丁）赤川次郎著『三毛猫ホームズ』シリーズ、他約400冊の書籍カバー担当。（画集）「楽園」サンリオ（1988）。（絵本）「夢から醒めた夢」共著 角川書店（1987）「聖書物語」共著 ほるぷ出版（1997）。（画・文）「ギリシア神話考」MOE/白泉社（2004）（版画集）「占星師たち」マグノリアプレス（2005）。【制作】（個展・展示会）HBギャラリー、東京（1987）。ギャラリーハウスMAYA、東京（1989）。TIAS、東京（1991）。玉川高島屋アルテスパッチツイオ（1992）。渋谷西武美術画廊（1992）。プランタン銀座アートギャラリー（1992）。美術世界画廊、東京（1993）。松明堂ホール、東京（1993）。麻樹画廊、東京（1994）。JR大阪セルヴィスギャラリー（1995）。伊勢丹新宿店美術画廊（1998）。「天地創造」グランシップ展示ギャラリー、静岡（2004）。東武百貨店池袋店、東京 美術画廊（2004）。版画展、銀座・名古屋（2005）。2人展「美の箱船」あらかわ画廊、東京（2007）。「メルヘンと遊びの世界」高崎市民ギャラリー、高崎市（2007）。2人展「BOX OPERA」スペースYUI、東京（2006）。アートギャラリーデボラ、大分（2014）。

【教授】井上 幸喜

(株) ジェットマン代表取締役、(有) ジェットグラフィックス代表取締役、武蔵野美術大学短期大学部卒業【学会等】SONY DIGITAL ENTERTAINMENT (Dep) 審査員、【受賞】ALIASウェブフロントCGタイトル賞(1991)、東京コンテンツマーケット2007審査員特別賞(2007)、Virtual World of the Year2007大賞(2008)、【著書】「iPhone SDK3プログラミング大全 ゲームプログラミング」アスキーメディアワークス(2009)、「iOSプログラミング Adobe Flashで作るiOSアプリ」(2011)、【作品】「KOWLOON'S GATE-クルーンズ・ゲート」「プラネットライカ」「モーニング娘。スペースヴィーナス」「.hack」「サイレン」「武刀街」「遊戯王」など多数(2004)、ソニーVAIO グラフィックユーザーインターフェイス、愛知万博「愛地球博」プレゼン映像など(2005)、任天堂DSソフト ジェットインパルス制作、企画、指揮 カプコン「バイオハザード」製作参加、NHK Hivision 作品 佐野史郎編 特殊効果、(2006) 国立科学博物館アプリ作成(2010)、TOYOTA モーターショウ FT86アプリ製作ワーナーブラザーズ「パラノーマルアクティビティ」iPhoneアプリ(2011)。

【教授】川村 順一

早稲田大学法学部卒業、【学会等】芸術科学会会員、3Dコンソーシアム賛助会員、東方芸術思潮研究会会員、日台稲門会会員、台中会会員、(財) デジタルコンテンツ協会(経済産業省) 交流政策委員会委員、(1999~2000)、クリエイター人材育成支援事業(経済産業省) 評価委員会委員長(2004)、芸術科学会委員(2005~)、韓国ソフトウェア振興院(KIPA) のプロモーションアドバイザー(2001)、東北芸術工科大学未来デザイン学科、日本文理大学メディア情報学科マネジメント(2001)、新宿区歌舞伎町タウン・マネジメント委員(2011)、新宿クリエイターズ・フェスタプロデューサー(2012)、新宿区屋外広告審査会委員(2012)、公益財団法人大阪市都市型産業振興センターメビック扇町首都圏コーディネーター(2012)、【受賞】「小学館ヒューマン写真大賞」準大賞(1986)、「通産省マルチメディア振興協会マルチメディアグランプリ」優秀人物賞(1997)、「文部省/文化庁CG-ARTS協会メディア芸術祭」大賞/文部大臣賞(1998)、「全国PTA広報誌コンクール」文部大臣賞(1999)、「鉄拳TAGTOURNAMENTオープニングムービー、リアルタイムムービー、エンディングムービー3作」(SIGGRAPH2000)、エレクトリックシアター選出(2000)、【作品】ゲーム「鉄拳」シリーズ(1994~2001)、「ソウルエッジ」(1996)、「ゼビウス3D/G」(1996)、「ダンシング・アイ」(1996)、「ソウルキャリバー」(1999)、「太鼓の達人」(2000)、「塊魂」(2003)、「シュータウェイ2」(1991)、「スイートランド2」(1993)、「ショーレビュー」(1992)、福祉機器事業部製品「ピピエイド」、「トーキングエイド」。

【教授】櫻木 晃彦

東京大学理学部生物学科人類学課程卒業、学位 博士(医学)(東京大学)、北里大学医学部助手(平成13年まで)、浜松医科大学非常勤講師(平成13年まで)、東京藝術大学非常勤講師、大学院修士課程の研究指導(平成15年まで)、成蹊大学非常勤講師、跡見学園女子大学非常勤講師、【学会】美術解剖学会(理事)、日本人類学会、日本解剖学会、【著書】「自分の骨のこと知ってますか」講談社(2001)、「図解からだのしくみがわかる本」新星出版社(2002)、「CGクリエイターのための人体解剖学」共著ポーンデジタル(2002)、「生体で学ぶ解剖学」てらぺいあ(2005)、「メディカルイラストレーションハンドブック」ポーンデジタル(2005)、「ヒトの生物学講義ノート」てらぺいあ(2007)、「ヒューマンCGキャラクター」ワークスコーポレーション(2008)、「人体で学ぶ生物学」てらぺいあ(2012)、【学術論文】「The significance of artistic anatomy in the field of medical illustration today」, 「Revisiting D'Arcy Thompson's Works in the Field of Artistic Anatomy」, 「Radio-Ulnar Weight Index - is it a Useful Criterion for Sex Identification of the Human Skeleton?」他

【教授】成田 裕介

映画監督、秋田県立秋田高等学校卒業、【学会等】日本映画監督協会会員、同理事、日本アカデミー賞協会会員、日本映画テレビ技術協会会員、「映画振興に関する懇談会」(文化庁) 委員(2003~2004)、【論文】「大島渚監督監督論」映画芸術(秋号) 388(1999)、「大島渚監督撮影方法論」月刊リトルモア(2000)、「大島渚監督組織論と演出論」ユリイカ(2000)、「中嶋竹彦監督思想表現」映画芸術(春号) 395(2001)、「深作欣二監督ガマンの美学からの脱却」映画芸術(春号) 403(2003)、「映画振興に関する懇談会」についての最終報告」日本映画監督協会報(2003)、【作品】監督「あぶない刑事」シリーズ(1987)、「BAY CITY COP」シリーズ(1987)、「六本木バナナ・ボーイズ」(1989)、「凶悪の紋章」(1990)、「凶悪の牙」(1991)、「死神の使者 DEATH MESSENGER」(1991)、「バンドラの箱」(1992)、「悪党図鑑1、2」(1994)、「復讐の帝王」(1995)、「虜ふ・た・り」(1996)、「BE-BOP HIGH SCHOOL」シリーズ(1998)、「あぶない刑事フォーエヴァー THE MOVIE」(1998)、「世紀末恐怖劇場 金曜日のレストラン」・「とても優しい隣人たち」(2000)、「人妻処刑人 R MISSION I・II」(2003)、「極妻任侠道」シリーズ(2003~2004)、「嫌な奴。Bitch!」(2003)、「実録 夜桜銀次 九州進攻作戦鮮血秘話1・2」(2001)、「あのこが欲しい」(2005)、「花と蛇3」(2010)、「通り雨」(2012)。

[特任教授]月岡 貞夫

新発田工業高等学校建築科卒業。【学会等】日本映像学会会員。【受賞】「リコピー」アメリカI.B.A.C.Mフェスグランプリ(1961)。「新・天地創造」ポーランドクラコフ国際短編映画祭グランプリ(1969)。「ある男の場合」。「沙羅双樹の花の色」フランスアヌシエーションフェスティバル入賞(1970)。「人工心臓」アメリカクリーブランドドキュメンタリーフィルムフェスティバル入賞(1975)。【著書】「新技法シリーズ〈アニメーション〉」美術出版社(1971)。「講座アニメーション〈動きをつくる〉」美術出版社(1975)。「たのしいアニメ教室全6巻」偕成社(2002)。「絵本 泳ぐ月」新潟日報事業社(2003)。「e-アニメーション」全24刊 鹿兒島頭脳センター(2003)。【制作】作品一東映動画「タバコと灰」。「ある男の場合1&2」。「沙羅双樹の花の色」。「新・天地創造」。「前進」。「狼少年ケン」。「わんぱく王子の大蛇退治」。「ねずみの嫁入り」。「ガリバーの宇宙旅行」：NTV「人間とイルカ」。「映像のマジック」。「コンピュータピア」：NHK「病める多摩川」。「けやきの証言」。「宇宙船地球号」。「高速増殖炉・常陽」。「こんなこいるかな」。「北風小僧の寒太郎」。「エルとブルー」。「あそぼイちゃん」。

[特任教授]二村 克彦

元朝日新聞社経済部記者、シドニー支局長、ジュネーブ支局長などを歴任。主に政治、経済、国際機関などについて取材、執筆。国際貿易をめぐる交渉であるウルグアイラウンド、旧ユーゴスラビアの内戦ボスニア戦争・和平交渉などをカバー。朝日新聞在職中より宝塚造形芸術大学教授。定年退職後、名古屋外国語大学、桜美林大学各講師を得て、2007年4月より2014年3月まで宝塚大学東京メディア・コンテンツ学部教授。英語、「日本と国際情勢」の授業を担当。2004年より朝日カルチャーセンターで時事英語講師を務め、ニューヨークタイムズなど欧米の高級紙を読むとともに、日本や海外のジャーナリズムについて論ずる。【学会等】日本マスコミュニケーション学会員。日本外国特派員協会会員。【著書】「国連再生と日本外交」(勝野正恒、二村克彦共著：国際書院、2000年)。「国際公務員をめざす若者へ」(勝野正恒、二村克彦共編：国際書院、2005年)

[特任教授]松本 零士

漫画家。【学会等】日本漫画家協会常務理事。著作権部長(2004)。コンピュータソフトウェア著作権協会会員。同理事(2004)。(社)中央青少年団体連絡協議会会長(2004)。(財)日本宇宙少年団理事長(2004)。大阪府立大型児童館ビッグバン館長(2004)。かがみがはら航空宇宙博物館名誉館長(2004)。【受賞】「蜜蜂の冒険」漫画少年第1回新人王(1953)。「男おいどん」講談社出版文化賞漫画部門賞(1972)。「銀河鉄道999」小学館漫画協会の賞。「第24回映画の日」特別功労賞(1979)紫綬褒章(2001)。旭日小綬章(2010)。フランス芸術文化勲章(2012)。【作品】代表作－「宇宙戦艦ヤマト」。「銀河鉄道999」。「戦場まんがシリーズ」。「宇宙海賊キャプテンハーロック」。「タイーンエメラルダス」。「1000年女王」。「新宇宙戦艦ヤマト」。「ニーベルングの指輪」神々の黄昏」。「燦・天河無限」

[准教授]古瀬 登

アニメーター。東京デザイナー学院グラフィックデザイン科卒業【受賞】「バリバリ伝説」(作画監督及びキャラクターデザイン)日本アニメ大賞、審査委員長(手塚治虫)特別賞(1986)。「エースをねらえ!2」(チーフディレクター)日本アニメ大賞、OVA最優秀賞(1988)。「Galaxy High School」(キャラクターデザイン)エミー賞候補(1990)。【制作】「スプーンおばさん」(作画監督)NHK総合1983～。「うる星やつら」(作画監督)フジテレビ1984～。「バリバリ伝説」(作画監督及びキャラクターデザイン)講談社OVA1.2 1985～。「Galaxy High School」(キャラクターデザイン)アメリカABC放送1986～。「エースをねらえ!2」(チーフディレクター)TMS。バンダイ1988～。「ルパン三世」TVスペシャル「バイバイ・リバティ・危機一髪」(作画監督・キャラデザイン)日本テレビ、TMS1989～。「ルパン三世」TVスペシャル「ヘミングウェイ・ペーパーの謎」(作画監督・キャラデザイン)日本テレビ、TMS1990。「特捜戦車隊ドミニオン」(監督)バンダイ1994～。「頭文字D」(作画監督・キャラデザイン)講談社・エイベックス1998～。「鉄腕アトム」(作画監督)手塚プロ2001～。「ブラック・ジャック」(演出)手塚プロ2005～。「ナイト・ヘッド」(作画監督・キャラデザイン)ギャオ2006～。

[学科長補佐／准教授] 渡邊 哲意

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科博士課程修了。博士(芸術学)(2004)。【学会等】日本デザイン学会会員。道具学会会員。日本教育カウンセラー協会会員。【受賞】大阪デザインコンペ優良賞(1995)。台湾観光局 旅の達人入選(2009)。

【論文】「地下鉄による緊急支援システムの提案」DESIGN NEWS 234(1996)。「画面における構成質素に基づく映像制作」宝塚造形芸術大学紀要 No.17(2004)。「空間の構成質素に基づく映像制作」同 No.18(2005)。「ハコモト道具考〜コンサート空間演出〜」道具学会(2009)。「北京におけるライブハウスの現状」道具学会(2010)。「中国・北京における音楽興行会場の現状」日本デザイン学会(2010)。「宝塚大学における教育モデル」武漢WEBビエンナーレ(2010)。【制作】グラフィックデザイン：ミュージズの森鎌倉コンサート(1996~1998)。江藤俊哉&横山幸雄デュオの世界(1997)。ウィーンフィルディナー&コンサート(1998)。CGデザイン：ウルトラマンゼアス2(円谷プロ)(1997)。大阪水上バスUSJ連絡船「ハリウッド」シンボルマーク(2001)。グラフィックデザイン：ベルリンフィルアンサンブルコンサート(2002)。ダンスパフォーマンス「失われたもののために」映像制作(2003)。京都・高台寺夜間特別拝観「四神相応」構成・演出(2004)。【SENCE SERIES プロモーションムービー】STYLISTICS Co. Ltd.(2004)。：作品ーグラフィックデザイン「Sound Scape in 高台寺」(2005)。プロデュース「Hello Mr.Asian Japan tour 2005」先行ライブ(2005)。空間デザイン「Rockon Ten」香港(2006)。「ハギモトハルヒコ夢コンサート08」ミュージズの森 デザインディレクター(2008)。「二条城 D-K LIVE」ディレクター(2010)。「北京パラリンピック特別番組」日本福祉放送 映像技術ディレクター・レポーター(2008)。

[専任講師] 芦谷 耕平

日本大学芸術学部映画学科卒業。同映画学科副手。宝塚造形芸術大学助教。株式会社UEIデザイナー【学会】日本映像学会【制作・活動】日本映像学会大会研究発表／第34回『“onthe Glistening Snowfield”』(2008)第37回『ユキとカンナの冒険“into the Kingdom of Mousehole”前後編』(2011)第38回『among the Golden mists』(2012)第39回『TVアニメーション「ジョジョの奇妙な冒険」における表現の革新性と その 一 考 察 』(2013) .MTV STUDENT VOICE AWARDS 2009イベント内及び放送用演出映像制作(2009) . ohYeah!にて、東日本震災チャリティーTシャツ販売開始(2011)。「新宿フィールドミュージアム」のロゴ及びロゴマークデザイン監修・制作(2011)。iPadアプリ『ZEPTOPAD PLANNER NOTE』雑誌掲載マンガ広告制作(2010)。ゲーム内グラフィックデザイン／モバイルゲーム『MM9』『天空のエリュシオン』(2010)『決戦！戦国VS三国志』(2011)『神魔覚醒！ドラゴンフロンティア』『BANG!』(キャラクターデザイン)(2012)。新宿クリエイターズフェスタ2012「希望展」賛助出展「希望撰」上映(2012)。BSジャパン『朝までシネマ』『土曜キネマ』オープニングアニメーション制作(2012)。TVアニメーション『ジョジョの奇妙な冒険』作画監督・原画(2012)。「超次元ゲームネプテューヌ」原画(2013)。「義風堂々!!」原画(2013)。「ジョジョの奇妙な冒険 スターダストクルセイダース」作画監督・原画(2014)他。

[専任講師] 市野 治美

武蔵野美術大学造形学部舞台演出デザイン科卒。同大造形学部大学院空間演出デザインコース修士課程修了 修士。マンガ家。漫画原作者。絵本作家。【制作】「NHKスペシャル人体」CGアニメーション用アニメーション演出・絵コンテ制作。小学館「NHKスペシャル・マンガ人体」用ネーム構成。オービックビジネスコンサルタント「English with OBE」教材一式制作。アサヒビール社内報表紙デジタルイラスト。富士見書房「グラマリエの魔法家族」シリーズ文庫表紙イラスト。角川書店ファンタジー・デラックス、マンガ連載。角川書店月刊あすか、マンガ連載。家の光社、マンガ連載。小学館別冊スピリッツ、マンガ原作連載。芳文社、マンガ原作連載。【著書】小学館「NHKスペシャル人体絵本、どうしておながすすくのかな？」全3巻。角川書店「エクストラRING」全6巻。角川書店「ナイトレジェンド」全2巻。「RING」全7巻。新紀元社「宝石の迷宮」。【他】マンガスクール中野 講師。

[専任講師] 高田 美苗

女子美術大学産業デザイン科デザイン専攻卒業。昭和55年12月株式会社サンリオ退職。フリーランスで、イラストレーター、デザイナーとして活動する一方、ギャラリーで作品を発表しアート活動をする。【学会等】IFAA(国際幻想芸術協会)、フェアリー協会【受賞】「カダケス国際ミニプリント展」(2007年)ファイナリストに入選。「第54回 板院展」(2004年)新人賞。「第56回 板院展」(2006年)院友努力賞。【出展】「カダケス国際ミニプリント展」(2007、2008、2009、2010年)共同出展。「レッセドラ国際小版画展」(2008年)共同出展。「板院展」(2004、2005、2006、2007、2008年)共同出展。「東京国際ミニプリントトリエンナーレ2005」共同出展。「Dall' ukiyo-e all'illustrazione contemporanea : la grande grafica giapponese」共同出展。【著書】「妖精のそだて方」「月の精」「ポリアンナ」「秘密の花園」「もののけ化石の物語」「幻獣絵図鑑」他

【専任講師】安田 隆浩

東京芸術大学芸術学部デザイン科卒業。イラストレーター

【制作】個展「空の記憶」「安田隆浩作品展」ピンポイントギャラリー。二人展「月と星と太陽と」ギャラリーef。【出版】絵本「さよならの贈物」オークラ出版 挿絵「走りつづけて、輝いて」旺文社「あんずの森のどろぼう」岩崎書店「森とキイの空のクロベエ」愛育社 等「川のほとりで」小峰書房「よもう うたおう！マザーグース」講談社 他。web絵本ストーリーゲート「つるの恩返し」「バスケット・シューズをはいた猫」他。

【助教】大成 拓

宝塚造形芸術大学大学院造形研究科修士課程修了 修士。

【著作】「屋外展示イベントにみる映像作品の可能性について」宝塚造形芸術大学紀要2006 No.20【制作】法隆寺『聖徳太子1380年御聖諱法要』映像（2001）。神奈川県民ホール『石空間展4』映像（2002）。NHK『ETVスペシャル 西村公朝-仏の声を伝えて』素材提供（2003）。SPANOVA『Hiroshima』映像（2004）。『宝塚の都市ブランドを創ろう～都市再生フォーラム～』映像（2005）。阪急宝塚ハウジングガーデン『灯と映像のインсталレーション～REALとFAKEのファンタジー～』映像。大阪府吹田市立博物館『思い出のとびら』映像。新潮社西村公朝著『仏の道に救いはあるか』装丁。京都芸術センター『和・座・観・展』映像（2006）。京都清水寺『現代彫刻の祈り展』映像（2007）。『廻る残影』映像（2008）。下田八幡神社例大祭ポスター（2009）。久保社労士法人セミナー名刺（2010）。いろり隠居メニューブック（2011）。Café do Sankoメニューブック（2012）。ベイスタージ下田Talk & Surfing Slideshow」広告（2013）他多数

【専任講師】吉岡 章夫

芝浦工業大学工学部卒業。デジタルハリウッド本科クリエイティブ卒業。【受賞】ACM SIGGRAPH SPACE'97「Origin」Honorable Mention Award受賞。文化庁メディア芸術祭にて「hana」優秀賞（1997）【制作・開発プロジェクト】株式会社JETMAN設立に参画。ゲーム開発手法を活かして様々な領域でのユーザーインターフェイス開発やコンテンツ企画に従事。株式会社ACCESSにて、スマートフォン向けOS開発に従事。パイオニアデザイン株式会社にてユーザーインターフェイスデザインに従事。ソニー株式会社クリエイティブセンターにてユーザーインターフェイスデザインの研究開発に従事。インタラクティブデザインやUI/UXデザインの領域において、商品コンセプトや製品開発に関わる。株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントにてPlayStationゲームソフトの開発に従事。主な作品はArc The Ladシリーズ。株式会社ビジュアルサイエンス研究所にて、立体視CGの制作に従事。株式会社デジタルフォレストweb解析ツール「Visionalist」におけるユーザーインターフェイスのコンサルティング。株式会社アクロディア「VIVID UI」における次世代ユーザーインターフェイスに関する提案業務、およびデモの制作。株式会社インクリメントP「PND向けナビゲーションアプリ」におけるユーザーインターフェイスの制作。Consumer Generated Media (CGM) の研究としてPodcastコンテンツの作成、およびインターネット上での配信。【著書】iPhone SDK3 ゲームプログラミング (ASCII)。iOSプログラミング Adobe Flashで作るiOSアプリ (ASCII)。【公刊物】ACM Interaction MagazineにPoint, push, pull: the FAU interfaceを寄稿。【総説】デジタルスケープ社運営「withD」にてPodcastおよびプロダクトデザインに関する著述。

【兼任講師】イエス 小池

攻玉社高等学校卒業。漫画家ジョージ秋山師事【受賞】集英社「ヤングジャンプ第16回青年漫画大賞」準入選「同第19回青年漫画大賞」佳作賞【著書】「サイコホスピター」（三一書房）「漫画家アシスタント物語」（マガジン・マガジン社）「劇画・蟹工船、霸王の船」（宝島社）

[兼任講師]池田 宏

日本大学芸術学部映画学科卒業。東映動画(株)脚本・監督～研究開発室長。任天堂(株)情報開発部長・(株)マリオ代表取締役社長・招布(株)代表取締役社長。東京工芸大学教授。宝塚造形芸術大学教授。【学会等】日本映像学会監事～理事。日本アニメーション学会理事。徳間記念アニメーション文化財団評議員。【受賞】日本映画テレビ技術協会奨励賞。【学術論文等】「ポケモン事件とその対応」「アニメーション学会・前史」「アニメーションの概念とその特性」「作品に於けるメッセージ」「もう一つの『どうぶつ宝島』」「東映動画研究～生産性とその向上」「大学に於けるアニメーション教育の胎動」他【著作】「講座アニメーション」編・共著 美術出版社。「空飛ぶゆうれい船」共著 朝日ソノラマ。「アニメーションの事典」編・共著 朝倉書店。他【監督作品】「もぐらのモトロ」「狼少年ケン」「ハッスルパンチ」「魔法使いサリー」「ひみつのアッコちゃん」「空飛ぶゆうれい船」「どうぶつ宝島」他【脚本】「狼少年ケン」「ハッスルパンチ」「魔法使いサリー」「ひみつのアッコちゃん」「空飛ぶゆうれい船」「どうぶつ宝島」他。

[兼任講師]石上 智美

筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻障害福祉支援学分野博士課程修了。博士(学術)。【著書】「障害理解～心のバリアフリーの理論と実践～」共著 誠信書房(2005)。「ヒューマンサービスに関わる人のための改訂教育心理学」共著 文化書房博文社(2009)。「現代社会のコミュニケーション論」共著 学芸図書(2009)。「ここだけは押さえておきたい学校臨床心理学」共著 文化書房博文社(2012)。【論文】「盲導犬使用が視覚障害者のQOLに与える影響～盲導犬使用時と白杖使用時の比較を通して～」アジア障害社会学研究, 第5号(2005)。「コミュニケーションスキルの授業がもたらす学生の意識の変化」リハビリテーション教育研究, 第14号(2009)。

[兼任講師]岩田 明子

宝塚大学大学院メディア・造形研究科造形デザイン専攻伝統芸術研究領域 博士課程後期修了。現在、学習院女子大学非常勤講師。博士(芸術学)。茶道裏千家助教。【著書】「現代語でさらりと読む茶の古典源流茶話」単著 淡交社(2012)。【論文】「竹心好女郎花蒔絵棗に込められた珠光の精神」桃夭50号桃夭会(2012)。【翻刻・現代語訳・解説】「藪内竹心著茶人石うす殿の記」竹風74号(2012)竹風会。「関竹泉著茶話真向翁(乾坤)」①～③ 竹風75号(2013)・76号(2013)・77号(2013)竹風会【学会等】茶の湯文化学会。藝能史研究会。美術史学会。国際伝統芸術研究会幹事・編集委員。日本感性工学会。日本感性教育学会。特定非営利活動法人健康心理教育実践センター理事。

[兼任講師]薄井 隆

中央大学理工学部物理学科卒業、個人事業主ティーズスタイルウェブデザイン、フリーランス(テクニカルディレクター/インタラクティブコンテンツデザイナー/2Dテクニカルアーティスト/ウェブディレクター/ウェブデザイナー)【制作】スマートフォン・タブレット向けゲーム、タッチデバイス向けユーザーインターフェースプロトタイプアプリケーション、ウェブ向けインタラクティブコンテンツ、RIA(リッチインターネットアプリケーション)、企業ウェブサイト、広告ウェブサイト【執筆】「iOSプログラミング～Adobe Flashで作るiOSアプリ」アスキーメディアワークス、パソコンスクール用テキスト(Illustrator, Photoshop, Flash, Dreamweaver, HTML, CSS, ウェブデザイン)【講師】デジタルハリウッド 本科デジタルコミュニケーションアーティスト専攻 担任講師(2011～2013)、デジタルハリウッド Actionsript3.0 マスター講座(2008～2010)、神奈川県立神奈川総合産業高等学校総合産業科(2005)、デジタルハリウッド総合プロコースWebデザイナー専攻(2004～2011)、他各ワークショップ等

[兼任講師]海老澤 敏

新国立劇場運営財団オペラ研究所所長。東京大学文学部卒業（専攻音楽美学・音楽史）東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 【学会等】新国立劇場副理事長。日本モーツァルト研究所所長。ザルツブルク国際モーツァルテウム財団中央モーツァルト研究所所員。同名譽財団員。ボローニャ王立音楽アカデミー名誉会員。【受賞】芸術選奨文部大臣賞。紫綬褒章。オーストリア共和国有功勳章学術芸術第一等十字賞。フランス政府芸術文化勳章オフィシエ受賞。文化功労者。【著書】「後宮からの誘かい オペラ対訳シリーズ（7）」翻訳 音楽之友社。「横顔のモーツァルト」音楽選書 音楽之友社。「作曲家の肖像」音楽之友社。「ルソー全集（第12巻）」共訳 白水社。「よい音楽家とは一読譜指導の理論と実践」共著 音楽之友社。「モーツァルト・18世紀そして現在—海老沢敏 対談・鼎談・座談集」共著 音楽之友社。「モーツァルト〈1〉CD世界の名曲」編集 中央公論社。「モーツァルト全集（1～15）」小学館。「モーツァルトちょっと耳寄りな話」日本放送出版協会。「超越の響き—モーツァルトの作品世界」小学館。「新編 音楽中辞典」共監修 音楽之友社。「瀧廉太郎—夭折の響き」岩波新書。「モーツァルト回廊」春秋社。「モーツァルトの新世紀」かわさき市民アカデミー出版。

[兼任講師]尾崎 史郎

放送大学教授。【学会等】著作権法学会。日本教育工学会。【著書】「逐条解説著作権等管理事業法」共著 有斐閣（2001）。「メディアと学校教育」共著 放送大学教育振興会（2013）。「情報社会の法と倫理」共著 放送大学教育振興会（2014）。【論文】「教育用コンテンツの権利帰属等について」（2007）。「研究者が知っておきたい著作権の基礎」（2008）。「Eラーニングと著作権」（2008）。「ICT活用教育に係る著作権契約について」（2008）。「大学等で教職員が作成する教育用コンテンツの著作者及び権利帰属について」共著（2008）。「教育用電子著作物の再利用改変合意システムの開発」共著（2009）。「学校教育で知っておきたい著作権法」（2011）。「学校教育と著作権」（2011）。「インターネットの活用等による障害者の著作物利用と著作権」（2011）

[兼任講師]小高 みちる

有限会社デジタルノイズ取締役。マンガ家。国立茨城大学教育学部卒業。文部科学省委託事業「アニメ・マンガ人材養成産官学連携事業」マンガ分科会委員。ComicStudio認定講師開発アドバイザー。大学および専門学校マンガコースアドバイザー・講師。日本メンタルヘルス協会認定心理カウンセラー。著書：「まんがの達人__パソコンでまんがを描く」（アシェット・コレクションズ・ジャパン刊）『ComicStudioの教科書』『知っておきたい デジタルコミック概論』『デジタルアシスタント概論』（日本マンガ教育文化普及協会刊）『IllustStudio perfect master』（BNN新社刊）『デジタルコミック ブラシ&トーン素材 きらめき』『デジタルコミック ブラシ&トーン素材 ふんわり』『漫画&同人誌 即席トーン素材集』『3D・背景・トーン収録 即席マンガ素材集』（ソーテック社刊）など多数

[兼任講師]勝又 俊雄

女子美術大学芸術学部及び大学院教授。アテネ大学美術史・考古学科留学。アテネ大学哲学博士学位取得。【学会等】美術史学会。西洋古典学会。日本ギリシア協会理事。【著書】古代都市メッセネ—国際共同調査シンポジウム報告書「墓廟上の彫刻遺物の解釈と年代」共著 熊本大学工学部。「ギリシア都市の歩き方」角川選書。【論文】大倉精神文化研究所の建築の研究。創造と形式—大倉山記念館の建築様式。大倉山精神文化研究所の建築の研究 補遺。メッセネ劇場の新発見の石造軌道の解釈について。シュリーマンと19世紀ギリシア新古典主義 日本ギリシア協会会報 その他多数。

[兼任講師]加藤 みち子

学習院大学大学院人文科学研究科博士課程 修了 博士(哲学)【学会等】中村元東方研究所専任研究員、中央大学政策文化研究所客員研究員、日本印度学仏教会会員、日本思想史学会会員【著書】「勇猛精進の聖－鈴木正三の仏教思想－」勉誠出版(2010年)。「中世絵画のマトリックス」共著 青簡舎(2010年)。「日本の「かみ」は出会って発展する－神道ではない日本の「かみ」史・古代中世編」北樹出版(2011年)。「絵から読み解く日本仏教－日本仏教概論」山喜房佛書林(2012年)「中世絵画のマトリックスⅡ」共著 青簡舎(2014年)

[兼任講師]四宮 義幸

版画工房「マグノリア・プレス」代表、刷り師(作家とのリトグラフ、木版画、銅版画等の制作)(1996年～)。**【出版】**北見隆氏銅版画 共同出版(2001年～2009年)、望月通陽氏銅版画作品集 共同出版(2001年)／版画工房「エディション・ワークス」木版画、リトグラフィスタッフ。(1987年～)／**【制作に関わった主な作家】**赤塚祐司、天野喜孝、金田実生、佐原和人、ジュディ・オング、滝下和之、辰野登恵子、ダニエル・ケリー、津上みゆき、ドナルド・バチュラー、原健、彦坂尚嘉、堀浩哉、村上隆、森村泰昌、山口藍、吉田亜世美、吉田穂高、李禹煥、若林奮、他

[兼任講師]佐野 哲郎

横浜放送映画専門学校(現：日本映画学校)卒業【受賞】劇映画「Focus」日本映画技術特別賞(1996)【制作】(カメラマン)テレビドラマ「学校の怪談 春の物の怪スペシャル」(フジテレビ)、ドキュメンタリー「日本のお父さん」(テレビ東京)、劇場公開作品「Focus」・「容疑者 室井真次」・「海猿-2 LIMIT of LOVE」・「蟲師」。

[兼任講師]柴田 こずえ

武蔵大学人文学部卒業、編集者(フリーランス)、西武コミュニティカレッジ絵本創作ワークショップ講師、絵本コンペティション(韓国)の審査員(2009)。**【著書】**「別冊太陽 海外の絵本作家たち」平凡社刊、「別冊太陽 絵本の作家たちⅢ」(共著)平凡社刊、「別冊太陽 絵本の作家たちⅣ」(共著)平凡社刊。「絵本作家になるには」(共著)ぺりかん社刊。**【編集】**『マーシャと白い鳥』偕成社刊、『画集 赤羽末吉の絵本』講談社刊。「世界でいちばん愛される絵本たち」白泉社など。

[兼任講師]清水 弥生

中央大学大学院法学研究科民事法専攻 博士後期課程単位取得退学 【学会】日本労働法学会、ジェンダー法学会 【著書】「労働法解体新書」共著 法律文化社 (2011年)。「労働者人格権の研究」共著 信山社 (2011年)。「性的マイノリティ判例解説」共著 信山社。「世界の社会福祉年鑑2007年版」共著 旬報社 (2007)。「世界の社会福祉年鑑2006年版」共著 旬報社 (2006)。「論文等」「ワーク・ライフ・バランスと新卒非正社員」(「労働者人格権の研究(下巻)」) 信山社 (2011年)。「労働者と家族介護の課題——ネスレジャパンホールディング(配転本訴)事件を契機として」労働法律旬報 (2005年)。「生活保護世帯における自立助長と学資保険を含む貯蓄等の法的性格—中嶋訴訟最高裁判決を契機として」賃金と社会保障 (2004年)。「性同一性障害者による別性容姿での就労申出と企業秩序—S社(性同一性障害者解雇)事件」労働判例 (2003年)。「育児休業制度の国際比較——スペインにおける育児休業制度」労働法律旬報 (2003年)。「紹介——スペインにおける仕事と家庭の調和」比較法雑誌 (2002年)。「連載 判例詳解」先見労務管理(平成20年10月号より現54本)など

[兼任講師]城芽 ハヤト

武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。イラストレーター。平和の絵はがき「PEACE CARD」主幹。【学会等】東京イラストレーターズ・ソサエティ(TIS)【受賞】講談社 出版文化賞さしえ賞(2011)。英国版「new fashion illustration」(2005)「BIG BOOK OF FASHION ILLUSTRATION」(2007)掲載。オーストリア版「200 BEST ILLUSTRATORS WORLD WIDE」(2005、2007、2009)掲載。台北版「XFANS」(2007)掲載【著書】絵本「うめのみとり」「かたゆき」「あかい み みつけた」共著 福音館書店。「つくもがみ」共著 岩崎書店【制作等】挿画「小説現代」「週刊現代」講談社。「小説新潮」新潮社。「オール読物」「別冊文藝春秋」文藝春秋。「週刊ポスト」小学館。「小説宝石」光文社。「読楽」徳間書店 等。児童書装画「ふたりきりの戦争」「ゾウと旅した戦争の冬」徳間書店。「漱石と倫敦ミイラ殺人事件」光文社。パッケージ「ガトーセックバリエ」(2006~2009) ヨックモック。Neiman Marcus。ポスター「Asian Fantasy Orchestra ASEAN Tour 2003」国際交流基金【個展】「イシアタマ・ダメオトコ」(1987) ART WAD'S (渋谷)。「trump」(1988) 西武ハビタギャラリー(池袋)。「Apre-先天性」(1995年) グリーディング・スクエア(原宿)。「J'ai du bon tobac」(2001)。「風が吹く」(2003)。「若葉のころ」(2005)。「エデンの11日間」(2008)。「TWO SHOTS」(2010)。「THIS HOT HEAVEN」(2012) ギャラーハウスMAYA

[兼任講師]竹内 敦

日本体育大学大学院体育科学研究科前期博士課程修了 体育科学修士。【学会】日本運動・スポーツ科学学会会員。日本コーチング学会会員。【学術論文等】「高校生バスケットボール選手に下肢血流制限バンドを用いたトレーニングが成長期の脚筋力に及ぼす影響について」。「体育実技系教育における学生への情報メディアの活用」。「女子大学生における体格別にみた体力に関する一考察」。「大学生における日常生活の身体活動量について」。「Case study of amino acid intake in woman's college students」。「大学生における生活習慣と体力テストにみられる傾向に関する一考察」。

[兼任講師]武澤 啓之

東海大学文学部中退。ウォーブル取締役。音楽事業におけるコンサルティングとプロデュース全般。【学会】日本音楽療法学会。【プロデュース】スマートフォン音楽動画サイト「stageAce」(NHKグローバルメディアサービス)。「健康DEショー」(千葉テレビ)【DVDプロデュース】「モーツァルト体操」。「グラマラスウィッチ」。「ダンスフィールド」他。【CDプロデュース】「CACA/PANTA」。「カブキロックス」。「ベットミュージック」。「アコーディオンパリ」。「チンドンジャズの誕生」。「ノイズメディテーション」。「超高速モーツァルト」。「快脳ブレインオーケストラ」他。【本添付CDプロデュース】「木琴で巡るミラクルパワースポット」。「きくきく音アプリ」。「バースデイミュージック」。「自分で治すうつ」他

[兼任講師] 只野 信也

横浜放送映画専門学校卒業。【作品】(編集作品)「スケバン刑事」TVシリーズ 映画Ⅰ・Ⅱ。「北京原人」。「千年の恋」。「ピンチランナー」。「デビルマン」。「あぶない刑事」。「バルトの学園」。「相棒」TVシリーズ 映画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ。「探偵はBARにいるⅠ・Ⅱ」。【受賞】JPP Award編集賞。日本アカデミー賞 優秀編集賞。(2002)(2012)。映画テレビ技術協会・映像技術賞(2012)。日本映画・テレビ編集協会賞(2012)【学会等】日本映画・テレビ編集協会 理事。

[兼任講師] たちばな いさぎ

横浜簿記専門学校卒業。漫画誌「ねこぶに」「別冊ねこぶに」「おとなのねこばんち」で連載中。漫画家【著書】「ハムハムえぶりばでい」あおば出版(2005)。「ナチュラル」共著中経出版(2005)。「ひなたの風景」「マンガでわかる公認会計士」イーストプレス(2011)。「うたで走り抜く」共著 少年画報社

[兼任講師] たぶき 正博

武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科卒業。イラストレーター。【著書】「Photoshopイラストレーションスーパーテクニック」共著 ソーテック社(2003)【受賞】「紀文美味しいイラスト」奨励賞(1980)。カレンダー展印刷時報社賞(1984)。「Birds in Art」入選 Leigh Yawkey Woodson Art Museum(USA 2009)【所属】日本ワイルドライフアート協会 監事。illustrator E-SPACE会員。(財)日本野鳥の会々員。

【制作】科学雑誌「COSMO」表紙イラスト。筑波科学博「東京ガス館」展示画。「スーパーニッカ発売20周年」キャンペーンイラスト。「夕張ロボット博物館」展示画。「名古屋デザイン博トヨタ館」通路壁画の原画、東急建設他「シルクロードジェネシス計画」完成予想イメージイラスト。「ワイルドブルーヨコハマ」館内マップ。文一出版「日本の探鳥地」6冊セット表紙画。パッケージイラスト：サントリー/キリンビバレッジ/サッポロ/デルモンテ/ハーゲンダッツジャパン/宝酒造/イトーヨーカ堂/イオン/オハヨー乳業/ロッテ/森永乳業/明治乳業/共同乳業/日本生活協同組合/小岩井乳業/不二家/ヤマザキビスコ/リプトン/マスターフーズ等多数

【発表】個展：2003年銀座。2008年大分市。グループ展：2006年銀座。2013年新宿。団体展：ワイルドライフアート展1995～2013年。e-space展など

[兼任講師] 多和田 吏

玉川大学芸術学部中退。NanoMusic Production 代表。【制作】【ゲーム音楽】「ポケモン バトルレボリューション」。「ポケモンコロシウム」。「ドラゴンクエストVI『幻の大地』」。「ドラゴンクエストIII『そして伝説へ…』」。「銀魂のすごろく」【映画音楽】「破線のマリス」【音楽CD】「ドラゴンクエストモンスターズ」「ライアット・スターズ」(オリジナルサウンドトラック)【著書】「イーハトヴォ物語」。「ドラゴンクエストVIピアノ編曲楽譜」ドレミ楽譜出版。「ドラゴンクエストVIIピアノ編曲楽譜」ドレミ楽譜出版。「ヒーリング・ポップス・コレクション」オムニバス

[兼任講師] David F Martin

カリフォルニア州立大学ノースリッジ校卒業。East-West Cultural Institute 英語教師。American School of Languages 英語教師。株式会社メイタン・トラディション営業部資金グループマネージャー。都立白鷗高等学校。都立白鷗高等学校附属中学校英語指導。TEFL インターナショナル TESOL 指導者。株式会社ホープス教育コンサルタント。文教大学福島一人教授のネイティブチェック。【著書】「サラ川（せん）グリッシュ」。英語版「サラ川（せん）」（サラリーマン川柳）講談社（2008）。「Calendar English 英語カレンダーでめぐる文化と歴史」南雲堂(2008)。「英語で味わう・日本の文学」東京堂出版(2010)。「江古田文学 78」日本大学藝術学部江古田文学会(2011)。

[兼任講師] 鳥井 邦男

東海大学文学部英文学科卒業。助監督を経て映画監督【制作】Vシネマ作品「ながれもの」。映画「メールで届いた物語/やさしくなれたら…」。映画「まだまだあぶない刑事」。TVドラマ「らんぼう2」等

[兼任講師] 中川 明博

学習院大学大学院博士後期課程満期退学。【学会】日本哲学会。日本倫理学会。日本現象学会。日本カント協会。【著書】「ブーメラン」共著朝日出版社(2013年)。「クロイツング・ノイ」共著朝日出版社(2011年)。『三宅剛一著・論理学講義（新潟高校講義）/科学概論』編 学習院大学研究叢書39(2008年)。『三宅剛一著・ドイツ観念論に於ける人間存在の把握』共編 学習院大学研究叢書36(2006年)。『哲学の玉手箱』共著 北樹出版(1999年)。【論文】「フッサールの〈ア・プリオリ〉への問い」文化女子大学紀要人文科学研究第4集(1996年)。【翻訳】H.シュネーデルバッハ『認識論一知の諸形式への案内一』共訳 見洋書房(2006年)。H.R.ゼップ『文化の現象学』「理想」第669号(2002年)。E.マルテンス+H.シュネーデルバッハ『哲学の基礎コース』共訳 見洋書房(2001年)。

[兼任講師] 中路 真紀

デジタルハリウッド大学大学院デジタルコンテンツ研究科修士課程 修了。東京工芸大学講師。株式会社ジェットマン取締役【著書】「ゲームクリエイターの働き方」共著 月刊CGワールド別冊（2008年）。「ポートフォリオの教科書」執筆協力 ワークスコーポレーション（2008年）。「クリエイティブ業界のキャリア支援の問題点とtwitterを活用した授業の実施報告」JCDAジャーナル40号（2011）【学会等】日本キャリア開発協会会員【受賞歴】SONY DIGITAL ENTERTAINMENT PROGLAM審査員特別賞（1996）。NICOGRAPH CG-ARTS 賞（1996）

[兼任講師] ナシモト タオ

東京映像芸術学院退学。映画監督。日本アニメマンガ専門学校講師（04～06）。新潟デザイン専門学校（06）講師を経て。国際映像メディア専門学校講師（07～）【学会等】日本映画監督協会【制作】「SO FAR AWAY」。「おんぶ刑事」。「全ての始まりに」。「約束の丘」。「鈍は砂に」。「泡の城」。「12 go stray」。「so far cool」他

[兼任講師] 萩原 京子

日本大学芸術学部映画学科卒業。漫画家・ゲームシナリオライター。【著作】漫画：掲載誌「ウーマン劇場」（竹書房）。シナリオ：ソーシャルゲーム「源平LOVERS」（2010）。「三国志LOVERS」（2011）。「ラブクライシス」（2011）。「天下統一恋の乱」（2012）。「宇宙恋記メビウスGREE版」（2012）。「雅恋～彩りのことのは」（2013）。「キケンな恋の最前線—特別警護課—」（2013）。PCゲーム：「オメルタ～沈黙の掟」（2011）。ドラマCD：「三国志LOVERS 想宝説話・碧水説話 ミニドラマ」（2011）。小説：電子書籍「恋するカラダ～ピンカンなあたしのあんなトコ～」（2012）

[兼任講師] 鍋島 淳裕

中央大学文学部卒業。映画「きいろいゾウ」「100回泣くこと」「キッズリターン再会の時」「I am ICHIHASHI」「EDEN」「戦争と一人の女」「軽蔑」「雷桜」「アジアの純真」「死刑台のエレベーター」「ひぐらしのなく頃に解」「トミカヒーロー レスキューフォース」「泪壺」「スピードマスター」「ユメ十夜」「天まであがれ!!」「ひいろ」「ユメノ」「トウキョウノワール」「イズ・エー」「イエロードラゴン」「PAIN」など。TV「裸の大將」など。CM 味の素、パナホームなど【受賞】「アントキノイノチ」モントリオール国際映画イノベーションアワード受賞、「ヘヴンズストーリー」ベルリン国際映画祭国際批評家連盟賞、最優秀アジア賞

[兼任講師] 橋本 三郎

長崎県立長崎西高等学校卒業。アニメーションディレクター【著書】「アニメーションの作り方」グラフィック社（2012年）【作品】背景・美術設定「アタックNo.1」「元祖天才バカボン」「新オバケのQ太郎」「エースをねらえ」「ルパン三世（第2シリーズ）」アニメーター「ルパン三世 カリオストロの城」「じゃりん子チエ 劇場版」。アニメーションディレクター「忍者マン一平」「忍たま乱太郎」「よばれてとびでて！アクビちゃん」「ポケモン放送局」「御伽草子」「ななみちゃん」。「ULYSS 31」「INSPECTOR GADGET」（DiC）。「GUMMI BEAR」「CHIP AND DALE」「GOOFTROOP」「THE LITTLE MERMAID」「ALLADIN」「GARGOYLES」（WALT DISNEY）。「AN AMERICAN TALE 4」「ALVIN AND CHIPMUNKS」（UNIVERSAL ANIMATION STUDIOS）。MV「都合の良い身体（椎名林檎）」「I♡xxx（大塚愛）」「心color（福山雅治）」「だだだ（グループ魂）」「ミセナイナミダハ、きっといつか（GReeeeN）」「未来ミュージアム（Perfume）」「LAND（ゆず）」「BAD（マイケル・ジャクソン）」CM「サントリーBOSSシルキーブラック」「Teao（アサヒ飲料）」「しろ（高橋酒造）」「an」「QuicPay（JCB）」「三ツ矢サイダー（アサヒ飲料）」

[兼任講師]春田 克典

HALエンタテインメント代表、日本映画テレビプロデューサー協会会員、中国遼寧省魯迅美術学院客員教授、中国江蘇省蘇州大学特別講師、中国湖北省武漢信息伝播職業技術学院客員教授、中国蘇州工業園区軟件服务アウトソーシング学院経営顧問、映画プロデューサー、アニメーションプロデューサーとして、中国とも20年近く交流。音楽、ゲーム、マーケティングなども手がける。過去の海外ジョイント作品は、ドキュメンタリー映画「プライドワン」「トップドック」（日米伊合作）、アニメーション「オーバンスターレーサー」（日仏合作）があり、また、「ふしぎ星のふたご姫」を中国中央テレビで放送。

[兼任講師]平野 靖士

横浜放送映画専門学校（現・日本映画大学）卒業。シナリオライター 【学会等】日本放送作家協会、日本脚本家連盟。

【著者】「太陽の勇者ファイバード」大陸書房、「小説 バツ&テリー」講談社、「ICE かくて愛は凍りついた」富士見書房。【映画】「SO WHAT」「バツ&テリー」「吸血鬼ハンターD」等 【テレビ】「ウルトラマン80」「ドラゴンボール」「シティーハンター」「ルパン三世 PartⅢ」「勇者エクスカイザー」「太陽の勇者ファイバード」「伝説の勇者ダ・ガーン」等

[兼任講師]平山 敬二

東京工芸大学芸術学部教授、東京芸術大学大学院美術研究科博士課程。【学会等】美学会、国際美学会、民族芸術学会、日本18世紀学会、日本シェリング協会、東京芸術大学美学・芸術論研究会【著書】「自然美学」監訳法政大学出版社(2013)。「日本の芸術論」共著ミネルヴァ書房(2000)。「ヨーゼフ・ボイス」共著慶応大学アートセンター(1999)。「沖縄から芸術を考える」共著榕樹書林(1998)。「美術教育の方法」共著玉川大学出版部(1985)。「子供を生かす美的教育」共訳玉川大学出版部(1985)。【論文】「フリードリヒ・シラーの美学思想における自然再生の論理」東京工芸大学芸術学部紀要『芸術世界』第18号(2012)。「ドイツにおけるメディア芸術教育—ワイマールバウハウス大学の場合」東京工芸大学メディアコンテンツ研究センター活動年報第6号(2011)。「芸術による社会変革の思想と開かれた公共性」平成14-16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)1〕研究成果報告書『芸術における公共性』課題番号:14201006(2005)。「シラーの『美的国家』における自由」『シェリング年報』第12号(2004)。「自然美におけるユートピア的なもの」文部省科学研究費補助金・総合研究(A)研究成果報告書『都市環境と芸術-環境美学の可能性』課題番号06301007(1996)。「シラーの崇高論-カント美学の受容における異見的一局面」『美学』第153号(1988)。「シラーの美学思想」聖徳学園短期大学研究紀要 第18号(1985)他

[兼任講師]本田 孜

録音技師、サウンドデザイナー、セントラル録音を経て東京サウンド企画を主宰、技術者の育成に努める。【受賞】文化庁映画功労部門映画賞受賞、日本アカデミー優秀録音賞「あなたへ」(2013)。「ホタル」(2002)。「オーロラの下で」(1991)。「イタズ(熊)」(1988)、毎日映画コンクール録音賞「死んでもいい」(1992)、第一回映像技術賞「ホタル」(2001)【作品歴】「渡されたバトン」(2013)。「ペコロスの母に会いに行く」(2013)。「これでいいのだ」(2010)。「命の山河」(2009)。「春色のスープ」(2008)。「容疑者・室井慎次」(2003)。「MAKOTO」(2004)。「アイ・ラブ・ユウ」(1999)。「ときめきメモリアル」(1997)。「ナランの白い馬」(1992)。「うみ・そら・さんご」(1991)。「戦争と青春」(1991)。「CF・ガール」(1989)。「刑事物語」(1982)。「海潮音」(1980)。「ガラスの兎」(1979)等。

[兼任講師]真島 ヒロシ

フリー演出家 (TVCM・ミュージックビデオ) 【監督作品・CM】三菱電機・ヤマハ・PARCO・ダンロップ・ニューバランス・スケッチャーズ・アルペン・サッポロビール・NTTコミュニケーションズ・DENSO・三菱地所・総務省・ヴァージンアトランティック航空・ニューギン・ヤナセ 他多数 【監督作品・ミュージックビデオ】モーニング娘。「One-Two-Three」「ワクテカTake a chance」・Berryz工房「アジアンセレブレーション」スマイレージ「旅立ちの春が来た」・ももいろクローバーZ「コノウタ」・アイドリング!!!「Baby Blue」「Don't think,Feel!!!」「MARORE!!!」「One-Up!!!」「さくらサンキュー」「シャウト!!!」・はなわ「雪国もやしの歌」・Noa「愛した君がいた feat.LGY,LGM」・LGYankees「世界でたった一人の大切な人へ」・桜庭裕一郎「ひとりぼっちのハブラシ」「お前やないとあかんねん」・角田信朗「よっしゃあ漢唄」「戦ノ道」「武士ノ花」・Sadie「ドレス」「RED LINE」「雪月花」他・UNIST「無限フライト」「13月ノソラノシタ」「One Day」「カンフーパンチ」他多数

[兼任講師]松平 聡

大阪工業高等専門学校建築学科卒業。アニメーション美術 【制作】「ノートルダムの鐘II」ウォルトディズニージャパン (2002)「わがままフェアリーミルモでポン」テレビ東京 (2004)「すももももも」テレビ東京 (2006)「吉永さん家のガーゴイル」東京MXテレビ (2007)「練馬大根ブラザーズ」テレビ東京 (2007)「アラド戦記」テレビ東京 (2009)「それいけ!アンパンマン」日本テレビ (~現在) 他

[兼任講師]松吉 太郎

浜野商品研究所、田中一光デザイン室を経て、松吉太郎デザイン事務所を設立。【所属団体】日本グラフィックデザイナー協会、日本タイポグラフィ協会【主な仕事】ブックデザインから、ポスター、カレンダー、マーク、ロゴ、サイン計画などグラフィックデザインを中心に幅広く手がける。特に演劇関係のグラフィックは数多く手がける。◆劇団民藝：『火山灰地』(2005)、『山猫理髪店』(2005)、『白バラの祈り』(2007)、『夏・南方のローマンス』(2013)、『アンネの日記』(2013) など2004年以降の主なポスター・プログラムデザイン。◆豊橋文化振興財団：「情報誌プラットニュース」(2013~) AD。『父よ!』ポスター (2013)。◆富山オーバード・ホール：「情報誌ミテミテ」AD (2004~2010)、『カルメン』ポスター (2005)。◆劇団四季：『夢から醒めた夢』ポスター (2000)、『キャッツ』(2001)、『オペラ座の怪人』(2002) プログラムデザインなど。それ以外にも美術関係の仕事では東郷青児美術館、アニヴェルセル、パナソニック汐留ミュージアム、思文閣、十和田市現代美術館など。また、無印良品、SHARP、SHIPS、Daiwa House、モリサワ、TOTO出版、紀伊國屋書店、三省堂書店、ポプラ社、日之出出版、集英社、六耀社、白水社、BL出版、日本印刷技術協会、DNPメディアクリエイティブ、シャルマン、日本臨床眼科学会なども手がける。

[兼任講師]御影 雅良

文京学院大学非常勤講師。映画プロデューサー。翻訳家【著書】「ホット・ショット：ノーマン・シーフ写真集 編集クイック・フォックス社(1977)。「再び奇跡のランニング」共訳 CBSソニー出版(1981)。「ハリウッド・ビジネス」ダイヤモンド社(1992)。「未来創造企業の絶対優位戦略」共著 ダイヤモンド・ハーバードビジネス編集部(1995)。「カリフォルニア州に生まれた新産業エンターテインメント・テクノロジー産業」J-GLOBAL(1998)。「米国ネット企業注目100社の事例研究」シードプランニング(2000)。「競争力を生み出すプロデューサーとは？」共著 赤門マネージメント・レビュー Booknest 【受賞】SFXミュージアム6枚セットレーザーディスク 第一回AVA企画賞通産大臣賞(1984)【制作】「夢の涯てまでも」劇場公開映画(Until the End of the World,1991)「K2」劇場公開映画(1991)。「Dream Island」短編映画(1991)。「ミステリー・ゲースバンプス」米国TVシリーズ(1995) 全国フィルム・コミッション連絡協議会発起人理事(2000)。「アイシュタインLOVE」企画コーディネーター 実行委員会/ヘブライ大学/読売新聞社主催 仙台・大阪・新潟巡回展覧会(2006-07)

[兼任講師]宮川 雅彦

玉川大学文学部芸術学科演劇専攻卒業。俳優、劇作家、演出家、セラピスト。【学会等】全米ヒプノセラピー協会認定セラピスト、全米NLP（神経言語プログラミング）協会認定プラクティショナー【出演作品】「藪原検校」、「イーハトーボの劇列車」、「雨」、「雪やこんこん」、「11ぴきのねこ」、「王女イヴォナ」、「歩く」（ポーランド公演）、「星の王子さま」他

[兼任講師]村松 哲文

早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学（芸術学美術史）、駒沢大学仏教学部准教授（東洋美術史）【学会】美術史学会、日本中国学会、他【著書】「すぐわかる東洋の美術」東京美術、「かわいい、キレイ、かっこいい、たのしい仏像のみかた」日本文芸社、「仏教美術辞典」東京書籍 共著、「東大寺・美術史研究のあゆみ」共著 里文出版【論文】「中国仏教彫刻の展開」（2008）、「深大寺銅造釈迦如来倚像について」（2009）、「中国における涅槃像の変容」（2011）、「『歴代名画記』にみられる涅槃図の描かれた寺院」（2013）、「スリランカ古代中世の僧院建築」翻訳（2008）他

[兼任講師]宮下 善成

九州産業大学芸術学部デザイン科卒業。㈱トランジスタ・スタジオ代表取締役【トランジスタ・スタジオ受賞】社内制作オリジナル作品「EXPRESS」（HIDETAKE TAKAYAMA）／SIGGRAPH 2013 入賞／SIGGRAPH asia 2013 入賞／北九州デジタルクリエイターズコンテスト 大賞／CGアニメコンテスト 佳作／VFX-JAPANアワード 2013 ノミネート／札幌国際映画祭 JAPAN OFF THEATER 入選／Film Skillet ノミネート／UK Film Festival ノミネート【トランジスタ・スタジオ制作作品】村上隆監督MV「めめめ音頭」／amazarashi「アノミー」（モデリング、アニメーション、コンポジット、エフェクト担当）／amazarashi「古いSF映画」（モデリング、アニメーション、コンポジット、エフェクト担当）／映画「ONE PIECE ワンピース3D 麦わらチェイス」／NHK「坂の上の雲」他

[兼任講師]保田 悠介

神奈川工科大学大学院情報工学専攻 修士課程修了【著書】「iPhone SDK3 プログラミング大全」アスキーメディアワークス【制作】iPhone App「86 WORLD REPORT」. iPhone APP「ボイスパズルアプリ〜アクエリオンEVOL〜」. iPhone iPad App「NIKITA」. iPhone App「空と宇宙展」. iPhone App「SUPERNATURAL:THE ANIMATION “EMF Ghost Shot”」. iPhone App「鉄道むすめ 三陸鉄道」. iPhone App「相棒」. iPhone App「BISTROCK TIMER」. iPhone App「パラノーマル・アクティビティ」. iPhone App 世界初3Dモデル搭載電子書籍「someone」

[兼任講師]山田 耕大

東京大学経済学部卒業。日活株式会社、メリエス、アルゴプロジェクトのプロデューサーを経て、現在脚本家。日本シナリオ作家協会常務理事。大阪芸術大学芸術学部映像学科客員教授。【作品】〈プロデュース作品〉「家族ゲーム」(1983)「木村家の人々」(1988)「リボルバー」(1988)「ザ・中学教師」(1992)他。〈シナリオ作品〉「コキユ 貝殻」(1998)「クロスファイアー」(2000)「しあわせ家族計画」(2000)「ピカレスク〜人間失格」(2002)「ごめん」(2002)「マリと子犬の物語」(2007)「あの空をおぼえてる」(2008)「アンダンテ 〜稲の旋律〜」(2010)「死にゆく妻との旅路」(2011)「ひまわり 〜沖縄は忘れない あの日の空を〜」(2013)「おしん」(2013)他

[兼任講師]吉澤 早苗

東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻修了(美術博士)
【論文】「ドゥッチョ・ディ・ブオニンセーニャの《マエスタ》研究——物語サイクルにおける空間表現をめぐって——」(東京藝術大学美術博士学位論文)(2009年)。【著書】「《ルチェッライのマドンナ》に関する一考察——ドゥッチョの空間表現の形成をめぐって——」『ルクス・アルティウム 越宏一先生退任記念論文集』中央公論美術出版(2010年)。『30人の画家で知る西洋絵画の楽しみ方——鑑賞ハンドブック——』共著 学校法人日本放送協会学園(2012年)。
【翻訳】ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第1巻 共訳 中央公論美術出版(2014年)。

[兼任講師]吉田 光彦

多摩美術大学美術学部油絵学科卒業。イラストレーター【学会】ピンホール写真芸術学会【受賞】美術文化協会展入選、日本版画協会展奨励賞、「八百年の命」(2005年制作)がロンドン・大英博物館所蔵作品となる(2012)。【著書】「ペダルに足が届く日」けいせい出版「エンドレスパズル」河出書房「夢化色」青林堂。和本シリーズ「犬張子」「桜のころ」「母娘」虹書房「ばく食い」祥伝社「こく綴り二重星」道出版「啄木かるた」奥野カルタ 他

[兼任講師]李 宏偉

京都精華大学芸術学部漫画学科卒業。宝塚造形芸術大学大学院メディア・造形研究科博士課程満期退学。博士(芸術学)を取得。【学会】日本マンガ学会、日本三国志学会、日本感性工学会。

[兼任講師] 林 暉

神戸大学大学院人文学研究科修士過程 修了. [中国]西泠印社 日本駐在代表. [中国]西泠印社 出版社海外主席學術顧問. [中国]魯迅研究学会理事. **【受賞】** [中国]社会科学優秀成果賞 (論文). [中国]蘭亭杯書展など入賞 (書道). [日本]国際理解神戸市長賞 (論文). [日本]全日本国際留学生音楽コンクール入賞 (歌). [日本]「日本再発見」俳句入賞 (三年連続). **【著書】**『魯迅自然科学思想的政治功利性』(論文) 浙江文芸出版社『魯迅研究論文集』.『美学範囲無所不包嗎? - 評「科学美」「理性美」』(論文) 浙江社会科学院『浙江学刊』.『略論魯迅關於精神文明思想的歷史地位』(論文) 中国社会科学出版社『魯迅研究』.

[兼任講師] 和田 俊彦

早稲田大学第一商学部卒業. 多摩大学大学院経営情報研究科修士課程修了 **【学会等】** 国際ビジネス学会. 日本経営教育研究学会. 日本ダイレクトマーケティング学会. 日独協会評議員. **【著書】**「ヒトがいきる経営」共著 学文社 (2008). 「通販エキスパート検定」共著 朝日新聞社 (2010). 他 **【論文】**「実効性あるコンプライアンス経営に関する一考察」(宝塚大学紀要) 他.

看護学部

[副学長/学部長/教授] 柴田 恭亮 (前掲)

看護学科

[学科長/教授] 中馬 成子

大阪府立大学大学院看護学研究科 (博士前期課程) 修了. **【学会】** 日本慢性看護学会. 日本看護科学学会. 日本看護診断学会. 日本糖尿病教育・看護学会. 日本看護学教育学会. 日本看護研究学会 **【論文】** 2型糖尿病患者のインスリン療法に対する心理的行動的反応の変遷 (共著, 日本看護研究学会雑誌, 34巻5号, 59 - 69, 2011). 標準化死亡比の高い地域における2型糖尿病患者の療養行動の実態 - 療養行動の継続の看護支援に向けて - (単著, 大阪府立大学看護学部紀要, 18巻1号, 97-106, 2012). **【学会発表】** 中馬成子、土居洋子: 2型糖尿病患者のインスリン療法に対する思いの変遷, 第1回日本慢性看護学会学術集会 (神戸) 2007.8. Nariko CHUMAN: Discontinued Consulting Behavior of Patients with Type-2-Diabetes Mellitus in an area having Less-Number of Health Service Facilities, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Kobe, Japan) Nov. 2009. **【講演等】** 「看護診断の学びのための中範囲理論」, 市立川西病院 看護部研修会, (2011.11.26, 12.10, 12.24) **【社会・地域活動】** 第20回日本看護学教育学会査読委員 (2010). 第4回日本糖尿病教育・看護学会査読委員 (2011). 日本慢性看護学会評議員 (2006 - 2012).

【教授】雨宮 浩

千葉大学大学院医学研究科博士課程修了，医療法人翠悠会理事，奈良佐保短期大学特任教授（平成17年3月まで），特定非常活動法人HAB研究機構理事，第28回日本移植学会会長（平成4年），日本臓器移植保存生物医学学会理事長（平成19年11月まで），第2回日本臓器保存生物医学学会会長（平成7年），アジア移植学会理事（平成10年まで），2001国際移植臓器会議会長（平成13年）。【学会】日本移植学会，日本臓器保存生物医学学会，日本外科学会，国際移植学会。【著書】看護のための最新医学講座 第35巻 医療と社会（共著，中山書店，2002）。栄養士・介護福祉士のための解剖生理学（メディカルレビュー社，2005）。介護プラクティスマニュアルNPO法人飛鳥医療福祉研究会編（共著，ヘルス・システム研究所，2007）。バイオバンク構想的・倫理的検討（共著，上智大学出版，2009）。知っているようで知らない医療用語小辞典（共著，ライフサイエンス出版，2011）。【論文】臓器移植から再生医療まで－臓器機能再生医療の足跡－（奈良透析会誌，8(1)，2003）。再生医療産業の研究開発を目的とした新鮮ヒト由来試料の安定供給の方策を探る（日本再生医療学会誌(3)，2004）。臓器保存シリーズ [34] 心停止後の死体腎摘出－全国8地域・9施設の現状と問題－（Organ Biology 14(1)，2007）。【受賞】昭和45年度朝日科学奨励金（1971）。国立病院療養所総合医学会塩田章（1988）。厚生大臣感謝状（1995）。

【教授】内山 和美

大阪教育大学大学院教育健康科修士課程修了。【学会】日本助産学会，日本母性衛生学会，不妊カウンセリング学会，赤ちゃん学会。【著書】今日の母子保健福祉ガイド－健康問題解決のためのサービス活用法（共著，メヂカルフレンド社，2002）。母性看護技術（メヂカルフレンド社，1998）。今日の助産（南江堂，2010改訂第2版）。【論文】我が国の病院におけるCare in normal birth : a practical guide(WHO)の変化－2002年と2007年のカテゴリーA,B実践状況の比較－（共著，母性衛生，Vol.50，No.2，284-292，2009）。子宮頸がん予防行動に関する研究－保育所の乳幼児の母親および保育所職員対象－（共著，母性衛生，Vol.52，No.4，500-507，2012）。【学会発表】Research on Cervical Cancer Preventive Behavior among Japanese Women : ICN 29th Triennial Congress Durban(South Africa)June 2011。発達障害のある子どもの母親のメンタルヘルスに影響しているものとは？第23回日本助産学会（名古屋）2011.3。Research on Cervical Cancer Preventive Behavior among Japanese Women ICN Conference 2011 Valeta (Malta)May 2011。【社会・地域活動】第25回(2011)日本助産学会企画委員。第25回(2011)日本助産学会公開教育講演座長。

【教授】河合 洋子

名城大学法学部法学科卒業，博士(医学)名古屋市立大学，名古屋市立大学看護学研究科修士課程・看護学部講師(2007.3まで)，関西看護医療大学看護学部教授(2010.3まで)。【学会】日本看護科学学会，日本小児看護学会，日本小児保健協会等。【論文】河合洋子，他5名：慢性疾患児の学校生活管理指導表の活用状況調査，小児保健研究 73(1)，38-42，2014。【学会発表】河合洋子，他5名：学校における慢性疾患児に対する養護教諭の対応と関わりの方針の分析，日本小児看護学会第23回学術集会，高知市，2013.7.13。津田聡子，河合洋子，他2名：障害をもつ思春期女子の月経と月経随伴症状に関する研究-保護者の不安について-，第60回日本小児保健協会学術集会，東京都代々木，2013.9.27。河合洋子，他5名：慢性疾患児に対する担任の連絡調整や情報の共有化の状況と分析，同上，2013.9.28。河合洋子，大見サキエ：慢性疾患児の学校における情報共有のあり方についての検討，第33回日本看護科学学会学術集会，大阪市，2013.12.1。大見サキエ，河合洋子：がんの子どもへの復学支援 - 多職種調整会議後、退院した一事例の母親の心理 - ，同上。【学外共同研究】平成23年度～25年度文科省科研費（挑戦的萌芽）「小児慢性疾患児の他職種チーム協働における養護教諭のあり方の基礎的研究」，研究代表者：河合洋子。【社会的活動】日本小児看護学会査読委員（2011-）。

【教授】巽 圭太

大阪大学大学院医学研究科博士課程修了。大阪大学大学院講師（平成24年3月まで）。医学博士。【学会】日本内科学会，日本内分泌学会（代議員），日本甲状腺学会（評議員），日本臨床検査医学会（評議員），日本臨床化学会（評議員），日本遺伝子診療学会（評議員），日本人類遺伝学会，日本生化学会，日本分子生物学会，第66回日本臨床化学会近畿支部例会 例会長（2013.6.1 於宝塚大学 梅田キャンパス）【著書】内科学（共著，医学書院，2006）。代謝・内分泌疾患診療最新ガイドライン（共著，総合医学社，2012）。下垂体疾患診療マニュアル（共著，診断と治療社，2012）。【論文】Cretinism with combined hormone deficiency caused by a mutation in the *PIT1* gene.（共著，Nat Genet. 1(1): 56-58, 1992）。Congenital hypothyroidism caused by a mutation in the Na^+/I^- symporter.（共著，Nat Genet. 16(2): 124-125, 1997）。Involvement of SIK3 in glucose and lipid homeostasis in mice.（共著，PLoS One. 7(5): e37803.2012）。Functional polymorphisms in TBX21 and HLX are associated with development and prognosis of Graves' disease.（共著，Autoimmunity. 45(2):129-136.2012）。【社会・地域活動】大阪大学医学部 招聘教授。大阪大学医学部附属病院 内分泌代謝内科 外来【受賞】日本臨床病理学会 学会賞（第一回Bergmeyer-Kawai賞）。日本内分泌学会研究奨励賞，日本甲状腺学会賞（七條賞）。

[教授]中山 直則

関西学院大学社会学部卒業。元朝日新聞社論説委員。元朝日新聞社大阪本社編集局次長。元朝日新聞社編集担当補佐・局長職。【著書】日本史の舞台・坂本城（朝日新聞社,1981）。日本史の舞台・津山（朝日新聞社,1981）。関西の私鉄（共著、清文堂出版,1981）。新人国記3（共著、朝日新聞社,1983）。三都物語（共著、大阪書籍,1983）。新人国記5（共著、朝日新聞社,1983）。街（共著、朝日新聞社,1985）。街Ⅱ（共著、朝日新聞社,1986）。街Ⅲ（共著、朝日新聞社,1987）。新世紀の金毘羅さん 考（琴平山文化会「ことひら」第49号,1994）。社会部記者は見たー事件でつづる戦後50周年（共著、かもがわ出版,1995）。長い長い石段に（琴平山文化会「ことひら」51号,1996）。

[教授]人見 裕江

佛教学大学院社会学研究科社会福祉学専攻修士課程修了、医学博士（福岡大学）【学会】日本老年看護学会。日本在宅ケア学会。日本看護福祉学会。他【著書】やさしさの在宅ケア改訂版（編著,2009）【論文】Immune Functions and Lifestyle-Related Factors in Men Aged 60-69, Jpn. J. Health Promotion Vol.7, No.2, 125-134, 2005。高齢者住宅で暮らす認知症高齢者自らが語る終末期ケアの支援（韓国社福学誌,2012）。Characteristics and Management of Aggressive Behaviours Displayed by People with Dementia in Japanese Aged Care Settings（共著、梅花女子大学紀要,2013）。グループホームの認知症高齢者への終末期ケア（共著、コミュニティケア15（2）,2013）。【学外共同研究】科研費基盤C「高齢腹膜透析のエンドオブライフケアまでの継続ケアに関する研究」（三村代表：22-26年度）、「認知症高齢者自らが語る終末期ケアと暮らしを支援するテラードモデルの構築」（代表：23-25年度）、「抗精神病薬に依存しない認知症高齢者ケアを促進するためのケア・プロトコルの作成」（河村代表：23-25年度）、「地域高齢者の尿失禁ケアを促進するためのケア・プロトコルの作成」（田中久美子代表：23-25年度）【社会・地域活動】「宝塚大学コミュニティ支援隊」顧問、梅田東コミュニティ、特養喜久寿苑、みなぎの会等でのボラ活動、NPO法人在宅何でもお手伝いねこの手みつ代表、若年性認知症に取り組む会相談役、岡山県認知症ケア専門士会設立

[教授]福岡 和美

大阪教育大学大学院教育研究科修士課程修了、京都府立医科大学医療技術短期大学部専攻科保健学専攻専任助教、県立長崎シーボルト大学大学院人間健康科学研究科看護学専攻（修士課程）教授（平成19年3月まで）、金沢医科大学看護学部教授（平成23年3月まで）。【学会】日本公衆衛生学会。日本地域看護学会。【著書】高齢者虐待（共著、北大路書房,2002）。地域看護学（三訂）（共著、中央法規,2008）。【論文】中年におけるサクセスフルエイジングに向けての準備行動とその要因に関する研究（共著、県立長崎シーボルト大学看護学専攻学紀要 No.3,2003）。民家型グループホームにおける痴呆高齢者の客観的評価（共著、県立長崎シーボルト大学「協同教育研究費」に係る研究報告書,2004）。雲仙・普賢噴火災害地域におけるコミュニティの再編成過程－島原市安徳地区嵩上げ地域の場合－（共著、県立長崎シーボルト大学「協同教育研究費」に係る研究報告書,2005）。地域における後縦韌帯骨化症患者の心身状況および社会的状況調査（共著、日本在宅ケア学会誌13(1),2009）。【受賞】永年勤続表彰（京都府知事 1990）。日本看護協会会長表彰（1999）。【講演等】第9回日本高齢者虐待防止学会座長（2012.7.14 於 甲南女子大学）。【社会・地域活動】大阪市平野区福祉施策推進パイロット事業審査委員会委員2014.3現在。

[教授]藤原 正恵

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程単位取得後退学、神戸常磐短期大学看護学科助教授（平成16年3月まで）、京都橋大学看護学部看護学科助教授（平成23年3月まで）。【学会】日本救急看護学会。日本クリティカルケア看護学会。日本看護科学学会。日本看護学教育学会。日本看護研究学会。日本災害看護学会。【著書】事例で学ぶ急変対応（共著、メダプレーン,2005）。看護大事典 第2版（共著、医学書院,2010）。ナーシング・グラフィカEX4 リハビリテーション看護（共著、メディカ出版,2010）。【論文】過去5年間における日本でのクリティカルケア看護領域の研究の特徴（共著、インターナショナルナーシングレビュー日本版,Vol.32,No.1,日本看護協会出版会,2009）。ケアプランが必要な疾病・病態（EMERGENCY CARE,Vol.23,No.1,メディカ出版,2010）。救急看護 必須知識&アセスメントクイズ（EMERGENCY CARE,通巻333,メディカ出版,2013）。【学会発表】野島敬祐、藤原正恵、他：災害急性期における看護師の多職種との連携に関する活動内容、第14回日本災害看護学会年次大会、愛知,2012。（ポスター）。五十嵐佳奈、藤原正恵：救急重症患者家族の状況認知・困難を乗り越え適応に至る過程を通して、第14回日本救急看護学会学術集会、東京,2012。（口述）。穴吹浩子、藤原正恵、他：在日外国人の終末期ケアに関する看護師の体験、第32回日本看護科学学会学術集会、東京,2012。（ポスター）。【社会・地域活動】日本救急看護学会理事（2009.11-現在）

【教授】吉永 茂美

岡山大学大学院教育学研究科修士課程修了。広島国際大学大学院総合人間学研究科博士後期課程臨床心理学専攻単位取得後退学、岡山県立大学保健福祉学部看護学科、大学院講師、准教授（平成10年～20年3月まで）、愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科教授、日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科教授（平成23年3月まで）【学会】日本母性衛生学会、日本看護研究学会、日本看護学教学教育学会、現代心理QOL学会、日本認定心理士学会【著書】ソーシャル・サポート—生涯にわたる健康記録（共著、中央法規出版、1997）【論文】乳児をもつ母親の育児ストレス、ソーシャル・サポート、ストレス反応における月齢別の差と三者の関連—初産婦と経産婦の比較—（共著、岡山県立大学保健福祉学部紀要、2007）。育児ストレス過程の一考察（単著、岡山県立大学保健福祉学部紀要、2007）。育児期母親の育児教室への参加にかかわる心理社会的要因（共著、愛媛県立医療技術大学紀要、2008）。助産学の学習初期における効果的教育方法に関する研究—分娩見学自主実習の効果と課題（共著、日本赤十字広島看護大学紀要、2010）。夫立ち会い出産満足感尺度の作成（共著、宝塚大学紀要、2013）。【学会発表】吉永茂美：第52回日本母性衛生学会学術集会（京都）2011.9（口述）。松田佳子、吉永茂美：妻の出産に立ち会った夫の背景と夫婦の親密性との関連、第54回日本母性衛生学会学術集会（大宮）2013.10（口述）。

【准教授】八田 勘司

佐賀大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻修了。【学会】日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本笑い学会【著書】老年看護学概論と看護の実践（共著、ヌーヴェルヒロカワ、2014）。笑いの世紀（共著、創元社、2009）。精神看護学Ⅱ精神臨床看護学（共著、ヌーヴェルヒロカワ、2010）。【論文】笑いのセラピー「大道芸療法」笑い学研究No.9（共著、笑い学研究No.9、2002）。「気」を高め自然治癒力を引き出す笑いの「場」—笑いのセラピー「ちょっと笑ったちんどんタイ」の実践を通して—（共著、ぎふ精神保健福祉Vol.40、No.1、2003）。自然治癒力を引き出す「笑いの「ちんどんセラピー」」（共著、コミュニティケアVol.6、No.10、2004）。【学会発表】八田勘司、美王真紀、池内里美、目良宣子、ちんどんセラピーの実践報告—参加者の反応を中心に—、第19回日本笑い学会研究発表会、新潟2012.7.22（ポスター発表、共同）。【講演等】管理者研修「笑いの看護学—看護管理者のモチベーションアップをはかる—」2014.1.11 施市長立浜病院。【社会・地域活動】「ちんどんセラピー」2013.10.19 於宇治市グリーンタウン榎島中央集会所。

【准教授】原田 俊子

武庫川女子大学大学院臨床教育研究科臨床教育学専攻博士後期課程満期退学【学会】日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本教育心理学会、日本カウンセリング学会、日本創傷オストミー失禁管理学会、日本家族看護学会、日本老年泌尿器学会、日本社会福祉学会、日本褥瘡学会。他【著書】創傷アセスメントとドレッシング（編著、臨床看護 セレクション04、ヘルス出版、1999）。30症例から学ぶケアの根拠実践尿路ストーマケア（編著、ウロナーシング、メディカ出版、2000）。褥瘡ケア看護技術完全修得トレーニングコース通信講座テキスト（共著、日本総合研究所発行、2005）。徹底ガイド 排便ケアQ&A（共著、総合医学社、2007）【論文】ストーマケアにおける訪問看護と病院との連携に関する調査—病院看護師側の問題と対応（第27回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会、2009）。Two cases of pressure ulcer healing after liver transplantation in cirrhosis patients.（共著、The Journal of Dermatology 2007;34:400-402）科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 基盤研究 認知症高齢者自らが語る終末期ケアと暮らしを支援するテラードモデルの構築 分担（補助事業期間 平成23年度～平成25年度）Successful Intervention for Pressure Ulcer by Nutrition Support Team : A Case Report（共著、The Journal of Dermatology 2010 ; 2 : 120-124）. 離島のスマートケア支援への皮膚排泄ケア認定看護師の役割に対する考察（共著、第19回日本創傷オストミー失禁学会、2010.5）. 急性期病院における褥瘡持ち込みの現状と課題（共著、第20回日本創傷オストミー失禁学会、2011.5）。

【准教授】日高 庸晴

京都大学大学院医学研究科博士後期課程修了 博士。【学会】日本思春期学会、日本公衆衛生学会、日本エイズ学会、米国公衆衛生学会、米国心理学会。【社会的活動】厚生労働省エイズ動向委員会委員。【著書】Internet and Suicide（共著、Nova Science Publishers, Inc.2009）。【論文】Attempted suicide, psychological health and exposure to harassment among Japanese homosexual, bisexual or other men questioning their sexual orientation recruited via the Internet.（共著、J Epidemiol Community Health,2006;60:962-967）。Substance use and sexual behaviours of Japanese men who have sex with men: A nationwide internet survey conducted in Japan.（共著、BMC Public Health, 2006 Sep 26 ; 6 : 239）。Demographic and behavioral characteristics of male sexually transmitted disease patients in Japan: a nationwide case-control study.（共著、Sex Transm Dis,2008 Dec; 35（12）:990-6）。Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan.（共著、Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology,2008;43:752-757）。Ecstasy（3,4-methylenedioxymethamphetamine）use among Japanese rave population（共著、Psychiatry and Clinical Neurosciences,2013;67:12-19）。Men who have Sex with Men（MSM）におけるHIV感染予防行動を妨げる認知に関する検討（共著、日本エイズ学会誌、2013;15(2):134-140）。

[准教授]米倉 摩弥

大阪教育大学大学院教育学研究科健康教育学修了(学術修士)、浜松医科大学附属病院看護師(昭和63年3月まで)、聖隷学園浜松衛生短期大学助手(平成4年3月まで)、聖隷クリストファー大学看護学部助手・講師(平成21年3月まで)。

【学会】日本看護研究学会、日本看護技術学会、大学教育学会。【著書】看護技術ポイントマスター(共著、プチナース5月号臨時増刊号、2005)、看護技術の間違い探し(共著、プチナース11月号、2010)。【論文】基礎看護技術の自己学習支援システム(第1報)ービデオ教材を作成してー(共著、聖隷クリストファー大学看護学部紀要、11号、145-153、2003)。本学部における「学生による臨地実習評価」の方法の開発経過(共著、聖隷クリストファー大学看護学部紀要、12号、2004)。基礎看護技術教育におけるODVによる自己学習支援システム(共著、日本看護研究学会雑誌、28巻3号、115、2005)。摂食動作時に使用する手と食器の使い方の違いによる、上肢筋活動量と摂食時間の比較(日本看護技術学会第5回学術集会講演抄録集、90、2006)。150人の学生への基礎看護技術教育の授業改善と学生評価(共著、日本看護学教育学会、第16回学術集会、2006)。【学会発表】A大学における、1年生と実習終了後の4年生が着眼する観察の比較(日本看護技術学会第10回学術集会、日赤看護大学2011.10)。【社会・地域活動】平成23年度神戸労災病院看護部事業 看護技術及び継続看護研究会講評(2012.2)。

[専任講師]上山 直美

神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻修了(保健学修士)。

【学会】日本助産学会、日本母性衛生学会、日本不妊カウンセリング学会。【著書】根拠がわかる母性看護技術(共著、メヂカルフレンド社、2008)。【論文】性別役割分業意識と家事分担およびソーシャル・サポートの利用性とストレスとの関連(共著、関西看護医療大学紀要、2009)。Perception of Domestic Violence among nursing Students - Based on the Concept of reproductive Health/Rights、(共著、1ST China - Japan - Korea Academic Exchange Conference on Nursing Thesis Compilation、2009)。妊娠期から産褥早期における母親の問題体験とその対処行動の分析(共著、神戸大学保健学科紀要、2009)。西日本X島に居住する育児期の母親の実態調査ー夫婦・パートナー間での育児分担ー(単著、宝塚大学紀要 No.24、2010)。父親の育児参加を高める教育プログラムの実践と評価(共著、兵庫県母性衛生学会雑誌、2011)。父親の育児支援に関する教育プログラムの開発ープログラムデザインの検討ー(共著、第42回日本看護学会論文集、母性看護、2012)。父親の育児参加を高める教育プログラムの有用性の検討、兵庫県母性衛生学会雑誌、第20号、76-80。(共著、2012)。未就学児の父親への育児支援活動ーお父さんのための育児クラスを開催してー(共著、宝塚大学紀要 No.26、2012)。【社会・地域活動】未就学児の父親への育児支援活動”お父さんに役立つ育児セミナー”の主催、2010.7~12、2011.6~12、2012.6。

[専任講師]小神野 雅子

日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程修了。【学会】日本母性衛生学会、日本助産学会、日本公衆衛生学会、日本不妊カウンセリング学会。【論文】健康福祉センターにおける不妊専門相談の実態と対象者のニーズ(母性衛生 Vol. 44 No. 3、2003)。保健所における不妊相談の在り方の検討(共著、第25回地域保健師学術集会発表、2003)。大学生と親世代の性の意識に関する研究ー文章完成法を用いた質的データの分析からー(共著、日本助産学会誌 Vol.17 No.3、2004)。低出生体重児の出生に影響を及ぼす要因の検討(共著、母性衛生 Vol.45 No.3、2004)。領域別実習における学生の人的環境の役割認識と人的環境が満足度・深度に与える影響について(共著、山口県立大学紀要、2005)。【その他】未就学児の父親への育児支援活動ーお父さんのための育児クラスを開催してー(共著、宝塚大学紀要 No.26 133-142、2012)。【社会・地域活動】宝塚大学25周年記念イベント「お父さんのための育児クラス」(2012. 6.23)。

[講師]片山 知美

筑波大学大学院修士課程修了(保健学修士)、奈良女子大学大学院博士課程修了(生活環境学博士)。【学会】日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本保健医療行動科学学会等。

【著書】カウンセリング医療と健康 宗像恒次監修(共著、金子書房 2004)。【論文】成人女性におけるメタボリックシンドローム該当者とその予備群に対する積極的教育介入の効果に関する研究(共著、ヒューマンケア研究学会誌1(1)、23-28、2010)。小児メタボリックシンドローム介入教室による精神的変化の検討(共著、ヒューマンケア研究学会誌2(1)、23-29、2011)。頭頸部がん患者における放射線治療に伴う有害事象と食事摂取に関する検討(共著、ヒューマンケア研究学会誌2(1)、1-10、2011)。Research on Second-Hand Smoke Prevention Measures at Medical/Welfare Related Universities First Report: Actual Conditions of Second-Hand Smoke Prevention Measures and Knowledge and Awareness of Faculty Members。(共著、Smoking Control Science6(4):1-10、2012)。医療福祉系大学における受動喫煙防止対策の課題(共著、医学と生物学156(9)、674-682、2012)。介護老人保健施設に入所する要介護高齢者の主観的幸福感に影響を与える要因について(共著、医学と生物学157(6)、1057-1062、2013)など【受賞】奈良女子大学学長賞(2012)。

【専任講師】木村 静

大阪大学大学院医学系研究科（博士前期課程）保健学専攻修了 保健学修士，大阪大学大学院医学系研究科（博士後期課程）保健学専攻修了 看護学博士，【学会】日本看護研究学会，日本看護科学学会，看護人間工学学会，【論文】全身清拭が精神的慰安に及ぼす影響－自律神経活動と主観評価から－（共著，看護人間工学研究誌，6,17-22,2005），全身清拭動作における看護者の負担動作の筋電図からみた検討－広背筋への負担を指標として－（共著，看護人間工学研究誌，6,23-29,2005），女性への足裏マッサージによる腸音解析からみた排便促進効果の検証（共著，母性衛生，49(4),531-539,2009），産後の便秘女性への足裏マッサージによる腸音解析からみた排便促進効果の検証（共著，母性衛生，50(2),352-359,2009），足裏マッサージが及ぼす保温効果についての検証－皮膚温からの検討－（共著，看護人間工学研究誌，9,19-25,2009），ベッドの高さの違いからみた移動援助時の患者の頸部筋負担及び看護師の作業効率への影響（共著，人間工学，46(1),10-15,2010），移動援助時におけるベッドの高さの違いが患者におよぼす影響について－頸部後屈角度・心拍数の観点から－（共著，日本看護研究学会雑誌，33(5),25-32,2010），在宅女性高齢者に対する「転倒予防ケア」としての足浴の有効性の検討（共著，日本看護研究学会雑誌，33(5),55-63,2010），脳波からみた介護老人福祉施設入居者における効果的な坐位姿勢援助の検証（共著，日本老年医学会，48(4),378-390,2011）。

【専任講師】澤田 京子

大阪教育大学大学院教育学研究科健康科学専攻修了（学術修士）【学会】日本看護研究学会，日本看護科学学会，看護診断学会，日本感性教育学会，【論文】臨地実習における承諾書の運用実態と教員・学生の認識 第1報：運用実態に関する調査結果（共著，日本看護研究学会雑誌，Vol.25, No.3, 2005），臨地実習における承諾書の運用実態と教員・学生の認識 第2報：承諾書に対する教員の認識（共著，日本看護研究学会雑誌，Vol.25, No.3, 2005），臨地実習における承諾書の運用実態と教員・学生の認識 第3報：承諾書に対する学生の認識（共著，日本看護研究学会雑誌，Vol.25, No.3, 2005），看護教育者と臨床看護師における看護学教育に対する認識およびカリキュラム作成の課題に関する研究（大阪教育大学修士論文，2011），看護教育者と臨床看護師における看護学教育に対する認識およびカリキュラム作成の課題に関する研究（第1報）－看護教育者と臨床看護師の認識の比較－宝塚大学紀要 ARTES No. 25 133-145, 2011，看護教育者と臨床看護師における看護学教育に対する認識およびカリキュラム作成の課題に関する研究（第2報）－看護教育者と臨床看護師の認識の実態－宝塚大学紀要 ARTES No. 25 147-159, 2011，【その他】実習でヒヤリハットを起こさないための場面別看護技術の間違い探し プチナース Vol.9 No.13, 照林社, 2010.11.

【専任講師】藤田 俱子

大阪府立大学看護学研究科博士前期課程生活支援領域地域看護学分野修了，【学会】日本看護科学学会，日本公衆衛生学会，日本保健医療行動科学学会，日本地域看護学会，日本健康教育学会，日本在宅ケア学会，【著書】高齢者虐待（施設・病院など）老年症候群別 看護ケア関連図&ケアプロトコル（共著，中央法規出版，2008），看護学大辞典第6版，永井良三，田村やよび監修，メジカルフレンド社，東京，911，1344，1443，2271，（共著 2013），【論文】独居男性高齢者を対象にした食事バランスガイドを用いた健康教育の試み（日本地域看護学会誌，14（1），49－54，2011），Effect of a Preventive Home Visit Program in Ambulatory Frail Older People: A Randomized Controlled Trial（共著，J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2011 Oct 19. 【学会発表】藤田俱子，濱吉美穂，丸尾智実，三井昌美，生活の高齢者を理解するための理論とアセスメント教育のためのDVD作成と有用性の検討，第32回日本看護科学学会学術集会，東京，2012，11，30～12，1，ポスター，共著，Tomoko Fujita, Ayumi Kono(2013): Sarcopenic Obesity, Gait Speed, and Body Mass Index in Elderly Japanese Individuals, aged 65 - 74, The Gerontological Society of America's 66th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2013, 11, 20～25, poster. 共著，【社会・地域活動】第2回日韓合同地域看護学会実行委員（2011.7），第33回看護科学学会実行委員(2013.12)

【専任講師】目良 宣子

大阪教育大学大学院教育学研究科健康科学専攻発達人間学コース修了【学会】日本公衆衛生看護学会，日本社会医学学会等【著書】新版 保健師業務要覧 第1版（共著，日本看護協会出版社，2005）ユースアドバイザー養成プログラム改訂版～関係機関の連携による個別的・継続的な若者支援体制の確立に向けて～（共著，内閣府，2010）【論文】「ひきこもり検討委員会」顛末記（こころの科学 通巻1 2 3号 特別企画 ひきこもり 日本評論社 50-57 2005「日本における「ひきこもり」の現状と対策について」（発達人間論叢 第13号 大阪教育大学発達人間福祉学講座 99-106 2010）【学会発表】思春期・青年期のメンタルヘルスにおける保健師活動の課題－精神保健福祉領域関係者へのアンケート調査から－（第2回日本公衆衛生看護学会学術集会 神奈川2014.1）【講演等】「ひきこもり支援について」（平成25年度兵庫県精神保健福祉協会 心の健康づくり講演会講師 2013.8.6）「ひきこもりの地域支援」（平成25年度内閣府「困難を有する子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」和歌山大学保健管理センター主催講師 2013.11.9）【社会・地域活動】京都府チーム絆スーパービジョン（2010～）堺市子ども・若者支援地域協議会委員副会長（2012～）【受賞】宝塚大学看護学部学術研究奨励費（2012）

[助教]池内 里美

大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程実践学校教育専攻修了。【学会】日本看護学教育学会、産業保健師会。【論文】高齢者の保健福祉サービス利用に関する研究～人的サービスを阻害する要因～（共著、藍野学院短期大学地域専攻科地域看護研究集録、1998）。看護教育改革へ挑戦（大阪教育大学実践教育学論集2010 現代の教育問題を考える15 特集：現代の教育改革－授業改革・学校改革の意味と可能性、2010）。授業リフレクションが看護教員の授業効力感に与える影響 単著大阪教育大学実践学校教育講座、修士論文、2012.3。【学会発表】池内里美：看護教員の授業リフレクションに関する研究－授業者の経験とその変化を確かめる－、口演発表 日本看護学教育学会、第22回学術、熊本、2012.8.4。池内里美：看護教員の授業効力感尺度の開発、口演発表、日本看護学教育学会、第23回学術、仙台、2012.8.8。生野恭子、池内里美：看護教員の授業リフレクションに関する研究、口演発表、日本看護学教育学会、第23回学術、仙台、2012.8.8【講演等】「授業評価の方法」、日本精神科看護技術協会平成25年実習指導研修会Ⅰ、2013.10.3。特例社団法人日本精神科看護技術協会。「地域看護活動論Ⅲ」非常勤講師、2012.9～2013.12。学校法人大坂滋慶学園 大阪保健福祉専門学。【社会・地域活動】看護教育実践臨床研究会 大阪支部研修会企画担当（2014.1現在）。

[助教]岩下 真由美

神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了。【学会】日本看護管理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会【論文】子育てのライフステージにある看護師のキャリア継続に関連する要因 修士論文、岩下真由美、高田昌代（2012）：子育てのライフステージにある看護師のキャリア継続に関連する要因。日本看護管理学会誌、16(1)：pp.45-56。岩下真由美(2013)：育児をしながらキャリアを継続している看護師の自らの看護ケアに対する意識、宝塚大学紀要、NO.27：pp.193-206。【学会発表】「看護師2年課程通信制」教育の現状と課題－発足初年度の学生へのインタビューを通して－、第9回日本看護管理学会年次大会、神戸、2005.8.26。（口述発表）。子育てのライフステージにある看護師のキャリア継続に関連する要因、第13回日本看護管理学会年次大会、浜松、2009.8.21。（示説発表）。育児をしながらキャリアを継続している看護師と育児を契機にキャリアを中断している看護師のインタビュー結果のテキストマイニング解析、第1回日本看護評価学会学術集会、東京、2011.3.4。（口述発表）。育児の経験が看護に及ぼす影響、第16回日本看護管理学会年次大会、北海道、2012.8.23。（口述発表）。

[助教]郷司 律子

日本赤十字広島看護大学 大学院看護学研究科 看護学研究科 看護学専攻 修士課程修了【学会等】日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本生殖看護学会 日本女性医学学会 日本助産学会【論文】月経困難症を主訴に医療機関を受診し、子宮内膜症と診断された女性の体験（日本赤十字広島看護大学、修士論文、2012）・産後1カ月までに母親学級を開催して（山口県母性衛生学会、1994）・産褥早期における腰部固定帯の有用性（共著、山口県母性衛生学会、2006）・看護職の感じるストレスに対するリラクゼーションの効果（共著、山口県看護研究発表、2009）・仙骨部褥瘡に対して陰圧閉鎖療法を実施してポケットを切開することなく治癒した一例（共著、日本褥瘡学会中国四国地方会、2010）

[助教]酒井 喜久子

兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科情報科学コース博士前期課程修了。【学会等】日本医療情報学会会員、日本教育工学会会員、コンピュータ利用教育学会会員。【著書】「ステップ方式による目標と教育計画」共著 日経研出版 月刊実践手術看護（2009）。【論文】「腹直筋の活動電位の低い布団からの起き上がり方法の検討」共著 日本循環器看護学会誌（2007）。「看護基礎教育における電子カルテ教育の検討～模擬患者教材の開発を通じて効果的な学習を考える～」共著 日本医療情報学連合大会論文集（2011）。「看護継続教育における看護情報の二次利用技術習得を目的とした情報教育の検討」単著 兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科修士論文（2012）。「認定管理看護師研修における看護情報教育の評価」共著 日本医療情報学連合大会論文集（2013）。

[助教]島田 亜紀子

米国カリフォルニア州立サクラメント大学看護学科修士課程終了【学会】日本ニューロサイエンス看護学会 The 11th Quadrennial Congress of The World Federation of Neuroscience Nurse Presentations 座長 【論文】 Use of Audio-Visual Materials to Enhance Patient Diabetic Foot Care

[助教]末廣 由夏

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程修了。【学会等】日本助産学会，日本母性衛生学会，京都母性衛生学会，【論文等】聴覚障害者を理解する一助産師の視点から—（共著，京都母性衛生学会誌13（1），2005）病院勤務助産師が抱く未熟感の分析（単著，京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士論文，2012）病院管理者における助産師の現任教育に関する現状と理想〈筆頭論文〉（共著，京都母性衛生学会誌20（1），2012）

[助教]野島 敬祐

京都橋大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程修了。【学会】日本災害看護学会，日本救急看護学会，日本家族看護学会，【論文】地域で生活するネグレクト児の支援における学生ボランティアの役割（第38回日本看護学会論文集，精神看護，2007），災害急性期における看護師の多職種との連携に関する研究（平成22年度京都橋大学大学院修士論文，2011），家族参加型ケアを継続させるための家族による調整要因～脳外科手術を受けた患者の家族を通して～（共著，第16回日本家族看護学会集録，2009），未就学児の父親への育児支援活動～お父さんのための育児クラスを開催して～（共著，宝塚大学紀要，No.26 133-142，2012），【学会発表】野島敬祐，藤原正恵，河原宣子：災害急性期における看護師の多職種との連携に関する活動内容，第14回日本災害看護学会学術集会，愛知，2012，（ポスター），野島敬祐，藤原正恵：災害急性期における看護師の多職種との連携に関連する要因，第13回日本救急看護学会学術集会，東京，2011，（ポスター），【学外共同研究】平成23～25年度科学研究費助成事業 基盤研究C「高齢・過疎化の進行する地域における災害時要援護者対策看護プログラムの開発」，代表者：河原宣子，【講演等】日本災害看護学会 災害看護セミナー「病院災害時の行動と看護管理」ファシリテーター，2011.5.14，於愛知県看護協会，【社会・地域活動】東日本大震災災害支援 2011.5，日本災害看護学会災害看護用語検討プロジェクトメンバー（2011～現在）。

[助教]前原 なおみ

大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育専攻修士課程修了。【学会】日本看護福祉学会，日本老年社会科学会，日本看護教育学会，日本社会医学会，日本高齢者虐待防止学会，日本老年看護学会【論文】看護援助を行う者の高齢者観と継続教育（共著，大阪教育大学大学院紀要第11号，2009），小学校の高齢者観の育成に関する現状報告（共著，大阪教育大学紀要第58巻2号，2010），地域見守り活動における孤立死の体験と課題（共著，甲南女子大学研究紀要第5号，2010），高齢者等見守り活動における個人情報保護の現状と課題（単著，甲南女子大学研究紀要第6号，2011），高齢者等のセルフ・ネグレクト（自己放任）を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究〔報告書〕（共著，厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業《総括・分担研究報告書》2011），「おだやかな死」を再考する（単著，メタフィシカNo.44，2013）【講演等】子どもへの生命教育「いのちのためにできること」淀川区PTA中堅指導者研修会，2012.8.9，於淀川区民センター，「見守り活動の中で孤立死に出会うこと」柏原市民生委員研修会，2012.8.23，於柏原市社会福祉協議会，柏原市高齢者いきいき元気センター，【社会・地域活動】大阪府柏原市主任介護支援専門員部会 研究会アドバイザー（5回），第9回 日本高齢者虐待防止学会 運営委員，【受賞】日本社会医学会奨励賞「高齢者見守り組織から町づくりの展開」（2011）。

[助教]美王 真紀

広島大学大学院医学系研究科（博士課程前期）修了，日本赤十字広島看護大学 精神看護学助手（平成18年3月まで）。

【学会】日本精神保健看護学会，日本病院・地域精神医学会，日本看護科学学会。【著書】精神障害をやさしく理解するQ&A（共著，日総研，2003）。保健医療職のための伝える技術伝わる技術（共著，医学書院，2005）。【論文】精神病院に長期入院している統合失調症患者の捉える入院生活（共著，日本赤十字広島看護大学紀要，2006）。個人情報保護に関する法律と精神科看護記録（共著，看護きろく，15(6),9-14,2005）。保護室のあり方を考える 入室体験と聞き取り調査を通して（共著，病院・地域精神医学，2009）。精神障害者に対する精神科訪問看護についての文献研究（宝塚大学紀要 No.26, 117-131, 2012）。未就学児の父親への育児支援活動（共著，宝塚大学紀要 No.26, 133-141, 2012）。【学会発表】精神病院に長期入院している統合失調症患者の捉える入院生活，第16回日本精神保健看護学会，栃木，2006。（口述，共同）。保護室の看護のあり方を考える 入室体験と聞き取り調査を通して，第50回日本病院・地域精神医学会，京都，2007。（口述，共同）。精神科看護に活かす家族療法を考える，第12回家族看護学会テーマセッション，広島，2006。（口述，共同）。【講演等】社団法人日本精神科看護技術協会，実習指導者研修会，非常勤講師，2005【社会・地域活動】宝塚大学25周年企画 お父さんのための育児クラス 2012.6.23。

[助教]森岡 広美

吉備国際大学大学院国際協力研究科修士課程修了。【学会】日本看護科学学会，国際看護研究会，日本看護教育学会，日本看護研究学会，日本看護診断学会，日本看護福祉学会【著書】胃瘻造設患者の導入期からの関わりを考える：ホスピスケアと在宅ケア：9(2); pp.151 -151（共著，2001）。【論文】森岡広美：国際協力の視点からみた看護労働力受け入れの実状と問題点に関する一考察：吉備国際大学大学院国際協力研究科（修士論文），2010・国際看護研究会学術集会発表，2011。【学会発表】森岡広美：国際協力の視点からみた看護労働力受け入れの実状と問題点に関する一考察，国際看護研究会学術集会，2011.9.7。森岡広美：強迫神経症状のある患者への環境面に視点をのいた関わり方の一考察，信貴山シンポジウム，2011.9.7。森岡広美：高度急性期医療施設で勤務する看護師の離職要因とその対策について，看護科学学会学術大会，2012.11.30。森岡広美：NANDA-I看護診断の看護支援システムを導入した看護実践における問題点と今後の課題，日本看護診断学会学術集会，2013.6.23。森岡広美：臨地実習指導を行うにあたって教員間で共有されるべき学生の情報，日本看護教育学会学術集会，2013.8.7。Hiromi Morioka:Needs for Support System to Latent Demands among EPA Nurses in Japan,EAFONS 2014(2014.2.20)【講演等】ACLSのインストラクターとして，大阪ライフサポート協会の活動に参加。

[助教]吉井 紀子

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻修了，JICA青年海外協力隊（ヨルダン）派遣助産師（平成15年11月まで），太成学院大学看護学部基礎看護学講師（平成22年9月まで），1995 被災地支援看護師（阪神淡路大震災東灘区），1998 長崎大学熱帯医学研究所熱帯医学研修，1998 国際看護交流協会災害看護上級フィリピン研修，1999 NGO被災地支援看護師（コソボ自治州）。【学会】日本看護科学学会，日本国際保健医療学会，日本看護診断学会。【論文】ヨルダンにおける母子保健センター利用者の産後の抑うつとその関連要因（信州大学修士論文，2009）。

宝塚キャンパス
メディア・造形研究科

[研究科長/教授] 吉川 直哉 (前掲)

造形・デザイン専攻・メディア・コンテンツ専攻

[教授] 大河 繁 (前掲)
[教授] 北澤 嘉浩 (前掲)
[教授] 小清水 漸 (前掲)
[教授] 児玉 靖枝 (前掲)
[教授] 炭釜 啓人 (前掲)
[教授] 藤木 隆義 (前掲)
[教授] 曲子 明良 (前掲)
[教授] 森口 まどか (前掲)
[教授] 山下 幹生 (前掲)
[教授] 吉川 直哉 (前掲)
[教授] 吉村 誠 (前掲)
[教授] 吉田 浩 (前掲)

[特任教授] 倉澤 行洋 (無庵) (前掲)
[特任教授] ホルスト・ジークフリード・ヘンネマン (前掲)

[准教授] 楠田 雅史 (前掲)
[准教授] 高橋 一郎 (前掲)
[准教授] 林 勇氣 (前掲)
[准教授] 山口 尚 (前掲)

[兼任講師] 出川 哲朗 (前掲)
(以上教員については前掲)

東京新宿キャンパス
メディア・造形研究科

[研究科長/教授] 吉川 直哉 (前掲)

造形・デザイン専攻・メディア・コンテンツ専攻

[教授] 井上 幸喜 (前掲)
[教授] 川村 順一 (前掲)
[教授] 櫻木 晃彦 (前掲)
[教授] 竹内 一郎 (さい ふうめい) (前掲)
[教授] 成田 裕介 (前掲)

[特任教授] 倉澤 行洋 (無庵) (前掲)
[特任教授] 月岡 貞夫 (前掲)
[特任教授] ホルスト・ジークフリード・ヘンネマン (前掲)

[准教授] 渡邊 哲意 (前掲)

[兼任講師] 尾崎 史郎 (前掲)
[兼任講師] 平山 敬二 (前掲)
[兼任講師] 吉澤 早苗 (前掲)

専任教員の研究活動等

平成24年 3月現在

●科学研究費補助金

	研究課題名	直接経費	
		平成23年度交付額	平成23年度執行額
①	中国における音楽興行の空間演出に関する研究 (補助事業期間：平成21年度～平成23年度)	900千円	900千円
②	小児慢性疾患児の多職種チーム協働における養護教諭のあり方の基礎的研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,300千円)	800千円 (800千円)	506千円 (506千円)
③	看護師の感情労働に伴う自己感情の揺さぶられ理解の為のセルフチェックツールの開発 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,000千円)	700千円 (700千円)	300千円 (300千円)
④	父親の育児参加を高める支援プログラム開発とその評価 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：1,600千円)	800千円 (800千円)	581千円 (581千円)
⑤	HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度)	20,800千円	20,800千円

※千円未満切捨、②～④の交付額・執行額のそれぞれ上段は単年度の金額、下段は累計の金額

平成25年 3月現在

●科学研究費補助金

	研究課題名	直接経費	
		平成24年度交付額	平成24年度執行額
①	小児慢性疾患児の多職種チーム協働における養護教諭のあり方の基礎的研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,300千円)	800千円 (1,600千円)	777千円 (1,283千円)
②	看護師の感情労働に伴う自己感情の揺さぶられ理解の為のセルフチェックツールの開発 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,000千円)	800千円 (1,500千円)	219千円 (519千円)
③	父親の育児参加を高める支援プログラム開発とその評価 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：1,600千円)	500千円 (1,300千円)	109千円 (690千円)
④	細胞形態での診断が困難な転移性腫瘍に対する血液での革新的な核酸検査法の開発 (補助事業期間：平成24年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,400千円)	1,800千円 (1,800千円)	11千円 (11千円)
⑤	前期高齢者の肥満による健康状態と生活機能への影響からみた保健指導の在り方の検討 (補助事業期間：平成24年度～平成26年度、補助事業期間交付決定額：4,100千円)	1,400千円 (1,400千円)	1,364千円 (1,364千円)
⑥	地域見守り組織における個人情報管理の現状と課題に関する研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：1,500千円)	500千円 (1,000千円)	300千円 (613千円)
⑦	発達障害児に対する性教育のありかたの検討 (補助事業期間：平成24年度～平成26年度、補助事業期間交付決定額：1,700千円)	700千円 (700千円)	314千円 (314千円)
⑧	HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度)	11,440千円	11,440千円

※千円未満切捨、①～⑦の交付額・執行額のそれぞれ上段は単年度の金額、下段は累計の金額

●科学研究費補助金

	研究課題名	直接経費	
		平成25年度交付額	平成25年度執行額
①	小児慢性疾患児の多職種チーム協働における養護教諭のあり方の基礎的研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,300千円)	700千円 (2,300千円)	246千円 (1,529千円)
②	看護師の感情労働に伴う自己感情の揺さぶられ理解の為のセルフチェックツールの開発 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,000千円)	500千円 (2,000千円)	1,092千円 (1,611千円)
③	父親の育児参加を高める支援プログラム開発とその評価 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：1,600千円)	300千円 (1,600千円)	652千円 (1,342千円)
④	細胞形態での診断が困難な転移性腫瘍に対する血液での革新的な核酸検査法の開発 (補助事業期間：平成24年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：2,400千円)	600千円 (2,400千円)	1,811千円 (1,822千円)
⑤	前期高齢者の肥満による健康状態と生活機能への影響からみた保健指導の在り方の検討 (補助事業期間：平成24年度～平成26年度、補助事業期間交付決定額：4,100千円)	1,200千円 (2,600千円)	1,075千円 (2,439千円)
⑥	地域見守り組織における個人情報管理の現状と課題に関する研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度、補助事業期間交付決定額：1,500千円)	500千円 (1,500千円)	743千円 (1,356千円)
⑦	発達障害児に対する性教育のありかたの検討 (補助事業期間：平成24年度～平成26年度、補助事業期間交付決定額：1,700千円→664千円)	500千円 (1,200千円)	350千円 (664千円)
⑧	認知症高齢者自らが語る終末期ケアと暮らしを支援するテラーモデルの構築	1,000千円 (4,000千円)	423千円 (3,058千円)
⑨	HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究 (補助事業期間：平成23年度～平成25年度)	9,633千円	5,329千円

※千円未満切捨、①～⑧の交付額・執行額のそれぞれ上段は単年度の金額、下段は累計の金額、⑦は平成25年度で補助事業廃止

※研究分担者のいる研究課題については、平成25年度執行額には研究分担者の執行額は含まれていない

9. 委員会活動状況

■2013年度 宝塚キャンパス 造形芸術学部

委員会名	教務委員会	
設置根拠	造形芸術学部教務委員会規程	
審議事項	造形芸術学部 教務に関わる内容全て	
構成員	委員長	炭釜啓人
	委員（教員）	大河繁・吉村誠・児玉靖枝・木村智博・沼田浩一
	事務職員	田中和宏・田中康裕

活動総括欄
平成25年度および次年度 教務に関わる事項検討

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月17日	教養科目・外国語科目・教職に関する科目について、合同演習授業の問題点、看護学部の教養科目を宝塚キャンパスで実施することによる問題点、非常勤教員による学外活動の実施について
第2回	5月8日	各提出物の期限について、欠席する場合の事前連絡指導について、学長からの指摘（授業計画）について
第3回	6月5日	学期途中の授業出席率を各研究室へ報告、前期定期試験の実施について、今年度後期教室割について、教養科目について、その他
第4回	7月3日	教養科目について、前期採点簿提出について、後期教科書献本に関する調査について、後期履修登録について（変更、追加、取消含む）、オフィシアワーについて、その他
第5回	8月7日	教養科目について、平成26年度学年暦について
第6回	8月28日	博物館学芸員課程について、教養科目について、3学科制についての会議について
第7回	9月6日	教養科目について、平成25年度私立大学等改革総合支援事業に係る調査について、入学前教育について、単位読替えについて
第8回	9月19日	教養科目について、入学前教育について、その他
第9回	10月2日	コモンルームについて、26年度学年暦について、追試験、再試験、成績書き換えによる単位認定について、その他
第10回	10月16日	アートプロデュース研究室管轄科目について、26年度学年暦について、シラバスの様式について、共通科目について、成績の認定（追試験、再試験、成績の書き換え）について、外国語でIaを履修していない場合のIbの履修及び単位認定について、履修するにあたっての前提科目の設定について、開講するための人数設定について、その他
第11回	11月6日	26年度学年暦について、シラバスの様式について、教養科目について、共通科目について、入学前プログラムについて
第12回	12月4日	科目等履修生受入れについて、(2)26年度教養科目、共通科目について、(3)シラバスについて（作成スケジュール、第三者によるチェック等）、新入生プログラムについて、26年度学年暦について（宝翔祭の日程）について、卒業認定について、単位認定について、履修規程について、その他
第13回	12月18日	26年度開講科目について、シラバスについて（作成スケジュール、第三者によるチェック等）、学年暦について、その他
第14回	1月8日	26年度開講科目について、シラバスについて（作成スケジュール、第三者によるチェック等）、その他
第15回	1月22日	26年度開講科目について、シラバスについて（作成スケジュール、第三者によるチェック等）、その他
第16回	2月5日	26年度開講科目について、シラバスについて（作成スケジュール、第三者によるチェック等）、新入生プログラムについて、その他
第17回	2月5日	26年度開講科目について、新入生プログラムについて、4年次生の履修登録単位上限について（履修規程）、追試験、再試験の区分について（履修規程）、シラバスについて（第三者によるチェック等）、その他

委員会名	FD・SD委員会	
設置根拠	造形芸術学部教務委員会規程	
審議事項	造形芸術学部 FD・SDに関わる内容全て	
構成員	委員長	森田耕太郎
	委員（教員）	北田研索・曲子明良・吉田浩・山下幹生・高橋一郎・角南登紀子
	事務職員	北太久也・田中康裕・山本恭子

活動総括欄

平成25年度 FD・SD委員会の取り組み

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月19日	副委員長（委員長代行）について、FD・SDについて、予定と年間計画について、着任後研修について、授業公開について、その他
第2回	5月10日	平成25年度FD・SD委員会の予定、SD研修について
第3回	5月29日	平成25年度前期授業公開について、前期授業アンケートについて、7月実施セミナーについて、本学の抱える問題と対策、その他
第4回	6月26日	前期授業アンケートについて（継続）、前期授業公開討論会について、実施予定のFD・SD研修会について、その他
第5回	7月24日	前期授業アンケートについて（継続）、実施予定のFD・SD研修会について、その他報告等
第6回	9月11日	本学の抱える問題点について
第7回	9月25日	本学の抱える問題点について（継続）
第8回	10月9日	今後実施予定の研修会について、本学の抱える問題点について（継続）
第9回	11月13日	今後実施予定の研修会について、平成25年度後期授業公開について、ハラスメント相談窓口について
第10回	12月11日	今後実施予定の研修会について、平成25年度後期授業公開および討論会について、後期授業評価アンケートについて、その他
第11回	1月15日	今後実施予定の研修会について、平成25年度後期授業公開および討論会について（継続）、後期授業評価アンケートについて（継続）、その他
第12回	2月12日	ハラスメント相談窓口の設立について、その他

委員会名	学生委員会	
設置根拠	造形芸術学部学生委員会規程	
審議事項	学生に対する対応、退学者（予定者含む）への対応・対策の検討、サービス等および学生サポート委員会について	
構成員	委員長	山口 尚
	委員（教員）	水上雅章・村田大輔・木村貴嗣・高垣勝康・長久保光弘
	事務職員	田中和宏・山路彩子

活動総括欄

学生に対する対応全般の検討、退学者（予定者含む）への対応・対策の検討、学祭を含む学生サポート委員会の運営

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月4日	中退者減少プロジェクト（以下、DRP）対象学生について
第2回	5月8日	DRP対象学生について、宝塚大学奨学金制度について
第3回	5月15日	新入生歓迎会報告について、サークルの活動報告書について
第4回	5月22日	宝塚大学奨学金制度（採用推薦者）について
第5回	5月29日	サークルの活動報告書・助成金交付について
第6回	6月5日	DRP対象学生について、欠席が続く学生の対応フローについて
第7回	6月26日	宝翔祭について、サークル活動報告会の実施報告について、サークル助成金の配分決定について
第8回	7月3日	DRP対象学生について
第9回	8月3日	宝翔祭について、サークル助成金の交付について
第10回	9月11日	DRP対象学生について、宝翔祭（準備）について
第11回	10月2日	DRP対象学生について、宝翔祭（出展場所リスト、模擬店出店場所マップ、ステージ・タイムスケジュール）について、サークル・同好会（承認）について
第12回	11月6日	DRP対象学生について、宝翔祭について（実施報告）
第13回	12月4日	DRP対象学生について、宝翔祭グランプリ副賞の対象について
第14回	1月8日	DRP対象学生について、サークル・同好会（承認）について、学生サポート委員会イベント企画案について、今後の学生委員会における検討課題について
第15回	2月5日	DRP対象学生について、宝翔祭グランプリ副賞の助成について、今後の学生委員会における検討課題について

委員会名	入試委員会	
設置根拠	造形芸術学部入試委員会規程	
審議事項	入学選考に関わる諸事検討	
構成員	委員長	北澤嘉浩
	委員（教員）	大河繁（アドバイザー）・森田耕太郎・藤木隆義・柳隆雄・藩山海・植松陽一・沼田浩一
	事務職員	村野永・村田真希子

活動総括欄

当該年度の入学選考に関わる試験内容等の検討および担当教員の配置設定、合否判定委員。当該年度までの入学選考の問題点や他校の入学選考状況などを踏まえ、次年度の入学選考に関わる日程・試験内容・試験科目等の検証し、募集要項の原案までを検討した。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月24日	本年度、「入試」「募集要項」および「受験準備講座」の実施内容について
第2回	5月10日	入試委員の役割分担について （継続）募集要項、受験準備講座、入試問題について
第3回	5月22日	（継続）入試委員の役割分担、募集要項、受験準備講座、 入試問題について
第4回	6月19日	（継続）入試問題、入試実施、採点基準、高校訪問、各種イベントについて 次年度、入試日程等について
第5回	7月17日	入試担当教員について、第1期AOの実施について その他継続審議事項について
第6回	9月3日	実施AO入試の問題点、改善点について、指定校推薦について、入学前プログラムの実施について、 その他継続審議事項について
第7回	9月17日	本年度入試の実施、次年度入試日程等、継続審議事項について 受験準備講座の追加実施について
第8回	10月16日	本年度入試の実施、次年度入試日程等、継続審議事項について 次年度の学生募集について
第9回	11月6日	本年度入試の実施、次年度入試日程等、次年度学生募集について、継続審議事項について
第10回	11月20日	本年度実施の入学選考の問題点について、次年度入試日程等、次年度学生募集について、継続 審議事項について
第11回	12月18日	本年度入試の実施、次年度入試日程等、次年度学生募集について、継続審議事項について
第12回	1月22日	本年度、一般入試の実施内容について、次年度入試日程、内容等、継続審議事項について
第13回	2月13日	次年度、学生募集、行事日程、内容等について 特待生制度の導入について
第14回	3月19日	平成26年度総括および次年度に向けて

委員会名	図書・展示・紀要委員会	
設置根拠	造形芸術学部図書・紀要委員会規程	
審議事項	平成25年度 図書・展示・紀要に関わる内容全て	
構成員	委員長	炭釜啓人
	委員（教員）	藤木隆義・森口まどか・林勇氣・村上佳明・葛佐博・田村知視
	事務職員	村野永・月本一武

活動総括欄

平成25年度 図書・展示・紀要に関わる事項検討

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月24日	図書・展示・紀要の今後の運営方法、図書・展示・紀要についての各担当者の選定、図書館 選書委員会の運営方法について、展示について、紀要について
第2回	5月22日	紀要募集日程・募集要項などについて、学生選書について、宝塚キャンパス ギャラリー開設 について、委員会の開催日について、現在購入雑誌の見直しの依頼について
第3回	6月26日	教員選書および定期購読雑誌の査定、紀要アンケートの集計、書籍・雑誌等の処分について
第4回	7月24日	教員選書について、『紀要の原稿依頼』の提出期限厳守、重要文化財『賀茂禰宜神主系図』デ ジタルアーカイブ化と産学連携について、ギャラリー・ヅカローの使用について
第5回	9月11日	学生選書リスト内容検討、洋書の購入について、ヅカ廊の使用規定・申請書類について、文 科省よりの通達について（アクティブラーニング）、書架の耐震・免震について、教員と学生 のコラボレーション展について
第6回	10月23日	学術雑誌が少ない件、図書工事予算について、蔵書点検（年二回確認必要）について、ヅカ 廊について、卒展・造形展について、紀要について
第7回	12月11日	図書委員会選書05リストについて、来年度予算案について、学生のリクエストについて（書 式変更・教員印不要）、ギャラリー改修工事が遅れていることについての報告、印刷について、 購入資料追加について
第8回	1月22日	図書購入について、設備について、印刷について、紀要について
第9回	2月19日	紀要について、ネット使用について、利用ガイダンスについて、ヅカ廊について

委員会名	学生募集部会	
設置根拠	造形芸術学部入試委員会規程	
審議事項	平成25年度 オープンキャンパス等の内容について	
構成員	委員長	山口尚
	委員（教員）	北澤嘉浩・秋元務・岡田大貴・合田望・松野一樹
	事務職員	岡崎薫・太田徳宏

活動総括欄

平成25年度 学生募集に係るオープンキャンパス等の実施運営および内容について事項検討

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月3日	全体スケジュール/流れの確認、職員側の出勤者の確認、教授会で、オープン詳細の説明、費用について、公式フライヤーの校正、コンシェルジュの募集状況、説明会について
第2回	4月10日	全体流れ/スケジュールの確認・決定、コンセプトの共有、ワークショップについて、コンシェルジュの説明会について
第3回	4月17日	全体流れ/スケジュールの確認・決定、実施要項最終確認
第4回	5月8日	次回に向けての改善策の検討
第5回	5月22日	次回に向けての改善策の検討
第6回	6月4日	次回に向けての改善策の検討
第7回	6月10日	次回に向けての改善策の検討
第8回	6月24日	次回に向けての改善策の検討、7/15のプログラムの検討
第9回	7月1日	次回に向けての改善策の検討、7/16のプログラムの検討
第10回	7月13日	7/15のプログラム実施確認、以降の実施内容の検討
第11回	7月16日	7/18・8/4オープンキャンパスワークショッププログラムについて
第12回	7月24日	7/18・8/4オープンキャンパスワークショッププログラムについて
第13回	7月30日	実施してきたオープンキャンパスの反省会および総括
第14回	8月28日	次年度に向けて（日程、回数、内容、受験準備講座、公開授業、作品展示、その他）

委員会名	卒業制作展・造形展部会	
設置根拠	図書・展示・紀要委員会作業部会	
審議事項	卒業制作展・造形展の運営について	
構成員	委員長	林勇氣
	委員（教員）	柳隆雄・楠田雅史・森口まどか・岡田大貴・合田望・神澤孝宣・松野一樹 （オブザーバー）北川淳一・田中健作
	事務職員	北太久也・寺井美紗世

活動総括欄

平成25年度 卒業制作展・造形展の実施運営に係る事項検討

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	6月12日	各報告、平成25年度造形展の出品作品、テーマ、名称について
第2回	6月26日	各報告、平成24年度実施報告、平成25年度造形展（継続）、平成25年度卒業制作展の各賞の決定方法について
第3回	7月10日	平成24年度実施報告、平成25年度造形展・卒業制作展について（継続）
第4回	9月12日	平成25年度造形展・卒業制作展について（継続）、「教員と在校生によるコラボレーション展」について、後期ガイダンス配布資料について

その他、適宜、学生を交え開催された

■2013年度 東京新宿キャンパス 東京メディア・コンテンツ学部

委員会名	教務委員会		
設置根拠	宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 教務委員会規定		
審議事項	教務上の諸問題		
構成員	委員長	竹内一郎	
	委員（教員）	川村順一 櫻木晃彦 渡辺哲意 増田宗嶺（助手）	
	事務職員	谷口充之 高山信吾 大和敬朋	

活動総括欄

今年度は年間を通じて9回の委員会を開催し、主には平成27年度の学部名称変更に係る、平成26年度以降の新たな教育課程の編成作業を完了させた。加えて今年度より設置された初年次教育のフォローアップや円滑な教育活動のための制度整備を積極的に行った。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	5月8日	学外活動に関する単位認定/学外講師招へいに関する申し合わせ/研究室活動費使用に関する手引/初年次教育費使用に関する手引
第2回	5月29日	次年度カリキュラム/FD活動/授業評価アンケート/初年次教育報告
第3回	6月26日	アドミッションポリシー/ディプロマポリシー/カリキュラムポリシー
第4回	8月7日	9月卒業生状況報告/平成26年度カリキュラム/平成27年度カリキュラム
第5回	9月25日	平成26年度以降のカリキュラムについて
第6回	10月9日	平成26年度以降カリキュラム案の決定について
第7回	10月30日	編入学・転学者の単位認定について/留学者の日本語能力への対応
第8回	11月27日	学習動向調査アンケートについて/SA制度について/次年度の教育体制全般について
第9回	1月29日	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの策定について/領域変更について

委員会名	学生委員会		
設置根拠	東京メディア・コンテンツ学部学生委員会規定		
審議事項	学生生活に関する重要事項について		
構成員	委員長	渡邊哲意	
	委員（教員）	芦谷耕平/大成拓/高田美苗/上原愛弓（助手）/増田宗嶺（助手）	
	事務職員	登坂実/坂口美香	

活動総括欄

学生指導マニュアル作成を中心に議論を行い、退学者（予定者含む）や長期欠席学生への対応・対策の検討を行った。また外国人留学生へのサポートを次年度以降新たに実施していくこととなった。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月25日	今年度の学生委員会の検討課題/今後の学生支援の体制
第2回	6月6日	学生指導マニュアル作成/学生相談のさらなる活用/欠席学生の報告
第3回	6月27日	学生指導マニュアル作成/欠席学生の報告
第4回	7月24日	学生指導マニュアル/外国人留学生の対応
第5回	10月24日	次年度TA・SA制度導入/学生指導マニュアル/ポケット防災マニュアル
第6回	12月5日	学生指導マニュアル/ポケット防災マニュアル/新設奨学金
第7回	1月9日	学生指導マニュアル/欠席学生の報告/次年度学生手帳/新設奨学金/画材店マップ
第8回	2月10日	学生指導マニュアル/欠席学生の報告/ポケット防災マニュアル/画材店マップ

委員会名	入試委員会	
設置根拠	東京メディア・コンテンツ学部入試委員会規定	
審議事項	入試、学生募集、広報に関する内容すべて	
構成員	委員長	北見 隆
	委員（教員）	川村順一（副委員長）、古瀬 登、吉岡 章夫、市野 治美、上原 愛弓（助手）
	事務職員	佐藤 隆一、金澤 英樹

活動総括欄

当年度および次年度、入学選考方法・内容、学生募集活動全般について検討を行う

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月25日	学生募集要項について、高校教員対象学部説明会について、夏期集中講座について
第2回	5月13日	学生募集要項について（継続審議）、業者主催の進学相談会について
第3回	5月23日	夏のオープンキャンパスについて、学生募集活動について、入学手続納付金再延納者について
第4回	6月13日	特定の専門学校等との提携に於ける（編入学選考）学費減免の提案、学生募集活動について
第5回	6月27日	各委員による受験者を増やすためのアイデア、外部コンサルティングについて
第6回	7月11日	平成26年度一般入学選考（第2期）における実技試験の問題作成について、オープンキャンパスへの動員について
第7回	8月1日	オープンキャンパスについて、留学生入学選考について、大学Web site について
第8回	8月29日	本年度の留学生入学選考の実施方法について、学生募集要項について
第9回	9月26日	学生募集要項について（継続審議）、本年度の留学生入学選考の実施方法について（継続審議）、11/16、12/14、2/1の「進学相談会」の内容について
第10回	10月26日	台風の影響による入学選考の対応について、留学生入学選考における日本語入学選考のチェック方法について（継続審議）
第11回	11月26日	平成27年度入学選考日程について、平成27年度オープンキャンパス日程について、プレセミナーについて、平成27年度学生募集要項について
第12回	12月19日	平成27年度入学選考日程・平成26年度オープンキャンパス日程について、平成27年度 学生募集要項について（継続）、平成27年度入学選考 複数領域出願について、広報用「本学の強み」アンケートの実施について、玄関前装飾について、オープンキャンパスの改善案等
第13回	1月16日	平成27年度入学選考 学生募集要項について、2月1日、3月23日のオープンキャンパスについて、広報用「本学の強み」アンケート実施について
第14回	2月13日	平成27年度入学選考日程について、特待生入学選考について、オープンキャンパスにおける中心領域担当割について、「本学の強みアンケート」領域ごとのまとめ

委員会名	就職支援委員会	
設置根拠	東京メディア・コンテンツ学部就職委員会規定	
審議事項	就職活動支援、キャリア支援に関わる諸事検討	
構成員	委員長	井上 幸喜
	委員（教員）	成田裕介／安田隆浩
	事務職員	山本俊一／谷口充之／名雪里美

活動総括欄

本委員会は平成25年度に新しく設置された。主に、低学年のうちからのキャリア教育導入の検討と、各年次ごとのキャリア支援の検証と今後の計画立案を行った。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月26日	平成24年度卒業生の就職状況についての報告／現状のキャリア支援プログラムの共有と今後の課題について
第2回	5月24日	ポートフォリオ作成への意識づけについて／コミュニケーション力向上について／各領域・コースごとの個別ケアについて
第3回	7月5日	初年次教育でのキャリアサポート授業設置の検討／4年生の内定者状況／3年生の個人面談について
第4回	8月2日	初年次教育でのキャリアサポート授業設置の検討／セミナー報告
第5回	9月9日	初年次教育でのキャリアサポート授業の具体的内容／4年生の内定者状況について／後期のセミナー計画
第6回	10月4日	初年次教育でのキャリアサポート授業の授業テーマとプログラム
第7回	11月1日	初年次教育（教養基礎）「社会人基礎力」授業内容
第8回	11月29日	初年次教育（教養基礎）「社会人基礎力Ⅰ～Ⅲ」／キャリア支援のあり方についての意見交換
第9回	1月10日	今後のキャリア支援／4年生の進路状況
第10回	2月6日	今後のキャリア支援／8月に計画している就活イベントの概要

■2013年度 大阪 梅田キャンパス 看護学部

委員会名		教務委員会
設置根拠		看護学部 教務委員会規程
構成員	委員長	河合洋子
	委員（教員）	巽 圭太、日高庸晴、原田俊子、米倉摩弥、木村 静、片山知美、上山直美

活動総括欄

完成年度を迎えるにあたり、講義・実習等が円滑に行えるように教室使用について調整を行った。時間割作成や定期試験の実施時期等を工夫することによって、4年次生の卒業判定を円滑にすすめた。また、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について検討を重ねている。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月2日	学生の異動について、単位認定について、前期定例会議日程について
第2回	5月1日	学生の異動について、新入生既修得単位の認定について、講義資料の印刷方法について、定期試験の実施方法の見直しについて、授業評価アンケートの実施方法の見直しについて
第3回	6月5日	学生の異動について、定期試験の日程および実施方法の見直しについて、授業評価アンケートの日程および方法等の見直しについて、平成25年度新入生ガイダンスについて、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について
第4回	7月3日	定期試験および追・再試験の時間割・試験監督について、後期時間割の再確認、後期ガイダンススケジュール（案）について、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について
第5回	9月4日	学生の異動について、前期科目の単位認定について、追試験の認定について、試験関係の意見交換、選択科目の履修登録と授業および試験放棄の状況について、出席管理システムの学生利用について、次年度の学年暦について、次年度の時間割について、後期ガイダンス内容についての確認
第6回	10月2日	学生の異動について、単位認定について、次年度の時間割について、次年度の学年暦（教務委員会関係）について、次年度の予算要求について、試験関係の意見交換
第7回	11月6日	学生の異動について、単位認定について、次年度の時間割について、定期試験について、次年度前期ガイダンススケジュール（案）について、次年度版Student Guide Book（教務委員会関係）の修正について、次年度の予算要求について、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について
第8回	12月4日	学生の異動について、単位認定について、次年度の時間割（案）について、後期定期試験について、次年度の学年暦について、次年度前期ガイダンススケジュール（案）について、次年度の予算要求について、基礎分野科目における基礎学力強化（理系科目）について、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について
第9回	1月7日	単位認定について、後期定期試験について、次年度前期ガイダンススケジュール（案）について、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について、Student Guide Bookの改正について
第10回	2月5日	学生の異動について、4年次生単位認定と卒業判定について、後期定期試験について、次年度前期ガイダンススケジュールについて、成績評価の根拠となる資料の保管方法と期限について、卒業後の学生フォローアップについて、魅力ある授業を目指して、現状を振り返る

委員会名	学生委員会	
設置根拠	看護学部 学生委員会規程	
構成員	委員長	八田勘司
	委員（教員）	澤田京子、中山直則、島田亜紀子、末廣由夏、森岡広美

活動総括欄
学生の福利厚生、課外活動、学生相談、健康管理、厚生指導などの必要な事項を審議した。今年度は学生生活調査やチューターガイドの作成や見直し、防犯セミナーや学生自治会活動のサポートを行った。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月9日	今年度の計画と役割分担について、学生委員会の規程改定について、会議日程の変更について、チューター主任の選定
第2回	5月7日	学生生活調査内容について（継続審議）、大学周辺でのたばこの喫煙について、防犯講義（曾根崎警察署）について・保健室の利用状況について
第3回	5月15日	宝塚大学奨学金制度判定について、学生生活調査表について、廃部届について、学生委員会規程の目的について
第4回	6月5日	学生生活調査について、チューターガイドの検討、宝塚大学奨学金制度について、自治会担当者からの報告、保健室の利用状況について
第5回	7月3日	チューターガイドについて、チューター分担表変更について、学生委員会規程の検討、課外活動願について、学生生活調査進捗状況について、自治会について、保健室利用状況の報告
第6回	9月4日	退学者への支援について、自己点検・評価について、後期ガイダンスについて、チューター全体会議について、StudentGuideBookについて、謝恩会について、StudentAssistantについて、国試の模擬試験について、学生生活調査の結果について、自治会について（会則の変更、会費の管理）、防犯セミナーについて
第7回	10月2日	StudentGuideBookについて、学生生活調査自由記載について、自治会について（経過報告）、防犯セミナーについて、宝翔祭について、スノーマンフェスティバルについて、保健室利用状況について
第8回	11月6日	StudentGuideBookの追加項目（SNS）について、チューターガイドブックの追加項目について、自治会の経過報告について、宝翔祭について、スノーマンフェスティバルについて、学生生活調査項目の検討について、保健室利用状況について
第9回	12月3日	学生生活調査結果に基づく改善策について、サークルの申請について、長期欠席者の対応について、学生自治会について、学生自治会について、保護者会資料について、保健室利用状況について
第10回	1月7日	学生の喫煙マナーについて、自治会（臨時総会・クリスマス会）について、スノーマンフェスティバルについて、保健室利用状況について
第11回	2月5日	学生アンケート自由記載の回答について、前期ガイダンス内容の検討、年間業務のまとめについて、インフルエンザ・ノロなどの感染症発生状況、保健室利用状況について

委員会名		入試委員会
設置根拠		看護学部 入試委員会規程
構成員	委員長	内山和美
	委員(教員)	中馬成子、巽 圭太、日高庸晴、澤田京子

活動総括欄

平成26年度学生受け入れに向け、5月の造形芸術学部共同の高校教員対象入試説明会をはじめ、高校訪問、オープンキャンパス、入試相談会等も積極的に実施をした。近畿圏における看護学部の学生募集状況はますます厳しくなることは必至である。優秀な学生を確保するために入学選考の改革にも積極的に取り組み、入学選考方法においては公募推薦入学選考で基礎学力検査導入をした。また、平成27年度センター入試利用へ向けて、大学入試センターへ通知をした。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月3日	審議事項：1.平成26年度指定校推薦枠について 2.平成26年度入学選抜基準について 報告事項：1.平成25年度入学試験・受験・合格者の内訳
第2回	5月1日	審議事項：平成26年度一般入学選考基準について 報告事項：なし
第3回	6月5日	審議事項：1.看護学部入試委員会規定 2.入学前教育の取り組みについて 3.進級判定会議資料等の追加項目 報告事項：1.公募推薦入学選考「基礎学力検査」業者との打ち合わせについて 2.指定校推薦入学選考役割分担について 3.大学入試センター参加について
第4回	7月3日	審議事項：なし 報告事項：1.一般入試出題ミス文科省報告 2.公募推薦入試「基礎学力テスト」進捗状況
第5回	9月4日	審議事項：なし 報告事項：1.平成26年度推薦入学選考進捗状況 2.平成27年度大学入試センター試験実施導入に向けての事前相談
第6回	10月2日	審議事項：1.公募推薦入学選考学力試験等の配点について 2.解答用紙(マークシート)の形式 報告事項：1.平成26年度推薦入学選考の進捗状況 2.平成27年度大学入試センター試験実施導入に向けての事前相談
臨時	10月15日	審議事項：なし 報告事項：1.基礎学力検査問題の搬入確認作業 2.基礎学力検査の解答上の注意(案)の検討 3.センター試験の利用方法の試案の検討 4.センター試験共同実施に関して入試課からの報告 5.2015年度新課程入試について 6.平成26年度推薦入学選考指定校推薦面接について
第7回	11月5日	審議事項：なし 報告事項：1.推薦入学選考実施要領の検討 2.平成27年度大学入試センター試験実施導入に向けて
臨時	11月11日	審議事項：なし 報告事項：1.指定校・公募推薦入学選考の採点結果について
第8回	11月12日	審議事項：なし 報告事項：1.指定校・公募推薦入学選考合否判定範囲について 2.マークシート受験番号ケタ数について 3.センター入試について
第9回	12月2日	審議事項：なし 報告事項：1.平成27年度大学入試センター試験実施導入に向けての進捗状況 2.推薦入学選考入学手続きについて 3.平成27年度入学試験における理科の出題範囲についての再検討 4.平成26年度一般入学試験実施要領の進捗状況 5.平成27年度入試の取り組みに向けて
第10回	1月7日	審議事項：なし 報告事項：1.推薦入学選考入学手続きについて 2.神戸朝鮮高級学校の入試取り扱いについて 3.平成26年度一般入学選考実施要領の校正 4.平成26年度一般入学選考2期について

委員会名	実習委員会	
設置根拠	看護学部 実習委員会規程	
構成員	委員長	藤原正恵
	委員（教員）	藤田俱子、池内里美、岩下真由美、郷司律子、前原なおみ、美王真紀、吉井紀子 江村多加子、高橋篤信、松田佳子

活動総括欄

実習年間計画や実習要綱の作成、実習施設連絡協議会の運営等を行う。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月18日	実習委員会規程の見直し、平成25年度実習委員会の予定、平成25年度実習要綱について看護学実習における個人情報の適切な取り扱いについて等
第2回	5月15日	平成25年度実習要綱について、看護学実習における個人情報の適切な取り扱いについて、3年次生への実習オリエンテーションについて、実習施設連絡協議会について等
第3回	6月19日	3年次生への実習オリエンテーションについて、実習施設連絡協議会について
第4回	7月17日	3年次生への実習オリエンテーションについて、平成25年度後期～平成26年度前期における実習配置表、実習施設連絡協議会について、総合実習の評価について等
第5回	9月11日	実習施設連絡協議会について、平成26年度実習予定について等
第6回	10月16日	実習施設連絡協議会の反省について、平成26年度実習予定について、平成26年度実習委員会の予算について等
第7回	11月20日	平成26年度実習予定について、平成26年度実習委員会の予算について等
第8回	12月18日	実習記録の記載について等
第9回	1月15日	平成26年度前期実習予定表について等
第10回	2月19日	平成26年度後期から平成27年度前期の実習について（予定人数、配置など）、平成27年度実習予定表について、ツベルクリン検査の判定について（役割など）等

委員会名	図書委員会	
設置根拠	看護学部 図書委員会規程	
構成員	委員長	米倉摩弥
	委員（教員）	岩下真由美、前原なおみ、酒井喜久子

活動総括欄

各領域別に図書資料の購入希望をリストアップし計画的に購入できた。毎月の図書館の利用状況と問題点を把握し、対応策を検討、特に図書返却の促進、新規データベースの導入、必要資料の次年度予算への反映を図ることができた。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月24日	委員会規程について、病院実習に持参する図書について、図書館利用状況報告について、希望図書リストアップ年間計画について
第2回	5月22日	図書委員会の所掌事項について、図書館利用状況と問題点について（ブース利用・延滞・貸出・放置・不明図書・配置）、領域別選定図書について
第3回	6月26日	領域別選定図書について、図書館利用状況（学年別貸出冊数・返却延滞者）について
第4回	9月25日	領域別選定図書について、図書館利用状況（学年別貸出冊数・返却延滞者）について、来年度の物品購入希望について、不明・紛失図書について
第5回	10月23日	開館時間の延長について、C I N A L（電子ジャーナル・データベース）の導入について、図書館利用状況について、文献取寄せの現状について
第6回	11月27日	図書館利用状況について、C I N A H L・Ciniiの導入について、2014年度予算案について
第7回	1月29日	図書館利用状況について、4年次生延滞図書回収・卒業生の図書館利用方法について

委員会名	国家試験対策委員会	
設置根拠	看護学部 看護師保健師国家試験対策委員会規程	
構成員	委員長	原田俊子
	委員（教員）	人見裕江、上山直美、片山知美、藤田俱子、池内里美、森岡広美、美王真紀、吉井紀子

活動総括欄

模試や対策講座を開催し、学生に個人別学習プログラムを作成させ、学生自身が習熟度を確認しながら弱点を克服していけるような環境を整備。また、1年次より意識付けを行うなど長期計画を立て意欲を持って取り組めるよう、多面的な学習支援を実施してきた。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月10日	新メンバーの紹介、年間スケジュールの確認、各担当の進捗状況、模試結果の成績による学生クラス分けについて、過去問題の書籍購入について、委員会規程について
第2回	5月15日	2月25日現3年次生模試結果、模試・外部対策講座の開催について、教員セミナー参加報告、委員会規程任務内容について、委員会の業務分担と担当について、平成25年度年間スケジュール計画、基礎専門領域の学力強化について、チューターに対する学生学習支援方法の提案、低学力者支援、対策問題集の紹介と活用
第3回	6月19日	委員会規程任務内容について、模試・外部対策講座の開催について、チューターへの情報提供、テキスト購入について、9月実施の対策講座について、書籍紹介、模試の担当者・解答用紙について
第4回	7月17日	模試・外部対策講座の開催について、チューターに対する学生学習支援方法の具体的提案、書籍紹介・書籍販売について
第5回	8月21日	書籍紹介について、各領域における小テストの実施について、8月3日の模試の課題と対策について、保護者に対する協力依頼について
第6回	9月18日	国試対策情報報告、教員への情報提供、領域別対策講座の現状、保健師国試模試の状況、10月特別講座テキストについて、保護者への郵送連絡について、スケジュール確認、低学力者の割出しと学習支援、学生へのアンケートの実施、学外教育関連の平成26年度予算作成、前期委員会活動の達成状況確認
第7回	10月16日	別日模試受験願用紙の活用、小テストの成績、平成26年度予算案作成、国試過去問題実施、国試後の自己解答日程、教員への情報提供、低学力者への学習支援
第8回	11月20日	年度内行事のスケジュール調整、模試結果と今後の対策、平成26年度予算案作成、保護者への情報提供
第9回	12月18日	12月12日4年次過去問題結果と課題、平成26年度予算案作成、国試に向けて学生連絡事項、2年次、3年次生模試日程調整と案内、次年度活動計画、講演会参加報告
第10回	1月15日	1月8日・9日模試結果と課題、特別講座報告、低学年模試申込状況、3年次模試日程と案内、国試ガイダンス、国試前泊宿泊施設案内、国試合格報告について、来年度予算、対策講座への参加状況
第11回	2月19日	国家試験報告、国試自己採点実施と結果、模試日程及び申込み状況について、平成26年度委員会年間活動計画・学外講座日程、前期卒予定者のフォローアップ、国試対策学生委員の選出について

委員会名	キャリア支援委員会	
設置根拠	看護学部 キャリア支援委員会規程	
構成員	委員長	人見裕江
	委員（教員）	末廣由夏、野島敬祐

活動総括欄

昨年度までは学生委員会が活動の一つとして就職支援・進路支援を行っていたが、学生一人ひとりに対する指導の強化、実際の卒業後の進路を見据えた支援の更なる強化のため、平成25年4月に新たに委員会を立ち上げ、1年間活動を行ってきた。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月8日	前年度の進路支援状況及び第1回～3回就職支援ガイダンスの内容報告、今後の検討課題について
第2回	4月24日	委員会規程について、進路支援活動について、進路希望調査票の作成と学生への送付、キャリアカウンセリング（面談）の実施、合同病院説明会の開催状況と学生への案内、進路支援に関する記録様式、医療施設からの来学状況
第3回	5月22日	委員会規程について、就職活動の流れと支援のあり方、キャリアセンター業務、進路希望調査票とキャリアカウンセリング（面談）の進捗状況、医療施設からの来学状況
第4回	6月26日	学生面談状況報告、就職活動における約束事の周知、9月ガイダンス時のキャリア形成講義の実施、医療施設の来学状況、委員会規程について、病院見学会、キャリア支援年間スケジュール案について
第5回	7月24日	学生面談状況報告、医療施設の来学状況、キャリア支援スケジュール、4年次対象キャリアデザインⅣの実施について、メンタルサポート、病院バス見学企画について
第6回	9月25日	学生面談状況報告、病院見学報告、助産学専攻科受験希望者への対応、キャリア支援の進捗状況、国試合否発表後の動きについて
第7回	10月23日	4年次生内定状況、9月27日キャリアデザイン講座について、3年次生対象キャリアデザインⅡ②・Ⅲ、1～4年次生対象病院合同説明会について
第8回	11月25日	4年次生内定状況、3年次生対象キャリアデザイン、初年次教育について
第9回	12月23日	4年次生内定状況及び個別の対応状況について、初年次教育、3年次生対象キャリアデザインと学内での病院合同説明会の開催について
第10回	1月22日	4年次生内定状況及び国試模試状況について、初年次教育案について、キャリアデザイン、病院合同説明会の開催について
第11回	2月19日	4年次生内定状況及び国家試験自己採点状況等について、初年次教育について、キャリアデザイン、病院合同説明会の開催について

委員会名	紀要編集委員会	
設置根拠	看護学部 紀要編集委員会規程	
構成員	委員長	日高庸晴
	委員（教員）	河合洋子、小神野雅子、木村静

活動総括欄

本学紀要は、教員の研究成果の公表の場として、学際的な研究、特に若手研究者の発表の場を提供することを目的に、年一回、他キャンパスの2学部と合同で編集、発刊している。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月17日	1. 平成25年度（26号）募集スケジュールについて 2. 募集要項について
第2回	5月15日	1. 紀要原稿日程について 2. 募集要項について 3. 投稿規程について
第3回	7月30日	1. 査読依頼文について 2. 査読要領について
第4回	10月3日	1. 査読者の選任について 2. 今後の予定について
第5回	10月30日	査読結果の決定について
第6回	11月26日	再提出された論文の確認と再査読依頼について
臨時	12月10日	再査読報告書の確認について
第7回	12月18日	1. 再査読報告書の確認について 2. 再査読依頼について
第8回	1月15日	投稿者より再提出された原稿の内容確認と査読結果・論文の種類について

委員会名	倫理委員会	
設置根拠	看護学部 倫理委員会（ハラスメント）規程	
構成員	委員長	
	委員（教員）	中馬成子、巽 圭太、藤原正恵
	事務職員	小原欣士

活動総括欄

委員会規程、定義、本学の方向性を確認するとともに、ハラスメント相談窓口の設置と周知に努めた。（現時点での相談は0件。）また、ハラスメントに対する理解を深め、意識を向上させることを目的に、2013年8月26日、本学の顧問弁護士を招き、本学教職員を対象に大学におけるハラスメント（セクハラ・アカハラ・パワハラ）に関する講習会を実施（40名の教職員が参加）。

委員会名	研究倫理委員会	
設置根拠	看護学部 研究倫理委員会規程	
構成員	委員長	藤原正恵
	委員(教員)	中馬成子、巽 圭太、中山直則、吉永茂美

活動総括欄

研究倫理審査について、8月を除く毎月、定例の審査日を設定し、申請方法と共に教員に対する周知をし、実際に研究者からの研究倫理審査申請を受けて、倫理的配慮について審査を行った。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	4月12日	平成25年度研究倫理審査日程について、副委員長について、審査日・申請締切日の周知について
第2回	5月22日	委員会規程の改正について
研究倫理審査		
第1回	5月22日	倫理審査の実施
第2回	6月26日	倫理審査の実施
第3回	9月25日	倫理審査の実施
第4回	2月26日	倫理審査の実施

委員会名	FD委員会	
設置根拠	看護学部 FD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会規程	
構成員	委員長	吉永茂美
	委員(教員)	八田勘司、米倉摩弥、島田亜紀子、野島敬祐

活動総括欄

前年度より引き続き、看護学部独自のFD活動を推進するため、日本看護系大学協議会が設ける基本原則を参考基準とし、活動方針を検討した。本年度、本学に必要な内容について基本と照らし合わせながら意見交換し、年間行事等との調整をしつつ研修会を企画している。又、宝塚キャンパスFD委員とも情報交換を行い、両学部の研修会情報を共有し周知させることで、双方の教職員が参加できるよう連携を密にするよう努めている。

活動状況

実施回	開催日	議 題
第1回	5月1日	・前年度までのFD活動の確認と平成25年度FD活動計画について ・今年度のFD委員会の活動方針について
第2回	6月5日	・FD委員会規程 審議事項欄の検討について ・6/8開催FD研修会の最終確認について ・今年度のFD活動企画について ・FD委員 研修会参加について
第3回	7月3日	・6/8 開催 FD研修会 についての全体反省 ・委員会発行の認定証について ・今年度のFD企画について ・伝達講習実施について ・大学調査研究プログラム新入生調査(JFS2013)(同志社大学高等教育・学生研究センター)の実施について
第4回	9月4日	・FD委員会開催時間について ・今年度のFD企画について
第5回	10月2日	・今年度のFD企画について
第6回	11月6日	・11/27 開催予定 FD研修会の役割について ・研修会終了時の「講演会に関するアンケート」について
第7回	12月4日	・11/27 開催 FD研修会の全体反省について ・研修会アンケート結果について ・FD委員参加の11/2開催「教員のための国試対策講演会」についての報告
第8回	1月8日	・11/27 開催 FD研修会の記録について ・大学調査研究プログラム新入生調査(JFS2013)の結果について ・2/26 開催予定 FD研修会の詳細について
第9回	2月5日	・2/26 開催予定 FD研修会 について企画進捗状況報告 ・FDプログラム登録(千葉大学看護実践研究指導センター)の参加について

10. 教育の改善と活性化対策

本学は教育の質の向上を目指し、授業の内容・方法等の改善をその都度行うべく、開学以来考えられる多くの方策を講じることに努力している。それらを以下に列挙する。

10-1 授業計画（シラバス）の編集・発行

本学独自の個性が輝く教育研究を推進し、学生諸君が十分に理解でき、具体的に興味をおこさせるような、4年間を通して系統立った学習の全体像が学生に理解できるシラバス（授業計画）を提供するというのが本学の基本の方針である。

この方針に基づき、本学では平成4年以降、年間を通じ、各授業時間ごとに行なう授業内容を具体的に明示したシラバスを発行し、学生・教職員に配布している。

これによって学生は4年間の授業内容をあらかじめ知ることができ、これがそれぞれの学修目的にそった履修選択に際しての目安となり、履修計画を立てる上からも、予習・復習にも便利になっていることはいうまでもない。

教員にとっても他の教員の授業との関連がつかめ、授業間の相互調整を可能にし、さらに毎年授業内容を見直し改善する習慣がついて、教育内容の充実向上に大いに役立っている。

最近は大大学ともとりわけシラバスの充実重点をおいてきており、そのためユーザとしての学生諸君の目も肥えてきている。完成度の高い、キメ細かいものでなくては、このような学生諸君に対してアピールしていくことは困難である。目の肥えた、さまざまな意識や目的をもった学生諸君を対象にして行くためには当然従来以上のスキルが必要になってくる。電子メディアが続々と登場するデジタル時代に、このような紙ベースのシラバスが生き残るためには、一目見てよくわかる内容のPriority, 内容を判断させる導入文の工夫など、学生諸君にわかりやすいように工夫しなければならない。シラバスに、アカウントビリティ、ディスクロージャー、対話型コミュニケーションのツールとして、さらには学生諸君を対象に提供すべきサービスの諸機能が新たに加わってきた。シラバスはこれからの大学教育にとって極めて重要なものであると言えよう。

さらに「授業計画」（シラバス）の刊行配布は、「教育内容の評価」を「大学自身による自己評価」にとどめず「第三者による授業評価」あるいは「相互評価」への道をひらいたことになるともいえる。

10-2 学外見学・学外研修（平成23年度～平成25年度）

学外見学・学外研修 宝塚キャンパス（平成23年度）

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
専門ラボラトリーⅠ	天王寺動物園	デザイン制作に関する現況調査、資料収集
美術史・美術理論Ⅲ 〔日本美術史演習Ⅰ〕	法隆寺	実物に触れて日本美術への理解を深める
専門ラボラトリーⅠ	阪急今津駅周辺	作品撮影（ロケ）
博物館概論・博物館資料論	中山寺宝物館	実際の展示方法を理解する
VD&ADTⅢ〔アドバタイジングフォトグラフィ〕	京都芸術センター	学外撮影
写真Ⅳ〔コンセプト・プランニング〕	京都芸術センター	学外撮影
ミュージックコンテンツマネジメント論	京都・御霊神社 かがり火コンサート	コンサートの仕組みを学ぶと共に、神社という空間がライブでどう変化するか学習する
日本画演習Ⅰ、日本画Ⅲ、日本画Ⅳ	京都府立文化芸術会館	日本画BAKU展見学及び作家とのディスカッション
専門ラボラトリーⅠ	阪急西宮北口駅周辺	作品撮影（ロケ）
東洋美術史Ⅰ	奈良国立博物館	「誕生、中国文明の展」の見学
伝統芸術表現研究Ⅲ 〔書芸術の理論と表現〕	黒川古文化研究所	中国書画と鉄斎藝術の鑑賞
デザインマネジメント演習Ⅰ	梅田 大阪ステーションシティ	市場調査
専門ラボラトリーⅠ	尼崎市総合文化センター 美術ホール	第11回上野彦馬賞受賞作品展、並びに百瀬俊哉写真展見学
写真Ⅲ〔フォト・ジャーナルⅠa〕	尼崎市総合文化センター 美術ホール	第11回上野彦馬賞受賞作品展、並びに百瀬俊哉写真展見学
基礎セミナーⅠ	尼崎市総合文化センター 美術ホール	第11回上野彦馬賞受賞作品展、並びに百瀬俊哉写真展見学
イラストレーションⅣ〔イラストレーションプレゼンテーション〕	心斎橋スポニチプラザ他ギャラリー	絵画・イラストレーション鑑賞、展示方法研修
映画Ⅲ〔映像芸術論〕	妙見山	撮影実習
専門ラボラトリーⅠ	妙見山	撮影実習
専門ラボラトリーⅠ	阪急宝塚駅周辺	作品撮影指導（ロケ）
写真演習Ⅰ、写真Ⅲ〔コンピュータグラフィックスⅠ〕	大阪ニコンサロン	大阪写真月間の見学とシンポジウム
写真Ⅲ〔アドバタイジングフォトグラフィⅠa〕、写真Ⅳ〔アドバタイジングフォトグラフィⅡ〕	中平卓馬「キリカエ」展 Six	写真展鑑賞とリバーサル撮影
専門ラボラトリーⅠ（2年）、特別研究（3年）	兵庫県立美術館	展覧会鑑賞、上映の打合せ
専門ラボラトリーⅠ（2年）、特別研究（3年）	元町映画館	映画鑑賞
ファッションデザイン演習Ⅰ	神戸ファッション美術館	「コレクション展1960's～2000's FASHION」見学
MSDⅢ〔ミュージックプロデュースⅠ〕	グランキューブ大阪（大阪国際会議場）10F	最新音響機器の機能を学ぶことを目的とします。
建築&ショップデザインⅢ〔建築計画Ⅲ〕	中之島デザインミュージアム	施設、展示の見学『野井成正の表現』

舞台照明デザインⅠ	難波パークス	難波パークス空間演出見学
写真Ⅲ〔フォトジャーナルⅠa〕	毎日新聞社	報道最前線、新聞社見学
写真Ⅲ〔フォトジャーナルⅠa〕	毎日新聞社航空部格納庫	報道最前線、毎日新聞社航空部見学
専門ラボラトリーⅠ	池田栄町商店街	タウン実地見学
伝統芸術表現研究Ⅱ (生け花の理論と表現)	八坂神社	祇園祭 見学・実習
デザインマネジメント演習Ⅰ	阿倍野109ファッションセンター	市場見学
建築&ショップデザインⅢ〔建築計画Ⅲ〕	阪急梅田駅 など	実物の建築物にふれる
放送Ⅳ〔放送番組制作〕	ユニバーサルシティウオーク	卒業制作の撮影
日本画Ⅳ〔日本画創作演習(B)〕	大阪市立美術館	全関西展鑑賞
専門ラボラトリーⅠ	ギルドギャラリー・テンポラリー	作品展示構成の実際を現場で学ぶ
写真Ⅳ〔コンセプト・プランニング〕	国立国際美術館	写真展の鑑賞
舞台照明デザインⅠ	難波パークス	難波パークス空間演出見学
日本画Ⅲ〔日本画演習Ⅱ(B)a)、日本画Ⅳ〔日本画創作演習(B)〕、日本画Ⅳ〔修復技術特別研究(日本画)〕	京都市美術館/京都文化博物館	フェルメール展 日本画きのう京あす展
美術史・美術理論演習Ⅰ、美術史・美術理論Ⅳ〔修復技術特別研究Ⅱ〕	京都市美術館/京都文化博物館	フェルメール展 日本画きのう京あす展
写真Ⅲ〔アドバタイジングフォトグラフィⅠa〕、写真Ⅳ〔アドバタイジングフォトグラフィⅡ〕	(株)プロテック Aスタジオ	プロの現場・貸スタジオでの撮影
写真Ⅰ、写真Ⅲ〔フォト・ジャーナルⅠa〕	尼崎市総合文化センター	林 忠彦 写真展見学
東洋美術史論	京都国立博物館	京都国立博物館 特別展観の見学
建築&ショップデザインⅢ〔建築計画Ⅲ〕	大阪本町周辺の建築群	実物の建築物にふれる
舞台芸術Ⅲ〔舞台照明デザイン演習Ⅰ〕、舞台照明デザインⅠ	宝塚ホテル 宝寿の間	宝塚歌劇団ディナーショーの仕込み、撤去、設備見学
博物館情報論	国立民族学博物館	現地実習
CAD実習Ⅱ、ショップデザインスキル、建築構造デザイン、建築計画Ⅱ	大阪城	実際の建築構造の見学
専門ラボラトリーⅡ	神戸ビエンナーレ	美術鑑賞
伝統芸術表現研究Ⅲ (書芸術の理論と表現)	梅花女子大学	資料を探す 等

インテリア・スペースデザイン演習Ⅰ、インテリアデザインⅢ〔インテリアデザインⅣ〕	TOYOキッチン大阪ショールーム、カッシーナショールーム	家具・キッチン現物視察の為
建築&ショップデザインⅢ〔建築構造デザイン〕	大阪ビル街	実物の見学
舞台芸術Ⅱ、舞台芸術表現研究、舞台芸術Ⅲ〔シニックデザインⅡ〕、舞台芸術Ⅲ〔映像美術Ⅱ〕	NHK大阪放送局	テレビ制作現場の見学授業
放送Ⅲ〔TVアートデザインⅡ〕	NHK大阪放送局	テレビ制作現場の見学授業
東洋美術史論	京都国立博物館	京都国立博物館特別展見学
基礎技術セミナーⅡ(デザイン)	京都国立近代美術館	写真作品(美術館収蔵品)の魅力を知る
美術史・美術理論Ⅲ〔日本美術史演習Ⅱ〕	京都文化博物館 龍谷大学ミュージアム 西本願寺	実際の作品にふれて日本美術への理解を深めるため
美術史・美術理論Ⅲ〔美学演習Ⅱ〕	京都市美術館	ワシントン・ナショナル・ギャラリー展見学
基礎セミナーⅠ(美術)	View of artist アーティストの集い	「世界制作の方法」「アンリ・サラ」「中之島コレクションズ」「若手アーティストの7名によるプレゼンテーション」鑑賞
建築&ショップデザインⅢ、インテリアデザインⅢ〔アーバンデザインⅡ〕	木津川アート、木津エリア	木津川アート(芸術フェスティバル)見学
写真Ⅲ〔ファインアート・フォトグラフィⅠb〕、卒業制作・論文、写真演習Ⅱ	妙見山、妙見山クッキングセンター	写真撮影、作品制作(ロケ)
写真演習Ⅱ	満願寺	撮影
卒業制作・論文Ⅳ(プロダクト・インテリア)	協業工房	市場調査・見学
WHDIVCMAⅣ〔マルチメディア造形Ⅱ〕、卒業制作・論文、WMMⅢCMAⅢ〔Webコンテンツデザイン演習〕	国立国際美術館	展覧会鑑賞
デザインマネジメント演習Ⅱ	阪急百貨店、阪神百貨店、大丸百貨店	市場調査
写真Ⅲ〔アドバタイジングフォトグラフィⅠb〕、卒業制作・論文	キャノンギャラリー梅田&セミナールーム	写真鑑賞及びトークショー参加
伝統芸術各論Ⅱ(芸道論)	(財)圓山記念日本工芸美術館	集中講義 補講一日分
伝統芸術表現研究Ⅱ(生け花の理論と表現)	大阪市立美術館「琳派をひもとく」展	日本画と花の接点である琳派を見る経験とする

写真アート論	阪神百貨店 梅田本店	作品研究
写真演習Ⅱ	国立国際美術館	草間弥生展
専門ラボラトリーⅡ、 ファインアート・フォ トグラフィⅠb、卒業 制作、コンピュータグ ラフィックスⅡ	ニコンサロン大阪bis	写真コース卒業制作展ギャラリー参加
写真Ⅲ〔現代写真作家 論(日本・海外)Ⅱ〕、 写真アート論	国立国際美術館	作品鑑賞と研究
ステージデザインⅡ	宝塚大劇場	宝塚歌劇舞台裏見学会(補講)
東洋美術史論	京都国立博物館	特別展『中国近代絵画と日本』の見学
舞台照明デザインⅡ	神戸文化中ホール、シアターブ ラバ	ミュージカル ズボン船長 公演見学手伝い
伝統芸術各論Ⅱ(伝統 芸能論)	大槻能楽堂	大槻能楽堂自主公演能 研究公演
ファッションデザインⅡ	国立国際美術館	色彩とプリントからのデザイン発想力を養う為

学外見学・学外研修 東京新宿キャンパス (平成23年度)

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
伝統芸術各論Ⅲ	国立劇場(小劇場)	人形浄瑠璃文楽鑑賞
美術史特論	東京国立博物館	常設展観覧
伝統芸術総論	三井記念美術館	学外研修・見習
伝統芸術総論	東京藝術大学美術館	見学・指導
ロックミュージック概 論Ⅱ/デザイン概論Ⅱ	学生クリエイターズフェスティ ン新宿	学生クリエイターズフェスタの見学
3DCGアニメーション	日本科学未来館	3Dアニメの見識を広げる
イラストレーション表 現基礎Ⅱ	東京葛西臨海公園	探鳥会
プリンティングワーク	印刷博物館	見学
グラフィックデザイン	板橋区立美術館	2011イタリアボローニャ国際絵本原画展見学
グラフィックデザイン	e顔バック展	作品及び展示の見学
デッサン	新宿御苑	植物スケッチ
イラストレーションコ ース3年生	江の島伊藤 正道先生のギャラ リー	ギャラリー見学及びレクリエーション
イラストレーションコ ース4年生	神保町界限	街並見学
マンガコース4年生	桜美林大学 伊豆高原クラブ	卒業制作作成合宿
映画演出Ⅱ	庄野宅(さいたま市南区別所)	撮影実習
映画制作演習Ⅰ	庄野宅/赤羽橋/Ch ez S I B U Y A/旧岩淵水門	実習制作
映画制作演習Ⅱ	東京工芸大学厚木キャンパス周辺/高尾 の森わくわくビレッジ/居酒屋かあさん	実習制作
映画制作演習Ⅰ	新宿駅周辺	人物・キャラクター研究
映画卒業制作	和泉玉川駅周辺/鈴木宅/高野宅 /玉川河川敷	課題実習制作
映画卒業制作	倉本宅/千田宅/舟島稲荷/レス トラン公公婆婆	課題実習制作
撮影技術Ⅰ・Ⅱ	新宿中央公園	授業課題実習

西洋映画史	新宿中央公園	新宿は世界からどのように見られているか
サウンドデザイン	大学周辺	サウンドマップ作成のため
イラストレーション	東武デパート美術画廊	北見 隆教授の個展見学
イラストレーションⅡ	M A Y A 2 (ギャラリーハウスマヤ)	展示発表の実際を体験見学する
アニメ卒業制作	浜辺利郷邸 研修室	卒業制作合宿

学外見学・学外研修 大阪梅田キャンパス (平成23年度)

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
伝統芸術表現研究Ⅰ (茶道と香道の理論と表現)	山田松香木店	香の実践
伝統芸術表現研究Ⅱ (生け花の理論と表現)	京都 八坂神社	祇園祭 見学・実習
マスコミと報道	朝日新聞社 大阪本社	新聞社の機能を知る
マスコミと報道	朝日新聞社 阪神支局	記者殺害など新聞社に対する暴力事案を知る

学外見学・学外研修 宝塚キャンパス (平成24年度)

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
写真アート論(修士・博士)、●写真Ⅳ〔ファインアート・フォトグラフィⅡ〕	国立国際美術館	コレクション展(現代写真)鑑賞およびシンポジウム聴講
立体造形演習Ⅲ	大阪中之島沿道 他	パブリックに設置された彫刻作品の実例の見学
専門ラボラトリーⅢ	ハセガワアート	画材研究
創造基礎	大学～万願寺～大学グラウンド～大学	制作の為のフィールドワーク
デッサン(静物)	京都府立文化芸術会館	グループ博覧鑑賞及び作家とのディスカッション
日本画Ⅳ〔日本画創作演習(B)〕、日本画演習Ⅰ	京都府立文化芸術会館	グループ博覧鑑賞及び作家とのディスカッション
写真Ⅰ、写真Ⅲ、●写真Ⅳ〔アドバタイジングフォトグラフィⅡ〕	梅田界限→キヤノンギャラリー梅田	街に溢れた写真たち・写真展鑑賞
伝統芸術表現研究Ⅲ(書芸術の理論と表現)	京都国立博物館	陽明文庫の名宝(熊野懐紙)の鑑賞
比較芸術学特論	京都国立博物館	陽明文庫名宝展
教職課程「環境問題と教育Ⅰ」	青山高原風力発電施設、伊賀南部クリーンセンター(清掃工場)、特別養護老人ホーム 森の里	現地見学
●WMMⅣ、●CMAⅣ〔マルチメディア造形Ⅰ〕、●卒業制作・論文	M o v i n s	展示見学
●写真Ⅳ〔コンセプトプランニング〕	京都芸術センター	学外撮影及びギャラリー巡り
専門ラボラトリーⅠ	王子動物園	動物スケッチ
専門ラボラトリーⅠ	王子動物園	動物スケッチ
アーバンデザインⅠ	インスタントラーメン発明記念館	展示、プレゼンテーションの事例調査

衣装美術Ⅰ	宝塚大劇場	テクニカルリハーサル見学
●舞台芸術Ⅳ〔舞台表現制作〕	ピッコロシアター	卒業制作公演の下見・見学
舞台芸術Ⅲ、舞台芸術演習Ⅰ	ピッコロシアター	卒業制作に向けて現場見学
舞台照明デザインⅠ	なんばパークス	なんばパークスLED演出照明見学
舞台照明デザインⅠ	神戸朝日ホール	彩星りをん ファーストコンサート Heart to Heart 設営リハーサル見学
比較芸術学特論	平安神宮	薪能見学
伝統芸術表現研究Ⅲ (書芸術の理論と表現)	泉屋博古館	住友コレクションの日本・中国書画の鑑賞研究
専門ラボラトリーⅠ	能勢妙見山	企画立案
放送演習Ⅲ、●放送Ⅳ 〔放送番組制作〕	能勢妙見山 山頂	課外撮影実習
ビジュアルデザイン論、ビジュアルデザイン表現研究	大阪日本民芸館	民芸運動の研究
専門ラボラトリーⅢ	毎日新聞社	ジャーナリズム最前線の新聞社見学
舞台照明デザインⅠ	神戸朝日ホール	彩星りをん ファーストコンサート Heart to Heart 設営リハーサル見学
●写真Ⅳ〔フォト・ジャーナルⅡ〕	大阪市北区西梅田一帯	100万人のキャンドルナイト(西梅田)撮影実習
専門ラボラトリーⅠ	神戸ファッション美術館	オートクチュールドレスの展示見学(“憧れのイブニング・ドレス”)
伝統芸術表現研究Ⅱ (生け花の理論と表現)	八坂神社	祇園祭 見学、実習
舞台照明デザインⅠ	八尾プリズムホール	ミュージカル『ズボン船長』の公演仕込～本番見学
専門ラボラトリーⅠ	雲雀ヶ丘花屋敷周辺住宅街	スケッチ(写生)
産学連携事業(AEONモール伊丹昆陽)	AEONモール伊丹昆陽	現地及びブリーフィング打ち合わせ
写真演習Ⅲ	京都芸術センター	学外撮影及び展覧会鑑賞
ビジュアルデザイン論、ビジュアルデザイン表現研究	桂離宮	日本美術、建築の研究として
日本画Ⅳ〔日本画創作演習(B)〕	原田の森ギャラリー	25周年記念 日本画卒業生選抜展 見学
専門ラボラトリーⅠ	つつじヶ丘近辺住宅街	つつじヶ丘近辺住宅街スケッチ
美術史・美術理論Ⅲ	国立国際美術館	展覧会鑑賞
美術史・美術理論Ⅰ、美術史特論	兵庫県立美術館	展覧会鑑賞 及び学芸員による鑑賞ガイドレクチャー受講
専門ラボラトリーⅠ、専門ラボラトリーⅢ	京都市美術館別館	日本写真家協会写真展(JPS展)見学
産学連携 AEONモール伊丹昆陽イルミネーション	AEONモール伊丹昆陽店	設営
産学連携 AEONモール伊丹昆陽イルミネーション	AEONモール伊丹昆陽店	設営

産学連携 AEONモ ール伊丹昆陽イルミ ネーション 夏	AEONモール伊丹昆陽店	点灯式 WS
コンピュータアートデ ィレクション	大阪城ホール（アリーナ）	就活フェスタ We e kギャラリー見学／参加及びOG訪 問
放送番組制作、コンテ ンツプロデュース	手塚治虫記念館	映像展示、参考事例学習のため
ゲームⅠ、ゲームⅢ	東京ゲームショウ	新規ゲームの研究と市場調査
比較芸術学特論	兵庫県立美術館	バーン・ジョーンズ展見学
現代技法演習Ⅱ・洋画 Ⅱ	京都市美術館・京都近代美術館	美術展鑑賞
卒業制作・論文	川西市役所（長寿・介護保険）	100才のポートレート撮影（川西市連携事業）
放送演習Ⅱ	日清ラーメン館	日清ラーメン館の展示物及び映像を実際に見て勉強する
●卒業制作・論文	芦屋市立美術博物館	出品中の（芦屋写真展）作品の搬出撤去
環境問題と教育Ⅱ	大阪市環境局舞洲工場	現地見学
専門ラボラトリーⅡ、 専門ラボラトリーⅣ、 写真アート論（修士・ 博士）	伊丹市立美術館	伊丹市立美術館でのレクチャー聴講のため
●卒業制作・論文	芦屋市美術博物館	作品展の鑑賞
舞台照明デザインⅡ	新神戸オリエンタル劇場	シャンソンコンサート見学
伝統芸術総論	京都国立博物館	宸翰天皇の書 見学
美術史・美術理論Ⅳ	兵庫県立美術館	展覧会鑑賞
伝統芸術各論Ⅰ（伝統 空間構成論）	仁和寺	実物資料の体験学習（重文）
卒業制作・論文	ピッコロシアター	卒業公演の会場下見
日本画演習Ⅱ、●卒業 制作・論文	京都国立近代美術館	山口華楊展、大エルミタージュ美術館展
舞台照明デザインⅡ	ホテル阪急インターナショナル	宝塚歌劇団ディナーショー見学
舞台照明デザインⅡ	神戸朝日ホール	コンサート見学
産学連携	イオンモール伊丹昆陽	イルミネーション設営
美術史・美術理論演習 Ⅳ	人間国宝 谷野武信氏の谷徳製 紙所	和紙の紙漉き体験を通じて、紙を知る
●卒業制作・論文	川西市役所	官学連携100才のポートレート撮影
基礎セミナー、専門ラ ボラトリーⅡ、●卒業 制作・論文	大阪ニコンサロン	写真展（12/14開催予定の特別授業講師の個展）見学
アーバンデザインⅡ	大学周辺～満願寺	住宅地と里山の環境調べ
基礎セミナー	兵庫県立美術館	展覧会の鑑賞
卒業制作・論文	川西市役所	川西市との100才のポートレート撮影（連携事業）
書芸術の理論と表現Ⅱ	毎日関西代表作家展	書作品の鑑賞
教員採用試験対策ゼミ （自主授業）	画廊ブランシュ	美術教員と作家の両立を果たした方の回顧展見学
日本画演習Ⅱ、●卒業 制作・論文	京都市美術館	日展鑑賞
比較芸術学特論	国立国際美術館	エル・グレコ展見学
写真アート論（博士・ 修士）	天王寺ミオ（JR天王寺駅 駅 ビル）	トークイベント聴講参加
西洋美術史Ⅱ	伊丹市立美術館	展覧会鑑賞

美術史・美術理論Ⅱ、 美術史特論	横尾忠則現代美術館（兵庫県立 美術館分館）	展覧会鑑賞
美術史・美術理論Ⅳ、 西洋美術史論	国立国際美術館	展覧会鑑賞
放送演習Ⅱ・Ⅳ	ラウンドワン川西店	市中の空間における映像音楽表現の実体感
伝統芸術各論Ⅰ（伝統 空間構成論）	大徳寺、茶道資料館	伝統空間の見学
舞台照明デザインⅡ	ピッコロシアター	卒制見学研修お手伝い
比較芸術学特論	京都国立博物館	見学 授業
伝統芸術各論Ⅱ（伝統 芸能論）	大槻能楽堂	能『砧』研究公演の鑑賞（天野文雄監修）

学外見学・学外研修 東京新宿キャンパス（平成24年度）

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
グラフィックデザインⅠ	ギャラリー5610	T I S 公募受賞展見学
映画製作演習Ⅰ	新宿駅近辺	人物観察
短編マンガ	東京都立小児総合医療センター	病院施設の見学
イラストレーションコ ース4年	むさし野深大寺窯	焼き物体験とリトグラフ体験
イラストレーションア ート	たばこと塩の博物館	スケッチ
マンガコース卒業制作	桜美林学園 伊豆高原クラブ	卒業制作中間発表に向けた学習
デッサン	新宿御苑	風景スケッチ
グラフィックデザインⅠ	板橋区立美術館前	ボローニャ国際絵本原画展
イラストレーションア ート	丸善本店	カレンダーフェア
イラストレーションⅠ	東武デパート池袋店	北見 隆教授個展
イラストレーションⅡ	ギャラリーハウスマヤ	イラストレーションのプレゼンテーションの実際を見学
映画編集Ⅱ・Ⅲ	東映東京撮影所	映画編集の現場での指導
デザイン概論Ⅱ	LIVING DESIGN CENTER OZONE	プロダクトデザイン（インテリア、インダストリアル）の 市場調査
プリンティングワーク	凸版印刷博物館	印刷技術およびその歴史の学習
美術史特論	国立西洋美術館	「手の痕跡」展
デザイン概論Ⅱ	東京おもちゃ美術館	デザインリサーチ（楽しみのデザインとは？）
イラストレーション表 現基礎Ⅱ	葛西臨海公園	野鳥観察会
美術史特論	東京都美術館	エル・グレコ展
サウンドデザイン	新宿区（大学近辺）	サウンドマップ作成実習の為

学外見学・学外研修 大阪梅田キャンパス（平成24年度）

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
成人看護学Ⅳ	大阪市内もしくは現在の居住地 にある指定された消防署	心肺蘇生法とAED使用に関わる技術修得のため
癒しと芸術	兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー	関西新制作展見学
健康管理論、地域看護学Ⅴ	宝塚大学 宝塚キャンパス 宝塚市第6地区	宝塚市保健師活動の実際、地区踏査の実際を学ぶ
伝統芸術表現研究Ⅱ （生け花の理論と表現）	八坂神社	祇園祭 見学・実習
マスコミと報道	朝日新聞 大阪本社	新聞の製作過程を知る

人体構造機能論Ⅰ	大阪大学 医学部 共同研究棟 系統解剖室	解剖された御遺体を見学して人体構造の理解を深める
科目名なし	大阪大学 医学部 共同研究棟 系統解剖室	解剖された御遺体を見学して人体構造の理解を深める
マスコミと報道	朝日新聞 阪神支局	新聞社襲撃事件の実際を学ぶ

学外見学・学外研修 宝塚キャンパス（平成25年度）

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
アーバンデザインⅠ	宝塚大学西	風景スケッチ
卒業研究（マンガ）	兵庫県立美術館	卒制のための研究、視野を広げるため
アーバンデザインⅠ	川西能勢口～勝福寺	川西市の生活景フィールドワーク
写真演習Ⅰ（フォト・プレゼンテーション）	写真新世紀・大阪展	作品研究、鑑賞
オープンラボⅠ（写真原理）	毎日新聞大阪本社	マスコミ見学
オープンラボⅠ（ファッションテクニクⅠ）	大阪船場センタービル	布地屋見学
オープンラボⅢ（ファッションテクニクⅢ）		
卒業研究（イラストレーション）	いろり村他ギャラリー巡り（ギャラリースプーン、The14th.moon等）	9月展覧会の為の会場見学及び卒業生展覧会鑑賞
写真芸術表現研究	京都芸大ギャラリーKCUA、ARTISLONG、KYOTO GARAPHIE各会場	作品研究
卒業研究（美術理論）	伊丹市立美術館	展覧会鑑賞
西洋美術史・理論		
西洋美術史論		
オープンラボⅠ（写真原理）	尼崎市総合文化センター	第13回上野彦馬賞受賞作品展：写真家新井卓氏講演会
オープンラボⅢ（写真編集）		
アーバンデザインⅠ	大学周辺	まち歩き、景観調査
デッサン（静物）	京都府立文化芸術会館	博展見学（デッサンから制作までの過程を学ぶ）
日本画演習Ⅰ	京都府立文化芸術会館	博展見学（作家とのディスカッション）
日本画演習Ⅲ		
オープンラボⅢ（コミュニティデザインⅡ）	能勢電鉄山下駅周辺	川西市 街はカーニバルプロジェクトとの意見交換
イラスト演習Ⅲ	池田落語みゅーじあむ	生の落語を聞き、上方文化の知識を得てイラストを描く
卒業研究（写真）	国立国際美術館	作品プレゼンテーションを知る「美の響演 関西コレクションズ」
写真芸術表現研究	ニコンサロン大阪ほか、大阪市内ギャラリー	写真作品のプレゼンテーションを学ぶ
卒業研究（写真）	大阪写真月間会場（大阪芸大ほたるまちキャンパス）	写真家と雑誌編集者の講演から学ぶ（大阪写真月間2013）
写真芸術表現研究		
写真演習Ⅰ	国立国際美術館 ほか大阪市内各ギャラリー	作品研究（鑑賞）

舞台美術論	宝塚歌劇	宝塚歌劇の舞台裏制作ワークショップ見学
オープンラボⅠ (舞台空間演出)		
オープンラボⅢ (舞台装置)		
創造基礎	満願寺	見学および鑑賞
西洋美術史・理論	国立国際美術館	展覧会鑑賞
西洋美術史論		
アートプロデュース論		
技法演習・研究Ⅲ	大阪市立美術館	学外展覧会見学～実習を見て観察する
オープンラボⅠ (映像編集)	戎橋	CM撮影
オープンラボⅢ (放送作品制作)		
創造基礎	コーナン中山寺店	「空間を創る」制作・プランニングのための材料研究、調査
写真芸術表現研究	ブルームギャラリー	作品批評の研究
オープンラボⅠ (写真原理)	京都市美術館別館	日本写真家協会JPS展見学、講演会参加
オープンラボⅢ (写真編集)		
映像演習Ⅰ	株式会社 イマジカウエスト	ポストプロダクション工程の理解
映像演習Ⅲ		
オープンラボⅢ (写真編集)	毎日新聞大阪本社	マスコミ企業見学
創造基礎	大塚屋江坂、ユザワヤ川西、コーナン川西久代店	材料購入
映画論	国立民族学博物館	文化人類学入門
映画表現研究		
ビジュアル演習Ⅲ	なんばグランド花月	ko.ko.moよしもと再ブリーフ
イラストレーション演習Ⅲ	なんばグランド花月kokomoよしもと	ココモヨシモトTシャツデザイン打合せ・説明会
西洋美術史・理論	大阪大学総合学術博物館待兼山修学館	展覧会鑑賞
西洋美術史論		
アートプロデュース論		
イラスト演習Ⅲ	あいあいパーク	ゆるキャラ体験学習
写真演習Ⅰ	近松記念館	課題「バーチャル・エキシビション」のためのフィールドワーク
映像演習Ⅰ	川西市内民家	ロケ実習
映像演習Ⅲ		
オープンラボⅢ (写真編集)	伊丹スカイパーク	撮影実習
洋画演習Ⅰ	アート・コート・フロンティア #11、ART OSAKA	現代美術の現在を観る
洋画演習Ⅲ		
卒業研究(洋画)		
美術論(博士)		
平面美術論(修士)		
「現象学と芸術」試論		
日本美術史Ⅰ	工房レストア	紙資料修復工房の見学

アニメーション演習Ⅰ	伊丹市立美術館	展覧会鑑賞
アニメーション演習Ⅲ		
卒業研究 (アニメーション)		
アニメーション表現研究(修士)		
産官学連携事業	イオンモール伊丹昆陽	産官学連携プロジェクト ワークショップ実施
産官学連携事業	イオンモール伊丹昆陽	キャンドルナイト、イルミネーション企画
創造基礎	大塚屋江坂、ユザワヤ川西、コーナン川西久代店、コーナン中山店、ダイソーモザイクボックス店	作品制作素材・材料購入
オープンラボⅠ(ファッションテクニク)	大阪市生涯学習センター	NDKファッションショー仮縫い
オープンラボⅢ(ファッションテクニク)		
舞台・空間照明デザインⅠ	梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	「魔女の宅急便」の作者 角野栄子原作ミュージカル「ズボン船長」の舞台制作現場見学
身体表現Ⅱ a (ダンス)	梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	舞台制作現場の見学及び現役プロダンサーの動きを学ぶ
産官学連携事業	妙見山	阪急阪神ホールディング 夏休み子供自然体験学習
環境問題と教育Ⅰ	川西能勢口駅周辺、川西市役所	地域におけるゴミのポイ捨ての実態調査
環境問題と教育Ⅱ	周辺、猪名川河川敷	
写真芸術表現研究	第七藝術劇場	ドキュメンタリー映画鑑賞「ヴィック・ムニーズ/ごみアートの奇跡」
美術理論演習Ⅱ	国立民族博物館	資料展示方法の観察
卒業制作・論文 (美術理論)	藤枝表具店	資料修復作業の見学
アーバンデザインⅡ	中崎町	都市環境調査
写真芸術論	京都造形芸術大学大阪舎(サテライトキャンパス)	写真芸術学会関西写真研究会の発表聴講
映像デザイン論		
オープンラボⅡ (写真と現代美術)		
卒業制作・論文 (写真)	Kobe 819 Gallery	写真展(陳惠菜個展)見学
写真芸術論		
映像デザイン論		
オープンラボⅡ (写真と現代美術)	近松記念館	写真作品の展示・構成
西洋美術史・理論	京都国立近代美術館	展覧会鑑賞
西洋美術史論		
アートプロデュース論		
舞台空間照明デザインⅡ	ピッコロシアター	演劇「間違いの喜劇」を観劇し、照明技術の実際を現場検証する
基礎セミナー (作品を見る)	伊丹市立美術館	展覧会鑑賞
アーバンデザインⅡ	宝塚駅周辺	都市環境フィールドワーク
基礎技術セミナー(プロダクト素材研究)	dddギャラリー”ADC2013EXHIBITION”	様々な最新のデザイン作品の見学

美術理論演習Ⅱ	神戸ビエンナーレ	神戸ビエンナーレ見学
ファッション演習Ⅳ		
ファッション演習Ⅳ	デザインクリエイティブセンター神戸KIITO	「みらいのこうべファッションアワード」キッズファッションアワード参加学生とその見学
アーバンデザインⅡ	インスタントラーメン発明記念館	施設見学、町並み調査
オープンラボⅡ (空間デザインⅠ)	川西市総合体育館	川西音灯り参加作品の準備
オープンラボⅣ (空間デザインⅡ)		
オープンラボⅡ (空間デザインⅠ)	川西市総合体育館横駐車場	川西音灯り作品制作及び展示
オープンラボⅣ (空間デザインⅡ)		
設計・製図Ⅰ		
西洋美術史・理論	芦屋市立美術博物館	展覧会鑑賞
西洋美術史論		
アートプロデュース論		
美術理論演習Ⅱ (展覧会をつくる)	近松記念館	展覧会鑑賞
美術理論演習Ⅱ (展覧会をつくる)	大阪歴史博物館	展覧会鑑賞
産官学連携事業	イオンモール伊丹昆陽	イオンモール伊丹昆陽イルミネーションプロジェクト2013冬 現地調査(1stプレゼン)
ファッションⅡ (アート&デザインⅡ)	最寄の映画館	「清須会議」監督:三谷幸喜 鑑賞
写真Ⅳ (写真・言葉・文章)	キャノンマーケティングジャパン 18階セミナールーム	関西10人の作家展見学とトークショー参加
写真Ⅱ (現代写真の動向)	MIO PHOTO OSAKA ポートフォリオレビューほか	同世代の若い写真家の作品のプレゼンテーションと発表から学ぶ
基礎セミナー(ヴィジュアルリテラシー)		
ゲームⅡ (ゲーム企画基礎)	リアル脱出ゲーム「パズルルームからの脱出」	アナログゲーム見学及び体験
ゲームⅣ (ゲーム企画技法Ⅱ)		
ゲーム演習Ⅱ (ゲーム制作Ⅱ)	サイバーコネクトツウ会社説明会IN大阪2013	ゲームクリエイターへの道を知る
ゲーム演習Ⅳ (ゲーム制作Ⅳ)		
アーバンデザインⅡ	十三の商店街	屋外広告物調査
美術理論演習Ⅱ (展覧会をつくる)	京都国際マンガミュージアム	展覧会鑑賞
基礎セミナー (作品を見る)	京都市美術館	日展鑑賞
産官学連携事業	大阪梅田キャンダル回廊	キャンダルナイト2013冬参加
西洋美術史・理論	国立国際美術館	展覧会鑑賞
西洋美術史論		
アートプロデュース論		
アーバンデザインⅡ	阪急服部駅周辺	阪急電鉄イベント「リアル宝探し」見学
美術理論演習Ⅱ	須磨寺	美術作品の鑑賞

日本美術史Ⅱ	大阪市立美術館	美術作品の鑑賞
美術理論演習Ⅱ		
卒業制作・論文 (美術理論)		
日本美術史Ⅱ	四天王寺宝物館	美術作品の鑑賞
美術理論演習Ⅱ		
卒業制作・論文 (美術理論)		
西洋美術史・理論	兵庫県立美術館	展覧会鑑賞
西洋美術史論		
アートプロデュース論		
写真芸術表現研究	シネ・リーブル梅田	ドキュメンタリー映画鑑賞「キューティ&ボクサー」
アーバンデザインⅡ	中山観音駅周辺	イベント見学(宝探し)
ビジュアルデザインⅣ	ザ・パルク大阪工場 大阪包装資料館	施設見学
Webデザイン演習 (応用)	大阪市内Webクリエイターの 仕事場、DDDギャラリー	展覧会鑑賞
ビジュアル演習Ⅱ(デ ザインコミュニケーション)		
舞台空間照明デザイン Ⅱ	いかるがホール	OSK歌劇団公演見学および撤去作業
ファッション演習Ⅳ	神戸ファッション美術館	ウールの衣服展
Webデザイン演習 (応用)	兵庫県立美術館	ボンピドゥー・センター・コレクション見学
ビジュアル演習Ⅱ(デ ザインコミュニケーション)		

学外見学・学外研修 東京新宿キャンパス (平成25年度)

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
イラストレーションコース4年	むさしの深大寺窯	焼き物体験
マンガコース卒業制作	桜美林大学伊豆高原クラブ	卒業制作実習のための合宿
グラフィックデザイン	板橋区立美術館	イタリア・ボローニャ国際絵本原画展見学
アニメーションコース卒業制作	達者海水浴場宿場	卒業制作実習のための合宿
イラストレーション表現基礎Ⅱ	葛西臨海公園	野鳥観察会
プリンティングワーク	凸版印刷博物館	印刷の技術と歴史の学習
美術史特論	国立西洋美術館	ミケランジェロ展見学
Webデザイン演習	新宿区立北新宿公園	公園内でペンキによる壁画作成
デザイン概論Ⅱ	東京おもちゃ美術館	「遊ぶことのデザイン」展見学
イラストレーションコース2～4年	都立水元公園	野鳥観察会

学外見学・学外研修 大阪梅田キャンパス (平成25年度)

授業科目	見学・研修先	見学・研修の内容
伝統芸術表現研究Ⅱ (いけ花の理論と表現)	京都四条通	京都の三大祭の一つ祇園祭を見学し、疫病退散としての祭を花との関わりから知る

伝統芸術表現研究Ⅰ (茶道と香道の理論と表現)	山田松香木店 (京都市上京区)	体験学習
マスコミと報道	朝日新聞大阪支社	新聞の編集と制作の現場を知る
マスコミと報道	朝日新聞阪神支局	新聞記者殺傷事件の現場を知る

10-3 学生による授業評価（2001年度まで）

1991年に大学設置基準が大綱化され、大学が自主的に教育の改善を行うために、学校教育法第69条の3に定める大学教員自己点検・評価のあり方が具体化され、そのひとつとして学生による授業評価が求められている。授業評価は、従来から個別の教員が多様な形で学生による授業評価に自主的に取り組むこともあったが、できるだけ客観的で統一的な方法を確立し、大学全体として教育の質的な向上に努力することが求められている。授業評価は、教員にとっては、自分が授業に対して学生がどのように評価しているかを自ら知るにより、授業の改善へと直接結びつけ、また、学生にとっては、授業に関する要望を教員に伝えるだけでなく、授業に対する自らの取り組みを検証する手段でもあり、学生自身の学習態度改善に結びつけていくものである。したがって、評価結果に対しては教員個々が対応するだけでなく、大学が組織的に責任を持ってとりくみ、評価結果を公表し、大学の教育活動や授業改善の助としなければならない。

A) 授業調査の実施手順

- 1) 授業調査の趣旨の教職員への徹底
- 2) 設問項目の検討
- 3) 調査票の印刷
- 4) 調査実施の日程調整
- 5) 学生への掲示
- 6) 実施
- 7) 回収作業
- 8) 回収した調査票の点検
- 9) 集計
- 10) 分析
- 11) 教授会等での分析結果の報告会
- 12) 学生への分析結果の報告・公表
- 13) 次回のための反省と検討

B) 授業調査の設問

- 1) 授業の内容に興味・関心がもてたと思うか。
- 2) 授業の内容はよく理解できたと思うか。
- 3) 授業はシラバスに沿って進められたと思うか。
- 4) この授業は、自分にとって有意義であったか。
- 5) 授業の進めかたは、ていねいでわかりやすかったと思うか。
- 6) 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。
- 7) 黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立ったと思うか。
- 8) 教員は授業時間をきちっと守ったと思うか。
- 9) 教員は学生からの質問に適確に答えたと思うか。
- 10) この授業に時間通りに出席できたと思うか。
- 11) 課題提出、予習・復習はきちんとできたか。

総合評価

- A (80点以上) B (50点以上80点未満) C (50点未満)

C) 上記の設問に対する選択肢（3段階）

- A. そう思う
- B. どちらとも言えない
- C. 全く思わない

学生による授業評価（2002年度）

本学では大学の自己点検・自己評価実施の一環として、1993年2月以降、毎年最低2回、前期および後期の授業開始早々各授業科目ごとに下記のアンケート書式（アンケート項目はそのつど具体的にきびしく検討、吟味し、改善、改訂につとめている）のような3段階評価の質問調査票を配布して記入、提出してもらい授業内容や教育方法に反映させるために継続して行っているが、それにとどまらず、本学が全体として、真剣にカリキュラム・教授方法の改革に不断に取り組んでいるという姿勢を学生諸君によく理解してもらい、授業への学生の参加意識を高めることに役立てるためでもある。さらには学外有識者の声を聞く第三者としての大学評価審議会の評価のための資料に供して大学情報公開の一端を果たしている。

その分析結果は次のようである。

結論的に言うと、学生による授業評価は信頼できると考えられる。信頼に値しない例も二、三見られたが、母集団が十人以上あれば信頼性がある。クラス全体として考えると、高得点に評価される項目が特定項目に集中する傾向が見られた。つまり学生は、評価のどれかの項目ですぐれた面をもたない平板的な授業をきらう傾向がある。問題は、演習・実習のような実技のからむ授業やコンピュータ・リテラシー関連の授業の場合、いくら少数でもD、Eと答えた学生があれば、教員としてはこれを契機にこれからの教育の質にさらに工夫も二工夫もせねばならないと考えられる。閉鎖性を破るための改革が伴わなければ、目的は達成できないからである。

(授業評価関係、アンケート書式)

宝塚造形芸術大学 授業科目名 担当教員名
平成14年度 前期

授業評価（講義・演習）に関する質問書

この調査票は、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。なお、この調査票があなたの成績に影響することはまったくありませんが、かならず提出してください。

以下の項目について、右のような評価評価によって、マーク（○）して下さい

	★ そう 思う	★ 普通 な い	★ い ち ん が い そ も
① この授業は将来の私の進路決定に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 最新の情報をおりよけて紹介してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 授業は高度な内容でもよく理解できるように平易な言葉を使って行われた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ この授業は自分の目指す専門分野の研究に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 使用テキスト・プリント・黒板・ビデオ・スライド・プロジェクターなどの使い方が適切だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 授業時間ごとにその日の講義の目的や意味をはっきりと示してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ この教員はよく準備されたわかりやすい教材を使った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ この教員はよく質問熱意をもって授業にとりくんだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ この教員は質問にはきちんと対応してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ この教員はわけへだてなく学生を公平に指導してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ この教員は授業の開始時間を正確に守った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ この教員のオフィスアワーをおりよけて活用していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ この教員は明確で聞き取りやすい表現を使って説明してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この調査票の配布をうけた日 平成14年 月 日
学籍番号 氏名

授業科目名
宝塚造形芸術大学 担当教員名
平成14年度 前期

授業評価（演習・実習）に関する質問書

この調査票は本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。なお、この調査票があなたの成績に影響することはまったくありませんが、かならず提出してください。

以下の項目について、右のような評価評価によって、マーク（○）して下さい

	★ そう 思う	★ 普通 な い	★ い ち ん が い そ も
① この授業は 現在または将来の私の進路に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 授業内容は 実際に役立つような興味のあるものだった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ この授業は自分の目指す専門分野の研究に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 授業内容のレベル、専門性、指導力は的確であると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 授業は平易な言葉を使ってわかりやすく行われた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 使用テキスト・プリント・黒板・ビデオ・スライド・プロジェクター・コンピュータなどの使い方が効果的だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 授業時間ごとに目的や意味をはっきりと示してくれる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ この分野の最新の情報にも言及してくれる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 制作について的確なアドバイスがあった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ この教員はわけへだてなく学生を公平に指導してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ この教員は授業の開始時間をよく守った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ この教員は熱意をもって厳しく授業した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ この教員は明確で聞き取りやすい表現を使って説明してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ この教員のオフィスアワーをおりよけて活用したいですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この調査票の配布をうけた日 平成14年 月 日
学籍番号 氏名
(注) 学籍番号、氏名は記入しなくてもどちらでも自由です。

10-4 学生による授業評価からの教育内容・方法の改善について (2002年度)

1. 「学生の授業評価」の具体的事項に対応した改善措置

① 授業内容が難しいという評価についての改善

- テクニカルタームの説明を詳細に行うこととした
- 具体的な事例を多く引用し、丁寧に段階を追って説明することとした
- 授業の節々に脱線の部分を挿入することとした
- 授業内容を理解しているかどうかを知るために学生に逆に質問をすることとした
- 授業の中で一部円卓（長方形卓）方式を採用して、授業関連事項について討論・討議をさせることとした
- 難しい事項を授業内容から外すこととした
- 授業内容をビジュアル化し、またビデオ映像も取り入れ、理解を深めることとした
- 全部の授業にコンピュータを活用したマルチメディア教材を作成し、必ず学生の感想をレポートとして提出させて、学生の授業理解の改善資料とした

② 板書の仕方が乱雑であるという評価についての改善

- なるべく大きな文字で、ゆっくり書き、早く消さないようにした
- 白板に板書する場合、極太のマーカーを使用したので後方座席にもよく見えるようになった
- 講義内容をできる限り細部にわたってプリントして配布することとした
- 図・イラスト等は必ずプリントにして配布する
- 板書は極力行わず、スライド、ビデオテープ、オーディオテープ、レーザーディスク、DVD等を使用することとした

- ③ 制作実習について課題数が多い、制作期間が短いという実習評価についての改善、実習形態についての改善
 - 制作の数を減らしたり、期間を単に延ばすことは学生のためにならないことを教えた。社会の現場における厳しい条件に沿った制作の実態を教えた。学生各自の制作の速度を見ながら次の課題を出したり、作品の提出期間も種類によって柔軟に対応する
 - 実習形態を学校外に移し、体験学習を取り入れることとした
 - 夏休期間中を含めて企業等との間にインターンシップを導入し、企業現場に即した実習を行った
- ④ オフィスアワーが活用し難いという評価についての改善
 - オフィスアワーの活用について、特に1年次の学生について授業中に積極的な活用を説明した
 - 改まったオフィスアワーの活用のほかに、努めて学生食堂を利用し、昼食を共にして話し合うこととした
 - 決められたオフィスアワー以外に学生の空き時間にコンピューター室での指導を行うこととした
 - 各年次ごとに5～8人までのグループ別に昼食時にランチタイムをつくり、食事をしながら個々の授業、生活の様子等について話し合いを行うこととした。

2. 「学生の授業評価」以外のことについての具体的改善措置

- 期末に講義についての具体的内容に対するアンケートをとり、次年度の授業内容計画に役立てている
- 毎回授業のテーマは独立したものとし、かつ毎期一貫した内容となるよう工夫をし、かつ授業の始めには前回のテーマについて簡単に説明する
- 毎回独自の出席カードを作り、授業の終わりにミニテストをし、その授業のキーワードを記入してもらう
- 毎時間出席をとり、それを授業評価に組み入れる（その方法を希望する学生が多い）
- 授業の中に、学会、研究会、業界等の情報を多く取り入れることとしている
- 全部の授業にコンピュータによるマルチメディア教材を作成して、それを使用し、必ず学生の感想をレポートとして提出させ、教材と授業の改善資料としている
- デモンストレーション実験を行い、2台のコンピュータをLANで接続し、1台はデータを流し、他の1台はフィールドバックするようにして、授業の流れを中断しないようにする
- 同系列の専門の他大学のシラバスを参考にする。学会や研究サークルにおいて専門の学問研究の他に授業方法の研究に力点をおくこととしている
- 海外の専門知識をインターネットによって入手し、学科専用のホームページに入力し、学生が個々にホームページをつくることを奨励し、情報を流すこととしている
- 文章表現について、大学外の「しかるべき人物」にインタビューの機会をつくり、文章表現の実践的教育を行うこととしている
- できる限り多く展覧会を見るように開催状況の情報等を知らせ、教員が見に行く場合は連れて行くように配慮している
- 教材や最新の情報、海外の文献（CD-ROMを含む）、また過去の学生の課題作品等の資料のコンピュータ・データベース化を進めている。授業において教室内の情報コンセントを用いてノートパソコンと接続し、参考作品を適宜データベース検索を行えるようシステム化作業を進めている
- 学科内の専任、非常勤の全教員が各期毎に集會し、シラバスを中心として相互の授業内容や関連について意見の交換を行い、授業内容の改善をはかっている
- 正規の授業以外に、夏期、冬期、春期の休業中に教員の個人アトリエに学生を招き、教員の作品制作の介助を依頼することで、技術の習得をはかった
- 私語やマナーのよくない学生に対し、手間をかけながらくり返し注意する

10-5 学生による授業評価の改善（2002年度）

平成14年9月及び10月の定例教授会において学生には授業評価について集中的に論議を重ね、代表的なものをあげると、まず次のような意見が出された。

- 1) アンケートの項目を検討することによって、学生の要望をさらに正確に把握する。
 - ①質問項目の内容を、「専門科目」、「基礎科目」、「外国語科目」等によって検討し、個別の質問をふくめる。
例えば、「基礎科目」、「外国語科目」などに、「専門科目」の内容を問うにふさわしい、「最近の情報を伝えたかどうか。」「制作についての確かなアドバイスがあったかどうか。」などの質問を、画一的に課することは、学生の期待を知るには適当でないと考えられる。
 - ②学年に即して質問項目を検討する。例えば、「専門分野の研究に役立つかどうか。」「将来の進路決定に役立つかどうか。」などの質問は、入学後数ヶ月目の一年生の学生に意見を聞くのは適当でないと考えられる。
- 2) アンケート実施時期を検討する。新学期開始後、二ヶ月足らずでは、各学年で開始された新たな授業について、あるいは、入学直後の一年生の学生の十分な回答はえられないとおもわれる。もしこの時期にアンケートを実施するな

ら、一年生については、この大学に入って、満足すべき点、不満足な点などを問う、一般的な質問にすべきである。

3) 学生の大学における授業の理解を確実にするために、アンケートの結果に基づき、科目の配当学年を検討するのが望ましくはないか。

4) 学生の満足を調査するうえでは、質問項目を個別の授業に限るだけではなく、一般的な図書、備品の充実度、教室、演習室などの充足程度について、たずねることも必要であろう。

それらの意見をふまえて平成14年度後期の授業評価は、アンケート書式を

1. 講義 —— 基礎科目
2. 外国語科目
3. 講義 —— 専門科目
4. 専門演習

の4通りに分けて実施した。

さらに、それらの評価の末尾に、学生によるそれぞれの授業の総合的得点の欄をあらたにもうけ、A、B、C、D、Eの5段階のうちのどれかに評価させ、かつアンケート実施当日の欠席者へも郵送して記入返却させ、回収率を高めることとした。

10-6 学生による授業評価のその後の改定（2004年度以降）

1. 平成16年度後期からは、下記のように一部を改定した。

4つのジャンルのアンケートの施行時期。

- i) 講義 —— 基礎科目 前後期開始後、それぞれ1ヶ月くらいあと
- ii) 演習 —— 専門科目 前後期開始後、それぞれ2週間あと
- iii) 専門演習 前後期開始後、それぞれ第2週目
- iv) 外国語科目 前後期開始後、それぞれ2ヶ月あと

宝塚造形芸術大学
平成16年度 前期 授業科目名 担当教員名

授業（講義—基礎科目）に関する調査

この調査票は 本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんが、必ず提出して下さい。

以下の項目について、右のような3段階評価によって マーク(○)して下さい

	★ そう 思う	★ 思わ ない	★ いど えち なら いど も
①この授業は従来の新しい情報、新しい専門分野や、私の専門の研究や実践に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②授業内容は 具体的にあって、分かりやすいものであった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③この授業によって、専門の研究をするにあたって必要となると思われる、新しい知識を得ることができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④この教員はよく準備された分かりやすい新しい情報を教材として使った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤授業は平易な言葉を使ってわかりやすく行われた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥使用テキスト・プリント・黒板・ビデオ・スライド・プロジェクター・コンピュータなどの器材の使用が適切であった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦1年ごとの授業目標や意味をはっきりと示し、知識と技術の進歩によく対応してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧この教員はわけへだてなく学生を公平に指導してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨この教員は授業の開始時間をよく守った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩この教員は熱意をもった授業を行なった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪この教員のオフィスアワーの時間を多く利用し、私たち1人1人の将来について相談にのってくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫この教員は明確で聞き取りやすい表現を使って説明してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

評 価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (70点以上) C (60点以上) D (50点以上) E (50点以下)

この調査票の配布をうけた日 平成16年 月 日
学籍番号 氏名

(注) 学籍番号、氏名は記入しなくてもどちらでも自由です。

宝塚造形芸術大学
平成16年度 前期 授業科目名 担当教員名

授業（講義—専門科目）に関する調査

この調査票は 本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんが、必ず提出して下さい。

以下の項目について、右のような3段階評価によって マーク(○)して下さい

	★ そう 思う	★ 思わ ない	★ いど えち なら いど も
①この授業は将来の自分の進路決定のための基本的な方法に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②この授業は、自分の目指す専門分野の研究と実践に役立つと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③授業は高度な内容で、新しい情報がもりこまれ満足できるものであった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④この授業によって、新しい専門知識が習得できた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤使用テキスト・プリント・黒板・ビデオ・スライド・プロジェクター・コンピュータなどを使って新しい傾向の授業をとり入れた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥この教員はよく準備された分かりやすい教材をつかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦この教員は明確で聞き取りやすい表現を使ってよく説明してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧この教員は質問にはきちんと対応してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨この教員はわけへだてなく学生を公平に指導してくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩この教員は授業の開始時間をよく守った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪この教員はよく気を配り、熱意をもって授業にとりくんだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫この教員はオフィスアワーを利用し、一人一人の学生の意見をよく聞き専門知識をさらに深めるための努力をしてくれた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

評 価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (70点以上) C (60点以上) D (50点以上) E (50点以下)

この調査票の配布をうけた日 平成16年 月 日
学籍番号 氏名

(注) 学籍番号、氏名は記入しなくてもどちらでも自由です。

宝塚造形芸術大学
平成16年度 前期 授業科目名 担当教員名

授業（外国語科目）に関する調査

この調査票は、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお、この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんが、必ず提出して下さい。

以下の項目について、右のよき3段階評価によって、マーク(○)して下さい

	* そ う 思 う	* 思 わ な い	* い ど え ら な い と も
--	-----------------------	-----------------------	---

①この授業は将来の専門的研究、実践で役立つと思う

②授業内容は新しい情報をもりこんで実際に役立つような興味のあるものだった

③授業内容のレベルは満足できるものであった

④授業ではわかりやすい説明が行われた

⑤実際の訓練をじゅうぶん行い、その成果が十分あったと思う

⑥使用テキスト・プリント・黒板・録音機・パソコン・コンピュータなどをじゅうぶん活用し、一年後の進歩の成果が自分でよく理解できた

⑦この教員はわけへだてなく学生を公平に指導してくれた

⑧この教員は授業の開始時間をよく守った

⑨この教員は熱意をもって厳しく授業した

⑩この教員はオフィスアワーを利用して学生一人一人の意見をよくみとり学生たちについての知識を深めていますか

⑪この授業を受講した目的は次のどの項目ですか

1) 金銭ができる 2) 自分の将来の専門に必要だから 3) 研究をすすめる上で必要だから
4) 一般的教養として 5) 知識を通じて、外国の事情が知りたいから
6) 留学 7) 新しい情報を身につける

⑫この授業でもっと教えて欲しい項目をひとつ選んで、番号を書きなさい

1) 指定試験に感かよるような内容に欲しい
2) 原書を読む時間ももっとほしい

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (70点以上) C (60点以上) D (50点以上) E (50点以下)

この調査票の配布を受けた日 平成16年 月 日
学籍番号 氏名

(注) 学籍番号、氏名は記入しなくてもどちらでも自由です。

宝塚造形芸術大学
平成16年度 前期 授業科目名 担当教員名

授業（専門演習）に関する調査

この調査票は、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお、この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんが、必ず提出して下さい。

以下の項目について、右のよき3段階評価によって、マーク(○)して下さい

	* そ う 思 う	* 思 わ な い	* い ど え ら な い と も
--	-----------------------	-----------------------	---

①この授業は将来の私の進路決定に役立つと思う

②授業内容は新しい情報をもりこんで実際に役立つような興味のあるものだった

③授業内容のレベル、専門性、指導力は的確で申し分なかった

④技術的な指導を徹底して行ってくれた

⑤使用テキスト・プリント・教材・黒板・ビデオ・VTR・プロジェクター・コンピュータなどの新しい機器の活用が有効であった

⑥一年ごとの授業目標や意味をはっきりと示し、一年後にその成果を確認できた

⑦この分野の最新の情報を伝えてくれた

⑧制作について一人一人的確なアドバイスをしてくれた

⑨この教員はわけへだてなく学生を公平に指導してくれた

⑩この教員は授業の開始時間をよく守った

⑪この教員は熱意をもって厳しく授業した

⑫この教員はオフィスアワーを利用して一人一人の学生の勉強、卒業後の仕事、就職等に参考になるようなアドバイスをしてくれた

⑬この教員は新しい情報を明瞭に聞き取りやすい表現を使って説明してくれた

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (70点以上) C (60点以上) D (50点以上) E (50点以下)

この調査票の配布を受けた日 平成16年 月 日
学籍番号 氏名

(注) 学籍番号、氏名は記入しなくてもどちらでも自由です。

2. その後平成18年度より、さらにアンケート項目について整理し、簡素化を図ると同時に、学問分野、内容、目標等の専門別細分化、学生のニーズや社会的要請の多様化等に、もっとキメ細かく対応するため、原則として全科目それぞれに設問を3項目先生方ご自身で考えて、設定してもらうことにした。但し、最後のA.B.C.D.E.の総合点採点の項目はA.B.C.の3段階のみとし、学生が記入しやすくなるよう配慮した。

宝塚造形芸術大学
平成18年度 後期 授業科目名 担当教員名

学生による授業評価アンケート

授業（基礎科目）に関するアンケート

この調査票は、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお、この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんので、氏名の記入は必要ありませんが、必ず提出して下さい。

以下の設問項目・評価について、右のよき3段階評価によって、チェック(✓)して下さい

	* そ う 思 う	* 思 わ な い	* ど こ も も と も
--	-----------------------	-----------------------	---------------------------------

設問項目【本日の授業に限定せず、これまでも総合してお答えください。】

1. この授業について

①授業の内容に興味・関心が持てたと思うか。

②授業の内容はよく理解できたと思うか。

③授業はシラバスに沿って進められたと思うか。

④この授業は、自分にとって有意義であったか。

2. 教員の教えかたについて

⑤授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったと思うか。

⑥教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったと思うか。

⑦黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立つと思ったと思うか。

⑧教員は授業時間をきちんと守ったと思うか。

⑨教員は学生からの質問に的確に答えたと思うか。

3. 担当教員独自の設問項目

⑩

⑪

⑫

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (60点以上80点未満) C (50点未満)

学科 学年 年次

宝塚造形芸術大学
平成18年度 後期 授業科目名 担当教員名

学生による授業評価アンケート

授業（専門科目一講義・演習）に関するアンケート

この調査票は、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお、この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんので、氏名の記入は必要ありませんが、必ず提出して下さい。

以下の設問項目・評価について、右のよき3段階評価によって、チェック(✓)して下さい

	* そ う 思 う	* 思 わ な い	* ど こ も も と も
--	-----------------------	-----------------------	---------------------------------

設問項目【本日の授業に限定せず、これまでも総合してお答えください。】

1. この授業について

①授業の内容に興味・関心が持てたと思うか。

②授業の内容はよく理解できたと思うか。

③授業はシラバスに沿って進められたと思うか。

④この授業は、自分にとって有意義であったか。

2. 教員の教えかたについて

⑤授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったと思うか。

⑥教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったと思うか。

⑦黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立つと思ったと思うか。

⑧教員は授業時間をきちんと守ったと思うか。

⑨教員は学生からの質問に的確に答えたと思うか。

3. 担当教員独自の設問項目

⑩

⑪

⑫

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (60点以上80点未満) C (50点未満)

学科 学年 年次

宝塚造形芸術大学
平成18年度 後期 授業科目名 担当教員名

学生による授業評価アンケート

授業（外国語科目）に関するアンケート

この調査票は、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお、この調査票があなたの成績に影響することは、まったくありませんので、氏名の記入は必要ありませんが、必ず提出して下さい。

以下の設問項目・評価について、右のよき3段階評価によって、チェック(✓)して下さい

	* そ う 思 う	* 思 わ な い	* ど こ も も と も
--	-----------------------	-----------------------	---------------------------------

設問項目【本日の授業に限定せず、これまでも総合してお答えください。】

1. この授業について

①授業の内容に興味・関心が持てたと思うか。

②授業の内容はよく理解できたと思うか。

③授業はシラバスに沿って進められたと思うか。

④この授業は、自分にとって有意義であったか。

2. 教員の教えかたについて

⑤授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったと思うか。

⑥教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったと思うか。

⑦黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立つと思ったと思うか。

⑧教員は授業時間をきちんと守ったと思うか。

⑨教員は学生からの質問に的確に答えたと思うか。

3. 担当教員独自の設問項目

⑩

⑪

⑫

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください
A (80点以上) B (60点以上80点未満) C (50点未満)

学科 学年 年次

3. 平成20年度 学生における授業評価の結果

平成20年度 学生における授業評価の結果は以下のようであった。

(1)前期：常勤教員の96.4パーセントが学生による授業評価を実施した。また、この授業評価は実施された講義および演習の91.9パーセントに相当する。

評価については

- A (80点以上) 5239：65.6%
- B (50点以上80点未満) 2466：30.8%
- C (50点以下) 283：3.6%

(2)後期：常勤教員の96.4パーセントが学生による授業評価を実施した。また、この授業評価は実施された講義および演習の93.9パーセントに相当する。

評価については

- A 4430：71.4%
- B 1632：26.3%
- C 144：2.3%

(3)前期：非常勤教員の91.2パーセントが学生による授業評価を実施した。また、この授業評価は実施された講義および演習の93.9パーセントに相当する。

評価については

- A 2395：60.1%
- B 1452：36.4%
- C 140：3.5%

(4)後期：非常勤教員の89.5パーセントが学生による授業評価を実施した。また、この授業評価は実施された講義および演習の89.2パーセントに相当する。

評価については

- A 2146：68.3%
- B 932：29.7%
- C 63：2.0%

以上の結果から 平成20年度 学生における授業評価は本学の授業に関わる大多数の教員によって実施された。このことは本学教員の学生における授業評価についての意識の高さを反映している。また、その結果は、学生が講義についておおむね満足していることを表している。

学生による授業評価アンケート

宝塚造形芸術大学 実施日 平成 年 月 日 時 限 目
平成19年度 後期 授業科目名 担当教員名

このアンケートは、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
なお、このアンケートがあなたの成績に影響することはありません。
以下の設問項目・評価について、右下の5段階評価によって、チェック(✓)して下さい。

*	*	*
そ	ま	ま
う	ど	ま
思	え	ま
う	ち	ま
い	わ	ま
と	く	ま
も	な	ま
い	ら	ま
な	い	ま
い	も	ま

設問項目 (本日の授業に限らず、これまでを総合してお答えください。)

1. この授業について

- ① 授業の内容に興味・関心が持てたと思いますか。 名 名 名
- ② 授業の内容がよく理解できたと思いますか。 名 名 名
- ③ 授業はシラバスに沿って進められたと思いますか。 名 名 名
- ④ この授業は、自分にとって有意義でしたか。 名 名 名

2. 教員の教えかたについて

- ⑤ 授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったと思いますか。 名 名 名
- ⑥ 教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったと思いますか。 名 名 名
- ⑦ 黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立ったと思いますか。 名 名 名
- ⑧ 教員は授業時間をきちんと守ったと思いますか。 名 名 名
- ⑨ 教員は学生からの質問に適確に答えたとと思いますか。 名 名 名

3. あなた自身について

- ⑩ この授業に時間通りに出席できたと思いますか。 名 名 名
- ⑪ 課題提出、予習、復習等はきちんとできましたか。 名 名 名

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください

A 名 (80点以上) B 名 (50点以上80点未満) C 名 (50点未満)

学科 学年 年次

投出用

学生による授業評価アンケート・教員集計用紙

宝塚造形芸術大学 実施日 平成 年 月 日 時 限 目
平成19年度 後期 授業科目名 担当教員名

*	*	*
そ	ま	ま
う	ど	ま
思	え	ま
う	ち	ま
い	わ	ま
と	く	ま
も	な	ま
い	ら	ま
な	い	ま
い	も	ま

1. この授業について

- ① 授業の内容に興味・関心が持てたと思いますか。 名 名 名
- ② 授業の内容がよく理解できたと思いますか。 名 名 名
- ③ 授業はシラバスに沿って進められたと思いますか。 名 名 名
- ④ この授業は、自分にとって有意義でしたか。 名 名 名

2. 教員の教えかたについて

- ⑤ 授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったと思いますか。 名 名 名
- ⑥ 教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったと思いますか。 名 名 名
- ⑦ 黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立ったと思いますか。 名 名 名
- ⑧ 教員は授業時間をきちんと守ったと思いますか。 名 名 名
- ⑨ 教員は学生からの質問に適確に答えたとと思いますか。 名 名 名

3. あなた自身について

- ⑩ この授業に時間通りに出席できたと思いますか。 名 名 名
- ⑪ 課題提出、予習、復習等はきちんとできましたか。 名 名 名

評価 この授業について総合的に判断して 採点をしてください

A 名 (80点以上) B 名 (50点以上80点未満) C 名 (50点未満)

4. 平成20年度 後期における学生による授業評価の結果

平成20年度 後期より

F D委員会における学生による授業評価アンケートに関する意見を反映させ、以下のような改訂を行った。

・設問項目 『1. この授業について』の

④この授業は、自分にとって有意義であったか。を削除

・各項目の評価を3段階から5段階に変更

(どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わないの2項目の追加)

・総合評価を3段階から5段階に変更

A (80点以上) B (50点以上80点未満) C (50点未満) の3段階評価から

S (90点以上) A (80点以上90点未満) B (70点以上80点未満)

C (60点以上70点未満) D (60点未満) の5段階への変更

宝塚造形芸術大学 学生による授業評価アンケート
 実施日 平成 20 年 月 日 時 限 目
 平成20年度 前期 授業科目名 [] 担当教員名 []

このアンケートは、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
 なお、このアンケートがあなたの成績に影響することはありません。
 以下の設問項目・評価について、右のような段階評価によって、チェック(✓)して下さい。

* * * * *
 そ 言 思 思 *
 う え え ら わ ち
 思 な な な ら ち
 う い い い い ち
 づ も も も も ら
 り い い い い い
 づ い い い い い

設問項目 (本日の授業に限定せず、これまでを総合してお答えください。)

1. この授業について

①授業の内容に興味・関心が持てたと思うか。

②授業の内容はよく理解できたと思うか。

③授業はシラバスに沿って進められたと思うか。

④この授業は、自分にとって有意義であったか。

2. 教員の教えかたについて

⑤授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったと思うか。

⑥教員の声や言葉は明確で聞きやすかったと思うか。

⑦黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立ったと思うか。

⑧教員は授業時間をきちんと守ったと思うか。

⑨教員は学生からの質問に適切に答えたと思うか。

3. あなた自身について

⑩この授業に時間通りに出席できたと思うか。

⑪課題提出、予習、復習等はきちんとできたか。

評価 この授業について総合的に判断して、採点をしてください

A (80点以上) B (50点以上80点未満) C (50点未満)

学科 [] 学年 [] 年次 []

宝塚造形芸術大学 学生による授業評価アンケート
 実施日 平成 年 月 日 時 限 目
 平成20年度 後期 授業科目名 [] 担当教員名 []

このアンケートは、本学の授業内容を一層充実させるための資料に供するものです。
 なお、このアンケートがあなたの成績に影響することはありません。
 以下の設問項目・評価について、右のような段階評価によって、チェック(✓)して下さい。

* * * * *
 そ 言 思 思 *
 う え え ら わ ち
 思 な な な ら ち
 う い い い い い
 づ も も も も ら
 り い い い い い

設問項目 (本日の授業に限定せず、これまでを総合してお答えください。)

1. この授業について

①授業の内容に興味・関心が持てたか。

②授業の内容はよく理解できたか。

③授業はシラバスに沿って進められたか。

2. 教員の教えかたについて

④授業の進めかたは、丁寧でわかりやすかったか。

⑤教員の声や言葉は明確で聞きやすかったか。

⑥黒板の使いかたや配布資料、映像等は、授業内容の理解に役立ったか。

⑦教員は授業時間をきちんと守ったか。

⑧教員は学生からの質問に適切に答えたか。

3. あなた自身について

⑩この授業に時間通りに出席したか。

⑪課題提出、予習、復習等はきちんとしたか。

評価 この授業について総合的に判断して、採点をしてください

S (90点以上) A (80点以上90点未満) B (70点以上80点未満) C (60点以上70点未満) D (60点未満)

学科 [] 学年 [] 年次 []

5. 平成22年度から実施方法について大幅な見直しを行った。

学生による授業評価アンケートの質問表を見直し、アンケート結果を早期に集計、授業の改善に迅速に反映させるために、集計を外部に委託することとした。その結果はデータ化し、自由記述欄に記載された事項を含め、全授業分を集計してその概要を教授会で報告するとともに、全データを教員の閲覧に供し、授業の改善の為の資料としている。

下記にアンケート表、全体の集計結果表、及びその係数データ表を示す。また自由記述欄に記載された学生の事項を、ある教員の1授業を例として示す。

全体として、学生は授業評価の意義を十分理解し、期待と要望を正直に記述している様子を覗うことができる。

その意味では、職員は正面から見ている学生とはちがって背後から役者を見ているきびしい批判者であるとともに、同時に大学を教員と協力して運営する運命共同体メンバーであり、教員の熱烈な声援者でもあるわけである。

したがって学生による授業評価とは全くちがった意味において、職員による授業評価制度を本学は自己評価の一端として、授業聴講（シット イン システム）と連動させながら、積極的にとりあげるための構想を具体化する方策を鋭意検討中である。

10-8 学生による授業評価の今後の課題

授業評価結果については、本学の教育目標に照らし、大学全体としては、シラバス作成、ファカルティ・ディベロップメントの実施などの具体的改善方策に生かしている。また、授業評価の目的のひとつは個々の教員が主体的に「わかりやすい質の高い授業」を形成しようとする活動に資することにあり、実際の教育課程や授業設計、成績の評価の適正さなどの観点からの自己評価のデータとしている。

今後は、データの公開と分析を厳密に行い、その結果を大学全体としての教育の改善、個々の教員における教育の改善を強化するとともに、学生が自らの受講態度を自己評価する積極的な姿勢の喚起するために生かし、学生とともに「わかりやすい質の高い授業」を作り上げることに努力したい。

教員による自己評価について（造形芸術学部）

造形芸術学部において、学生による授業評価に加えて教員による自己評価を実施している。具体的には、①開講しているすべての授業科目の担当教員を対象として「教員に対する授業アンケート」を実施、②学生による授業評価アンケートにおける設問「この授業について良かった点を記入してください」および「この授業について改善すべき点を記入してください」に記述された内容に対する教員の見解を「学生による授業アンケートに対するコメント」アンケートに回答、以上二点を内容とするものである。

①教員に対する授業アンケート

教員に対する授業アンケートの設問は以下の通りである。それぞれの設問に対する評価尺度は、(1)そう思う (2)少しそう思う (3)どちらとも言えない (4)あまりそう思わない (5)そうは思わない、の5段階評価としている。

1. 授業の達成目標と授業内容の概略（シラバスに記載された内容をお書きください）（自由記述）
2. 授業を進めていく上での工夫（前回のアンケート結果を踏まえて努力した事項を含む）
 - ・ 講義はシラバスに記載した内容に沿って行いましたか。
 - ・ 学生に遅刻や欠席をなくすよう指導をしましたか。
 - ・ 授業中、学生の私語や居眠りなどの防止に努めましたか。
 - ・ 学生の反応を見て教室全体に注意を払いながら、聞き取りやすい声で話せましたか。
 - ・ 手振りや身振りを交えながら説明しましたか。
 - ・ 読みやすい文字の大きさや書体を使い丁寧に書くなど、黒板(ホワイトボード)は適切に使えましたか。
 - ・ 映像教材やプリント教材等、学生の理解を助長する資料を提供できましたか。
 - ・ 実技などを伴う授業の際は、安全対策等の事故防止に努めましたか。
 - ・ 授業は、学生の興味や関心を十分惹く内容でしたか。
 - ・ 質問や発言する時間は十分に与えましたか。
 - ・ 必要に応じて、予習や復習を伴う課題を出しましたか。
 - ・ その他、授業で工夫した内容を下の空欄に記述してください。（自由記述）
3. 前年度学生授業アンケート調査結果に対する考察（新任の教員は記入不要）（自由記述）
4. 改善の方策（授業改善上必要とされる事柄及び教授者自らの改善が求められること）（自由記述）

教員に対する授業アンケート

至徳大学 平成 年 月 日

学級・学年・組別	授業科目	授業時間	受講人数
1. 授業の達成目標と授業内容の概観(シラバスに記載された内容をお書きください)			
2. 授業を聴いていく上で工夫(前回のアンケート結果を踏まえて取り出した事項を含む)それぞれの内容について、 ①(そう思う) ②(少し思う) ③(どちらとも思えない) ④(あまり思う) ⑤(思い) ⑥(そうは思わない)で、回答欄に入れてください。			
・講義はシラバスに記載した内容に沿って行いましたか。			
・学生に疑問や欠席をなくすよう指導をしましたか。			
・授業中、学生の私語や寝付きなどの防止に努めましたか。			
・学生の出席を促す授業態度に注意を払いながら、聞き取りやすい講義で進めましたか。			
・手紙や連絡帳などを使いながら進めましたか。			
・読みや字の大きさや字体を使いやすくするなど、黒板(ホワイトボード)は適切に使用しましたか。			
・黒板(ホワイトボード)利用、学生の視界を妨げる資料を管理できましたか。			
・実技などを伴う授業の際は、安全対策等の事故防止に努めましたか。			
・授業は、学生の興味や関心を十分に引き出すことができましたか。			
・質疑や発表する時間は十分に与えましたか。			
・必要に応じて、学習や進路を伴う課題を出しましたか。			
・その他、授業で工夫した内容を下の空欄に記載してください。			
3. 前年度学生授業アンケート調査結果に対する考察(新任の教員は記入不要)			
4. 改善の方向(授業改善に必要とされる事項及び教員自身の改善が求められること)			

②学生による授業アンケートに対するコメント

学生による授業アンケートに対するコメント報告の設問は以下の通りである。

1. 学生の自由記述(良かった点)

(学生による授業評価アンケートにおける設問「この授業について良かった点を記入してください」に記述された内容から選択して転記)

2. 学生の自由記述(改善すべき点)

(学生による授業評価アンケートにおける設問「この授業について改善すべき点を記入してください」に記述された内容から選択して転記)

3. 学生の自由記述(良かった点)に対するコメント

(学生による授業評価アンケートにおける設問「この授業について良かった点を記入してください」に記述された内容に対する教員自身の見解を自由記述)

4. 学生の自由記述(改善すべき点)に対するコメント

(学生による授業評価アンケートにおける設問「この授業について改善すべき点を記入してください」に記述された内容に対する教員自身の見解を自由記述)

学生による授業アンケートに対するコメント

至徳大学 平成 年 月 日

学級・学年・組別	授業科目	授業時間	受講人数
1. 学生の自由記述(良かった点)			
2. 学生の自由記述(改善すべき点)			
3. 学生の自由記述(良かった点)に対するコメント			
4. 学生の自由記述(改善すべき点)に対するコメント			

■各期毎の授業評価結果の扱いについて（東京新宿キャンパス）

・学部においては評価内容を精査し、担当教員に改善を依頼しているが、あくまで担当職員目に留まった意見を拾い上げているに過ぎず、また改善の依頼も全ての教員に対してなされているわけではない。今後は全ての授業について学部としての改善意見を付した上で、各授業の担当教員へ改善を促すなど実効性を備えた制度づくりを検討中である。

・各担当教員にも個別の評価結果を送付しているが、具体的な改善計画等の提出を求めている。特に自由記述欄への回答は、学生の授業への評価が如実に反映されるものであり、中には担当教員から直接の返答を要するものもある。また、学生と教員との間に授業に対する意識の相違が見られる場合にも、こうした自由記述への返答を通して誤解の解消を図ることができる。授業評価アンケートは学生からの一方的な評価にとどまることなく、教員と学生相互のコミュニケーションを促進するツールとして活用することが望ましい。

■質問項目について（東京新宿キャンパス）

・本調査の目的は授業の改善に資することであって、学生の回答から授業改善の糸口を掴もうというのがその本質である。

・学生自身の授業参加に対する意欲を問う項目はあるものの、具体的な理由は問うていない。

例えば消極的な態度の原因が本人にあるのか、あるいは授業内容にあるのかは不明であり、仮に授業の内容に問題があり、結果として学生の修学意欲に悪影響を及ぼしているのであれば、この質問項目は一見学生自身について問うているように見えても、本質的には授業に対する評価と見做すことができる。今後はより具体的な理由を問う項目の追加を検討し、授業の効果的な改善に繋げたい。

学生による授業評価および教員による自己評価について（看護学部）

平成22年度開設された看護学部においても、「学生による授業評価アンケート」およびその集計結果に基づく「教員による自己評価」を実施している。

●講義・演習科目における授業評価

講義・演習科目における授業評価アンケートの設問は以下の通りである。それぞれの設問に対する評価尺度は、A～Eの5段階評価としている。

(1) あなたの授業への取り組みについて

- 1 あなたのこれまでの出席状況はどうですか？
- 2 あなたは毎回授業のために、どの程度、予習・復習をしていますか？
- 3 あなたは授業中に私語をしたことがありましたか？
- 4 あなたは授業中に携帯メールをしたことがありましたか？
- 5 あなたは授業中に途中退出したことがありましたか？

(2) 授業の評価

- 1 授業に集中できる環境・雰囲気が整っていましたか？（設備面）
- 2 授業に集中できる環境・雰囲気が整っていましたか？（教室での学生の受講態度やおしゃべり）
- 3 毎回の授業はおおむねシラバスに沿って進行していましたか？
- 4 授業で知的な刺激を受け、興味や関心を持ってましたか？
- 5 授業の進行度合い（スピード）は適切でしたか？
- 6 教科書（あるいはプリント）など主たる教材は適切でしたか？
- 7 視聴覚教材（DVDやパワーポイント）などは適切でしたか？

(3) 教員の評価

- 1 教員の授業への取り組みは熱心でしたか？
- 2 教員の声や話し方は、はっきりしていて聞き取りやすかったですか？
- 3 ホワイトボードに板書された文字は見やすかったですか？
- 4 あなたは総合的に見て、この授業を受講して満足していますか？

(4) この授業で具体的に良かった点や、この授業をさらに良くするための改善策があれば書いてください。

また、この授業のあなたの取り組みや参加度について自己評価してください。

（自由記述）

★マークのしかた

学生による授業評価アンケート（平成23年度）

以下のそれぞれの質問で、あてはまるもの一つにマークをしてください。

(1) あなたの授業への取り組みについて

質問	授業				
	A	B	C	D	E
1 あなたのこれまでの出席状況はどうですか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 あなたは毎週授業のために、どの程度、予習・復習をしていますか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 あなたは授業中に私語をしたことがありますか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 あなたは授業中に携帯メールをしたことがありますか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 あなたは授業中に途中退席したことがありますか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) 授業の評価

質問	授業				
	A	B	C	D	E
1 授業に集中できる環境・雰囲気は整っていましたか？（設備面）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 授業に集中できる環境・雰囲気は整っていましたか？（教室での学生の受講態度やおしゃべり）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 毎回の授業はおおむねシラバスに沿って進行していましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 授業で知的な刺激を受け、興味や関心を持っていましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

★マークのしかた

質問	授業				
	A	B	C	D	E
5 授業の進行速度（スピード）は適切でしたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 教科書（あるいはプリント）などまとめる教材は適切でしたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 視聴覚教材（DVDやパワーポイント）などは適切でしたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 教員の評価

質問	授業				
	A	B	C	D	E
1 教員の授業への取り組みは熱心でしたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 教員の声や話し方は、はっきりして聞き取りやすかったですか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ホワイトボードに板書された文字は見やすかったですか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 あなたは総合的に見て、この授業を受講して満足していますか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(4) この授業で具体的に良かった点や、この授業をさらに良くするための改善案があれば書いてください。また、この授業のあなたの取り組みや参加度について自己評価してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

●実習科目における授業評価

実習科目については、科目の特殊性に鑑み、講義・演習科目とは授業評価アンケート様式を変更している。実習科目における授業評価アンケートの設問は以下の通りである。それぞれの設問に対する評価尺度は、4段階評価としている。

①実習に取り組む姿勢

A) 項目別評価

1. 実習の目的・目標を理解して実習に臨んだ
2. 予習・復習を行って実習に臨んだ
3. 体調管理に留意して実習に臨んだ
4. 熱意を持って実習に臨んだ

B) 今後の課題（自由記述）

②実習指導者についての評価

A) 項目別評価

1. 実習オリエンテーションは適切で分かりやすかった
2. 実習スケジュールは目的・目標に沿って計画されていた
3. 教員の援助は看護場面において適切であった
4. 教員の援助はカンファレンスにおいて適切であった
5. 教員の援助は記録において適切であった
6. 看護職の援助は看護場面において適切であった
7. この実習は看護に対する考えを深めるために適切であった
8. 自分らしく実習できるためのサポートが得られた
9. 病棟は実習しやすい環境・雰囲気だった

B) 今後、改善して欲しい点（自由記述）

③総合評価

- 4.大変良い 3.良い 2.やや悪い 1.悪い

④実習の自己評価・実習指導者についての評価全体を通しての感想や意見（自由記述）

宝塚大学看護学部 【平成22年度生】実習評価

平成23年9月に実施した「基礎看護学実習Ⅱ」について評価をお願いします。

実習科目名 基礎看護学実習Ⅱ 担当教員名: _____

実習病院 _____ 病棟 _____

<実習に取り組み姿勢>

A) 項目別評価

以下のそれぞれの項目について、当てはまる数字を○で囲んでください。(4段階評価)

4 かなりそう思う 3 ややそう思う 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない

1. 実習の目的・目標を理解して実習に臨んだ	4	3	2	1
2. 予習・復習を行って実習に臨んだ	4	3	2	1
3. 体調管理に留意して実習に臨んだ	4	3	2	1
4. 熱意を持って実習に臨んだ	4	3	2	1

B) 今後の課題

<実習指導者についての評価>

A) 項目別評価

以下のそれぞれの項目について、当てはまる数字を○で囲んでください。(4段階評価)

4 かなりそう思う 3 ややそう思う 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない

1. 実習オリエンテーションは適切で分かりやすかった	4	3	2	1
2. 実習スケジュールは目的・目標に沿って計画されていた	4	3	2	1
3. 教員の援助は看護場面において適切であった	4	3	2	1
4. 教員の援助はカンファレンスにおいて適切であった	4	3	2	1
5. 教員の援助は記録において適切であった	4	3	2	1
6. 看護職の援助は看護場面において適切であった	4	3	2	1
7. この実習は看護に対する考えを深めるために適切であった	4	3	2	1
8. 自分らしく実習できるためのサポートが得られた	4	3	2	1
9. 病棟は実習しやすい環境・雰囲気だった	4	3	2	1

B) 今後、変更して欲しい点

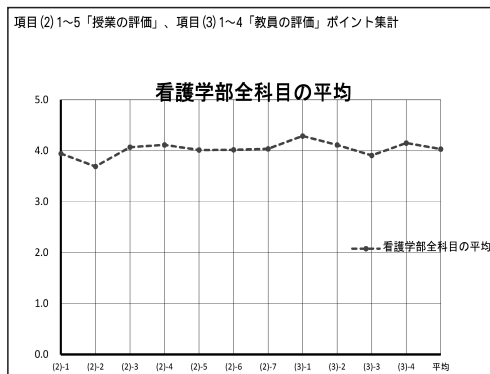
<総合評価> 4. 大変良い 3. 良い 2. やや悪い 1. 悪い

【実習の自己評価・実習指導者についての評価全体を通しての感想や意見】

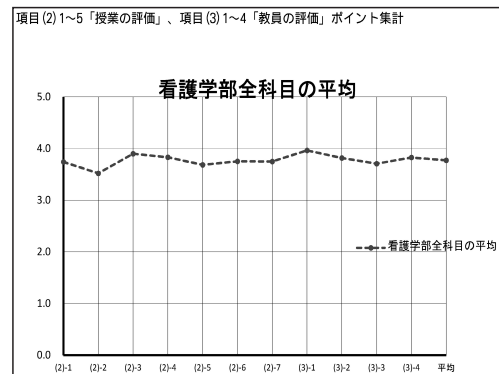
●平成23年度「学生による授業評価」の結果

平成23年度においては、開講しているすべての授業科目において、最終授業時に授業評価アンケートを実施した。その結果は以下の通りである。

	前期	後期
実施科目	34 (科目)	45 (科目)
受講者数	2658 (人)	4028 (人)
提出者数	1917 (人)	2350 (人)



平成23年度 前期 授業評価集計結果



平成23年度 後期 授業評価集計結果

●教員による自己評価

「学生による授業評価」の結果に基づき、すべての科目の担当教員が「自己評価報告書」を作成し提出した。自己評価報告書の設問は以下の通りである。それぞれの設問に対する回答尺度は、4段階評価としている。

①講義・演習科目の自己評価報告書

(A) 項目別評価

1. 熱意を持って臨んだ
2. 活用した教材は適切だった
3. 講義（演習）の重要点が明示できた
4. 聞き取りやすい話し方を心がけた

(B) 自由記載を基にした評価（箇条書きにしてください）

- ・具体的に良かった点（目標達成度、教材、授業方法、シラバス、その他）：自由記述
- ・今後の改善点（目標達成度、教材、授業方法、シラバス、その他）：自由記述

(C) 総合評価

4. 大変良い 3. 良い 2. やや悪い 1. 悪い
(授業評価の全体を通しての感想や意見)：自由記述

②実習科目の自己評価報告書

(A) 実習指導評価

1. 実習オリエンテーションは適切であった 4 3 2 1
2. 実習スケジュールは目的・目標に沿って計画した 4 3 2 1
3. 教員の援助は看護場面において適切であった 4 3 2 1
4. 教員の援助はカンファレンスにおいて適切であった 4 3 2 1
5. 教員の援助は記録において適切であった 4 3 2 1
6. 実習施設側との連携をとり実習環境を整えた 4 3 2 1
7. 看護職の援助は看護場面において適切であった 4 3 2 1

(B) 総合評価

4. 大変良い 3. 良い 2. やや悪い 1. 悪い

(C) 学生による実習評価および自己評価を通しての改善点、感想、意見

宝塚大学看護学部 授業の担当教員による自己評価報告書【平成23年度】				
この報告書は、回収された学生による授業評価アンケート、及びその集計結果を踏まえて作成してください。オムニバス形式の講義(演習)の場合は、すべての担当教員名を記入した上で、科目全体としての評価を行ってください。また、教員名に続いて担当回数を記入してください。(例:宝塚太郎(3回))。				
担当教員名:	_____			
授業科目:	_____			
授業形式:	1 単独講義(講義・演習)	2 オムニバス講義(講義・演習)		
(A) 項目別評価	以下のそれぞれの項目について、当てはまる数字を○で囲んでください。(4段階評価)			
4 かなりそう思う	3 ややそう思う	2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	
1. 熱意を持って臨んだ	4	3	2	1
2. 活用した教材は適切だった	4	3	2	1
3. 講義(演習)の重要点が明示できた	4	3	2	1
4. 聞き取りやすい話し方を心がけた	4	3	2	1
(B) 自由記載を基にした評価(箇条書きにしてください)				
・ 具体的に良かった点(目標達成度、教材、授業方法、シラバス、その他)				
・ 今後の改善点(目標達成度、教材、授業方法、シラバス、その他)				
(C) 総合評価	4. 大変良い	3. 良い	2. やや悪い	1. 悪い
【授業評価の全体を通しての感想や意見】				

宝塚大学看護学部 実習の担当教員による自己評価報告書				
学生による実習評価アンケートおよび集計結果を踏まえて記載してください。				
担当教員名:	_____	実習科目名:	_____	(平成 年度)
(A) 実習指導評価	以下のそれぞれの項目について、当てはまる数字を○で囲んでください。(4段階評価)			
4 かなりそう思う	3 ややそう思う	2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	
1. 実習オリエンテーションは適切であった	4	3	2	1
2. 実習スケジュールは目的・目標に沿って計画した	4	3	2	1
3. 教員の援助は看護場面において適切であった	4	3	2	1
4. 教員の援助はカンファレンスにおいて適切であった	4	3	2	1
5. 教員の援助は記録において適切であった	4	3	2	1
6. 実習施設側との連携をとり実習環境を整えた	4	3	2	1
7. 看護職の援助は看護場面において適切であった	4	3	2	1
(B) 総合評価	4 大変良い	3 良い	2 やや悪い	1 悪い
(C) 学生による実習評価および自己評価を通しての改善点、感想、意見				

10-9 科目履修ガイダンス

各学科の学年別に、学生の修学上の指導に当たる教員を毎年4月に決め、綿密なガイダンスを実施している。なお学生から自発的に教学上の教えを受けたり、あるいは進路指導や一身上のアドバイスをえるため、ガイダンス担当教員のオフィスアワーを定めている。東京メディア・コンテンツ学部においては、学生の履修相談には教職共同の考え方で取り組んでいる。各学期の開始期には教員・職員が連携してガイダンスを行い、きめ細かな履修のフォローができるように努めている。

修学状況に問題がある学生に対しては、保証人(主として両親)に来学してもらい、学生同席で面談(面接は学部長・学科長・学科主任・コース主任らが担当)意見交換ならびに修学上の指導を随時行なっている。

●造形芸術学部

各学期(前期:4月~9月・後期:10月~3月)の開始時に、学部・学科別、学年別に綿密なガイダンスを実施している。まず、学部・学科単位の全体ガイダンスを実施し、その後、各学生が所属している研究室に分かれて、より個別の学生に対応した研究室ガイダンスを実施している。

①学部・学科全体ガイダンス

学部・学科全体ガイダンスにおいては、当該学期における学部・学科の方針、留意すべきこと等全体的な事項を周知している。具体的には、卒業要件について、履修登録について、登録制限（履修キャップ制）について、履修計画の立て方、履修届記入方法及び注意事項（履修届控えについて、履修届提出と登録内容確認について、履修科目登録の訂正・変更・追加・取消し期間について）を主な内容としている。

（配布書類）

学年暦／時間割表／シラバス（授業計画）／科目年次配当一覧／履修届／授業科目履修についての留意事項／研究室教員構成表／PC教室概要一覧／工房のしおり／教科書・参考書一覧表／再試験制度について／欠席届／博物館学芸員課程関係書類／各授業個別の案内（必要時）

②研究室ガイダンス

科目選択の幅が広がった現行カリキュラムにおいて学生の履修内容を適切なものとするため、研究室幹事教員が個別に学生の希望分野にそった履修指導を行なっている。履修登録にあたっては研究室の教員の承認を要することとしており、学生の履修状況及び単位修得状況を把握して履修登録指導することによって、実質的な個別指導による丁寧な指導体制、適切な履修単位登録がなされるような事前チェック体制をとっている。同時に、履修指導だけにとどまらず、学生固有の各種相談窓口となるような機会としている。

（配布書類）

直前期の成績通知書（1年次前期を除く）

上記のような学期開始時ガイダンス時だけでなく、修学状況に問題がある学生に対しては、保証人（主として両親）に來学してもらい、学生同席で面談（面接は学部長・学科長・研究室幹事教員等が担当）を実施し、意見交換ならびに修学上の指導を随時行っている。また日々のオフィスアワーを利用し、学生生活に全般にわたるきめ細かい指導を行い、指導内容をカルテ化し、教務委員会・学生委員会と連携を取りながら教職員間で共有化を図っている。

●東京新宿キャンパス

今期新入生より領域制をスタートさせコースという縛りがなくなったため前期初頭においては、領域にとらわれず1年生全体でのオリエンテーションを行った。

その中で、1年生全員で履修する「創造基礎」等の基礎科目の概要について複数いる担当教員から説明を行なった。その後に各領域に分かれて、各領域ごとにそれぞれの一応の目安となる履修スタイル等についてきめ細かい履修指導をした。

2～4年生についてはコース制が残っているため従来通り各コースごとにガイダンスを行い該当するコース学年ごとの履修の特質、注意点などを複数の担当教員から伝えた。また、修得済単位の少ない学生、出席状況に問題のある学生については、学務課の作成したリストをもとに担当教員たちが分担して今後の履修方針等について面談を行った。

10-10 特別講座の開催

講師に、本学の教員のほか学外の著名学者を招へいし、一般公開または学内の学生・教職員対象の特別講座をできるだけ多く開催すべく留意している。

現在までの開催実績は以下の通りである。

特別講座開催実績

講座等の名称	担当講師名	開催年月	備考
平成15年度「大学公開講座」(サテライト)			
21世紀におけるビジネス・デザイン研究の展望	本学教授 菅原 正博	H15. 1	公開講座 宝塚造形芸術 大学大学院サ テライト
ぼくはこうして世界の4大アーティストになった	本学教授 嶋本 昭三	H15. 2	
映像について	本学教授 大村 皓一	H15. 2	
次世代ユビキタス ―ウエアラブルコンピューター	本学教授 志水 英二	H15. 3	
日本文化と茶道	大学院客員教授 千 玄室	H15. 4	
ファッションアートの感性分析	本学教授 崎田喜美枝	H15. 4	
世界の中の日本文化―モダンからポストモダンへ―	本学教授 倉澤 行洋	H15. 5	
郷愁と憧憬の音文化―上方の庶民と芸能を中心に	本学教授 棚橋 昭夫	H15. 6	
「撮影スタート!」そのときカメラマンは何をする?	本学教授 島村 湊	H15. 7	
マンガ・アニメの可能性	本学教授 西上 晴雄	H15. 7	
心理学と医学	本学教授 梅本 守	H15. 8	
変動する世界と音	本学教授 難波精一郎	H15. 8	
大河を描く―風景画の軌跡	本学教授 中村 貞夫	H15. 9	
オリンピック開催地アテネとギリシャ美術	本学教授 関 隆志	H15. 9	
我が国の国家理念とその系譜	四天王寺元管長 瀧藤 尊教	H15. 10	
ブロードバンド時代を迎えて	本学教授 長野 祐弘	H15. 10	
ロココの魅力―18世紀のフランスの美術―	本学助教授 下濱 晶子	H15. 11	
メディアにおける映像の役割	元朝日新聞社専務 中馬 清福	H15. 11	
山よりでかい猪は出ぬ―人と虫と環境との関わり―	本学教授 保田 淑郎	H15. 11	
今、子育て・教育に求められるもの―激変する生育環境と子供たち―	本学教授 桂 正孝	H15. 12	
インターネットを利用した美術鑑賞	本学教授 圓山 茂子	H15. 12	
臓器(腎臓)移植…世界と日本	本学教授 園田 孝夫	H16. 1	
あなたも明日から映画作家	本学助教授 高橋 一郎	H16. 2	
黒澤明監督作品に学ぶ映画の作り方	本学教授 社城 毅	H16. 3	
テレビ美術のリアリティ	本学教授 宮井市太郎	H16. 4	
平成16年度「大学公開講座」(サテライト)			
人間関係のインテリアデザイン	本学教授 加藤 力	H16. 5	
仏像彫刻を現代彫刻に生かす方法	本学教授 西村 公泉	H16. 6	
情報の海を漂うサイボーグ(改造人間)	本学教授 橋爪竹一郎	H16. 7	
イラストレーションとともに ―現在、過去、未来―	本学助教授 大河 繁	H16. 8	
放送の過去、現在、未来	本学教授 望月 正憲	H16. 9	

建築計画学と商業施設	本学教授 池田 有隣	H16. 10	
日本の感性とビジュアルデザイン	本学教授 山崎 昌久	H16. 11	
写真の世界@世界の写真	本学助教授 吉川 直哉	H16. 12	
平成 17 年度「大学公開講座」(サテライト)			
自己表現時代のインテリア学	本学教授 加藤 力	H17. 7	宝塚造形芸術 大学大学院サ テライト
シンプル イズ ベストから テイスト イズ ベストへ	本学教授 中村隆一	H17. 8	
ブランドスケープデザイン	本学教授 李 英一	H17. 8	
仮想人工現実の彼方に	本学教授 原 駿二	H17. 8	
黒澤明映画の美術	本学教授 社城 毅	H17. 8	
平成 19 年度「大学公開講座」(サテライト)			
茶道の心は世界平和へ	本学教授 千 玄室	H19. 5	
コンテンツ産業の将来	本学教授 川村順一	H23. 8	東京新宿 キャンパス 公開講座
次代のマンガ家へ	本学特任教授 松本零士	H23. 8	
人は見た目が9割	本学教授 竹内一郎	H23. 8	
ジャパニメーションとは何だ	本学特任教授 月岡貞夫	H23. 8	
ボランティアについて考えよう	本学講師 和田俊彦	H23. 8	
コミックスタジオでマンガを描いてみる	本学講師 小高みちる	H23. 8	
人物クロッキー	本学講師 安田隆浩	H23. 8	
シナリオ制作 初めの一步	本学講師 山田耕大	H23. 8	
手書きマンガを制作してみよう	本学講師 萩原京子・芦谷耕平	H23. 8	
アニメーションを作ってみよう	本学准教授 古瀬 登	H23. 8	
イラストレーションで自己表現	本学教授 北見 隆	H23. 8	
Flashでゲームを作る	本学教授 井上幸喜・本学講師 吉岡章夫	H23. 8	
コンテンツ産業の現状と就職力	本学教授 川村順一	H24. 8	東京新宿 キャンパス 公開講座
個性の確立を目指す創作への道	本学特任教授 松本零士	H24. 8	
人は見た目が9割 - 日本人のための非言語コミュニケーション入門	本学教授 竹内一郎	H24. 8	
ジャパニメーションとは何だ	本学特任教授 月岡貞夫	H24. 8	
映画の未来とメディア	本学特任教授 崔 洋一	H24. 8	
コミックスタジオでマンガを描いてみる	本学講師 小高みちる	H24. 8	
人物クロッキー	本学講師 安田隆浩・高田美苗	H24. 8	
初めての3DCGアニメーション	本学助教 大倉有樹	H24. 8	
シナリオ作成 初めの一步	本学講師 山田耕大	H24. 8	
手描きマンガを制作してみよう	本学講師 萩原京子・芦谷耕平	H24. 8	
アニメーションを作ってみよう	本学准教授 古瀬 登	H24. 8	
イラストレーションで自己表現	本学教授 北見 隆・本学講師 高田美苗	H24. 8	

ゲームアプリを作ってみよう	本学教授 井上幸喜・本学講師 吉岡章夫	H24. 8	
映画制作原理のプロセス 1.企画から制作 2.制作と技術（アナログ、デジタル） 3.映像表現の可能性（多メディア時代の可能性） 4.アジアから世界への映像発信 地方発信の映像文化について カムイ外伝を通して伝えたいこと 等	本学特任教授 崔 洋一	H23. 5 H23. 6 H23. 12 H24. 1	公開講座 宝塚大学大学院サテライト
2013 宝塚大学「夏期集中公開講義」			
声の使い分け、身振りの演じ分け（発声演習）	桂団治郎	H25. 12	造形芸術学部 特別授業
アートユニット "パラモデル" による作品について、そして、これからのアートについて	中野裕介	H26. 1	
アニメ『サザエさん』の声優人生	加藤みどり	H26. 1	
原作付き漫画のできるまで	本学教授 竹内一郎	H25. 8	東京新宿 キャンパス 公開講座
マンガ・アニメ業界を選ぶ決意	本学特任教授 松本零士	H25. 8	
ソーシャルメディアとコンテンツ産業	本学教授 川村順一	H25. 8	
人体を描くコツ	本学教授 櫻木晃彦	H25. 8	
ゲームクリエイターになるために、知っておきたいこと	本学教授 井上幸喜	H25. 8	
お話が漫画になるまで（実習）	本学専任講師 市野治美 本学助手 上原愛弓	H25. 8	
映像を使って表現出来るバリエーション	本学教授 成田裕介	H25. 8	
アニメーションをつくってみよう	本学准教授 古瀬登	H25. 8	
デッサン -全体と細部の観察-	本学専任講師 安田隆浩	H25. 8	
ペーパークラフト制作	本学教授 北見隆 本学専任講師 高田美苗	H25. 8	
シナリオ制作 初めの一步	本学講師 山田耕大	H25. 8	
キャラクターのグッズデザイン展開	本学准教授 古瀬登	H25. 8	
デジタルマンガの作り方（入門編）	本学講師 小高みちる	H25. 8	
スマホアプリ制作にチャレンジしよう	本学教授 井上幸喜 本学専任講師 吉岡章夫	H25. 8	
マンガ背景美術 -SFとロボットの描き方-	本学講師 イエス小池	H25. 8	

10-11 大学紀要—ARTES—の発行

定期刊行物の宝塚大学紀要'ARTES'は大学開設の1987年No.1号から2013年No.27号まで既刊、2000年以降の各号別の投稿者と題目を以下に記載した。(なお2009年No.23号までは、宝塚造形芸術大学紀要)

なお紀要編集に関する内規及び紀要審査委員会内規を末尾に付記した。

No.14 2000 目次

続・環境デザインについて	稲次敏郎	1
教育用 LAN の構築とその評価Ⅱ	難波精一郎 平山寿邦 林勇気 船渡弘	23
生命の泉 Fountain of Life	逆井宏	31
—モノから都市への視点— 日本の広告の IMC 戦略概要 — IMC 戦略における TVCM のポジショニング—	山崎昌久	47
イギリス・ジョージアン期の期のデザイナー —④ トーマス・ジェラトン—	安永一典	59
美術作品に見る視線と文化の拘束	橋爪竹一郎	79
Paintings, Installations and Art Information	George K. Shortess	103
言語学のための手段としての翻訳	クリスティーナ フーラ	113
USING DIALOGUES WITH CONTEXTUAL CUES	ニール ブレットバーク	123
服飾美学からファッション美学へ —ファッション美学と消費者行動論の関連性—	川中美津子	129

No.15 2001 目次

イマヌエル・カントの道徳律	五十嵐 淳	1
ヘレニズム東方とローマ	合 阪 学	13
—前200~146年— アーカイブス論	浅野次郎	29
西洋哲学史談義	浅野 檜 英	41
教育用 LAN の構築とその評価Ⅲ	難波精一郎他	51
—インタラクティブ授業の展開— 林 勇 気 石 橋 幸 雄		
日本と西洋の絵画に見る色の特徴	福井麻希	57
～多湿感と感想感を中心にして～ テレビドラマの演出空間	西村 武 (共著) 宮井市太郎	75
～連続テレビ小説「あすか」の制作を通して～ 立体映像における特異な視覚表現	長久保 光 弘	95
メンズウエアのパターンドラフティング	炭 釜 啓 人	105
近代個人主義的世界観の変容	田 淵 晉 也	117
—アヴァンギャルド芸術を詠む		

No.16 2002 目次

学内 LAN および無線 LAN を用いたインター ラクティブな授業方法の開発	難波 精一郎	1
	尾 花 充 長久保 光 弘 若 生 秀	

	石橋幸雄	
	林 勇氣	
古代アッティカ陶芸に関する一考察	関 隆 志	15
初原の色環について－闇の輝き－	中 村 貞 夫	37
L'Esthétique de Watteau (ヴァトーの美学)	下 濱 晶 子	47
アンティゴノス・ゴナタスとその時代	合 阪 學	59
ヨーク家の人々	横 山 徳 爾	73
21世紀におけるビジネス・デザイン研究の展望	菅 原 正 博	89
－ブランド・デザインとマーケティング－		
「川西市子どもの人権オンブズパーソン」	高 橋 一 郎	115
教材ビデオの制作プロセス		
本学学生の就職意識動向調査	喜 多 光 信	135
報告：学内演習授業におけるD.T.P.演習方法の考察	植 松 陽 一	149
～「街角ウォッチング」における演習制作をとおして～		

No.17 2003 目次

アレクサンドロス大王以後（前323－281年）	合 阪 學	1
マーガレット・オヴ・ヨーク	横 山 徳 爾	23
－ヨーク家の人びと(2)－		
日本美の伝統 －日本庭園にみる日本美の秩序－	村 山 茂 樹	39
画像と音響の同期	難 波 精 一 郎	53
	林 勇 氣	
	若 生 秀	
「感性リッチ型生活4業態の生活美学的考察」	中 澤 祐 子	65
イメージ・コンサルティング・アプローチ	菅 原 正 博	
体積型ホログラムの色再現性の改善方法	岡 本 正 昭	85
	小 松 久 美 子	
	志 水 英 二	
パーソナルコンピュータがアニメーション制作者に	林 勇 氣	95
あたえる影響と変遷		
コンピュータグラフィックスと絵画制作を融合した	木 村 智 博	107
絵画表現法		
画面における構成質素に基づく映像制作	渡 邊 哲 意	117
	大 竹 宏	
	木 本 貴 子	
	坂 口 智 行	
	清 水 大 輔	
	金 城 龍 治	
	大 村 皓 一	
報告：コンピュータデザイン演出授業における	植 松 陽 一	135
デジタル媒体を使用したコミュニケーションツール化とその考察		
－次世代コミュニケーションツールをふまえて－		
報告：学内LANおよび携帯電話を用いた	難 波 精 一 郎	145
インタラクティブ授業の実施	若 生 秀	
－授業における入力端末の選択実験－	林 勇 氣	
編集後記		155

No.18 2004 目次

マンガ・アニメ構造論	西 上 晴 雄	1
「椿三十郎」	社 城 毅	23
～面白い映画～		
ヒスパニア・カルタゴ・ローマ（前154-121年）	合 阪 學	59

～並びに同時代のベルガモン王国～			
ソールズベリー女伯マーガレット・ポール	横山徳爾	75	
～ヨーク家の人びと(3)～			
特撮映像におけるスケールモデルの役割りと	田淵稔浩	91	
そのビジュアルイフェクツ（視覚的映像効果）の検証			
百貨店における「消費者取り揃え行動」に関する	菅原正博	105	
マーチャンダイジング・フィールド調査研究	宮武恵子		
イラストレーションワーク	大河繁	125	
～イラストレーションの仕事を通して～			
空間の構成質素に基づく映像制作	渡邊哲意	139	
－京都・高台寺ライトアップ映像の制作－			
インタラクティブイメージコンテンツ	長久保光弘	149	
フラクタルサウンドによるアニメーション	吉田浩	161	
日本美の伝統	村山茂樹	167	
～継承そして表現～			
<small>こうやさんしんごんしゅうかくべつほんざんなんいん</small> 高野山真言宗格別本山南院Webデザインの理論について			
映像における動画表現の推移	沼田浩一	177	
インタラクティブコミュニケーションツールによる	植松陽一	189	
授業展開の考察			
～オンライン操作にみる制作演習のあり方～			

No.19 2005 目次

芸術と創造的思考	梅本守	1	
脚色の技法(1)	社城毅	13	
－原作と脚本の比較－			
アレクサンドロス大王	合阪學	29	
エリザベス・ウッドヴィル	横山徳爾	43	
－ヨーク家の人びと(4)－			
マンガ・アカデミー	西上晴雄	59	
動きの構成質素に基づくCGアニメーションの制作	渡邊哲意	77	
	大竹宏		
	木本貴子		
	坂口智行		
	清水大輔		
	金城龍治		
	大村皓一		
遊びの分類に従ったアニメーション表現の考察	沼田浩一	85	
アップルブランドの魅力(1)	植松陽一	97	
～iMacブランドとiPodブランド～			
絵画表現とキャラクター表現に見る	上岡秀拓	111	
コミュニケーションの考察と実践			

No.20 2006 目次

デジタルペインティング	木村智博	1	
哲学とレトリック	山野耕治	15	
エドワード五世とヨーク公リチャード	横山徳爾	21	
－ヨーク家の人びと(5)－			
MANGA CRISIS	西上晴雄	37	
カートゥーンの可能性	柳たかを	53	
日本画考	曲子明良	65	
A PRELIMINARY STUDY ON	Shanghai PAN	75	
THE EVOLUTION OF DESIGN MANAGEMENT			

－Exploring the New Perspectives for Design Management－

映画「フラドン農学校の尾崎さん」の製作プロセス	高橋一郎	87
インテリア空間における社会心理学的考察	加藤力	103
	松田奈緒子	
コンピュータグラフィックスの模造的映像の表出	林勇気	117
デジタル絵本の制作	上岡秀拓	129
Web漫画の表現方法の考察	田村知視	149
二極化するキャラクター消費	神澤孝宣	159
－マンガ・アニメ産業からみたキャラクター消費行動の考察－		
オリジナリティーに対する考察	井上陽介	171
報告：本学大学祭でのミュージックエンター	渡邊哲意	181
テインメント実施とワークショップ	伊丹谷良介	
	武内聡	
	菊地圭介	
屋外展示イベントにみる映像作品の可能性について	大成拓	195

No.21 2007 目次

ソボクレーズが描いたオイディプス	原 峻 二	1
～演出論的一考察～		
ポリュビオスの普遍史叙述とその政治的背景	合 阪 學	17
テレビ報道番組における	奥 田 一 重	31
ハードとソフトの関係の一考察		
H・G・ウェルズの思想とマンガ	西 上 晴 雄	59
1/f ゆらぎによるアニメーション	吉 田 浩	69
A DISCUSSION ON THE GLOBALIZATION AND	Shanghai PAN	83
LOCALIZATION ROLES PLAYED BY SERVICE DESIGN		
ウルグアイ映画「ウイスキー」のストーリー分析	高橋一郎	97
絵画の材料と技法について	村 田 大 輔	113
～何で描くのか～		
ファッションIMCの体系化	横越谷 勝 雄	131
－ファッションブランディングアプローチ－		
編集がもたらす映像の効果	沼 田 浩 一	145
インタラクティブコンテンツおよび立体画像	長久保 光 弘	159
アップルブランドの魅力(2)	植 松 陽 一	171
～アップルブランドにおけるビジュアルデザインのベネフィット～		
環境音楽デザインの考え方と	中伏木 寛	185
その導入効果に関する考察		
実効性のあるコンプライアンス経営に関する一考察	和 田 俊 彦	197
－通販業界における最近の広告表現事例を中心にして－		
ソーシャル・メディアによるコンテンツの拡がり	神 澤 孝 宣	211
－膨張するカーニバル型コンテンツ－		
彫刻作品における台座の役割	合 田 望	225
報告：ASIAGRAPH2007 in TOKYO	大 倉 有 樹	233
第一回学生ワークショップの実施と今後の展開についての模索		
サンディエゴ・コミック・コンヴェンション報告	井 上 陽 介	245
ジャパン・クールは本当か	田 村 知 視	

No.22 2008 目次

精神神経疾患と芸術療法	梅 本 守	1
生産システムと経営デザインの進化	坂 本 清	13
平面充填タイルの不規則配列の試みと実用可能性	岡 本 正 昭	25
エリザベス・オヴ・ヨーク	横 山 徳 爾	37

－ヨーク家の人びと(6)－

エンターテインメントの中の哲学	西上晴雄	53
日本映画の文法	社城毅	63
ヴィム・ヴェンダース+サム・シェパード	高橋一郎	85
映画「アメリカ、家族のいる風景」のストーリー分析 『生月』	竹本稔	99
～切支丹哀史～		
SUR LES PROBLEMES DE LA COMMUNICATION ET DE LA GLOBALISATION	Shanghai PAN	113
映画・アニメ産業のスタッフと労働者性	河合壘	127
成人映画の現状	沼田浩一	141
ネットワークと携帯電話を使用した映像制作演習の 遠隔授業の実施の試み	林勇気	157
デジタル作品の展開についての考察	木村智博	169
『庭園的生産緑地』を中核とした都市景観の展望	村山茂樹	177
－宝塚市・山本地区とその周辺地区－		
The Significance of Artistic Anatomy in the Field of Medical Illustration Today	SACRAGI, Akihiko	193
アニメ制作現場の現状と課題	神澤孝宣	201
－アニメーターの持続可能性の考察－		
「幻想芸術を制作するための一考察」	松野一樹	213
デジタル環境を利用した絵画作品の展開について	上岡秀拓	225
ASIAGRAPHに見るアジアのCGアートの魅力と、	大倉有樹	243
日本のデジタルコンテンツ業界のこれから		
報告：北京パラリンピックラジオ特別番組の制作	渡邊哲意	257
	ミー トンイン	

No.23 2009 目次

ビッグ・ビジネスとしてのマンガとアニメーション	西上晴雄	1
ARによるアニメーション	吉田浩	19
A Report on Practical Teaching Method : サイバーキャンパス授業の検証と可能性について	朝野富三	35
愛を語るひと47		
映画『かくも長き不在』のストーリー分析	高橋一郎	
ON THE CAUSES OF THE GLOBAL FINANCIAL CRISIS AND ITS COUNTERMEASURES	Shanghai PAN	63
わが国公的年金制度の公平(性)に関する法的考察	河合壘	77
こどものファッションスタイルにみる		
団塊ジュニア世代の感性	角南登紀子	95
マンガ家と読者の皮膚感覚	神澤孝宣	113
デジタルメディアで表現される絵本についての考察	上岡秀拓	125
立体ディスプレイを用いたパターンアニメーション制作 －ASIAGRAPH2009報告－	大倉有樹	143

No.24 2010 目次

造形芸術学部（宝塚キャンパス）研究論文・報告		
ホリスティックなユーザーエクスペリエンスを志向する	山下幹生	3
デザインマネジメントのプラットフォーム		
『めまい』と『ラ・ジュテ』	高橋一郎	13
～死の淵へ誘う船と女相似形の作品を読む～		
3次元CGによる平面表現	村上佳明	29
－造形プロセスとフォルムの関係－		
CGアート及びイラストレーションにおける	木村智博	39

3 DCGの表現についての考察		
ネットワークと携帯電話を使用した映像制作演習の	林 勇 気	59
遠隔授業の実施報告		
「振れる」かわいさ	神 澤 孝 宣	75
報告：産学協同事業「タイヤデザインコンテスト」に	植 松 陽 一	85
取り組んだ実践授業		
東京メディア・コンテンツ学部（東京新宿キャンパス）研究論文・研究ノート		
公害報道	奥 田 一 重	101
イタイイタイ病をめぐるテレビ報道のアーカイブ的検証		
わが国の「従業員選任監査役」構想に関する	河 合 壘	129
労働法学からの視点		
世界を自然と立体的に見ていることについての考察	大 倉 有 樹	147
看護学部（大阪梅田キャンパス）研究資料		
保健師の実践能力のための教育の検討	藤 本 末 美	171
The influence of maternal positions on the duration of labour,	宮 本 雅 子	191
and the degree of perineal trauma		
西日本X島に居住する育児期の母親の実態調査	上 山 直 美	203
～夫婦・パートナー間での育児分担～		

No.25 2011 目次

造形芸術学部（宝塚キャンパス）研究論文		
「奇妙な国」の実像と虚像－ハンセン病問題を読み直す－	高 橋 一 郎	3
新世代アイドルによる流行発信	角 南 登 紀 子	27
インテリアセラピー序論－インテリア空間と精神の病みに	加 藤 力	37
関する調査研究－		
初級簿記習得者に対する間接法によるキャッシュ・フロー	鷺 見 昭 雄	53
計算書作成技法の教授法		
ピンク映画黎明期	沼 田 浩 一	89
産官学連携事業の実践取り組みと展望～2011年度の	植 松 陽 一	101
取り組み事例を通じて～		
都市ブランドデザインに関する研究－歩道空間をブラ	李 映 一	115
ンド化するためのデザイン理論について－		
看護学部（大阪梅田キャンパス）		
研究ノート：看護教育者と臨床看護師における看護学教育に	澤 田 京 子	133
対する認識およびカリキュラム作成の課題に関する研究		
（第1報）－看護教育者と臨床看護師の認識の比較－		
研究報告：看護教育者と臨床看護師における看護学教育に	澤 田 京 子	147
対する認識およびカリキュラム作成の課題に関する研究		
（第2報）－看護教育者と臨床看護師の認識の実態－		
研究ノート：A Literature Review of Aggressive Behavior among Older	平 田 弘 美	161
Adults in Japanese Long-term Care Facilities		

No.26 2012 目次

造形芸術学部（宝塚キャンパス）研究論文・報告		
ハンセン病問題を読み直す（2）加賀田一が語る長島事件	高 橋 一 郎	3
幼児のカテゴリ化選択における切り替えの柔軟性	湯 川 良 三	19
「欠伸（あくび）」と「涙」－藝道研究の立場から－	井 尻 益 郎	35
1970年代の成人映画	沼 田 浩 一	43
香りを使用したビデオゲームの展示	北 川 淳 一	57
－東京ゲームショウ2012報告－		
デザインを通じたコミュニケーションプロセスの重要性	植 松 陽 一	71
非正規雇用労働の増加と労働組合法理	河 合 壘	81

看護学部（大阪 梅田キャンパス）

総説	津 田 聡 子	101
自閉症スペクトラム障害のある子どもに対する 性教育のあり方と教員の意識についての一考察	日 高 庸 晴 高 田 哲	
文献検討	美 王 真 紀	117
精神障害者に対する精神科訪問看護についての文献研究 — 地域で暮らす精神障害者の生活支援に関する一考察 —		
報告	上 山 直 美	133
未就学児の父親への育児支援活動 — “お父さんのための育児クラス” を開催して —	野 島 敬 祐 美 王 真 紀 小神野 雅 子	

No.27 2013 目次

造形芸術学部（東京メディア・コンテンツ学部）

論文

治安維持法と宗教弾圧	朝 野 富 三	7
— 牧口事件と浅見事件に見る —		
TV アニメーション『ジョジョの奇妙な冒険』における 表現の革新性とその一考察	芦 谷 耕 平	27
イラン映画『友だちのうちはどこ？』のストーリー分析	高 橋 一 郎	47
～探し物は見つからない。それは見かけ上の目的だから～		
小児がん患児に対するインフォームドコンセントアプリの制作	渡 邊 哲 意 たちばないさぎ	67
アニメーション小考	上久保 真 理	75
— 和田淳作品を手がかりに —		

報告

耽美的表現を用いた漫画制作の考察	上 原 愛 弓	87
参加型祝祭性企画の実践と考察	植 松 陽 一	97
のせでんデコるヘッドマークプロジェクト（1） デジタルとアナログを組み合わせた表現についての考察	木 村 智 博	109
グローバル時代の異文化コミュニケーションについて	潘 山 海	117
— 概念・定義・表現・問題対処に関する考察 —		
パーソナルツールの開発とその活用	村 上 佳 明	129
「創造基礎」についての中間報告	吉 川 直 哉	137
合意形成のための景観シミュレーション	中 村 伸 之	147
京都・姉小路通における事例報告		
マサイ族の伝統的な家屋の調査記録	東 明	155

作品

50° 4'0.04"N19° 21'0.05"E / 50° 4'0.04"N19° 21'0.06"E	吉 川 直 哉	167
B4 枠からの解放 — NOAH —	葛 佐 博	170
デジタルとアナログを組み合わせた表現	木 村 智 博	172
「深韻—水の系譜」活動報告及び感受と表現形式についての一考察	児 玉 靖 枝	174
イメージの行方	増 田 妃 早 子	176
一幕の絵、小説の建築	吉 岡 千 尋	178

看護学部（大阪 梅田キャンパス）

研究報告

ケリーパッドを用いた洗髪時における膝の下への枕の挿入が、対象者 の筋の緊張感とリラックス感へ及ぼす効果—VAS比較法による検討—	木 村 静 澤 田 京 子	183
育児をしながらキャリアを継続している看護師の自らの 看護ケアに対する意識	岩 下 真由美	193
夫の立ち会い出産満足感尺度の作成	松 田 佳 子 吉 永 茂 美	207

研究ノート

神道にみる自然と人との交わり	小 林 秀 加	215
— いけ花の源流研究の一環として —		

宝塚大学 紀要編集に関する内規

第1条 この内規は、「宝塚大学 紀要（英文名 ARTES : Bulletin of Takarazuka University）」（以下「紀要」という）の作成の基準及び編集について必要な事項を定める。

第2条 紀要は、原則として年1回発行 B5版製本とし、表紙に紀要の和・英文名、号数、発行年及び大学名を記載し、内容は本学教員の学術論文、研究報告並びに作品の学術的論考を中心に掲載する。

第3条 投稿者は原則として本学教員（特任教員及び助手を含む）及び非常勤講師とする。

第4条 紀要の編集及び投稿要領を審議決定するために紀要編集委員会を置く。紀要編集委員会は委員長・副委員長及び若干名の委員をもって構成し、学長の任命によるものとし、任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第5条 寄稿された原稿が学術論文、研究報告、作品の学術的論考として本学紀要掲載の採否を審査するために、紀要委員会は各専門分野の査読委員を専任教員より指名する。また必要ある場合は学外の専門家を査読委員として臨時に委嘱することができる。

第6条 査読委員は、寄稿された学術論文、研究報告又は作品の学術的論考（以下、「論文等」という。）が、創意に富み一定以上の学術水準に達し、本学の紀要掲載にふさわしい内容を有しており、本学の評価向上に寄与するものであるか否かを審査する。

第7条 紀要委員会は、査読又は再査読の結果、修正後掲載可となったものについては、当該年度掲載、次年度掲載の別を協議決定する。

附則

平成3年11月8日 制定

平成22年4月1日 改正（大学名称変更）

平成25年4月1日 改正

宝塚大学 紀要編集委員

（平成25年4月現在）

造形芸術学部（宝塚キャンパス）

委員長（教授） 炭 釜 啓 人

委 員（教授） 兎 玉 靖 枝

委 員（教授） 藤 木 隆 義

委 員（准教授） 森 口 まどか

東京メディア・コンテンツ学部（東京新宿キャンパス）

副委員長（教授） 櫻 木 晃 彦

看護学部（大阪梅田キャンパス）

副委員長（准教授） 日 高 庸 晴

委 員（教授） 河 合 洋 子

委 員（専任講師） 木 村 静

委 員（専任講師） 小神野 雅 子

10-12 マンガコース「ZOOKA COMICS」「WeCom」「NEO」の発行（東京新宿キャンパス）

マンガコースの在生を中心に作品を制作、ネーム作りから下描き、仕上げなど編集作業を行い、2005年3月に第1号、2005年10月に第2号、2006年3月に第3号、12月に第4号、2007年2月に第5号、2009年3月に第6号が刊行された。中でも第3号、第5号、第6号は本学が主催するマンガコンテスト「ZOOKA マンガ大賞」（2007年から「メディア・コンテンツ大賞」とし、アニメーション部門なども新設）受賞作品掲載号として刊行された。

なおスタッフは、監修・松本零士、プロデュース・西上晴雄、本文構成編集・葛佐博、神澤孝宣、レイアウト・デザイン・神澤孝宣、文、西上晴雄、柳たかを、神澤孝宣、田村知視、井上陽介、松野一樹、印刷・廣済堂

2010年以降は「ZOOKA COMICS」に変わり、宝塚で「WeCom」、東京新宿キャンパスのマンガコースでは「NEO」を発刊している。「WeCom」は第5号、「NEO」は第4号まで順次発刊されている。

「NEO」VOL.1 刊行編集部員

上原愛弓、遠藤 香織、荒木 千夏、猪股 まりえ、斎藤 幸、杉田 智代、武石 友美

「NEO」VOL.2 刊行編集部員

川口 藍、森下 諒子、江藤 真波、中里智美、関根 陸、高橋 有希、松本 唯、守家 希

「NEO」VOL.3 刊行編集部員

西崎玲紗、南貴大、川名愛理、一ツ木秀香、柳澤優香

「NEO」VOL.4 刊行編集部員

天稚野子、石塚力生、漆原梓乃、小林英典、武田光翔、戸井田理奈、宮崎紫沙香、村田実亜、小野沢莉奈、河野真美
中村あい、山口玲奈

11. 学修支援及び学生支援

11-1 オフィスアワー、TAによる学修支援の状況

(1) オフィスアワー実施の状況

宝塚キャンパス 造形芸術学部

各教員のオフィスアワーを閲覧できるファイルを事務局学務課カウンターに設置することによって周知している。平成26年度からは、シラバスにおいて授業科目担当教員毎に明記することとした。また、新入生オリエンテーションやセメスタ開始時ガイダンスにおいて、オフィスアワーの制度について説明し学生への周知を徹底する。

東京新宿キャンパス メディア・コンテンツ学部

常勤、非常勤ともに、出講日の授業の前後をオフィスアワーとして設定している教員がほとんどであるため、授業期間中はまずまずの実施状況であるが、授業期間外ではほとんど実施されていない状況である。常勤教員のうち少数であるが、授業期間以外でも週のほとんどを学内で過ごす教員がおり、気軽に相談できることから好評を博している。現役のクリエイターが多いため、全員がそうなることは困難であるが、少しでも多く実施されるよう授業期間外であっても事前にスケジュールを発表し、学生のニーズに答えられるよう制度化したい。

梅田キャンパス 看護学部

看護学部では、学生と教員及び学生同士の意思疎通を円滑にし、学習への取組や卒業後の進路などの学生生活を送る中での全般的な諸問題の解決を図り、学生が充実した学生生活を送ることを目的として、チューター制度を導入している。

チューターは、原則として月に1回担当の学生と面談（チュートリアル）し、個々の学生について、授業科目の履修状況、生活状況等を話し合い、学生に助言、指導等を行っている。また、チューター長は、原則として半期に一度、チューター全体会議を開催し、担当学生の履修状況、修学態度及びその他学生に対する指導、健康管理等について協議し、また全チューター活動の総括をしている。さらに、各教員が毎週特定の時間帯を「オフィスアワー」として設定し、研究室を解放し相談に応じている。「オフィスアワー」の時間帯はホームページ及び掲示板にて公開している。

(2) TAによる学修支援の状況

宝塚キャンパス 造形芸術学部

TAによる学修支援は実施していない。

東京新宿キャンパス メディア・コンテンツ学部

今年度4名のTAが授業の補助を行った。うち1名がアニメーションコース・領域のほぼ全ての演習系科目（週17コマ）について補助し、他の3名がイラストレーションコース・領域の演習系科目のうち、特に担当教員だけでは受講者全員に指導が行き届かない科目（それぞれ週2コマ、週2コマ、週4コマ）について補助した。イラストレーションコース・領域でTAが補助を行った主な授業科目はデッサンⅠ、Webデザイン演習、イラストレーションアートⅠ・Ⅱ、卒業制作などである。TAが補助に付くメリットとしては、例えば、コンピュータ教室での演習では教壇側にいる担当教員からは学生達のモニター画面を見ることができないので、TAが学生の席側にたつことによって作業が遅れていたり間違っている学生に指導を与えることができる。改善すべき点としては、TAが理解、作業が遅れている学生に付きっきりになってしまう傾向があることが否めず、他の学生が気軽に質問したり、指導を仰げなくなるため、今後は更にSAなどの導入も検討する必要がある。

梅田キャンパス 看護学部

TAによる学修支援は実施していない。

11-2 経済的支援、奨学金等の状況（学部のみ）

1 宝塚大学奨学金制度について

学業を継続する意志があり、学業・人物ともに優秀で、且つ経済的支援を必要とする学生を対象とし、学資を援助することにより学業を継続させ、将来社会に貢献し得る優れた人材を育成することを目的として設けられた宝塚大学独自の奨学金制度です。給付型のため、返還の義務は免除されています。

2 宝塚大学奨学金制度の種類、給付額と実績（平成25年度給付総額 1960万円）

●一般奨学生制度（給付額：30万円 募集人数：約30名）

対象：2年生～4年生で学業成績・人物ともに優れ、かつ経済的支援を必要とする者

学 部	応募数	採用数	倍率
造形芸術学部	51	10	5.1
東京メディア・コンテンツ学部	35	11	3.2
看護学部	33	14	2.4
合 計	119	35	1050

万円

●特別奨学生制度（給付額：学費半額相当額 募集人数：約10名）

対象：1年生で学業成績・人物ともに優れ、かつ経済的支援を必要とする者

学 部	応募数	採用数	倍率
造形芸術学部	6	3	2.0
東京メディア・コンテンツ学部	11	3	3.7
看護学部	23	5	4.6
合 計	40	11	850

万円

●創作・研究活動奨励制度（給付額：10万円 募集人数：約10名）

対象：2年生～4年生で作品制作及び研究発表等において顕著な成績をおさめた者であり、かつ経済的支援を必要とする者

学 部	応募数	採用数	倍率
造形芸術学部	8	5	1.6
東京メディア・コンテンツ学部	1	1	1.0
看護学部	0	0	—
合 計	9	6	60

万円

11-3 健康相談・メンタルケアの状況

宝塚キャンパス 造形芸術学部

梅田キャンパス 看護学部

①実施について（学生告知の方法、申込手続き）

勉学・就職・生活経済・健康・対人関係の悩みなど、個人的な相談のある学生を対象とした『学生相談室』を開設している。相談は無料。

○学生告知の方法： 学生手帳及び大学HP（http://www.takara-univ.ac.jp/zoukei/student_life/counseling/）において周知。

○申込手続き： メールあるいは電話で予約。

○相談予約専用電話番号： 090-3824-8956（窓口業務日の10:00～15:00）

○相談予約専用メールアドレス： soudan-t@takara-univ.ac.jp

②対応者と実施回数（月2回実施など）

○開室曜日： 火曜日、金曜日 ※専門のカウンセラーが常駐

○開室時間： 火曜日 10:00～17:00、金曜日 13:00～17:00

○場所： 学生相談室（本館3階321室）

○所要時間： 1度の相談につき、学生一人当たり45分まで

③実施件数（現在までの相談件数）

○平成24年度

面談人数：92件 面談回数：206件

○平成25年度

面談人数：22件 面談回数：86件

④今後における改善策

平成26年度より、臨床心理士資格を有する専任教員が就任予定であり、現在担当しているカウンセラーへのバックアップ、開室時間の延長等、学生相談室の充実を図ることとしている。

東京新宿キャンパス 東京メディア・コンテンツ学部

学生手帳、ガイダンス、掲示などで告知している。申込は前日までの事前予約制とし、基本的にはメールでの申込方式を採用している。

学務課で対応しているが、「学生相談担当者」ということで固有名詞は表に出さないことにしている。

実施回数はそれぞれ月一回である。2013年度の利用実績は学生相談が延べ19回、メンタルクリニックでのカウンセリングが延べ10回である。(2013年1月まで)

利用回数が比較的少ないといえるかもしれないが、それ故に本学部学生の精神衛生状態が良好ということにはならない。

重篤な状態の学生のみが利用するのではなく、進級、就職活動の開始など新たに迎える局面ごとに気軽に利用してもらうよう、各委員会との連携を基に活性化させていきたい。

12. 本学におけるネットワーク整備の現状

学内LAN（キャンパス情報ネットワーク）

全てのキャンパス内において、各種サーバと研究室や教室のパソコン等を光ファイバーで接続し多彩なマルチメディア情報の全学的な流通の促進をはかる、いわゆるキャンパス情報ネットワーク（学内LAN:Campus Local Area Network）を平成11年度に整備し、安定的に稼働を続けている。

平成15年度からは大阪梅田キャンパスと、平成17年度からは東京新宿キャンパスと仮想閉域ネットワーク（VPN:Virtual Private Network）で結び、教育研究ならびに管理運営業務における安全かつ高速な情報伝達を可能とした。

インターネット環境については、全コンピュータ演習室とほぼ全ての研究室の整備がすすみ、各種情報への高速アクセスが可能となった。授業外における学生の利便をはかるため、既に平成11年度から情報メディアセンタ、平成21年度から就職支援室に自由に操作できる端末を稼働させている。教育研究分野のみならず学生の就職活動においてもインターネットが広く利用されており、就職情報へのアクセスもホームページや電子メールなどで双方向対話の形で迅速かつ的確に実現できることになった。

平成19年度からは専用光ファイバー回線で結び「サイバーキャンパス授業」を開始した。これにより学生はリアルタイムかつインタラクティブに受講できることから、多様な形態の講義を提供している。宝塚・東京・大阪という異なる特徴を持つキャンパスの相互教育・研究に生かすことができ、本学の特質をさらに際立たせている。また平成20年度には東京からの就職ガイダンス、平成21年度には海外の講師による授業を行った。今後は学外への展開を視野に入れている。

これらの情報インフラを基盤として、平成21年度からは次から大きく3つの発展があった。

まず語学教育分野において、CALL教室（Computer Aided Language Laboratory Classroom）を新設し、従来の視聴覚教材だけでなくインターネットやiPad等のICTを活用した授業を行っている。

次にICT教育分野では、マルチメディア演習室を全面更改し、最新リッチコンテンツの自由な学習と制作に志向した整備を行った。

最後に電子アーカイブについては平成11年度より情報メディアセンターに専用の検索コーナーを設けていたが、蔵書管理システムを全面更改し、学外施設を含む図書館情報のより一層の有効利用を図った。

管理運営事務については平成17年度より低廉なIP電話を導入し、キャンパス間の意思疎通を図っている。また平成23年度にはカリキュラム成績管理のための「新・学事システム」が稼働を始め、教務情報の効率的かつ総合的な活用を行っている。また、学内無線LAN設備の構築を継続的にすすめている。

また現在、インターネット系の回線、学内サーバおよびサービスについて、効率化とセキュリティ強化を目的としてリプレースおよびアウトソーシングの準備を進めている。その一環として平成25年度は、学内メールシステムの更新を行い、メールアカウント管理体制とセキュリティの強化を図った。

情報社会の進歩に遅れることなく、教育研究活動はもちろんのこと管理運営業務においてもICT技術を最大限に有効利用し、幅広い範囲でのサービス向上をはかってゆく。

13. 大学の地域社会・地方自治体との連携と協力

開学以来、地域自治体との連携・協力を留意し、その実績が積みあげられつつある。主な該当事項はつぎのとおり。

宝塚キャンパス（2011年～2013年）

1. 依頼団体 大阪梅田 スノーマンが集う街「Snowman Festival」参画
事業名
実施期間 2010.11.25～2010.12.25
事業内容 大阪梅田がクリスマスシーズンに合わせて“スノーマン”をキーワードに様々なイベント（ビル壁面への光のアートや樹木のイルミネーションをはじめ、マルシェやストリートパフォーマンスなど）を開催。宝塚大学もこのイベントに参画し、2010年11月25日からの約1カ月間、様々な催しを行った。大阪梅田キャンパス（看護学部）の入口には看護学部ならではのキュートな注射器をもった大きなスノーマンオブジェがお出迎え。梅田キャンパスロビーや外周には、様々なクリスマスのイラスト作品が展示される。また、キャンパスの壁面にはスノーマンのアニメーションが投影され、1週間ごとにストーリーが進んでいく。そのほか、ジャズライブなどもキャンパス内で行われ、イベントを盛り上げる。
2. 依頼団体 大阪市立科学館
事業名 大阪市立科学館 車内刷りポスターデザイン
実施期間 2011.12
事業内容 大阪市立科学館の車内刷りポスターデザインに、宝塚大学のイラストレーションを専攻する学生作品が採用され、大阪市営地下鉄駅構内の車内刷りポスターとして掲示された。
3. 依頼団体 大阪市立科学館
事業名 大阪市立科学館プラネタリウム「アジアの星と神話」イラスト制作
実施期間 2010.12.3～2011.2.27
事業内容 大阪市立科学館のプラネタリウムで2010年12月3日から2011年2月27日まで開催される企画『アジアの星と神話』に登場するイラストを本学のイラストレーションを専攻する学生作品が制作。全7名の学生、計17点の作品が採用。
4. 依頼団体 川西市電飾委員会
事業名 JR川西池田駅 周回路電飾（イルミネーション）制作
実施期間 2010.12.04～2011.01.17
事業内容 「環境美化」「安全安心」「元気な川西」を願う光のメッセージを1日4万人の乗降客のあるJR川西池田駅の周回路に地域の方々と一緒にメディア・デザイン学科の学生が“光”をデザイン。オープニングセレモニーでは地元・川西中学校の奏楽部による生演奏とともに、イルミネーションの点灯が行われる。
5. 依頼団体 宝塚市
事業名 有川浩 小説「阪急電車」記憶の中の“生”再現プロジェクト
実施期間 2010.12.05～2011.01.17
事業内容 本学の第1期生で美術家の大野良平さんが、5年前に阪神・淡路大震災の鎮魂をこめて武庫川中洲に石を積み上げた巨大オブジェ「生（せい）」を制作。作品は有川浩のベストセラー小説『阪急電車』の冒頭に登場し、重要な役割を担う。小説『阪急電車』が映画化されることがきっかけとなり、「生」のオブジェを宝塚市の働きかけで再現することに決定。宝塚大学の学生と教員らが、阪神大震災の復興を願いながら作業にあたる。今回のプロジェクト活動を広く一般の方々に知っていただくとともに、今後も「生」オブジェを存続させていくため、再現作業記録映像制作、BGM制作なども行っている。
6. 依頼団体 宝塚市企画経営部政策室制作推進課
事業名 NO.45「生」再現作業記録映像に挿入するBGM制作
実施期間 2011.01.17
事業内容 単に記録用としてではなく、今回のプロジェクト活動を広く一般の方々に知っていただくとともに、今後も「生」のオブジェをできる限り存続させていくための活動などに対する支援、PR用に制作に協力
7. 依頼団体 兵庫県警察本部生活安全部
事業名 「子どもと女性を守るセーフティ・コンソーシアム」での政策提言

- | | |
|----------|---|
| 実施期間 | 2011.02.04 |
| 事業内容 | 子どもや女性が被害者となる凶悪な事件やその前兆となる声かけ事案が多発するなど、犯罪情勢は依然として厳しい状況である。このような中、子どもや女性を犯罪から守るために、警察・関係機関・団体はもとより、県民の情報共有を図り、各地域における問題や課題などを把握し、改善策を講ずることが重要。そのための意見交換会（コンソーシアム）で本学の学生が出席し、本学学生の「防犯教室の開室」「ネットを通じた防犯情報発信」などの提言内容が神戸新聞にも掲載される。 |
| 8. 依頼団体 | 宝塚発ミュージカル公演実行委員会 |
| 事業名 | ミュージカル「バラに願いを親愛なるアンネ・フランクへ」舞台衣装制作 |
| 実施期間 | 2011.02.11&2011.02.12 |
| 事業内容 | 世界中が感動した「アンネの日記」。そしてSouvenir d'Anne Frank というバラに託されたその願いを、美しい音楽にのせて現代に贈るミュージカル。ここでの衣装は宝塚大学（旧宝塚造形芸術大学）卒業生の、佐藤友梨子さん、古永泰代さん、在学生の熊谷安奈さん、高橋みのりさんが担当。 |
| 9. 依頼団体 | 川西市 |
| 事業名 | 第2回 児童館フェスタ きんたくんぬり絵 |
| 実施期間 | 2011.02.13 |
| 事業内容 | 児童館フェスタとは、広く一般県民を対象に県内の児童館（児童センター）の活動や取り組みを紹介するとともに、児童館相互の交流を図ることにより、児童館に対する県民の理解を深めるとともに、児童館活動の活性化を図ることを目的に開催されている。 |
| 10. 依頼団体 | 姫路市、NPO法人ア・ク・イ・ラ |
| 事業名 | 白鷺城フェスティバル「福鬼と街並みアート」鬼オブジェ制作 |
| 実施期間 | 2011.03.13 |
| 事業内容 | 姫路城改修工事の無事を祈り、2011年3月12日・13日に姫路城において、白鷺城フェスティバル「福鬼と街並みアート」が行われる。宝塚大学では書写山、増位山の鬼面をモデルに、全長2メートル以上の赤鬼・青鬼のオブジェを制作。“鬼”は、人々の厄除けにより、幸せを招くと伝えられている。鬼伝説も多くあり、毎年2月の節分祭には播磨の各地で歴史的な鬼追いの行事が伝承されている。 |
| 11. 依頼団体 | ホリプロ大阪支社 |
| 事業名 | KANSAIアイドルGENKIフェスタ 衣装デザイン・衣装制作 |
| 実施期間 | 2011.03.27 |
| 事業内容 | ホリプロ大阪主催で行われたイベント「KANSAIアイドルGENKIフェスタ」。関西のアイドル界を盛り上げるため、現在関西で活動中の“歌うアイドル”たちが集結し、それぞれのステージのほか、本イベントでしか見ることのできないユニット曲や、出演者全員でのパフォーマンスなどを披露。本学のファッションデザインを専攻する学生たちの作品をアイドルたちの衣装として多数提供。 |
| 12. 依頼団体 | 川西市水道局 |
| 事業名 | 防災用貯蓄飲料水ペットボトルラベルデザイン 「被災地に元気よ届け！きんたくんの力水」 |
| 実施期間 | 2011.04.14 |
| 事業内容 | ～宝塚大学と川西上下水道局が協働で3万本を制作。1万本を被災地へ～2011年4月14日に完成したばかりの災害備蓄水「きんたくんの力水（ちからみず）」（ペットボトル：500ml）を東日本大震災の救援物資として役立てようとしています。この災害備蓄水は、兵庫県水道用水供給事業の経営支援によって川西上下水道局が制作。平成23年度の事業として、地震や水質事故などの災害時に、断水地域などに配布し、飲料水などに利用するために制作されたものですが、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地へ「元気を届けたい！」という想いから、市の備えとして準備する予定の備蓄水3万本のうち、1万本を救援物資として送る予定です。備蓄水のネーミングおよびラベルデザインを宝塚大学のビジュアルデザイン&アドバタイジングを専攻する学生が制作しました。大きな文字で書かれた「力水」という文字の下に川西のイメージキャラクター「きんたくん」が描かれています。また、側面には源満仲像とともに「清和源氏発祥の地」川西市と記載されており、川西市らしく明るいデザインとなっています。 |
| 13. 依頼団体 | 株式会社ACT-21（アクト・トゥ・ワン） |
| 事業名 | アイドルユニット「JK21」衣装デザイン |
| 実施期間 | 2011.04.20 |
| 事業内容 | 関西発アイドルユニット「JK21」の衣装デザインに宝塚大学ファッションデザインを専攻 |

- する学生が担当しました。その衣装をジャケットでメンバーが身にまとっているCD「恋のキセキ♥」が2011年4月20日に発売されました。
14. 依頼団体名 宝塚市企画経営部
事業名 第5次宝塚市総合計画「マンガ版」制作
実施期間 2011.04.27
事業内容 平成23年度からスタートする第5次宝塚市総合計画について、本編冊子、概要版のほか、“マンガ版”を作成しました。同計画のマンガ版作成は宝塚市及び阪神間市町でも初の取り組みです。従来のものから、難しいイメージがある総合計画をマンガ版にすることで、子ども達をはじめ、市民の方に、まず同計画を見ていただき、これからのまちづくりに興味、関心を持ってもらうことを目的としています。この総合計画のマンガ版を宝塚大学のマンガを専攻する学生が制作しました。また概要版にもマンガやイラストを挿入し、より見やすい構成としています。
15. 依頼団体名 能勢電鉄株式会社
事業名 のせでん春のこども自然体験学習 ～1万本のチューリップを使った花びらアートの制作～
実施期間 2011.04.29
事業内容 阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」に能勢電鉄株式会社が参画し、次世代のこども達が夢を持って健やかに成長することを応援する活動として、こども達の豊かな創造力と体験づくりのために、2010年より「こども自然体験学習」を開催しています。前回に引き続き、第3回目となる今回も宝塚大学の学生が企画・運営協力をし、参加するこども達と一緒に妙見山の自然の中で1万本のチューリップの花びらを使った大きな「花びらアート（花絵）」を制作しました。出来上がった2種類の「花びらアート」は、5月3日まで「妙見の水広場」に展示されました。
16. 依頼団体名 第23回御霊祭かがり火コンサート スタッフ協力
実施期間 2011.05.14
事業内容 京都市上京区（京都市営地下鉄烏丸線・鞍馬口駅近く）にある上御霊神社。京都でも、もっとも古くからあるとされる「御霊祭」にあわせて、毎年「かがり火コンサート」が開催されており、宝塚大学・贈位芸術学部の中伏木准教授とミュージックを専攻する学生がスタッフとして協力しています。今年も5月14日（日）に「第23回御霊祭かがり火コンサート」が行われ、本学から3名の学生がスタッフとして参加しました。
17. 依頼団体名 阪神北広域こども急病センター
事業名 「阪神北広域こども急病センター」ホームページ制作
実施期間 制作作業、テストラン、テスト実施後の修正バージョンアップを経て、実施運用は2011.09より開始
事業内容 兵庫県伊丹市昆陽池にある「阪神北広域こども急病センター」は、夜間・休日に小児初期救急医療サービスを提供する目的で、2008年4月に開設されました。入院施設を持たず、開設以来、小児内科を中心とした初期救急を担い、2次、3次救急施設の負担軽減という意味でも重要な役割を果たしています。今回、センターから「阪神北広域こども急病センター」ホームページ制作の依頼があり、本学のウェブデザインを専攻する6名の学生たちがグループで制作を行いました。ストレスなく各案内へと誘導できるように、デザイン・ユーザビリティともに十分考慮されたものになっています。
18. 依頼団体名 株式会社パウコミュニケーションズ
事業名 光のインスタレーション「1,000,000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY 2011 Summer」
実施期間 2011.06.02
事業内容 大阪・梅田地区の民間企業と地域や街に集う人々が一体となり、社会が抱える問題を見つめ直して、未来への明るい希望につなげるムーブメント「1,000,000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」。1年に2度（夏至と冬至）行われる本イベントですが“2011 Summer”では本学から3団体出展を行い、イラストレーションを専攻する学生グループ「宝イラスト」、アニメーションを専攻する学生グループ「HOCAL」、そしてビジュアルデザインを専攻する学生グループ「植松ゼミ」が各々の思いを込めて「ひかりのインスタレーション」を行いました。中でも『復興』をテーマとした「植松ゼミ」は、2011年3月に起きた東日本大震災への復興の願いを込め、「関西が輝き続けることで東北にも以前のような輝きを取り戻してほしい」という思いを関西と関東に見立てた歯車の仕掛けに施しました。
19. 依頼団体名 平野マタニティクリニック
事業名 平野マタニティクリニック イラストレーション作品展示

- 実施期間 2011.06
事業内容 2011年6月より阪急宝塚線「山本」駅近くにある“平野マタニティクリニック”に本学卒業生のイラストレーション作品を展示しています。平野マタニティクリニックは、「癒し」に重きをおいておられるクリニックで、診察に来られる方や、そのご家族の方にも“安らぎ”と“癒し”を感じてもらえる空間にしたい、という院長の思いから実現した企画で、今回展示されたイラストレーション作品の優しいイメージが院長の思いとぴったりマッチしたものになっています。
20. 依頼団体 尼崎商工会議所
事業名 尼崎商工会議所100周年記念ポスターデザイン
実施期間 2011.06.14
事業内容 2010年11月に連携協定を締結した尼崎商工会議所との最初の連携事業として、尼崎商工会議所100周年記念ポスターデザインを本学のビジュアルデザイン&アドバタイジングを専攻する学生が担当しました。最優秀賞を受賞した学生は、2011年6月14日の尼崎商工会議所「議員総会」の中で行われた表彰式にて、吉田修会頭よりその功績を表彰していただきました。
21. 依頼団体 第52回宝塚記念(G I)記念入場券デザイン
事業名 JRA-VANイメージタレントへの衣装提供
実施期間 2011.06.26
事業内容 2011年6月26日(日)に日本中央競馬会 阪神競馬場で行われました第52回宝塚記念(G I)。その記念入場券に造形芸術学部4回生木村亮くんのデザインが採用されました。
【木村亮さんのコメント】
昨年、宝塚記念を優勝したナカヤマフェスタ号が、その後世界最高峰の舞台「凱旋門賞」へ挑戦し2着と健闘したのは記憶に新しいところです。そこでこの記念入場券では、大きな舞台へ挑もうとする勢いと輝き、またレース名に冠する「宝塚」というイメージから華やかさを表現しました。
また、当日プレゼンターを務められました、JRA-VANイメージタレントである 真鍋かをりさんが着用する衣装についても、本学のファッションデザインを専攻する学生の作品が採用されました。
22. 依頼団体 ふじが丘自治会・満願寺町自治会・長尾台自治会
事業名 「満願の里 盆踊り」ポスターデザイン
実施期間 2011.06.30
事業内容 毎年8月に行われる地元自治会（長尾台自治会、ふじが丘自治会、満願寺町自治会）主催の「満願の里 盆踊り」。その開催告知ポスターのデザインを地域交流の一環として、本学のビジュアルデザイン&アドバタイジングを専攻する学生たちが担当しています。
23. 依頼団体 親和幼稚園父母の会
事業名 川西市霞ヶ丘親和幼稚園 似顔絵出店協力
実施期間 2011.07.03
事業内容 2010年から地域連携の一環として実施しています大学地元の親和幼稚園（川西市霞ヶ丘）のバザーにおいて、2011年も本学の美術を専攻する学生達が似顔絵出店を行いました。似顔絵を描いてもらっている園児たちは、自分の似顔絵が出来上がる様子を楽しそうに見つめ、興味津々でした。
24. 依頼団体 川西市
事業名 川西市ホームページ きんたくんウェブゲーム制作「どすこい！！きんたくん」
実施期間 2011.07.07
事業内容 2009年から川西市のイメージキャラクターである「きんたくん」を地域の方々をはじめ多くの人々に広く知っていただき、地域活性化を目指し、「きんたくん」のWebサイトの運営を継続的に行っています。2011年の7月に新しく更新された、ご家庭で楽しめるWebタイプ打ちゲーム「どすこい！！きんたくん」はゲームを専攻する学生たちで制作しました。ステージごとに間違った回数、連続成功数、苦手な文字などが表示され、採点されるので復習するのにも便利です。きんたくんの広報活動の一環としてだけでなく、家族のコミュニケーションツールとしても一役を担っています。
25. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
事業名 のせでん夏休み子ども自然体験学習 ～日本一の里山と妙見山の本物の自然を体感しよう～
実施期間 2011.07.31

- 事業内容 阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献活動「阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト」に能勢電鉄株式会社が参画し、次世代の子ども達が夢を持って健やかに成長することを応援する活動として、子ども達の豊かな創造力と体験づくりのために、2010年より「子ども自然体験学習」を開催しています。第2回目から宝塚大学の学生が企画・運営協力をしており、第4回目となる今回は、子ども体験プログラム『阪急阪神 ゆめまちチャレンジ隊2011』に参加して、妙見山周辺の日本一の里山とクワガタなどが生息している台場クスギの観察並びにネイチャーゲームなどを通じて妙見山の本物の自然を体感してもらいました。
26. 依頼団体 大阪府立園芸高等学校
 事業名 大阪府立園芸高等学校×七星ソース “ゆずハチミツぼんず”ラベルデザイン協力
 実施期間 2011.08.01報告
 事業内容 フラワーファクトリー科で養蜂の研究をされている大阪府立園芸高等学校。地元箕面産のゆずハチミツを使った加工食品の開発プロジェクトで、ゆず果汁をつかったぼんずを作成することとなり、七星ソースと共同開発で“ゆずはちみつぼんず”を作成されました。こちらのラベルのデザインを、本学芸術情報学科卒業生が手掛けました。
27. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館ロゴマークデザイン
 実施期間 2011.08.01
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。
28. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館との地域振興イベント 第1回出張ミニキャンパス「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」
 実施期間 2011.08.01
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。
29. 依頼団体 長尾小学校「すぎの子クラブ」
 事業名 長尾小学校「すぎの子クラブ」出張授業
 実施期間 2011.08.01～2011.08.02
 事業内容 2011年8月1・2日の2日間、宝塚市長尾小学校「すぎの子クラブ」にて、本学卒業生でもある造形芸術学部アート・デザイン学科の山縣武先生と池尻篤志先生がボランティアで芸術教室を開きました。長い夏休みを楽しく過ごせるように、と開催された今回の芸術教室。子どもたちの笑顔がたくさんみれた、楽しい教室となりました。
 ■プログラム内容
 一日目： プロテッドラインとデカルコマニー（自然できれいなマーブル模様を作る）
 二日目： おがくず粘土 もくねんさんでオリジナル鉛筆を作ろう
30. 依頼団体 財団法人兵庫県丹波の森協会 丹波の森公苑
 事業名 丹波の森美術学校「森公苑DEアニメ 映像監督になろう！～コマ撮りアニメーションに挑戦～」
 実施期間 2011.08.06～2011.08.07
 事業内容 大学教授の監修のもと、美術を専門に学ぶ大学生がワークショップを企画・実施するなかで、美術の新たな可能性を発見するとともに、児童及び青少年が創作活動を通じ、美術の楽しさと奥深さを知る機会として実施される「丹波の森美術学校」。2011年は宝塚大学の企画が採用され、デジタルカメラで撮影した風景や建物のコラージュ作品に、手書きのキャラクターや粘土で細工したオブジェなどを配置し、効果音やBGMを取り入れ、オリジナルアニメを制作

- しました。普段なかなかない機会に、参加者たちはとても楽しそうな表情でした。
31. 依頼団体 大阪市淀川区役所
 事業名 淀川じゅく2011ドキドキ夏休み子ども体験
 実施期間 2011.08.09
 事業内容 大阪市淀川区内の子どもが、大学生を中心としたスタッフのサポートを受けながら、地域で体験学習を行うことができる機会を提供します。昨年の「自分だけのカメラを作ろう！」に引き続き、2011年のテーマは、「光のドローイング（デジタルカメラを使って光の絵を描こう）」。
 ペンライトを使って、みんな思い思いの形を光で描いてデジタルカメラで撮影。最後は、全員で「なにわ淀川花火大会」をテーマに、花火と花火が水面に映る淀川を光で表現しました。みんな不思議な写真の世界に目を輝かせ、できた写真を見るたびに大きな歓声があがっていました！
32. 依頼団体 株式会社シャンテ シャンテ川西自治会長（市議会議員）
 事業名 「シャンテ川西」マンションエントランスオブジェ制作
 実施期間 2011.08.09
 事業内容 川西市小花のマンション「シャンテ川西」は川西市の都市開発事業の一環でできた建物であり、公益施設としてオペラもできる480人収容の音楽ホール「みつなかホール」も併設されており、芸術色の高いエリアとなっています。今回、シャンテ川西の「川西市の文化を高めたい」「芸術をより身近なものに、日常の一コマに感じてもらいたい」「芸術のまち、アートのまち、川西へ」という願いから、宝塚大学彫刻コース卒業生の西村大喜さんの彫刻作品『Cocoro』『Cocoro2』を寄贈しました。この2体のオブジェは、現在「シャンテ川西」のエントランスに展示されています。
33. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館との地域振興イベント 第2回出張ミニキャンパス「きんたくんのぬりえをしよう」
 実施期間 2011.08.11
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。
34. 依頼団体 宝塚武庫川灯籠流し実行委員会
 事業名 「宝塚武庫川灯籠流し」キャンドルデザイン&光のオブジェ制作
 実施期間 2011.08.14
 事業内容 阪神大震災以降、宝塚ファミリーランドの廃園や温泉旅館の廃業等で「国際観光都市宝塚」として徐々に衰退しつつある“宝塚”をもう一度活性化させるため。また、長い歴史を誇る宝塚花火大会に並ぶ夏の風物詩として、2005年から宝塚武庫川にて催されているイベント「灯籠流し」。第7回目となる2011年8月14日に行われた「宝塚武庫川灯籠流し」は、東日本大震災による犠牲者への追悼と被災地の早期復興を祈念して「ガンバレ東北！とどけ！宝塚からの熱いメッセージ」をテーマに開催されました。本学の学生も被災地へ復興の祈りを込めた、来場者参加型光のオブジェ作品「スピカ」などを展示し、来場者とともに東北へ復興の思いを込めました。
35. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館との地域振興イベント 第3回出張ミニキャンパス「ふしぎ映像づくりをしよう」
 実施期間 2011.08.18
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。

36. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館との地域振興イベント 第4回出張ミニキャンパス「絵本の読み聞かせ」
 実施期間 2011.08.25
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。
37. 依頼団体 川西市子ども部子ども家庭室子ども・若者政策課
 事業名 「目指せ！未来のカメラマン プロに学ぶ写真の撮り方教室」
 実施期間 2011.08.06&2011.08.26
 事業内容 川西市が取り組む「青少年ふれあいデー」の啓発活動の一環として、「私の家族」写真コンクールを2010年度より実施しています。2011年度も同コンクールを実施する予定ですが、よりたくさん子どもたちから応募してもらえるよう、また、写真を介して家族とのふれあいが促進されるよう、市内の小・中・高校生を対象に「プロに学ぶ写真の撮り方教室」を開催しました。講師は本学で写真領域を専門とする造形芸術学部アート・デザイン学科教授・北田研索先生が務めました。
38. 依頼団体 ADCC（アジアデジタルコミュニケーションセンター）
 事業名 COOL JAPAN WEST「ガチャコン関西2011」参加協力
 実施期間 2011.08.26
 事業内容 「ガチャガチャ」の楽しみと「コンテンツ」の発見・発信を家族みんなが楽しめて、地域活性化や企業・経済発展の起爆剤となるための活動として開催される『ガチャコン関西』。関西のクリエイターたちの手によって誕生した様々なキャラクターやアニメ、漫画、ゲーム、映像、タレント、文化、技術などの多彩なコンテンツを紹介するイベントです。初日のイベント「マンガキャラクターを活用するメリットとは？」に、本学メディア・デザイン学科教員である神澤孝宣先生と本学のマンガ・アニメーションを専攻する学生が登壇し、「第5次宝塚市総合計画」の紹介などを行いました。そのほかにもマンガ作品の展示や似顔絵コーナーを実施しました。
39. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館との地域振興イベント 第5回出張ミニキャンパス「デコTシャツをつくろう」
 実施期間 2011.08.29
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。
40. 依頼団体 川西市立中央図書館
 事業名 川西市立中央図書館との地域振興イベント（作品展示コーナー）
 実施期間 2011.07.30～2011.08.29
 事業内容 本学は毎年8月に、川西市立中央図書館と連携して地域振興イベントを実施しています。2011年は図書館設立20周年記念でもあることから、本学のビジュアルデザインを専攻する学生が川西市立中央図書館20周年記念ロゴマークをデザインしました。地域振興イベントでは、第1回目に「図書館20周年記念ブックカバーをデザインしよう」を実施。第2回目は「きんたくんのぬりえをしよう」、第3回目は「ふしぎ映像づくりをしよう」、第4回目は「絵本の読み聞かせ」、第5回目は「デコTシャツをつくろう」を実施しました。様々なイベントを通して、地域交流・活性化、児童教育などに貢献しました。
41. 依頼団体 磯じまん株式会社
 事業名 磯じまん株式会社「ちりめんちゃん」ラベル遂に商品化！
 実施期間 2011.09.01

- 事業内容 磯じまん株式会社の人気商品、「ちりめんちゃん」と「さけちりめんちゃん」のラベルデザインを宝塚大学ビジュアルデザイン&アドバタイジング及びイラストレーションを専攻する学生が企画・提案しました。着色料や添加物など一切使用されていない安全な商品であり、子どもから老人まで今よりもっと親しみを込めてお買い求めいただけるようなラベルデザインを目指し、制作。商品のイメージを壊さず、且つインパクトあるラベルをデザインする実体験となり、学生も力が入りました。そして優秀作品に選ばれていた本学イラストレーションを専攻する学生のデザインが、2011年9月に商品化され、店頭に並びました！
42. 依頼団体 川西市総務部税務室市民税課
事業名 川西市「ご当地ナンバープレート」デザイン
実施期間 2011.09.03
事業内容 川西市は、125cc以下の単車のナンバープレートに、川西市のマスコットキャラクターである「きんたくん」をあしらい、「ご当地ナンバープレート」を企画しました。ナンバープレートのデザインは連携協定を結んでいる宝塚大学の造形芸術学部アート・デザイン学科の学生が担当し、計58点の作品の中から10作品を候補として絞り込み、県内初となる市民投票で採用作品を決定しました。採用された作品には、色鮮やかな県花である「リンドウ」と「猪名川」が描かれており、「リンドウがもっと咲きほこる、キレイで美しい川西市の未来を願って」制作されました。
43. 依頼団体 公益財団法人大阪腎臓バンク 理事長：栗田 孝
事業名 「臓器移植普及推進」啓発活動 献腎移植推進ポスターデザイン
実施期間 2011.10
事業内容 毎年、10月の厚生労働省主管による「臓器移植普及推進月間」にあわせて大阪府が啓発活動を行っています。その一つとして、献腎移植推進ポスターを掲示しており、毎年宝塚大学のイラストレーションを専攻する学生のイラストが採用されています。「いのちへの優しさとおもいやり」というテーマを見事に表現した、目と心に残る温かい印象的な作品となっています。
44. 依頼団体 川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」実行委員会
事業名 川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」の舞台制作
実施期間 2011.10.15～2011.10.16
事業内容 2009年に地域連携の一環で実施した川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」。市民に大好評で、2011年も実施することになり、本学でも再び連携協力することになりました。本公演は、子どもを中心としたミュージカルを通して、子ども達の夢を実現する場を作り、健全育成を目指すとともに、金太郎伝説に縁のある川西市の歴史的背景を広く市民に知ってもらい、市の活性化を目的としています。舞台大道具、小道具のデザインおよび製作、舞台セットのセッティング、舞台転換などを本学の教員と舞台芸術を専攻する学生たちが担当し、舞台芸術卒業生がヒロイン役で出演しました。
45. 依頼団体 満願の里 子どもみこし保存会
事業名 「満願の里 子どもみこし行列」ポスター制作
実施期間 2011.10.16
事業内容 満願の里の住人が子どもたちの健やかな成長を願って子どもみこしを平成17年に作成しました。それ以降、毎年開催され、地元の子どもたちはもとより、大人たちにとっても大変楽しい行事になりました。子どもみこしを広く地域の方に知らせるべく、明るく笑顔になれるポスターを宝塚大学の芸術情報学科及びマンガを専攻していた卒業生が制作しました。
46. 依頼団体 株式会社パウコミュニケーションズ
事業名 「THANK YOU GREETING CARD」デザイン
実施期間 2011.10.01～2011.10.23
事業内容 「ありがとう」-すなおな気持ちが、誰かから誰かに送られて、やがて、被災地の笑顔へとつながってゆきます。NU chayamachiで開催された「THANK YOU グリーティングカードデザイン展」では、ひとりひとりの「ありがとう」の素直な気持ちが、つながって、たくさんの笑顔に広がっていきますように-そんな“ありがとう”のキモチをデザインしたグリーティングカードの原画をNUにて展示。本学もイラストレーションを専攻する学生が多数出展しました。また、数量限定で製品として制作・販売し、カードの売り上げは東日本大震災からの復興支援の義捐金として、全額寄付されました。
47. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
事業名 「のせでんレールウェイフェスティバル2011秋」似顔絵コーナー協力
実施期間 2011.10.29

- 事業内容 10月14日の「鉄道の日」を記念して、能勢電鉄株式会社が沿線等のお客様へ日頃の感謝の気持ちを含めて、また、子ども達に“鉄道”という公共交通機関を身近に感じて親しんでもらうとともに、環境負荷の低い公共交通への理解を深める機会を提供するためのイベント「のせでんレールウェイフェスティバル2011秋」を開催しました。イベント列車の運行や運転シュミレーション体験、車掌体験、のせでんオリジナルグッズの販売などが行われました。本学では本イベントにおいて、マンガを専攻する学生たちによる「似顔絵コーナー」の出店協力をしました。
48. 依頼団体 体 社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
 事業名 宝塚市社会福祉協議会イメージキャラクターデザイン「スマレン」ちゃん
 実施期間 2011.11.01
 事業内容 宝塚市社会福祉協議会は「安全で安心な楽しいまちをみんなで作ろう」をスローガンに、福祉のまちづくりに取り組んでいます。そこで、宝塚市民により親しまれる“社協”を目指し、キャッチフレーズ・イメージキャラクターデザインの公募が行われました。イメージキャラクターは、本学のイラストレーションを専攻する学生の作品「スマレン」ちゃんが採用され、宝塚市の鳥・花である“ウグイス”と“スマレ”をモチーフにした可愛らしいキャラクターに仕上がっています。胸のハートマークには「皆から愛されるように」という願いが込められています。今後、宝塚市社会福祉協議会のPR活動に広く活用される予定です。
49. 依頼団体 体 能勢電鉄株式会社
 事業名 のせでん秋の体験学習 ～妙見山の自然の恵みで「ものづくり体験」～
 実施期間 2011.11.06
 事業内容 阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献活動「阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト」に能勢電鉄株式会社が参画し、次世代の子ども達が夢を持って健やかに成長することを応援する活動として、2010年より「こども自然体験学習」を開催しています。第2回目から宝塚大学の学生が企画・運営協力をしており、第5回目となる今回は、子ども達の豊かな創造力と体験づくりのために、クラフトなど妙見山の自然の素材を使った「ものづくり」体験を企画・参加協力しました。当日は小雨の降る中でしたが、妙見山に落ちている木の実や葉・枝を集め、思い思いの作品を制作。作品には名前をつけて、発表会を行いました。
50. 依頼団体 体 川西商工会 会長：深田政宏
 事業名 川西まつり前夜祭「かわにし音灯り」
 実施期間 2011.11.12
 事業内容 東日本大震災鎮魂のために開催された「かわにし音灯り」では、川西市内の幼稚園・小学校の子どもたちを中心とした約2,500名の市民が、思い思いに被災地へのメッセージや絵を描き、それらはペットボトルで手作りしたキャンドル行燈のやさしい灯りに灯されて、街が柔らかい光で包まれました。灯りに演出されたステージで、川西ゆかりのミュージシャンによる復興音楽ライブ、バザールではお洒落なアート&クラフト雑貨や様々なワークショップが開催され、本学の教員・造形芸術学部生が参加協力しました。
51. 依頼団体 体 忠岡町商工会
 事業名 忠岡町商工カーニバル キャラ似顔絵コーナー
 実施期間 2011.11.13
 事業内容 忠岡町商工カーニバルは、“生産者”から“消費者”へ“より安く”をモットーに毎年11月の第2日曜日に開催されています。地場産品である毛布・ニット製品など各種衣料品などの製造直売、またビンゴゲームやふわふわエアポリン、ミニSLなど、小さい子どもたちも楽しめる企画がたくさんあります。本学からは、マンガを専攻する学生たちによる「キャラ似顔絵コーナー」の出店協力をしました。
52. 依頼団体 体 川西商工会 会長：深田政宏
 事業名 川西まつり 皮革工房出店
 実施期間 2011.11.13

- 事業内容 川西まつりとは、川西市が産業の発展と活力あるまちづくりを目指すため、広く市内外にPRする場として毎年開催しています。そこで、川西市の皮革素材を中心とした手作りの品即売会「川西皮革工房」に本学のプロダクトデザインを専攻する学生たちを中心に、手作りした一点物の服やブックカバー、ペンケース、かばんを制作、出品しました。学生たちが自らの作品を安価で販売し、来場者からも大人気のブースとなっています。
54. 依頼団体 川西市子ども部子ども家庭室子育て・家庭支援課
 事業名 川西市 授乳室・おむつ替え室等の名称・シンボルマーク制作
 実施期間 2011.11.27
 事業内容 川西市の政策のひとつとして、公共施設や駅および店舗等に、乳幼児連れの親子が外出中に気軽に立ち寄り、授乳やおむつ替え等ができるスペースの設置を促進することで、子育て家庭が外出しやすい環境を整える、というものがああります。そして、授乳室等設置した施設に登録をしてもらい、プレート等の掲示や「子育てガイド」に掲載し広く市民に周知することで登録施設等をPRし、子育てにやさしい街づくりを推進します。本学のビジュアルデザイン&アドバタイジングを専攻する学生が、「すくすくベビールーム」の名称考案、シンボルマークのデザインを担当しました。
55. 依頼団体 上郡町場総務課広報情報係
 事業名 アニメ「けいすけじゃ」着彩
 実施期間 2011.11末
 事業内容 時代とともに忘れていく地域資源を再発見し、CATVとアニメーションという最新の媒体と表現方法を活用して、明治以降の日本の近代化に貢献した郷土の偉人「大鳥圭介」を題としたマンガ「けいすけじゃ」をベースにボランティアや地元出身の人材に参画と協働を得ながら、アニメ制作を行い、文化振興や地域おこしにつなげる事業。本学の造形芸術学部生がアニメ「けいすけじゃ」の着彩を手掛けました。
56. 依頼団体 株式会社バウコミュニケーションズ
 事業名 「1,000,000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY 2011 Winter」
 実施期間 2011.12.14
 事業内容 毎年、夏至と冬至の夜2時間、電気を消してキャンドルを灯し、ひとりひとりが、自分のために、家族のために、日本のために、そして未来の地球のために、できることを考えようという“気付き”の場にする…そんな趣旨のもと大阪・梅田地区の民間企業と地域や街に集う人々が一体となり、地域の活性と、社会が抱える問題を見つめ直して未来への明るい希望へとつなげるムーブメント「1,000,000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」。宝塚大学からは夏・冬ともに3団体が出展し、大阪・茶屋町を色鮮やかに演出しました。中でも『復興』をテーマとした「植松ゼミ」は、2011年3月に起きた東日本大震災への復興の願いを込め、「関西が輝き続けることで東北にも以前のような輝きを取り戻してほしい」という思いを関西と関東に見立てた歯車の仕掛けに施し、来場者とともに東日本に向けてエールを送りました。
57. 依頼団体 長尾台小学校
 事業名 出張授業「オリジナルクリスマスリースをつくろう」
 実施期間 2011.12.16
 事業内容 本学の向かいに位置する長尾台小学校との連携事業の一環として、本学の教員とマンガを専攻する学生たち20名が、小学3年生の児童80名と保護者の方々を対象に出張授業「オリジナルクリスマスリースをつくろう」を行いました。児童たちが、本学の教員・学生との交流、ものづくりを通して、ものをつくる楽しさ・気付き・発見を体験してもらうことを目的とし、笑顔あふれる大変有意義な授業となりました。
58. 依頼団体 株式会社モダンパラダイス
 事業名 AEON伊丹昆陽ショッピングセンター クリスマスイルミネーション企画
 実施期間 2011.11.13~2011.12.25
 事業内容 2011年3月に新しく生まれ変わったイオン伊丹昆陽ショッピングセンターが初めて迎えるクリスマスに、本学の教員と造形芸術学部生13名がプロジェクトメンバーとなり、クリスマスイルミネーション制作を行いました。テーマは『make SMILE town ~笑顔がうまれる森~』。会場となる“せせらぎの森”から大震災によって悲しみにくれる東日本に光を届け、より明るく、悲しみを乗り越えてより笑顔がうまれるように…そんな願いが込められています。エコ推進のイオン伊丹昆陽で回収した約1,600本のペットボトルを再利用し、高さ4メートルのクリスマスツリーを制作しました。そのほか、“せせらぎの森”全体のイルミネーションデコレーションやペットボトルトナカイ、カカシ親子の衣装、クリスマス専用ピクトグラムなどを制作し、来場

- 者が参加できるペットボトルツリーづくりのワークショップも実施しました。
59. 依頼団体 株式会社カクタス
 事業名 梅田コネクトプロジェクト2011 スノーマンフェスティバル
 実施期間 2011.11.19～2011.12.25
 事業内容 梅田地区の魅力向上、エリア活性化に向けた実践活動に取り組む「梅田コネクト・プロジェクト」の一環として、2011年の冬も恒例となった『梅田スノーマンフェスティバル』が開催されました。“スノーマン”をキーワードに、各施設においてスノーマンオブジェの展示や梅田エリア内全30箇所からなるスノーマンラリー、梅田のノースゲートビルディング壁面にスノーマンムービー・学生たちによるスノーマンアートの照射、他にもワークショップや多彩なイベントが開催され、梅田の冬はスノーマン一色！宝塚大学では昨年引き続き、スノーマンオブジェの展示や似顔絵・健康チェック・JAZZライブなどのキャンパス内イベント、またビル壁面に照射されたスノーマンアート作品を本学のイラストレーション・マンガを専攻する学生たちが制作しました。
60. 依頼団体 社会福祉法人 さざんか福祉会
 事業名 ショップ「SasanQuality」クリスマスデコレーション
 実施期間 2011.12中旬～2011.12.25
 事業内容 本学ビジュアルデザインを専攻する学生が考案したロゴマークを採用している社会福祉法人さざんか福祉会。そのさざんか福祉会が運営協力するショップ「SasanQuality」が初めて迎える“クリスマス”に向けて、ポスターデザインやショップデコレーション（エコを意識したペットボトルによるLEDイルミネーションオブジェなど）を本学のビジュアルデザイン・イラストレーションを専攻する学生たちが制作しました。
61. 依頼団体 川西市健康福祉部健康生活室
 事業名 「安心キットきんたくん」ラベルデザイン
 実施期間 2011.12.27
 事業内容 川西市における地域ぐるみの見守り体制整備の一環として、地域で見守りを必要とする一人暮らし高齢者などの安全と安心を確保するため、救急時に必要な医療情報等を保管する救急医療情報キット（愛称：安心キット きんたくん）を配布することで、高齢者が万一の際に、迅速かつ適切な対応を可能にし、緊急事態に備えることができます。その安心キットのラベルデザインを本学のビジュアルデザインを専攻する学生が担当しました。
62. 依頼団体 JR川西池田駅周回路電飾委員会
 事業名 JR川西池田駅 周回路電飾（イルミネーション）制作
 実施期間 2011.12.3～2012.1.17
 事業内容 「環境美化」「安全安心」「元気な川西」を願う光のメッセージを一日4万人の乗降客のあるJR川西池田駅の周回路に、また2011年は阪急「川西能勢口」駅を加え、地域の方々と一緒にメディア・デザイン学科の学生が光をデザインしました。オープニングセレモニーでは地元・川西中学校の奏楽部による生演奏とともに、イルミネーションの点灯が行われました。
63. 依頼団体 長尾台小学校
 事業名 図工展パンフレット&ポスター制作、学生作品提供
 実施期間 2012.01.26～2012.01.28
 事業内容 本学学生と長尾台小学校児童が共同制作、展示を行いました。2年に一度開催される長尾台小学校図工展に今回初めて出展。作品は、9月に行われた大学祭“宝翔祭”の中で「ひとつのアート作品を大勢で共同制作することでつながりの大切さを感じよう」と地域の人々に呼びかけて完成させた『ドロップアート』や、自分のココロや頭の中で思っていること、好きなこと、表現したいことを“自由”に描いてもらった空間デザインの一部『UNLOCK』。また、本学学生約20名と長尾台小学校3年生全員で取り組んだ「オリジナルクリスマスリース」の様子をパネルにしたもの、産官学連携で形になったナンバープレートや安心キットきんたくんの展示など。今年の図工展のテーマである“人とつながる”あたたかさを地域連携で表現しました。
64. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
 事業名 のせでん春のこども自然体験学習「花びらアート制作」
 実施期間 2012.5.3～2012.5.6
 事業内容 本学学生がデザインした2種類の原画に1万本のチューリップの花びらを敷き詰め、大きな花絵を小学生と一緒に制作しました。完成後、大きな花びらを使ってミニ花絵を作成してもらいました。
65. 依頼団体 川西商工会 会長：深田政宏

- 事業名 川西市商工会工業部会「小判プロジェクト」
 実施期間 2011.10.21
 事業内容 川西市に伝わる坂田金時（金太郎）と龍にまつわる昔からのお話をもとに、小判をデザインしました。いたずらばかりしていた龍が、金太郎の優しさに触れ涙を流し、その涙が小判になったという友情のお話です。今後「友情小判」「結びつき小判」として川西市の新しいお土産となりました。
66. 依頼団体 川西市健康福祉部健康生活室
 事業名 写真贈呈及び「おめでとう100歳」写真展
 実施期間 2011年度毎月～2012.9.24
 事業内容 100歳到達者への祝福事業として、「100歳以上の高齢者の長寿を祝い、かつ多年にわたり社会の発展に寄与してきたことを感謝するとともに、高齢者を支えてきた家族の功労をたたえる」ことを目的として、宝塚大学の写真領域を学ぶ学生が本人及び家族の記念写真を撮影しました。敬老の日を祝って2012年9月18日～24日まで川西市役所にて写真展を開催し、ご本人、ご家族に大変喜ばれました。後日額縁に飾った状態で贈呈しました。
67. 依頼団体 宝塚市観光企画課
 事業名 観光大使「リボンの騎士サファイア」のサッシュデザイン
 実施期間
 事業内容 3代目の宝塚市観光大使"サファイア"公開選考会が宝塚市文化創造会館で開かれ、3代目の観光大使のサッシュのデザイン・制作を、本学学生が行いました。観光大使サファイアは、宝塚市ゆかりの漫画家、手塚治虫の作品「リボンの騎士」の主人公にちなんで平成21年から登場し、「サファイア」の衣装を身につけて"夢を育むまち 宝塚"の魅力を、イベントなどでPRしています。
68. 依頼団体 (財)宝塚市文化振興財団
 事業名 ぬえの絵ワークショップ
 実施期間 2012.4.28
 事業内容 2012.5.12に開催された「たからづか能『鶴』」の関連企画として、ワークショップを企画しました。本学学生が作成した下絵をもとに高さ2.5m×幅6～7mの1枚のぬえの絵を18名の子どもたちと一緒に制作しました。完成した作品は、ソリオホールのロビーに展示され、観劇に訪れた来場者の目を楽しませました。
69. 依頼団体 宝塚市企画部政策室制作推進課
 事業名 「3.11東日本大震災追悼行事」写真撮影
 実施期間 2012.3.11
 事業内容 東日本大震災から1年を迎えた2012.3.11、東日本大震災追悼行事が宝塚市河川敷で行われました。「3.11 明日へのスマイル みんなつながっている！」をテーマに、約300名の参加者でつくる『ニコちゃんプロジェクト』等の状況を写真に取め、スライド映像を制作しました。
70. 依頼団体 川西市 こども・若者政策課
 事業名 かわにしトークセッション「夢の入口、発見」
 実施期間 2012.2.29
 事業内容 川西市で行われたトークセッション。今年はアルピニスト野口健さんを交えて、若者たちが自分の夢についてトークセッションを行いました。本学からは卒業生が参加しました。また、参加した若者たちが自分の夢を書いて缶詰につめました。その夢の缶詰のラベルを本学卒業生がデザインしました。
71. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
 事業名 “のせでんレールウェイフェスティバル2012春”似顔絵コーナー協力
 実施期間 2012.4.29
 事業内容 能勢電鉄株式会社が沿線等のお客様へ日頃の感謝の気持ちを込めて、また、子ども達に“鉄道”という公共交通機関を身近に感じて親んでもらうとともに、環境負荷の低い公共交通への理解を深める機会を提供するためのイベント「のせでんレールウェイフェスティバル2012春」を開催しました。イベント列車の運行や運転シュミレーション体験、車掌体験、のせでんオリジナルグッズの販売などが行われました。本学では「似顔絵コーナー」の他、ポストカードやオリジナルシールの販売も行いました。整理券がなくなるほどの人気ぶりでした。
72. 依頼団体 (公財)兵庫丹波の森協会
 事業名 丹波の森美術学校
 実施期間 2012.8.4～2012.8.5
 事業内容 丹波の森美術学校に、「パソコンを使ってアニメーションづくりに挑戦！」ということで本

- 学から教員と学生がワークショップを開催しました。いろいろな場所で見かけるアニメーションだけど、どうやってつくられているのだろうか？アニメーションの基礎から指導し、オリジナル作品を制作しました。作品はDVDで持って帰っていただきました。
73. 依頼団体 宝塚復興支援コスプレ委員会
 事業名 集まれ！コスプレイヤー！
 実施期間 2012.9.1
 事業内容 本学学内の図書館や広場、体育館などを利用してコスプレ撮影会が行われました。若年層や他府県からの参加者も多数ありました。参加費の一部を《復興支援の義援金》とし、復興支援に一役かいました。
74. 依頼団体 株式会社モダンパラダイス
 事業名 イオンモール伊丹昆陽「せせらぎの森夏の装飾プロジェクト」
 実施期間 2012.7.7～2012.8.15
 事業内容 昨年に引き続き、ペットボトルを用いてエコを意識した装飾&ワークショップを実施しました。ワークショップは、エコ風鈴づくり。参加者がオリジナルの風鈴をつくりました。点灯式には、多勢の人々が見守るなか、キャンドルに灯がともりました。点灯式、ワークショップは、学生全員が浴衣で対応しました。夏らしいイベントで大好評でした。
75. 依頼団体 芦屋市民センター公民館
 事業名 夏休み公民館子ども教室「ぬえ」の貼り絵を作ろう
 実施期間 2012.8.2
 事業内容 言い伝えの妖怪「ぬえ」のはり絵を作ろう、と題して小学1年生～6年生を対象としてはり絵のワークショップをしました。頭はサル、しっぽはへび、手足はトラの妖怪です。20名のこどもたちが参加し、ものづくりの楽しさを感じてもらいました。
76. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
 事業名 のせでん夏休みこども自然体験学習
 実施期間 2012.8.4
 事業内容 次世代のこども達が夢を持って健やかに成長することを応援する活動として、こども達の豊かな創造力と体験づくりのために、妙見山の自然から環境を学んでいこうと、自然体験学習が行われました。学生たちは、子供たちと一緒に、クワガタなどが生息している台場クスギの観察並びにネイチャーゲーム（石の鑑定団、サウンドマップ、木の鼓動）をしたり、飯ごう炊爨でカレーをつくりました。
77. 依頼団体 川西市商工会
 事業名 川西地域資源開発プロジェクト【ミニ絵本製作】
 実施期間 2012.8月中旬
 事業内容 川西の持つ歴史的文化的魅力の深さを多くの人に知ってもらい、商工業の発展に繋げるため、川西で活躍したと伝えられる坂田金時のミニ絵本を製作しました。以前本学がデザインした「友情小判」と合わせて、幼稚園や保育園などに配付します。
78. 依頼団体 宝塚武庫川灯籠流し実行委員会
 事業名 宝塚武庫川灯籠流し
 実施期間 2012.8.19
 事業内容 “宝塚”をもう一度活性化させるため、また、長い歴史を誇る宝塚花火大会に並ぶ夏の風物詩として、2005年から宝塚武庫川にて催されているイベント「灯籠流し」。第8回目となる2012年8月19日に行われた「宝塚武庫川灯籠流し」は、2年後の市制60周年と宝塚歌劇100周年を迎えるにあたり、時代を先取りして「輝け！宝塚」をテーマに開催されました。本学の学生も6月に1000000万人のキャンドルナイトで制作したキャンドルオブジェを用い、暗い通路を幻想的な雰囲気で見守りました。
79. 依頼団体 長尾台自治会・ふじが丘自治会・満願寺自治会
 事業名 満願の里・盆踊りポスター制作
 実施期間 2012.8.4
 事業内容 宝塚大学の地元でもある満願の里。その盆踊りに一人でも多くの人が参加して、満願の里を盛り上げてくれることを願って、本学学生がポスターを制作しました。熱い夏の夜を盛り上げるのに一役買い、地元のお祭りに貢献しました。
80. 依頼団体 長尾すぎの子クラブ
 事業名 すぎの子夏休みワークショップ【シンナープリント】
 実施期間 2012.8.22～2012.8.23

- 事業内容 2012年8月22・23日の2日間、宝塚市長尾小学校「すぎの子クラブ」にて、本学卒業生でもある造形芸術学部アート・デザイン学科の池尻篤志先生と田中先生がボランティアで芸術教室を開きました。長い夏休みを楽しく過ごせるように、と開催された今回の芸術教室。シンナープリントという手法を使い、オリジナルのTシャツを作成しました。
81. 依頼団体 川西市都市計画課
事業名 都市像のイメージ図案作成
実施期間
事業内容 川西市「まちづくりの基本理念」に基づいた「めざす都市像」のイメージ図案を提案しました。また「つくる」から「活かす」まちづくりへ、「ひと」「まち」「自然」を活かし、誰もが生き生きと暮らせる街を目指す、都市計画マスタープランの表紙を飾りました。多くの方に親しまれるようなやわらかい雰囲気の絵で、都市像のイメージがデザインされています。
82. 依頼団体 川西市子ども若者政策課
事業名 夏休み写真教室
実施期間 2012.8.23
事業内容 川西市との産学連携事業による小中学生写真教室を開催し、上手な写真の撮り方などをアドバイスしました。その後、25周年の舟の周りで写真撮影会を行いました。建設中の舟を撮る方、舟の周りから見える街を撮る方など、思い思いの撮影をしていました。保護者も参加できたこともあり、写真を通じて親子のふれあいの場になりました。
83. 依頼団体 生きがいしごとサポートセンター阪神南
事業名 市民教授養成講座 フライヤー制作
実施期間 2012.8月中旬
事業内容 県内6ヵ所に設置されている「生きがいしごとサポートセンター」は、起業・就業・ボランティア等を総合的に支援する機関です。今回センターから、趣味や特技を活かして講座を開きたいと考えている方を対象にした「市民教授養成講座」ポスター制作の依頼があり、ビジュアル・デザインを専攻する学生が手掛けました。気軽に講座に参加して頂けるようにという想いを込めた親しみのある作品となっています。
84. 依頼団体 梅田スノーマンフェスティバル実行委員会
事業名 「Snowman Festival」
実施期間 2012.11.23～2012.12.25
事業内容 毎年行われているスノーマンフェスティバル。今年は梅田のいたるところにスノーマンが出現!!ということで、本学の梅田キャンパスにも大きなスノーマンが現れました。梅田の駅前にあるNU茶屋町ではスノーマンを手作りするワークショップを行い、たくさんのご家族やカップルが、モールや綿を使って自分たちだけのスノーマンを作成しました。また、本学オリジナルイベントとして、芸術学部学生たちによる似顔絵ライブや看護学部学生たちによる健康チェック、プロをお招きしたJAZZライブを行いました。どれもたくさんの方に参加いただき、スノーマンと過ごす素敵な冬の日を演出致しました。
85. 依頼団体 満願の里子どもみこし保存会
事業名 満願の里「子どもみこし行列」ポスター制作
実施期間 2012.10.28
事業内容 満願の里の住人が子どもたちの健やかな成長を願って子どもみこしを平成17年に作成して以降、毎年開催されています。今年度も子どもみこしを広く地域の方に知らせるべく、金太郎みこしのポスターを本学学生がデザインしました。
86. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
事業名 “のせでんレールウェイフェスティバル2012秋”似顔絵コーナー協力
実施期間 2012.10.28
事業内容 10月14日の「鉄道の日」を記念して、能勢電鉄株式会社が沿線等のお客様へ日頃の感謝の気持ちを込めて、また、子ども達に“鉄道”という公共交通機関を身近に感じて親んでもらうとともに、環境負荷の低い公共交通への理解を深める機会を提供するためのイベント「のせでんレールウェイフェスティバル2012秋」を開催しました。イベント列車の運行や運転シミュレーション体験、車掌体験、のせでんオリジナルグッズの販売などが行われました。本学では本イベントにおいて、「似顔絵コーナー」の他、ポストカードやオリジナルシールの販売も行いました。
87. 依頼団体 宝塚市役所企画経営部政策室政策推進課
事業名 「生」展 出展

- 実施期間 2013.1.11～2013.1.14
事業内容 ある日河川敷にできたという石でできた「生」の字。宝塚市在住であり本学卒業生でもあるアーティスト、大野良平氏が、阪神・淡路大震災から10年経った時、「再生」の想いを込め、宝塚駅近くの河川に創りました。その後、映画「阪急電車」でも登場するほど、人々の心を動かししました。宝塚からさらなる「生」のメッセージを発信したいという想いから「生」展が開催され、宝塚大学の学生も「生」にそれぞれの想いを込めてアートで表現しました。
88. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
事業名 のせでん秋のこども自然体験学習
実施期間 2012.11.3
事業内容 次世代のこども達が夢を持って健やかに成長することを応援する活動として、こども達の豊かな創造力と体験づくりのために、妙見山の自然から環境を学んでいくことを目的として行われています。学生たちは、子供たちと一緒に妙見山に行き、クワガタなどが生息している台場クヌギの観察並びにネイチャーゲーム（石の鑑定団、サウンドマップ、木の鼓動）をしたり、飯ごう炊爨でカレーをつくりました。また、山で拾った木の実や葉を使って、木工クラフトを一緒に作りました。
89. 依頼団体 生野町観光協会
事業名 生野義拳150周年PRに伴うキャラクター・漫画製作
実施期間
事業内容 生野義拳150周年のPRとして、関連人物である志士5人たちの、イケメンバージョンとかわいいバージョンの2パターンのデザインを担当しました。今後は生野義拳150周年のPRや生野の観光媒体として、イベントや広報材料の他、生野義拳の歴史背景等を説明する学習素材として活用される予定です。
90. 依頼団体 川西市電飾委員会
事業名 JR川西池田駅 周回路電飾（イルミネーション）制作
実施期間 2012.12.1～2013.1.17
事業内容 地域の多くの方が利用する、阪急川西能勢口駅とJR川西池田駅前にて、川西中学校の吹奏楽部による生演奏とともに、LEDを使用したイルミネーションの点灯が行われました。イルミネーションのテーマは「海から見た東京スカイツリー」。LEDの灯で地域の輪、夜の海、街の灯、川西スカイツリーをデザインしました。阪神淡路大震災が起こった1月17日まで点灯されました。
91. 依頼団体 コミュニティひばり ひばり祭実行委員会
事業名 第15回ひばり祭 ポスター制作&似顔絵出店協力
実施期間 2012/10/14
事業内容 本学の向かいに位置する長尾台小学校で毎年10月に恒例の行事として「ひばり祭り」が催されます。2012年は、町内に掲示される開催告知ポスターを宝塚大学の芸術情報学科卒業生が制作しました。イベント当日は本学の美術領域を学ぶ学部生が「似顔絵」出店協力をしていて、当日配布する整理券もすぐなくなるほどで、親子の思い出づくりとしても非常に大人気のコーナーとなっています。
92. 依頼団体 川西市
事業名 第5次総合計画の都市像に係るロゴの作成
実施期間 2012/10/5～2013/3/31
事業内容
93. 依頼団体 忠岡町商工会
事業名 第34回忠岡町商工カーニバル 似顔絵コーナー
実施期間 2012/11/11
事業内容 忠岡町にて毎年行われている商工カーニバルに、本学も似顔絵で出店しました。カーニバルには様々なアトラクションもあって、小さい子でも楽しめるイベントとなっていました。あいにくの天気にも関わらず多くの家族連れの方が訪れ、かわいい子供たちの素敵なお顔を似顔絵としてお渡しすることができました。
94. 依頼団体 川西商工会 会長：深田政宏
事業名 川西まつり前夜祭「かわにし音灯り」
実施期間 2012.11.5
事業内容 かわにし音灯りは、「街はカーニバル!!プロジェクト」が呼びかけ、市民自らが中心となり、企画・運営し作り上げるおまつりです。過ぎゆく過去への敬意、そして新しいまち誕生への願

- いをメインコンセプトに、キャンドルの灯と音楽で演出しました。前回に引き続き今回も、本学の先生が、キャンドルの灯りを使った"かわにし音灯り"会場のデザインを監修の協力・参加をいたしました。
95. 依頼団体 体
事業名 モダンパラダイス
実施期間 イオンモール伊丹昆陽 クリスマスイルミネーション企画
事業内容 2012.11.11~2012.12.25
2011年3月に新しく生まれ変わったイオン伊丹昆陽ショッピングセンターに、昨年引き続き本学の教員と造形芸術学部生20名がプロジェクトメンバーとなり、クリスマスイルミネーション制作を行いました。ペットボトルを再利用し、雪だるまやトナカイを制作しました。“せせらぎの森”全体のイルミネーションデコレーションやカカシ親子の衣装も手掛けました。来場者が参加できるペットボトルのブーツ作りのワークショップを実施し、100名を超す親子が訪れました。ワークショップ、点灯式共に学生がサンタやトナカイの格好をして、クリスマスらしさを演出しました。
96. 依頼団体 体
事業名 バウコミュニケーションズ
実施期間 1000000人のキャンドルナイト@OSAKACITY2013Winter
事業内容 2012.12.12
2005年冬至、大阪の新しい文化の創造と環境意識向上を目的に始まった梅田のキャンドルナイト。ロウソクを灯すことで「ひとりひとりの心の中に灯る思い」を大切にしようという思いに賛同し、本学からも夏には3チーム、冬には2チームがキャンドル回廊に参加しました。キャンドルアートが灯る梅田の街を、夜2時間だけライトダウンし、普段とは違う梅田の街で、素敵な冬の夜を演出しました。
97. 依頼団体 体
事業名 ケーキのおおたに
実施期間 ケーキのおおたに
事業内容 2012.11月中旬
川西で有名なケーキ屋さん、ケーキのおおたにさんが製法で特許をとるにあたり、本学の学生がお店のロゴの制作を行いました。川西の名産を活かし、素材にもこだわりのあるおおたにさん。そんなおおたにさんの思いと素敵なお店にあうようなロゴをデザインしました。今後、お店で使用するシールや袋などに展開していく予定です。
98. 依頼団体 体
事業名 生野観光協会
実施期間 銀谷 ぼっほ祭り
事業内容 2012.11.18
2013年の生野義挙150年に向けて、縁のある志士5人の塗り絵イベントを行いました。今回塗るのは本学学生がデザインした、かわいいバージョンの志士たちです。小さい子が楽しめる塗り絵を通して、5人の志士を知る機会となりました。塗った絵はその場でパッチにして渡しました。
99. 依頼団体 体
事業名 松竹株式会社
実施期間 「ねらわれた学園」試写会
事業内容 2012.10.24
松竹の「ねらわれた学園」というアニメーション映画の試写会が、全国に先駆けて関西で一番最初に本学で行われました。200名近い学生が視聴し、映像の美しさとストーリーにひきこまれました。
100. 依頼団体 体
事業名 株式会社阪急デザインシステムズ
実施期間 アステ25周年フロアガイド 挿絵
事業内容 2013.4~2014.2
「アステ川西」フロアガイドのデザイン制作。
101. 依頼団体 体
事業名 株式会社KO. KO. MO (ココモ) よしもと
実施期間 よしもとTシャツデザイン
事業内容 2013.4.10~2014.3.31
「大阪」や「よしもと」を切り口としたTシャツのデザインを制作。
102. 依頼団体 体
事業名 能勢電鉄株式会社
実施期間 のせでん春のこども自然体験学習
事業内容 2013.5.3
1万本の花びらアートを制作。
103. 依頼団体 体
事業名 能勢電鉄株式会社

- 事業名 のせでんレールウェイフェスティバル似顔絵
 実施期間 2013.5.6
 事業内容 似顔絵コーナー協力。
104. 依頼団体 100万人のキャンドルナイト@オオサカシティ運営事務局
 事業名 1,000,000人のキャンドルナイト2013 SUMMER
 実施期間 2013.6.5
 事業内容 キャンドルナイトひかりのインスターレーション「キャンドル回廊」出展。(大阪梅田)
105. 依頼団体 川西市保健センター
 事業名 食育DVD制作
 実施期間 2013.6.14～2014.3.31
 事業内容 食育の理解と推進、啓発活動
106. 依頼団体 公益財団法人大阪腎臓バンク
 事業名 腎臓バンクポスター
 実施期間 2013.6.17
 事業内容 献腎臓バンクポスター図案の創作。
107. 依頼団体 大阪国際空港ターミナル株式会社
 事業名 大阪国際空港ゆるキャラデザイン
 実施期間 2013.7.2～2014.3.31
 事業内容 大阪国際空港イメージキャラクター(ゆるキャラ)の制作。
108. 依頼団体 株式会社モダンパラダイス
 事業名 イオンモール伊丹昆陽夏のイベント「せせらぎの森 七夕プロジェクト」
 実施期間 2013.7.7～8.15
 事業内容 七夕、天の川、お盆をイメージしたイルミネーションのデザイン・装飾。
109. 依頼団体 宝塚市長尾台自治会・ふじが丘自治会・満願寺自治会
 事業名 満願の里・盆踊りポスター
 実施期間 2013.8.4
 事業内容 地元自治会主催の盆踊りの告知ポスターを制作。
110. 依頼団体 株式会社阪急デザインシステムズ
 事業名 アステ川西ワークショップ
 実施期間 2013.8.7～8.15
 事業内容 アステ川西イベント「夏休みちびっこ工作コーナー」にて、ねんどでかわいいストラップを作ろう、2色ぬりえで、かんたんうちわを作ろうのワークショップを開催。
111. 依頼団体 大阪市立科学館
 事業名 あべの科学博2013
 実施期間 2013.8.8～8.14
 事業内容 コンピューターゲーム・ソフトを当イベント使用に制作し、指導・スタッフ参画。
112. 依頼団体 公益財団法人兵庫丹波の森協会
 事業名 丹波の森美術学校
 実施期間 2013.8.10～8.11
 事業内容 テーマ「あなたが描いた絵をアニメーションにして動かしてみよう！」
 パソコンの描画アプリケーションの使い方を学び、キャラクターを1枚づつ描画し、アニメーションを制作するワークショップを開催。
113. 依頼団体 宝塚「生」祈りのメッセージ実行委員会
 事業名 宝塚灯籠流し 宝塚「生」祈りのメッセージ
 実施期間 2013.8.17
 事業内容 宝塚市中心市街地武庫川河川敷一帯における、キャンドルアートオブジェの展示。
114. 依頼団体 特定非営利活動法人長尾すぎの子クラブ
 事業名 宝塚大学芸術教室「友だちの似顔絵を創ろう」
 実施期間 2013.8.27～8.29
 事業内容 小学校1～3年生の児童達と共に工作を行なった。ただ描くだけではなく、毛糸やペットボトルのふたを使用し、立体的な似顔面を制作。
115. 依頼団体 能勢電鉄株式会社
 事業名 のせでんアートライン妙見の森
 実施期間 2013.9.14～11.24

	事業内容	ヘッドマークのデザインを制作。
116.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	宝塚商工会議所 宝塚商工会報誌「Landmark」表紙 2013.10.1～2014.9.30 宝塚商工会議所報「Landmark」の表紙に学生作品（写真）を掲載。
117.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	宝塚市長尾台自治会・ふじが丘自治会・満願寺自治会 ひばり祭りポスター・看板制作 2013.10.20 ひばり祭り開催に伴い、告知用のポスター・看板をデザイン。
118.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	コミュニティひばり 第16回ひばり祭り 2013.10.20 ひばり祭り開催に伴い、告知用のポスター・看板をデザイン・制作し、似顔絵コーナーに参画。
119.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	能勢電鉄株式会社 のせでんレトロ 大正ロマントレイン 2013.10.20 参加者全員が能勢電鉄開業当時（100年前）の雰囲気を漂う衣装をまとい、当時をイメージした特別貸切電車「大正ロマン号」に乗車するイベントにおける、カフェ出店に参画。
120.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	宝塚市立長尾台小学校 宝塚市立長尾台小学校 校区探検 2013.10.24 自分（児童）たちの住んでいる街には、どのような施設があるかを知り、いろいろな人に支えられながら生活していることに気づいてもらうことを目的とし、学内探検を実施。
121.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	能勢電鉄株式会社 のせでんレールウェイフェスティバル秋2013 2013.10.26 似顔絵コーナーに参画。
122.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	満願の里 子どもみこし保存会 子どもみこし（金太郎みこし）ポスター制作 2013.10.27 満願の里子どもみこし行列に関する告知用ポスターの制作。
123.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	緑台幼稚園 父母の会 みどりまつり 2013.11.2 私立幼稚園の親子学級事業として、園児や園児の兄弟また近隣の子ども達の頬または手の甲にボディペインティングを行なう。
124.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	能勢電鉄株式会社 のせでん秋のこども自然体験学習 2013.11.4 次世代のこども達が夢をもって健やかに成長することを応援する活動として、こども達の豊かな創造力と体験づくりのために、妙見山の自然から環境を学んでもらう。
125.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	川西市商工会 川西まつり かわにし音灯り2013 2013.11.9 「街はカーニバル！プロジェクト」が呼び掛け、市民自らが中心となり、企画・運営し、作り上げるまつり。音と灯りで人とつながる一体感を演出。
126.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	忠岡町商工会 忠岡町商工カーニバル 2013.11.10 忠岡町カーニバルにおける、似顔絵コーナーを担当。
127.	依頼団体 事業名 実施期間	川西市 川西市市政・通水60周年記念 きんたくんの力水 ラベルデザイン 2013.11.15～2014.3.31

	事業内容	市政施行・水道通水60周年を記念し、「60周年記念きんたくんの力水」を製作するにあたり、ボトルラベルのデザインを制作。
128.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	JR川西池田駅周回路電飾委員会 JR川西池田駅電飾点灯式 2013.12.7 JR川西池田駅前の光のイルミネーションの装飾に参画。
129.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	梅田スノーマンフェスティバル実行委員会 スノーマンフェスティバル 2013.12 毎年行なわれている梅田界隈でのスノーマンフェスティバルに参画し、JAZZライブ等も開催。
130.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	100万人のキャンドルナイト@オオサカシティ運営事務局 1,000,000人のキャンドルナイトwinter 2013.12.11 キャンドルナイトひかりのインスターレーション「キャンドル回廊」出展。(大阪梅田)
131.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	川西市中心市街地活性化協議会 第1回まちなか美術館 きんたくんギャラリー 2014.2.22～3.9 芸術系大学の学生や新進の芸術家の作品をまちなかに展示し、芸術家の卵の新しく飛躍する第一歩を手助けする場として川西能勢口の「まちなか美術館」を開催。
132.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	能勢電鉄株式会社 里山ラッピング電車のデザイン 2014.3 能勢電鉄が運行している地域における、里山の風景をデザインしたラッピング電車のデザインを制作。

東京新宿キャンパス（2011年～2013年）

1.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	宝塚大学、新宿区、小田急百貨店 「e顔バッグ」展における似顔絵チャリティイベント 2011.5.20～2011.5.31 イラストレーションコースの学生がそれぞれ被災地復興の思いを込めて、エコバッグに絵を描き展示した。東日本大震災の復興支援として、学生有志が、募金をしていただいた方にエコバッグに似顔絵を描いて贈呈した。集まった募金は義援金として日本赤十字社に寄付した。
2.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	新宿区 震災避難者のための似顔絵チャリティイベント 2011.5.21 東日本大震災で被災した約80世帯が入居している新宿区百人町、戸山団地内で、学生有志が、来場者の似顔絵を描いて、贈呈した。また、来場者と一緒に絵を描いたり、キーホルダーを作ったりするコーナーも設けた。
3.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	新宿区 第一回 歌舞伎町アートマーケット 2011.6.4～2011.6.5 「新宿から東北へ！みんなで応援する2日間」をテーマに「文化・アート」を通じて被災地応援、支援活動を行なうイベント。学生有志による似顔絵チャリティ、エコバッグ販売などを行なった。収益は日本赤十字社、NPO団体に寄付した。
4.	依頼団体 事業名 実施期間 事業内容	警視庁新宿警察署、東京都、新宿区、JR東日本 「ウォールギャラリー・大ガード」 2011.9.13～約3年間 警視庁新宿警察署が継続して行なっている落書き防止活動の一環として、落書きが絶えなかった新宿大ガード下歩道の壁面に学生有志が、専門学校の「HAL東京」「東京モード学園」の学生と共同で、20枚のパネル画を作成し展示した。完成された作品を展示することにより、落書きをしようとする気持ちを無くさせる、という意図通りの効果を発揮し続けている。
5.	依頼団体 事業名	歌舞伎町TMO広報大使に東京メディア・コンテンツ学部が就任

- 実施期間 2011.9.19
事業内容 東京メディア・コンテンツ学部が歌舞伎町タウンマネージトオフィス（TMO）から歌舞伎町TMO広報大使に任命された（団体としては初めて）。宝翔祭のイベントの一つとして任命式が執り行われ、TMOの新村雅彦会長から川村順一学部長に対して任命書が手渡された。
6. 依頼団体 新宿区
事業名 「新宿フィールドミュージアム」
実施期間 2011.10～2011.11
事業内容 特定の場所にとられず新宿区内各所をミュージアムと見立て、新宿の文化的・芸術的な魅力を発信するイベント「新宿フィールドミュージアム」のロゴデザインを学生から募集し、350案の中から選ばれたものを芦谷耕平専任講師がブラッシュアップし完成作品とした。
7. 依頼団体 新宿区
事業名 学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011
実施期間 2011.10.15～2011.10.24
事業内容 アートを通じて「人とまち」を繋ごうというイベント。学生たちが作品を出展。歌舞伎町シネシティ広場では軽音楽部の学生がライブ演奏をし、その後ろでは壁に絵を描くライブペインティングを行なった。大久保公園で開催されたアートバザールでは大学のブースを出店し、来場者に対して似顔絵描きを行なった。
8. 依頼団体 宝塚大学、新宿区、小田急百貨店
事業名 「青い鳥原画展」における似顔絵チャリティイベント
実施期間 2011.11.15～2011.11.29
事業内容 イラストレーションコースの学生たちが作画から編集までを担当した作品集「青い鳥」の原画展を行なった。募金をしてくれた来場者に対して、恒例の似顔絵描きを行い、集まった募金は義援金として日本赤十字社に寄付した。
9. 依頼団体 新宿区
事業名 歌舞伎町X'mas コンサート
実施期間 2011.12.18
事業内容 渡邊哲意准教授が中心となり、企画、運営、演出を手がけた。学生有志が「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」でも好評だったバンド演奏を従えてのライブペインティングを行い、それぞれクリスマスならではの絵を完成させ喝采を浴びた。
10. 依頼団体 新宿区
事業名 第5回農山村ふれあい市場
実施期間 2012.3.25
事業内容 新宿、大久保公園で開催された同催しで、チャリティーでの似顔絵描き、ライブペインティングを行なった。また、宮城県女川市の炊き出しで最初に作られた、「女川カレー」の販売の手伝いをした。
11. 依頼団体 鎌人いち場実行委員会
事業名 第七回鎌人いち場
実施期間 2012.5.27
事業内容 鎌倉海浜公園で開催された同イベントにおいて、学生有志が来場者の似顔絵を描き、その場で缶バッジを作成する「似顔絵缶バッジ」ブースを運営した。
12. 依頼団体 新宿区
事業名 第6回農山村ふれあい市場
実施期間 2012.6.3
事業内容 新宿、大久保公園で開催された同催しで、チャリティーでの似顔絵描き、似顔絵缶バッジの作成を行なった。
13. 依頼団体 新宿区
事業名 新宿クリエイターズ・フェスタ2012
実施期間 2012.8.24～2012.9.2
事業内容 新宿のまち全体が巨大なアート空間となる同イベント。イベント初日にはライブ演奏をバックに即興で絵を描く「ライブペインティング」を実施し好評を博した。本学内ではドキュメンタリー映画「Don't STOP」（小橋賢治監督）の特別試写会とトークセッションを開催、中山弘子新宿区長、川村順一・東京メディア・コンテンツ学部長が参加した。また、「新宿の魅力再発見」がテーマの学生映像イベント「メディアキャンプ新宿」に協力した。成田裕介教授、宝塚キャンパスの卒業生、北川亜矢子氏（脚本家）らが、学生作品の審査をした。さらに、同イベント

- 内プログラム「学生万博」では本学の学生2名が実行委員となり大久保公園で開催されたイベントの全ての運営を担当した。
14. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
鎌人いち場実行委員会
第八回鎌人いち場
2012.10.14
鎌倉海浜公園で開催された同イベントにおいて、学生有志が来場者、主に子供に対して、フェイスペインティングを行なった。
 15. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
新宿区
第7回農山村ふれあい市場
2012.11.11
新宿、大久保公園で開催された同催しで、チャリティーでの似顔絵描き、似顔絵缶バッジの作成を行なった。
 16. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
国立がん研究センター
病院内クリスマスイベントでの公演
2012.12.2
国立がん研究センター中央病院（中央区築地）の小児科で2日に開催されたクリスマス会に、学生たちがボランティアとして参加した。当日は、学生有志が、9月の学園祭でも披露し好評だった宝塚歌劇団のパロディー・宝塚寿司組公演『愛と酔の輪舞（ Rond ）』を上演。会場に集まった約30名の子供たちに対し、歌あり・ダンスありの公演を披露した。
 17. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
新宿未来創造財団
レガス子どもクラブでのマンガ指導「マンガ家に変身！」
2013.1.13
新宿コズミックセンターで開催された同イベントには新宿区内の奨学生36名が参加。芦谷耕平専任講師、学生有志4名が指導にあたった。芦谷講師がマンガの基礎であるコマ割りの説明や、コマに合わせてキャラクターや台詞を描く方法を分かりやすく説明。その後、実際に子どもたちが原稿用紙に鉛筆で思いおもいにキャラクターを描いた。
 18. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
A! Lucky Park 桜まつり2013
2013年4月14日
「似顔絵缶バッジ」のブースを出展
 19. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
神楽坂商店街振興組合
第29回 春の青空フェスタ
2013年5月19日
「似顔絵描き」と「似顔絵缶バッジ」のブースを出展
 20. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
鎌人いち場実行委員会
第九回鎌人いち場
2013年5月26日
鎌倉海浜公園で開催された同イベントにおいて、学生有志が参加し、似顔絵描きだけでなく、来場者の顔や腕にペイントを施す「ボディペインティング」も行った。
 21. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
新宿区
第8回農山村ふれあい市場
2013年5月26日
新宿、大久保公園で開催された同催しで、チャリティーでの似顔絵描き、似顔絵缶バッジの作成を行なった。
 22. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
新宿区 市谷薬王寺町・市谷柳町共催
第35回薬王寺・柳町 七夕まつり
2013年5月26日
新宿、大久保公園で開催された同催しで、チャリティーでの似顔絵描き、似顔絵缶バッジの作成を行なった。
 23. 依頼団体名
事業名
実施期間
事業内容
国立がん研究センター中央病院
子どもたちの似顔絵描き
2013年7月28日
国立がん研究センター中央病院で行われた子どもたちの似顔絵を描くボランティアに学生2名が参加。

24. 依頼団体 新宿区
 事業名 新宿クリエイターズ・フェスタ2013
 実施期間 2012年8月23日～9月8日
 事業内容 新宿を舞台に様々なアート・文化を発信するイベント。イベント初日にはライブ演奏街中アートの一環して「Art Café on MOA4th STREET」に参加。イラストレーションコースの学生たちがデザイン・制作した作品集「ピーターパン」と「銀河鉄道の夜」から約20点の作品がテーブルクロスとしてプリントされ、展示されました。
25. 依頼団体 新宿区 若松町・河田町共催
 事業名 若松河田ふれあいまつり
 実施期間 2013年9月29日
 事業内容 「似顔絵描き」のブースを出展
26. 依頼団体 歌舞伎町タウンマネジメント
 事業名 歌舞伎町ふれあい市場
 実施期間 2013年9月29日
 事業内容 「似顔絵描き」のブースを出展
27. 依頼団体 新宿区 荒木町・舟町共催
 事業名 四谷大好き祭り2013
 実施期間 2013年10月5、6日
 事業内容 「似顔絵描き」と「似顔絵缶バッジ」のブースを出展
28. 依頼団体 神楽坂商店街振興組合
 事業名 第30回 秋の青空フェスタ
 実施期間 2013年10月6日
 事業内容 「似顔絵描き」のブースを出展
29. 依頼団体 鎌人いち場実行委員会
 事業名 第10回鎌人いち場
 実施期間 2013年10月19日
 事業内容 鎌倉海浜公園で開催された同イベントにおいて、学生有志が参加し、似顔絵缶バッジの販売、来場者の顔や腕にペイントを施す「ボディペインティング」を行った。
30. 依頼団体 新宿区
 事業名 2013 新宿区リクリエーションまつり
 実施期間 2013年11月23日
 事業内容 「似顔絵缶バッジ」のブースを出展
31. 依頼団体 新宿区・柏木地区協議会まちづくり分科会
 事業名 落書き消しお絵かき事業
 実施期間 2013年12月1日
 事業内容 落書きが絶えない新宿区立北新宿公園内のコンクリート壁一面に絵を描き、落書きするスペースを無くしてしまうという試み。区内の小学生たちが画用紙に描いた動物や花木を本学イラストレーションコースの学生たちが一つの絵に再構成した。当日は本学の学生と区内の小学生が協力してかわいくてカラフルな壁画を完成させた。

14. 学生の受入れ

14-1 学生受入れの概要

学 部

年 度	募集人員 (名)	選考の方法	選 抜 の 基 準
2009	540 造形学部 240 美術学科 40 産業デザイン学科 160 芸術情報学科 40 メディア・コンテンツ学部 170 メディア・コンテンツ学科 170 東京メディア・コンテンツ学部 130 メディア・コンテンツ学科 130	AO 推薦入学 一般入学	AO入学選考委員会が行う面接、書類審査、自己制作作品の総合判定 造形学部、メディア・コンテンツ学部 小論文、自己制作作品、面接、書類審査等の総合判定 東京メディア・コンテンツ学部 自己制作作品、面接、書類審査等の総合判定 造形学部、メディア・コンテンツ学部 (第1期) 学力テスト、実技試験、面接、調査書の総合判定 学力テスト：国・英・数の内1 実技試験： 造形学部 美術史・美術理論 (小論文) 洋画 (水彩画、着彩) 日本画 (鉛筆デッサン、着彩) 彫刻 (塑像制作) アートセラピー (小論文) ファッションデザイン (デザイン画、着彩) ビジュアルデザイン&アドタイジング (イメージ着彩画) イラストレーション (テーマによるイメージイラスト) 建築&ショップデザイン } インテリアデザイン } (空間を表現したスケッチ) プロダクトデザイン } 写真 (小論文) 芸術情報学科 (小論文) メディアコンテンツ学部 映画・マンガ・アニメーション・ゲーム・ 放送・舞台芸術 (ストーリー制作) コンテンツ・プロデュース (小論文) (第2期、第3期) 実技試験、面接、書類審査等の総合判定 実技試験 造形学部 美術史・美術理論 (小論文) 洋画 (水彩画、着彩) 日本画 (鉛筆デッサン、着彩) 彫刻 (塑像制作) アートセラピー (小論文) ファッションデザイン (デザイン画、着彩) ビジュアルデザイン&アドタイジング (イメージ着彩画) イラストレーション (テーマによるイメージイラスト)

2009			<p>建築&ショップデザイン } インテリアデザイン } (空間を表現したスケッチ) プロダクトデザイン }</p> <p>写真 (小論文) 芸術情報学科 (小論文) メディアコンテンツ学部 映画・マンガ・アニメーション・ゲーム・ 放送・舞台芸術 (ストーリー制作) コンテンツ・プロデュース (小論文)</p> <p>東京メディア・コンテンツ学部 (第1期) 学力テスト、自己制作作品、面接、調査書の総合判定 (第2期、第3期) 自己制作作品、面接、書類審査等の総合判定</p>
2010	<p>540</p> <p>造形芸術学部 310 アート・デザイン学科 150 メディア・デザイン学科 160</p> <p>東京メディア・コンテンツ学部 130 メディア・コンテンツ学科 130</p> <p>看護学部 100 看護学科 100</p>	<p>AO入学</p> <p>推薦入学</p> <p>一般入学</p> <p>AO入学</p> <p>公募推薦入学</p> <p>一般入学</p> <p>公募推薦入学</p> <p>自己推薦入学</p> <p>一般入学</p> <p>社会人入学</p>	<p>AO入学選考委員会が行う面接、書類審査および持参した自己制作作品により総合的に判定</p> <p>実技試験、自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定 実技試験 (鉛筆デッサン、ドレスをデザイン、キャラクターイラスト、ストーリー制作 他)</p> <p>第1期 学科試験 (英語、国語、数学から1科目選択) と実技試験をおこない、一般の学力と実技の総合的能力を判定 第2期 実技試験をおこない、技術的能力を重く評価</p> <p>AO入学選考委員会が行う面接、書類審査および持参した自己制作作品により総合的に判定</p> <p>自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定</p> <p>第1期 学力試験 (英語、国語、数学から1科目選択)、自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定 第2・3期 自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定</p> <p>小論文、面接、調査書等により総合的に判定</p> <p>小論文、面接、調査書等により総合的に判定 学科試験 (英語 I・II、国語総合〈古文・漢文除く〉、数学 I・Aまたは生物 I より1科目選択) を行います。</p> <p>学科試験 (英語 I・II)、小論文、面接等により総合的に判定</p>

2011	540	造形芸術学部 310	AO入学	AO入学選考委員会が行う面接、学力試験（小論文）、書類審査及び持参した自己制作作品により総合的に判定		
		アート・デザイン学科 150	推薦入学			
		メディア・デザイン学科 160				
		東京メディア・コンテンツ学部 130	推薦入学			
		メディア・コンテンツ学科 130				
		看護学部 100	一般入学		学力試験、実技試験、面接、書類審査により総合的に判定 学力試験（英語Ⅰ・Ⅱ、国語総合〈古文・漢文除く〉）、数学Ⅰ・Aより1科目を選択 実技試験（デッサン、平面構成、ストーリーボード、メディア・デザインに関する小論文より1つ選択）	
		看護学科 100				
					AO入学	AO入学選考委員会が行う面接、書類審査及び持参した自己制作作品により総合的に判定
					公募推薦入学	自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定
					自己推薦入学	自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定
		一般入学	第1期 学力試験、自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定 学力試験（英語、国語、数学より1科目選択） 第2・3期 自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定			
		公募推薦入学	小論文、面接、調査書等により総合的に判定			
		一般入学	学力試験（英語Ⅰ・Ⅱ、国語総合〈古文・漢文除く〉）、数学Ⅰ・Aまたは生物Ⅰより1科目選択			
		社会人入学	学力試験（英語Ⅰ・Ⅱ）、小論文、面接等により総合的に判定			
2012	380	造形芸術学部 310	AO入学	AO入学選考委員会が行う体験授業、面談、書類審査を総合的に判定		
		アート・デザイン学科 150	第1期・第2期・第3期			
		美術領域	自己推薦入学			
		デザイン領域				
		メディア・デザイン学科 160	第1期・第2期			
	一般入学	A方式・B方式のうちから選択				
		第1期・第2期	A方式 学力試験（1科目）、実技試験、書類審査により総合的に判定 B方式 学力試験（2科目）、面接、書類審査を総合的に判定 学力試験（英語Ⅰ・Ⅱ、国語総合〈古文・漢文を除く〉）、数学Ⅰ・A） 実技試験（デッサン、イメージイラスト制作、マンガ、絵コンテから1つ選択）			
		自己PR入学	自己PR作品方式 自己制作作品、面接、書類審査を総合的に判断 自己制作作品 講習会で制作した作品・デッサン・油絵・立体作品/空間模型・イラスト・CG・平面構成・写真・			

2012	<p>東京メディア・コンテンツ学部 130</p> <p>看護学部 100</p>	<p>AO入学 第1期・第2期・ 第3期・第4期</p> <p>推薦入学</p> <p>一般入学 第1期・第2期</p> <p>社会人入学 第1期・第2期</p> <p>留学生入学 第1期・第2期</p> <p>公募推薦入学</p> <p>一般入学 第1期・第2期</p> <p>社会人入学</p>	<p>ファッションデザイン・オリジナルキャラクター画・コミックス・ゲーム作品・映像作品・音楽作品・音作品・絵コンテ) 自己PR方式 自己PR、面接、書類審査を総合的に判断</p> <p>AO入学選考委員会が行う面接、書類審査及び持参した自己制作作品により総合的に判定</p> <p>自己制作作品、面接、調査書等より総合的に判定</p> <p>学力試験(1科目)、自己制作作品、面接、調査書等により総合的に判定 学力試験(英語I・II、国語総合(古文・漢文を除く)、数学I・A) 自己制作作品(美術デザインに関する作品、キャラクター画、コミックス、シナリオ、小説、映像作品など)</p> <p>自己制作作品、面接、調査書等より総合的に判定</p> <p>自己制作作品、面接、調査書等より総合的に判定</p> <p>小論文、面接、調査書等により総合的に判定</p> <p>学力試験(英語I・II、国語総合(古文・漢文を除く)、数学I・Aまたは生物Iより1科目選択)</p> <p>学力試験(英語I・II)、小論文、面接等により総合的に判定</p>
2013	<p>380</p> <p>造形芸術学部 150</p> <p>制作力創造学科 75</p> <p>想像力創造学科 75</p>	<p>AO入学 第1期・第2期・ 第3期</p> <p>自己推薦入学 第1期・第2期</p> <p>一般入学 第1期・第2期</p>	<p>選択した体験授業(面談含む)に参加、提出書類により総合的に判定</p> <p>体験授業 『鉛筆デッサンをしよう』 『着彩画を描こう』 『立体造形を体験しよう』 『好きなプリント地でオリジナルのキャミソールを作ろう』 『あなただけのオリジナルアイコンを作ろう』 『イラストレーションの世界を体験しよう』 『物語の中のキャラクター制作をしよう』 『映像制作・身体表現を体験しよう』 『あなただけのストーリー制作をしよう』 『面白い企画を考えてみよう』</p> <p>実技試験を選択、面接、提出書類により総合的に判定</p> <p>実技試験 デッサン、着彩画、立体造形、ピクトグラム制作 イメージイラスト制作、マンガ、文章表現、身体表現</p> <p>A方式・B方式のうちから選択</p>

2013	<p>東京メディア・コンテンツ学部 130 メディア・コンテンツ学科 130</p> <p>看護学部 100 看護学科 100</p>	<p>自己PR入学</p> <p>AO入学 第1期・第2期 第3期・第4期 自己推薦入学</p> <p>一般入学 第1期・第2期</p> <p>社会人入学 第1期・第2期</p> <p>留学生入学 第1期・第2期</p> <p>公募推薦入学 一般入学 第1期・第2期</p> <p>社会人入学</p>	<p>A方式 実技試験、面接、提出書類により総合的に判定 実技試験 デッサン、着彩画、立体造形、ピクトグラム制作 イメージイラスト制作、マンガ、文章表現、身体表現</p> <p>B方式 学力試験（1科目選択）、面接、提出書類により総合的に判定 学力試験 英語Ⅰ・Ⅱ 国語総合（古文・漢文を除く） 数学Ⅰ・A</p> <p>から1科目もしくは、2科目、3科目を選択、うち高得点の1科目が学力試験の成績</p> <p>面接（自己PR）、提出書類により総合的に判定 面接時に作品、賞状、資料、活動などを自己PR</p> <p>面接、提出書類審査、自己制作作品により総合判定 自己制作作品例 美術デザインに関する作品、キャラクター画、コミックス、シナリオ、小説、映像作品など</p> <p>面接、提出書類審査、自己制作作品により総合判定 自己制作作品例 美術デザインに関する作品、キャラクター画、コミックス、シナリオ、小説、映像作品など</p> <p>学科試験、提出書類審査、面接、自己制作作品により総合的に判定 学力試験 英語Ⅰ・Ⅱ 国語総合（古文・漢文を除く） 数学Ⅰ・A</p> <p>から1科目を選択 自己制作作品例 美術デザインに関する作品、キャラクター画、コミックス、シナリオ、小説、映像作品など</p> <p>面接、提出書類審査、自己制作作品により総合判定 自己制作作品例 美術デザインに関する作品、キャラクター画、コミックス、シナリオ、小説、映像作品など</p> <p>面接、提出書類審査、自己制作作品により総合判定 自己制作作品例 美術デザインに関する作品、キャラクター画、コミックス、シナリオ、小説、映像作品など</p> <p>小論文、面接、高等学校調査書等により総合的に判定 学力試験 ・英語Ⅰ・Ⅱ ・国語総合（古文・漢文を除く） ・数学Ⅰ・Aまたは生物Ⅰより1科目選択</p> <p>学力試験 英語Ⅰ・Ⅱ 小論文 面接等により総合的に判定</p>
------	---	--	---

学部3年次編入

年 度	募集人員（名）	選考の方法	選 抜 の 基 準
2002 ～2009	若干 造形学部 美術学科 若干 産業デザイン学科 若干 芸術情報学科 5名 メディア・コンテンツ学部 映像造形学科 若干 コンテンツ・プロデュース学科 若干	編入学	選考試験：小論文、実技、面接（作品持参）の総合判定
2010	若干 造形学部 美術学科 若干 産業デザイン学科 若干 芸術情報学科 5名 メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科 若干	編入学	試験、面接（持参作品について）、書類審査により総合的に判定
	若干 東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科 若干	編入学	面接及び持参作品、書類審査等により総合的に判定
2011	若干 造形学部 美術学科 若干 産業デザイン学科 若干 芸術情報学科 若干 メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科 若干	編入学	試験、面接（持参作品について）、書類審査により総合的に判定
	若干 東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科 若干	編入学	面接及び持参作品、書類審査等により総合的に判定
2012	若干 造形芸術学部 アート・デザイン学科 若干 メディア・デザイン学科 若干	編入学	実技試験、面接、調査書等より総合的に判定
	若干 東京メディア・コンテンツ学部 メディア・デザイン学科 若干	編入学	自己制作作品、面接、書類審査等より総合的に判定
2013	若干 造形芸術学部 アート・デザイン学科 若干 メディア・デザイン学科 若干	編入学	実技試験、面接、提出書類により総合的に判定
	若干 東京メディア・コンテンツ学部 メディア・デザイン学科 若干	編入学	自己制作作品、面接、書類審査等より総合的に判定

大学院修士課程

年 度	募集人員 (名)	選考の方法	必 要 書 類
2002 ～2005	40 造形研究科 造形・デザイン専攻	試験： 作品審査（1年以内の作品2以上）、面接、外国語（英・仏・独・伊の内1）	入学志願書、調査書（含む成績証明）、推薦書（志望理由書）、小論文、健康診断書、卒業（見込）証明書等
2006 ～2007	40 メディア造形研究科 造形・デザイン専攻 40 メディア造形研究科 メディア・コンテンツ専攻	試験： 作品審査（1年以内の作品2以上）、面接、外国語（英・仏・独・伊の内1）	入学志願書、調査書（含む成績証明）、推薦書（志望理由書）、小論文、健康診断書、卒業（見込）証明書等
2008 ～2009	40 メディア造形研究科 造形・デザイン専攻 40 メディア造形研究科 メディア・コンテンツ専攻	試験： 作品審査（1年以内の作品2以上）、面接、外国語（英・仏・独・伊の内1）	入学志願書、調査書（含む成績証明）、推薦書（志望理由書）、小論文、卒業（見込）証明書等
2010	40 メディア造形研究科 造形・デザイン専攻 40 メディア造形研究科 メディア・コンテンツ専攻	作品審査、面接 外国語（英・仏・独・伊から1科目選択）	入学志願書、成績証明書、推薦書、志望理由書、小論文、卒業（見込）証明書 等
2011	40 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻 40 メディア・造形研究科 メディア・コンテンツ専攻	試験 面接、外国語（英語） 及び書類審査	入学志願書、志望理由書、小論文、成績証明書、卒業（見込）証明書、健康診断書等
2012	40 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻 40 メディア・造形研究科 メディア・コンテンツ専攻	面接および提出論文・作品、研究計画書、口述試験を総合して判定	入学志願書、小論文、成績証明書、卒業（見込）証明書、健康診断書等
2013	80 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻 40 メディア・コンテンツ専攻 40	面接および提出論文・作品、出願書類等の書類審査を総合して判定	入学志願書、研究計画要約、成績証明書、卒業（見込）証明書、健康診断書等

大学院博士（後期）課程

年 度	募集人員（名）	選抜の基準	必 要 書 類
2002 ～2005	3 造形研究科 造形・デザイン専攻	提出論文・作品、研究計画書 筆記試験（外国語科目：英・ 独・仏・中国語のいずれか）、 専門領域に関する口述試験、 面接を総合判定	入学願書、健康診断書、 出願資格を証する書類（成績証明書）、推薦書、 作品（1年以内に制作したもの2点）、 研究計画書等
2006 ～2007	3 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻	提出論文・作品、研究計画書 筆記試験（外国語科目：英・ 独・仏・中国語のいずれか）、 専門領域に関する口述試験、 面接を総合判定	入学願書、健康診断書、 出願資格を証する書類（成績証明書）、推薦書、 作品（1年以内に制作したもの2点）、 研究計画書等
2008 ～2009	3 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻	提出論文・作品、研究計画書 筆記試験（外国語科目：英・ 独・仏・中国語のいずれか）、 専門領域に関する口述試験、 面接を総合判定	入学願書、 出願資格を証する書類（成績証明書）、推薦書、 作品（1年以内に制作したもの2点）、 研究計画書等
2010	3 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻	提出論文、作品 研究計画書、筆記試験（外国 語科目）、口述試験を総合し て判定	入学志願書、出願資格を証明する書類および 成績証明書等、推薦書 等修士作品または修 士論文
2011	3 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻	提出論文、作品 研究計画書、口述試験、 筆記試験（外国語科目） を総合して判定	入学志願書、出願資格を証明する書類及び成 績証明書等、推薦書、健康診断書、修士作品 または修士論文
2012	3 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻	面接および提出論文・作品、 研究計画書、口述試験を総合 して判定	入学志願書、推薦書、出願資格を証明する書 類（成績証明書）、健康診断書等
2013	3 メディア・造形研究科 造形・デザイン専攻	提出作品（論文）、研究計画書、 口述試験を総合して判定	入学志願書、推薦書、出願資格を証明する書 類（成績証明書）、健康診断書等

大学院「専門職学位課程」

年 度	募集人員（名）	選抜の基準	必 要 書 類
2004 ～2008	40 デザイン経営研究科 デザイン経営専攻	面接、筆記試験（英・伊・ 仏・中国語のいずれか1）の 総合判定	入学願書、健康診断書、 出願資格を証する書類（成績証明書）、 志望理由書、小論文
2009	20 デザイン経営研究科 デザイン経営専攻	面接、筆記試験（英・伊・ 仏・中国語のいずれか1）の 総合判定	入学願書、健康診断書、 出願資格を証する書類（成績証明書）、 志望理由書、小論文

14-2 学生募集状況と入学選考結果

学部学生募集状況・入学選考結果一覧表（1997年度～2013年度）

事 項	応 募 区 分																											
	1997年度				1998年度				1999年度				2000年度				2001年度				2002年度				2003年度			
	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情
推薦入学選考	志願者	100	253	101	119	289	143	45	169	75	42	44	138	59	40	20	114	56	47	35	125	63	36	53	171	134	31	
	受験者	98	251	101	116	285	141	45	163	72	42	43	135	59	40	20	113	54	47	35	125	63	36	53	171	133	31	
	合格者	15	48	21	34	112	44	22	63	21	24	38	121	45	38	19	112	51	46	35	119	58	34	51	168	129	31	
	辞退者	0	2	2	1	6	4	1	2	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	2	1	2	2	6	0	
	手続者	15	46	19	33	106	40	21	61	21	24	38	121	44	38	18	111	51	46	33	119	56	33	49	166	123	31	
一般入学選考	志願者	208	479	329	196	560	402	84	328	341	191	60	190	146	95	40	137	129	65	43	169	114	64	26	97	122	15	
	受験者	193	445	310	187	525	374	82	310	329	182	56	184	139	91	36	125	125	64	42	166	112	64	26	92	116	15	
	合格者	40	128	52	24	60	28	40	120	67	57	15	41	16	18	32	67	88	25	25	106	89	41	25	90	111	14	
	辞退者	4	21	7	6	13	4	6	17	12	4	2	7	4	2	5	10	17	6	7	17	18	6	10	36	28	5	
	手続者	36	107	45	18	47	24	34	103	55	53	13	34	12	16	27	57	71	19	18	89	71	35	15	54	83	9	
	入学者	51	153	64	51	153	64	55	164	76	77	51	155	56	54	45	168	122	65	51	208	127	68	64	220	206	40	

事 項	応 募 区 分																										
	2004年度				2005年度				2006年度				2007年度				2008年度										
	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情			
推薦入学選考	志願者	45	243	98	52	35	184	185	35	100	35	31	173	29	252	5	33	180	39	223	4	131	18	124	31	150	181
	受験者	45	242	98	51	35	182	184	35	99	35	31	173	29	249	5	33	180	39	222	4	131	17	122	30	145	181
	合格者	45	236	93	51	35	180	179	35	98	35	31	172	29	249	5	33	179	39	222	4	126	17	121	30	144	147
	辞退者	1	4	3	0	1	2	5	1	5	1	0	6	0	5	0	3	7	1	19	1	6	1	10	0	14	3
	手続者	44	232	90	51	34	178	174	34	93	34	31	166	29	244	5	30	172	38	203	3	120	16	111	30	130	144
一般入学選考	志願者	15	83	58	10	13	42	25	7	17	13	20	40	7	79	3	10	29	8	47	1	56	5	24	7	42	44
	受験者	14	81	55	9	12	41	25	6	17	12	19	40	6	78	3	9	27	8	46	1	55	5	19	7	38	42
	合格者	13	81	54	9	12	41	25	6	16	12	18	40	6	77	3	9	26	8	46	1	50	5	19	7	38	30
	辞退者	6	18	11	1	5	8	8	1	3	5	6	9	1	27	1	2	10	1	12	0	5	2	9	2	13	7
	手続者	7	63	43	8	7	33	17	5	13	7	12	31	5	50	2	7	16	7	34	1	45	3	10	5	25	23
	入学者	51	295	133	59	41	211	191	39	106	41	43	197	34	294	7	37	188	45	237	4	165	19	121	35	154	168

事 項	応 募 区 分																					
	2009年度				2010年度				2011年度				2012年度				2013年度					
	美術	産デ	芸情	看護	美術	産デ	芸情	看護	美術	産デ	芸情	看護	美術	産デ	芸情	看護	美術	産デ	芸情	看護		
推薦入学選考	志願者	21	120	38	129	204	86	68	127	96	42	57	98	118	37	32	84	160	40	32	72	177
	受験者	21	118	38	129	203	86	68	127	94	42	57	97	113	37	32	83	148	40	31	72	172
	合格者	21	116	38	124	160	80	61	117	81	42	53	93	96	37	32	82	93	39	31	72	74
	辞退者	0	8	4	12	6	11	3	4	9	3	8	4	9	1	1	3	14	3	1	7	6
	手続者	21	108	34	112	154	69	58	113	72	39	45	89	87	36	31	79	79	36	30	68	68
一般入学選考	志願者	5	17	6	20	54	12	21	40	103	6	10	20	230	5	8	14	254	6	9	7	280
	受験者	5	16	6	20	48	11	21	37	99	5	9	18	221	5	7	14	236	6	8	6	263
	合格者	5	14	5	19	15	10	20	35	82	4	9	17	66	5	5	14	76	6	7	6	72
	辞退者	1	4	0	10	1	4	8	13	27	2	5	5	26	2	3	5	24	2	4	4	29
	手続者	4	10	5	9	14	6	12	22	55	2	4	12	40	3	2	9	52	4	3	2	50
	入学者	25	118	39	121	168	75	70	135	127	41	49	101	127	39	33	88	131	40	33	70	118

(推薦入学選考にはAO入学者を含む)

学部編入学生募集状況・入学選考結果一覧表（1997年度～2013年度）

事 項	応 募 区 分																			
	1997年度				1998年度				1999年度				2000年度				2001年度			
	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情
	志願者	11	19	3	8	23	11	10	30	9	6	37	9	3	26	4	8			
	受験者	11	18	3	8	23	11	9	27	9	6	35	9	3	26	4	7			
	合格者	1	11	3	3	20	10	8	18	5	6	25	8	3	19	1	3			
	辞退者	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	入学者	1	11	3	3	17	10	7	18	5	6	25	8	3	19	1	3			

事 項	応 募 区 分																
	2002年度				2003年度				2004年度				2005年度				
	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	美術	産デ	映像	芸情	
	志願者	6	21	14	1	0	14	1	2	5	9	5	1	2	2	0	1
	受験者	6	20	14	1	0	14	1	2	5	9	5	1	2	2	0	1
	合格者	6	18	12	1	0	14	1	1	5	9	5	1	2	2	0	1
	辞退者	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0
	入学者	4	18	12	1	0	14	1	1	4	7	5	1	1	2	0	1

事項	応募区分																		
	2006年度				2007年度				2008年度				2009年度						
									造形学部			メディア・コンテンツ学部	造形学部			メディア・コンテンツ学部		メディア・コンテンツ学部	
	美術	産デ	芸情	映像	美術	産デ	芸情	映像	美術	産デ	芸情	メディア・コンテンツ	メディア・コンテンツ	メディア・コンテンツ	美術	産デ	芸情	映像造形	メディア・コンテンツ
志願者	3	2	3	0	1	2	2	4	0	3	0	0	0	0	2	1	2	0	3
受験者	3	2	3	0	1	2	2	4	0	3	0	0	0	0	2	1	2	0	3
合格者	3	2	3	0	1	2	2	4	0	3	0	0	0	0	2	1	2	0	3
辞退者	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	3	2	2	0	1	2	2	4	0	3	0	0	0	0	2	1	2	0	3

事項	応募区分															
	2010年度					2011年度					2012年度			2013年度		
	造形学部			メディア・コンテンツ学部	メディア・コンテンツ学部	造形学部			メディア・コンテンツ学部	メディア・コンテンツ学部	造形芸術学部		メディア・コンテンツ学部	造形芸術学部		メディア・コンテンツ学部
	美術	産業デザイン	芸術情報	メディア・コンテンツ	メディア・コンテンツ	美術	産業デザイン	芸術情報	メディア・コンテンツ	メディア・コンテンツ	アートデザイン	メディアデザイン	メディアコンテンツ	アートデザイン	メディアデザイン	メディアコンテンツ
志願者	0	3	0	2	3	0	0	0	1	5	1	0	1	0	0	4
受験者	0	3	0	2	3	0	0	0	1	5	1	0	1	0	0	4
合格者	0	2	0	2	3	0	0	0	1	5	1	0	1	0	0	4
辞退者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0
入学者	0	2	0	1	3	0	0	0	1	4	1	0	1	0	0	4

表中 美術は美術学科、産デは産業デザイン学科、映像は映像造形学科、芸情は芸術情報学科を示す

大学院志願状況・入学選考結果一覧（1997年度～2013年度）

●修士課程 <1997年～2013年度>

年度	1997年度						1998年度						1999年度							
	基礎造形	ファッションデザイン	ビジュアルデザイン	環境デザイン	インダストリアルデザイン	合計	基礎造形	ファッションデザイン	ビジュアルデザイン	環境デザイン	インダストリアルデザイン	映像造形デザイン	合計	基礎造形	ファッションデザイン	ビジュアルデザイン	環境デザイン	インダストリアルデザイン	映像造形デザイン	合計
志願者	5	2	4	1	3	15	4	2	2	3	1	1	13	10	1	1	2	1	7	22
受験者	5	2	4	1	3	15	4	2	2	3	1	1	13	10	1	1	2	1	7	22
合格者	4	2	4	1	2	13	4	2	1	3	1	1	12	6	1	1	2	1	5	16
辞退者	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	3	2	4	1	2	12	4	2	1	3	1	1	12	6	1	1	2	1	5	16

年度	2000年度						2001年度						2002年度								
	基礎造形	ファッションデザイン	ビジュアルデザイン	環境デザイン	インダストリアルデザイン	映像造形デザイン	合計	基礎造形	ファッションデザイン	ビジュアルデザイン	環境デザイン	インダストリアルデザイン	映像造形デザイン	合計	基礎造形	ファッションデザイン	ビジュアルデザイン	環境デザイン	インダストリアルデザイン	映像造形デザイン	合計
志願者	10	3	4	2	1	3	23	11	2	2	0	0	1	16	9	5	4	1	2	4	25
受験者	10	3	4	2	1	3	23	11	2	2	0	0	1	16	9	5	4	1	2	4	25
合格者	8	3	4	2	1	3	21	11	2	2	0	0	1	16	9	5	4	1	2	4	25
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
入学者	8	3	4	2	1	3	21	10	2	2	0	0	1	15	9	4	4	1	2	4	24

年度	2003年度									2004年度								
	ビジュアルデザイン	ファッションデザイン	インダストリアルデザイン	環境デザイン	映像造形デザイン	芸術情報	基礎造形	伝統芸術	合計	ビジュアルデザイン	ファッションデザイン	インダストリアルデザイン	環境デザイン	映像造形デザイン	芸術情報	基礎造形	伝統芸術	合計
志願者	3	3	6	11	10	11	19	5	68	5	0	0	0	3	3	8	1	20
受験者	3	3	6	11	10	11	19	5	68	5	0	0	0	3	3	8	1	20
合格者	3	3	6	11	10	11	19	5	68	5	0	0	0	3	3	8	1	20
辞退者	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1
入学者	2	3	6	11	10	11	17	5	65	5	0	0	0	2	3	8	1	19

年度	2005年度									2006年度								
研究分野 項	ビジュアル デザイン	ファッ ション デザイン	インダ ストリアル デザイン	環境デ ザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計	ビジュ アルア ート & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト& イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計
志願者	1	0	0	0	3	3	4	0	11	2	0	0	0	8	4	0	1	15
受験者	1	0	0	0	3	3	4	0	11	2	0	0	0	8	4	0	1	15
合格者	1	0	0	0	3	3	4	0	11	2	0	0	0	8	4	0	1	15
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	1	0	0	0	3	3	4	0	11	2	0	0	0	8	4	0	0	15

年度	2007年度									2008年度								
研究分野 項	ビジュ アル & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト & イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計	ビジュ アル & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト & イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計
志願者	3	1	0	0	1	16	1	1	23	2	0	0	0	0	11	0	2	15
受験者	3	1	0	0	1	16	1	1	23	2	0	0	0	0	11	0	2	15
合格者	3	1	0	0	1	16	1	1	23	2	0	0	0	0	11	0	2	15
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
入学者	3	1	0	0	1	16	1	1	23	2	0	0	0	0	10	0	2	14

年度	2009年度									2010年度								
研究分野 項	ビジュ アル & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト & イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計	ビジュ アル & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト & イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計
志願者	1	0	0	0	1	4	0	0	6	1	0	1	0	4	4	0	4	14
受験者	1	0	0	0	1	4	0	0	6	1	0	1	0	4	4	0	4	14
合格者	1	0	0	0	1	4	0	0	6	1	0	1	0	4	4	0	4	14
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	1	0	0	0	1	4	0	0	6	1	0	1	0	4	4	0	4	14

年度	2011年度									2012年度									
研究分野 項	ビジュ アル & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト & イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計	ブラン ドコ ミュ ニケ ーシ ョン デザ イン	ビジュ アル アート & デザ イン	ファッ ション アート & デザ イン	プロダ クト & イン テリア デザ イン	建築& 都市 デザ イン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メデイ アコン テンツ	合計
志願者	0	0	0	0	0	2	0	3	5	0	1	0	1	0	2	0	1	1	6
受験者	0	0	0	0	0	2	0	3	5	0	1	0	1	0	2	0	1	1	6
合格者	0	0	0	0	0	2	0	3	5	0	1	0	1	0	2	0	1	1	6
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
入学者	0	0	0	0	0	2	0	3	5	0	1	0	0	0	2	0	1	1	5

年度	2013年度	
研究分野 項	造形・デザ イン専攻	メデイ ア・コ ンテン ツ専攻
志願者	2	2
受験者	2	2
合格者	2	2
辞退者	0	0
入学者	2	2

●修士課程（サテライト）2003年開学（2003年度～2010年度）

年度	2003年度 春										2003年度 秋									
研究分野	ブランド コミュニケーション	ビジュアル &アド バイジング	ファッション アート&マー ケティング	プロダクト 商品企画	環境ト ータル デザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計	ブランド コミュニケーション	ビジュアル &アド バイジング	ファッション アート&マー ケティング	プロダクト 商品企画	環境ト ータル デザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計
志願者		2	2	8	4	6	4	9	5	40	3	1	1	0	3	0	0	1	0	9
受験者		2	2	8	4	6	4	9	5	40	3	1	1	0	3	0	0	1	0	9
合格者		2	2	8	4	6	4	9	5	40	3	1	1	0	3	0	0	1	0	9
辞退者		1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者		1	2	8	4	6	4	8	5	38	3	1	1	0	3	0	0	1	0	9

年度	2004年度 春										2004年度 秋									
研究分野	ブランド コミュニケーション	ビジュアル &アド バイジング	ファッション アート&マー ケティング	プロダクト 商品企画	環境ト ータル デザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計	ブランド コミュニケーション	ビジュアル &アド バイジング	ファッション アート&マー ケティング	プロダクト 商品企画	環境ト ータル デザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計
志願者	0	1	1	0	0	1	2	4	1	10	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
受験者	0	1	1	0	0	1	2	4	1	10	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
合格者	0	1	1	0	0	1	2	4	1	10	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
辞退者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	0	0	1	0	0	1	2	4	1	9	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

年度	2005年度 春										2005年度 秋									
研究分野	ブランド コミュニケーション	ビジュアル &アド バイジング	ファッション アート&マー ケティング	プロダクト 商品企画	環境ト ータル デザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計	ブランド コミュニケーション	ビジュアル &アド バイジング	ファッション アート&マー ケティング	プロダクト 商品企画	環境ト ータル デザイン	映像 造形 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	合計
志願者	1	0	0	1	1	1	1	1	1	7	2	1	0	0	0	1	1	0	0	5
受験者	1	0	0	1	1	1	1	1	1	7	2	1	0	0	0	1	1	0	0	5
合格者	1	0	0	1	1	1	1	1	1	7	2	1	0	0	0	1	1	0	0	5
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	1	0	0	1	1	1	1	1	1	7	2	1	0	0	0	1	1	0	0	5

年度	2006年度 春										2006年度 秋									
研究分野	ブランド コミュニケーション	ビジュアル アート &アドバイ ジング	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリ アデザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計	ブランド コミュニケーション	ビジュアル アート &アドバイ ジング	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリ アデザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計
志願者	0	1	1	2	0	0	2	5	0	9	0	1	0	0	1	0	1	2	0	5
受験者	0	1	1	2	0	0	2	5	0	9	0	1	0	0	1	0	1	2	0	5
合格者	0	1	1	2	0	0	2	5	0	9	0	1	0	0	1	0	1	2	0	5
辞退者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	0	0	1	2	0	0	2	5	0	10	0	1	0	0	1	0	1	2	0	5

年度	2007年度 春										2007年度 秋									
研究分野	ブランド コミュニケーション	ビジュアル アート &アドバイ ジング	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリ アデザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計	ビジュアル アート &デザイン	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリ アデザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計	
志願者	0	1	0	1	1	0	1	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
受験者	0	1	0	1	1	0	1	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合格者	0	1	0	1	1	0	1	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
辞退者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	0	1	0	0	1	0	1	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

年度	2008年度 春										2008年度 秋									
研究分野	ビジュアル アート &デザイン	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリ アデザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計	ビジュアル アート &デザイン	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリ アデザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計		
志願者	1	0	2	2	1	1	2	2	11	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
受験者	1	0	2	2	1	1	2	2	11	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
合格者	1	0	2	2	1	1	2	2	11	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
入学者	1	1	2	2	1	1	2	2	12	1	0	0	0	0	0	0	0	1		

※2007年
秋入試受験

年度	2009年度 春									2010年度								
	ビジュアル アート &デザイン	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリア デザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計	ビジュアル アート &デザイン	ファッション アート &デザイン	プロダクト &インテリア デザイン	建築 &都市 デザイン	芸術 情報	基礎 造形	伝統 芸術	メディア・ コンテンツ	合計
志願者	1	0	0	0	1	0	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受験者	1	0	0	0	1	0	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合格者	1	0	0	0	1	0	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	1	0	0	0	1	0	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●大学院東京新宿（サテライト）〈修士課程〉2006年開学（2006年度春～2013年度）

年度	2006年度 春		2006年度 秋		2007年度 春		2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	メディア・造形		メディア・造形		メディア・造形		メディア・造形		メディア・造形		メディア・造形		メディア・造形	
	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ	造形・デザイン メディア・コンテンツ
志願者	8	11	1	0	6	4	3	6	2	7	0	10	1	22
受験者	8	11	1	0	6	4	3	6	2	7	0	10	1	22
合格者	8	11	1	0	6	4	3	6	2	7	0	10	1	22
辞退者	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0
入学者	8	10	1	0	6	4	2	6	2	6	0	9	1	22

年度	2012年度		2013年度
	メディア・造形		メディア・造形
	造形・デザイン 伝統芸術	メディア・ コンテンツ メディア・ コンテンツ	メディア・ コンテンツ
志願者	0	15	13
受験者	0	14	13
合格者	0	14	13
辞退者	0	2	1
入学者	0	12	12

●専門職大学院 2004年開学（2004年度～2010年度）

年度	2004年度 春	2004年度 秋	2005年度 春	2005年度 秋	2006年度 春	2006年度 秋	2007年度 春	2007年度 秋	2008年度 春	2008年度 秋	2009年度 春	2010年度
研究分野	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科	デザイン 経営研究科
志願者	25	5	12	4	10	5	11	3	4	2	2	0
受験者	25	5	12	4	10	5	11	3	4	2	2	0
合格者	25	5	12	4	10	5	11	3	4	2	2	0
辞退者	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
入学者	23	5	12	4	9	5	11	3	4	2	2	0

●博士課程（宝塚キャンパス）2000年開学（2000年度～2013年度）

年度	2000年度					2001年度					2002年度					2003年度				
	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	合計	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	合計	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	合計	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	合計
志願者	1	0	2	0	3	0	0	0	1	1	0	0	2	2	4	0	0	2	5	7
受験者	1	0	2	0	3	0	0	0	1	1	0	0	2	2	4	0	0	2	5	7
合格者	1	0	2	0	3	0	0	0	1	1	0	0	2	2	4	0	0	2	5	7
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	1	0	2	0	3	0	0	0	1	1	0	0	2	2	4	0	0	2	5	7

年度	2004年度					2005年度					2006年度					2007年度							
	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	合計	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計
志願者	1	1	1	2	5	0	1	1	1	3	6	0	0	0	3	3	6	0	0	1	4	2	7
受験者	1	1	1	2	5	0	1	1	1	3	6	0	0	0	3	3	6	0	0	1	4	2	7
合格者	1	1	1	2	5	0	1	1	1	3	6	0	0	0	3	3	6	0	0	1	4	2	7
辞退者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入学者	1	1	1	2	5	0	1	1	1	3	6	0	0	0	3	3	6	0	0	1	4	2	7

年度	2008年度					
研究分野 項	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計
志願者	1	0	1	2	2	6
受験者	1	0	1	2	2	6
合格者	1	0	1	2	2	6
辞退者	0	0	0	0	0	0
入学者	1	0	1	2	2	6

年度	2009年度					
研究分野 項	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計
志願者	0	0	0	1	0	1
受験者	0	0	0	1	0	1
合格者	0	0	0	1	0	1
辞退者	0	0	0	0	0	0
入学者	0	0	0	1	0	1

年度	2010年度					
研究分野 項	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計
志願者	2	0	0	0	1	3
受験者	2	0	0	0	1	3
合格者	2	0	0	0	1	3
辞退者	0	0	0	0	0	0
入学者	2	0	0	0	1	3

年度	2011年度						年度	2012年度						年度	2013年度
研究分野 項	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計	研究分野 項	情報 デザイン	環境 デザイン	ファッ ション デザイン	基礎 造形	伝統 美術	合計	研究分野 項	造形・ デザイン専攻
志願者	3	0	0	0	1	4	志願者	1	0	1	1	2	5	志願者	0
受験者	3	0	0	0	1	4	受験者	1	0	1	1	2	5	受験者	0
合格者	3	0	0	0	1	4	合格者	1	0	1	1	2	5	合格者	0
辞退者	0	0	0	0	0	0	辞退者	0	0	0	0	0	0	辞退者	0
入学者	3	0	0	0	1	4	入学者	1	0	1	1	2	5	入学者	0

●博士課程（東京新宿キャンパス）2008年開学（2008年度～2013年度）

年度	2008年度		
研究分野 項	メディア・造形	造形・デザイン	伝統芸術
志願者	3		
受験者	3		
合格者	3		
辞退者	0		
入学者	3		

年度	2009年度		
研究分野 項	メディア・造形	造形・デザイン	伝統芸術
志願者	2		
受験者	2		
合格者	2		
辞退者	0		
入学者	2		

年度	2010年度		
研究分野 項	メディア・造形	造形・デザイン	伝統芸術
志願者	1		
受験者	1		
合格者	1		
辞退者	0		
入学者	1		

年度	2011年度	
研究分野 項	伝統芸術	
志願者	1	
受験者	1	
合格者	1	
辞退者	0	
入学者	1	

年度	2012年度	
研究分野 項	伝統芸術	
志願者	0	
受験者	0	
合格者	0	
辞退者	0	
入学者	0	

年度	2013年度
研究分野 項	伝統芸術
志願者	0
受験者	0
合格者	0
辞退者	0
入学者	0

●学生在籍者数（平成25年5月1日現在）

区分	学 部		1年	2年	3年	4年	小計	
宝塚	造形芸術	制作力	40				40	
		想像力	33				33	
		アート・デザイン		37	39	68	144	
		メディア・デザイン		31	43	62	136	
		計	73	68	82	130	353	
	造 形	美 術					1	1
		産業デザイン					11	11
		芸術情報					3	3
		計					15	15
	メディア・コンテンツ	映像造形					2	2
		メディア・コンテンツ					15	15
	計					17	17	
	宝塚 小計		73	68	82	162	385	
梅田	看護	看護	118	126	118	114	476	
東京	東京メディア・コンテンツ	メディア・コンテンツ	70	83	92	138	383	
	学 部 計		261	277	292	414	1244	
修士	宝塚	造形・デザイン	2	4			6	
		メディア・コンテンツ	2	1			3	
		宝塚 修士計	4	5			9	
	東京	造形・デザイン	0	1			1	
		メディア・コンテンツ	12	13			25	
		東京 修士計	12	14			26	
	修士内訳	造形・デザイン	2	5			7	
		メディア・コンテンツ	14	14			28	
	修士 総計	16	19			35		
博士	宝塚	造形・デザイン	0	6	3		9	
		メディア・コンテンツ	0	0	0		0	
		宝塚 博士計	0	6	3		9	
	東京	造形・デザイン	0	0	1		1	
		メディア・コンテンツ	0	0	0		0	
		東京 博士計	0	0	1		1	
	博士内訳	造形・デザイン	0	6	4		10	
		メディア・コンテンツ	0	0	0		0	
	博士 総計	0	6	4		10		
	大学院 計	16	25	4		45		
	総 計	277	302	296	414	1289		

14-3 年度別卒業生並びに修了者数

1. 学部 昭和62年 設置

卒業年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
美術学科	31	38	34	28	48	51	47	55	46	47	53	54	50	48	36	43	46
産業デザイン学科	87	96	86	98	136	138	146	153	147	153	141	162	161	143	155	176	166
映像造形学科	—	—	—	—	—	—	—	—	57	63	59	69	71	53	98	106	163
芸術情報学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	77	48	45	54	32
総計	118	134	120	126	184	189	193	208	250	263	253	285	359	292	334	379	407
累計	118	252	372	498	682	871	1,064	1,272	1,522	1,785	2,038	2,323	2,682	2,974	3,308	3,687	4,094

卒業年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	累計
造形学部							
美術学科	48	31	35	36	16		921
産業デザイン学科	213	156	145	152	87	1	3098
映像造形学科	93						832
芸術情報学科	55	38	31	38	30		448
メディア・コンテンツ学部							
映像造形学科		236	224	169	2		631
メディア・コンテンツ学科						2	2
コンテンツ・プロデュース学科		3	4	3			10
造形芸術学部							
アート・デザイン学科						64	64
メディア・デザイン学科						53	53
東京メディア・コンテンツ学部							
メディア・コンテンツ学科				145	136	120	401
看護学部							
看護学科						97	97
総計	409	464	438	543	271	337	6557
累計	4,530	4,967	5,406	5,949	6,220	6,557	

2. 大学院修士課程 平成5年 設置

修了年度	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
修了者数	8	10	4	11	12	12	16	21	14	22

修了年度	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	累計
修了者数	49	32	21	42	42	30	18	20	28	16	428

3. 大学院博士課程（後期）平成12年 設置 学位取得者氏名

課 程 博 士								
修了年度	取得者数	氏 名	修了年度	取得者数	氏 名	修了年度	取得者数	氏 名
平成14年	1	川 中 美津子	平成17年	5	鈴 木 榮 子	平成19年	3	栗 本 幸 枝
平成15年	2	渡 邊 哲 意			梅 澤 篤之介			阪 本 義 輝
		飯 島 照 仁			川 澄 博 子			宮 後 浩
平成16年	1	中 澤 祐 子			密 冬 宝	平成20年	4	岡 本 文 音
		関 根 秀 治			宮 武 恵 子			布 埜 千加子
			平成18年	1	大 川 勲	平成21年	2	嶋 本 浩 子
								山 岸 恒 雄

課 程 博 士								
修了年度	取得者数	氏 名	修了年度	取得者数	氏 名	修了年度	取得者数	氏 名
平成22年	2	久 保 田 義 一	平成23年	4	杉 谷 朱 美	平成24年	1	桑 原 典 子
		岩 田 明 子			向 山 裕 子	平成25年	3	李 宏 偉
	山 本 豊	岸 本 真理子						
	中 村 静 子	朴 珉 延						

論 文 博 士		
取得年度	取得者数	氏 名
平成15年	1	崎 田 喜美枝
平成16年	1	谷 晃
累 計	2	

4. 大学院専門職学位課程 平成16年 設置

修了年度	員 数
平成18年	19
平成19年	15
平成20年	15
平成21年	11
平成22年	3
平成23年	2
累 計	65

14-4 入学前教育の実施

入学予定者に対し、スムーズな大学生活への移行と、不安や疑問の解消を目的とし、また勉学の継続と、モチベーションの向上を目的とした入学前教育をキャンパスごとに行っている。

（具体例）

- 教員による講演・講座
- 在校生と卒業生による「トークセッション」
- ワークショップによるアート作品制作
- テーマに基づくレポート制作（添削指導を含む）
- 教員によるパネルディスカッション
- 教員による制作指導演習
- 事前課題提出（入学前教育時に持参後、講評）

など。

「2013年度 新入生プログラム」実施報告書

目 的：

離学（退学）者問題やキャリア教育の観点から、近年大学では「初年次教育」が重要視されている。2年次以降に退学する学生も、ほとんどの学生が1年次のときに問題を抱え始めており、入学後に問題なく交友関係を築けるか、教育においても1年次のあいだに学生に学びの姿勢を築かせることができるか、自己啓発を意識させることができるか、主体性を持たせることができるか、が大学4年間での学生の成長に大きく影響を与える。

これらを極めて重要な課題であると捉え、本プログラムは各種ガイダンス・入学式の前に実施するとともに、宝塚大学の“キャリア教育の導入”として位置づけ、マナー教育やグループワークを効果的に取り入れ、人間基礎力及び社会人基礎力を養うためのプログラムとして実施した。

プログラムⅠ：自己の探求プログラム

実施日： 2013年4月1日（月）

時 間： 9：30～17：45

場 所： 宝塚キャンパス 531・631教室

出席数： 71名（欠席者2名）

講 師： （株）ラーニングバリュー：川崎氏、小和田氏

内 容： 自己の探求プログラム～自己理解を深める体験により、学生が自ら動き出す～

「自己の探求」は、自己理解を深める、体験学習型の研修プログラムである。このプログラムでは、各自が、ありのままの自分を周囲に開示することから始まる。無意識のうちに隠していた自分を開き、他者からフィードバックを受けることで、「まだ知らずにいた自分」に気づくことができる。それは隠しておきたい部分が減ることであり、自分に自信を持つことに繋がる。そして自分と同様に他者も認め、お互いを受け入れることができるようになる、自己理解を促進することが、他者理解・相互理解へと繋がっていく・・・それが「自己の探求」である。

プログラムⅡ：野外プログラム（バーベキューおよびワークショップ）

実施日： 2013年4月2日（火）

時 間： 9：30～16：40

場 所： 妙見の森バーベキューテラス

出席数： 66名（欠席者7名）

講 師： （ワークショップ）水上 雅章 准教授

内 容： バーベキュー（初日のグループを活かす）

ワークショップ「80人でひとつの作品を描く」

昨年度からの改善点：

- 昨年は事務局学生課から企画提案したプログラムであったが、2013年度は教務委員会主催のイベントとして企画提案された。
- 昨年は自己の探求プログラムを2日間実施したが、2013年度は自己の探求プログラムを初日のみとし、2日目は野外プログラムとしてバーベキューおよびワークショップを行い、より芸大らしいプログラム内容へと改善した。
- 昨年は学科で部屋を分けたため、両学科間の交流をはかることができなかったが、2013年度は学科混合で行い、学科を超えた学生交流を実現した。
- 昨年は学生グループと教員グループとで別々におこなったが、2013年度は学生グループに若手教職員を各グループに1名ずつ置き、学生と教員の交流をはかった。

東京メディア・コンテンツ学部

AO及び指定校入学選考等で合格した次年度入学予定者を対象に、入学前に行っておくべき学習準備、入学予定者との交流、また自らのモチベーションを維持し、入学までの期間を有意義なものとする機会として、「プレセミナー」または「新入学生懇親会」をキャンパス内で実施している。

入学予定者は本学の学びの中身に魅力を感じ、学ぶ意欲をかきたてられたからこそ、本学を選んだのであり、入学前教育は東京メディア・コンテンツ学部の特徴を活かすことを念頭に行っている。平成23年度は、主にモチベーションの維持・向上と、入学予定者が在校生と交流することによりスムーズに大学生活へ移行できるよう「新入学生懇親会」を開催した。

□実施年月日

平成20年入学生対象	「プレセミナー」	：	平成19年12月22日（土）
平成21年入学生対象	「プレセミナー」	：	平成20年12月20日（土）
平成22年入学生対象	「プレセミナー」	：	平成21年12月19日（土）
平成23年入学生対象	「新入学生懇親会」	：	平成23年 3月 6日（日）
平成24年入学生対象	「プレセミナー」	：	平成23年12月17日（土）
平成25年入学生対象	「プレセミナー」	：	平成24年 2月17日（日）

□プレセミナー

入学予定者には、事前に課題内容を記した書類を送付する。課題の内容は、入学するマンガ・アニメーション・ゲーム・イラストレーション・映画の各コースの専任教員が独自に作成したもので、課題提出期限を、スクーリングを行う「プレセミナー」当日までとしている。

「プレセミナー」は各コース担当教員が、入学予定者が持参した課題の講評と指導を主に行っている。また、プレセミナー終了の際には、2月末まで提出の課題を新たに課し、モチベーションの維持およびスキルアップを図っている。この課題は、入学時のオリエンテーションの際、教員の講評を付けて返却している。また、平成24年度入学生対象プレセミナーでは、初の試みとして「ココカラ始める私のミライ」と題して在学生と卒業生によるトークセッションを「プレセミナー」の前に実施。好評だった。

平成24年入学生対象 「プレセミナー」

コース	内 容
イラストレーション	デッサン等2種類
マンガ	「3週間のペン・トレーニング」
ゲーム	基礎デッサン。7つの課題
アニメーション	2点透視図法による描画。

□参加人数

平成20年「プレセミナー」	80名
平成21年「プレセミナー」	88名
平成22年「プレセミナー」	84名
平成23年「新入学生懇親会」	70名
平成24年「プレセミナー」	58名
平成25年「プレセミナー」	58名

15. 図書館

15-1 施設の実態

施設（平成26年2月28日現在）									
総面積 (㎡)	用途別面積						合計 (㎡)	閲覧座席数 総閲覧 座席数	書架収容能力 収容可能 冊数
	サービススペース (㎡)			管理スペース (㎡)					
	閲覧	視聴覚	情報端末 その他	書庫	事務	その他			
宝塚	715.0	64.0	102.0	85.0	125.0	205.0	1,296.0	266	57,205
梅田	279.0	4.0	8.0	3.0	15.0	7.0	316.0	90	11,194
新宿	243.0	5.0	2.0	60.0	13.0	0.0	323.0	48	8,333
合計	1,237.0	73.0	112.0	148.0	153.0	212.0	1,935.0	404	76,732

15-2 図書、雑誌

蔵書数（平成26年2月28日現在）											
	図書					雑誌			電子ジャーナル		
	全所蔵書数	和書	和書(開架)	洋書	洋書(開架)	全所蔵書数	和雑誌	洋雑誌	全所蔵書数	日本語	外国語
宝塚	61,207	48,187	36,139	13,020	10,407	194種	150種	44種	0	0	0
梅田	13,609	12,336	11,992	1,273	1,272	72種	65種	7種	10	4	6
新宿	16,581	15,355	14,596	1,226	1,010	26種	24種	2種	0	0	0
合計	91,397	75,878	62,727	15,519	12,689	292種	239種	53種	10	4	6

視聴覚資料

視聴覚資料・機器数（平成26年2月28日現在）						
各キャンパス	マイクロ フィルム	カセットテープ	ビデオテープ	CD・LD・DVD・ DVD-ROM レコード	スライド	合計
宝塚		1	56	1604	3992	10
梅田		0	0	57	466	0
新宿		0	0	18	1965	0
合計		1	56	1679	6423	10

15-3 利用状況

平成25年度図書館利用状況													
区分/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入館者数宝塚	2,189	2,173	2,158	2,496	545	904	1,973	1,861	1,557	1,670	861	314	18,701
入館者数梅田	3,342	3,801	3,689	5,376	2,895	2,794	3,689	4,135	2,974	3,265	2,888	1,810	40,658
貸出冊数・宝塚	282	306	256	272	152	114	239	276	327	203	157	210	2,794
貸出冊数・梅田	359	658	512	508	412	379	649	544	361	480	321	196	5,379
貸出冊数・新宿	156	142	90	90	90	90	124	185	168	126	64	14	1,339
全館貸出合計	797	1,106	858	870	654	583	1,012	1,005	856	809	542	420	9,512

※新宿はカウンターが設置されていないため、来館者数は除外している

開館時間

各キャンパス	(開館時間 平成25年度)			
	平日	土曜	長期休業期間中	看護実習期間中
宝塚	9:00~17:00	9:00~17:00	9:00~17:00	
梅田	9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~16:45	9:00~20:00
新宿	9:00~20:00		9:00~19:00	

15-4 蔵書・資料の今後の収集方針

各キャンパス	今後の収集方針
宝塚	教員選書 授業において必要となる図書もしくは視聴覚資料 学生に薦めるべき図書もしくは視聴覚資料 研究において必要と思われる図書もしくは視聴覚資料 の観点から選書、収集 学生選書 学生選書委員会が用意したリストからガイダンス時に学生全員による投票によつて学生が本当に必要としている資料を選書、収集
梅田	看護師・保健師国家試験に関する最新資料の収集。 看護・医療分野の資料を中心に、各看護領域別の推薦図書の収集。 芸術と医療・看護・介護をテーマとした分野に関する資料の収集。 看護・医療・介護分野の電子ジャーナル・データベースの充実。
新宿	メディア芸術に関する資料の収集。 メディア芸術関連の技法書・周辺分野資料の収集。 各教員の専門分野に関する資料の推薦アンケートの実施。 学生による資料リクエストや学生選書活動の実施。 学生生活サポート資料の収集。

図書委員会・選書委員会の活動

各キャンパス	委員会の活動
宝塚	・毎月1回(除・8月)定期的に図書紀要展示委員会を開催 所掌事項 A:各研究室、教員個人、学生からリストアップされた図書館資料の選定 B:図書館利用に関する事項 C:図書館の運営上必要な規定や基準 D:その他図書館の運営上必要な事項 E:1508事務室、自習室など他部署との協議が必要な事項 各研究室が必要とする資料を計画的に購入することが出来た。
梅田	・毎月1回定期的に「図書委員会」を開催 所掌事項 A:図書館資料のリストアップ B:図書館利用に関する事項 C:図書館の運営上必要な規定や基準 D:その他図書館の運営上必要な事項 各領域別の希望図書をリストアップし、計画的に、購入することができた。
新宿	・毎月1回定期的に「選書委員会」を開催 図書館利用に関する事項 図書館に備えるべき資料についての議論(収集方針の決定) 教員推薦図書アンケートの実施 学生選書活動の実施 学生リクエスト資料購入可否判断

16. 学生の活動

16-1 クラブと活動状況

平成25年3月現在のクラブ活動状況を以下に表示した。

宝塚キャンパス

[体育会]

クラブ名	メンバー数	顧問教官	代表者
バスケットボール部	18	高橋 准教授	宮本周 岳
硬式テニス部	5	高橋 准教授	椿 優希
パフォーマンスサークル／『Ding Dong Ditch』	8	炭釜 教授	三好天馬
バレーボールサークル／『大魂』	8	大河 教授	三羽 桃子

[文化会]

クラブ名	メンバー数	顧問教官	代表者
学生サポート委員会	14	山口 准教授	近澤 悠子
漫画・アニメ研究会／『G*As』	14	神澤 助教	射場 千紘
軽音楽部	49	松野 助教	松浦 良明
演劇部／役者工場『伝染柱』	5	高橋 准教授	田中大 智
ゲーム制作サークル／『一騎聖』	14	山口 准教授	桑原 勇介
アートイベントサークル／『Ciao (チャオ)』	15	岡田 助教	堀野 晶子
現代視覚文化研究サークル／『げんしけん』	21	長久保 講師	楠戸 尚子
放送サークル／『AHS Lab.』	10	吉村 教授	黒木 さやか
フリーペーパー制作サークル／『芸B』	8	植松 講師	竹田 桃世
手芸サークル／『フェアリー』	9	岡田 助教	榊原 智美
似顔絵サークル／『こじゃんと』	7	田村 助教	田中 沙紀
美術芸術活動同好会／『Pastell Palet』	15	大河 教授	竹田 峻
映像制作サークル(同好会)	22	沼田 講師	大川 嵩史
TAP(写真同好会)	5	吉川 教授	八木 慎二郎
芸術創作活動サークル(同好会)	6	葛佐 講師	大西 太陽
イラストサークル(同好会)	15	大河 教授	山路 千帆

大阪梅田キャンパス

[体育会]

クラブ名	メンバー数	顧問教官	代表者
バスケットサークル『T.B.C.C』	24	澤田 京子先生	大上 晃生
マリンスポーツサークル『Ocean Tribe』	52	野島 敬祐先生	西田 貴博
フットサルサークル『蹴猿』	30	米倉 摩弥先生	川島 伊織
バレーボールサークル	12	藤原 正恵先生	川島 伊織
フィッシングサークル	10	米倉 摩弥先生	丸本 亮介

[文化会]

クラブ名	メンバー数	顧問教官	代表者
茶道サークル	13	飯島 照仁先生	松下 美子
フラワーセラピーサークル	15	小林 秀加先生	中島 千英子
勉強サークル『宝塚看護勉強団』	7	河合 洋子先生	綾井 貴士
ESSサークル(English Speake Society)	7	藤木 隆義先生	井川 真梨子
ボランティアサークル『宝塚大学コミュニティ支援隊』	5	人見 裕江先生	田中 俊行

東京新宿キャンパス

クラブ名	メンバー数	顧問教官	代表者
軽音楽部	30	渡邊 准教授	長岡 友
イラスト・コミック研究会	14	芦谷 講師	高橋 良寛
コスプレサークル	25	-	田口 美希
まっちゃんぶ	5	岩田 講師	久木元 湧也

16-2 公募展受賞

公募展等各種のコンペティションへの応募が以下に示すように極めて活発で入選・受賞者が多い。また、個展あるいはグループ展がかなり頻度高く自発的に計画開催されている。

学生による公募展等への応募作品入賞状況（2010年2月～）

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名
2010	2	2009年ミオ写真奨励賞	天王寺ターミナルビル株式会社	写真3年	蓬莱かおり 優秀賞
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	3	第45回日春展	日展日本画部	写真4年	田中 健作 入選
〃	〃	〃	〃	城戸 啓吾 〃	
〃	〃	〃	〃	志垣 玲奈 〃	
〃	4	第60回モダンアート展	モダンアート協会／仙台メディアテーク	修士修了	山縣 武 協会賞・損保ジャパン美術財団奨励賞
〃	〃	第7回西脇市サムホール大賞展	西脇市／岡之山美術館	洋画卒	王 美華 片岸昭二賞
〃	〃	第84回国展	国画会／国立新美術館	修士2年	堀 拓馬 彫刻部奨励賞
〃	〃	〃	〃	彫刻卒	西村 大喜 入賞
〃	〃	レゴブロック王選手権	テレビ東京	VA卒	大澤よしひろ 優勝
〃	5	第63回関西新制作展	新制作／兵庫県立美術館原田の森ギャラリー	洋画4年	岡田 香織 入選
〃	〃	〃	〃	〃	垣内 典子 〃
〃	〃	〃	〃	〃	京極 正範 〃
〃	〃	〃	〃	〃	川口 祥大 〃
〃	〃	〃	〃	〃	澁川 元気 〃
〃	〃	〃	〃	〃	中 将平 〃
〃	〃	〃	〃	〃	山本 良子 〃
〃	〃	〃	〃	洋画3年	前原 涼輔 〃
〃	〃	〃	〃	洋画2年	藤元菜那子 〃
〃	〃	〃	〃	〃	釘宮 慶 〃
〃	〃	〃	〃	〃	妹尾 美里 〃
〃	〃	〃	〃	洋画卒	林 恭子 〃
〃	〃	〃	〃	〃	古川 光優 〃
〃	〃	〃	〃	修士修了	谷岡 祐佳 〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	洋画卒	藤岡 正浩 〃
〃	〃	第63回全関西行動美術展	行動美術協会／大阪市立美術館	修士修了	新谷友佳子 大西賞 翌年度無鑑査
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	洋画3年	中井 祥子 入選
〃	〃	〃	〃	洋画卒	二見 正大 〃
〃	〃	第60回西宮市展	西宮市／西宮市立市民ギャラリー	写真卒修2年	田中 健作 西宮市若手奨励賞
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	修士修了	山縣 武 市長賞
〃	〃	〃	〃	洋画4年	川口 祥大 西宮市若手奨励賞
〃	〃	〃	〃	〃	立見 祐一 佳作
〃	〃	〃	〃	〃	京極 正範 入選
〃	〃	〃	〃	洋画3年	秦 弘明 〃
〃	〃	〃	〃	日本画4年	志垣 玲奈 西宮市若手奨励賞
〃	〃	〃	〃	日本画3年	山田 愛 入選
〃	〃	〃	〃	修士2年	池尻 篤志 西宮市教育委員会賞
〃	〃	JPPA AWARDS学生部門ドラマ部門	社団法人日本ポストプロダクション協会	映画卒	山本 聖 審査員奨励賞
〃	6	第1回コミックアートコンペディション	大阪梅田HEPホール	イラスト4年	高山 茜 ワコム賞
〃	7	第60回モダンアート展（京都展のみ）	モダンアート協会／京都市美術館	博士課程2年	一羽惇 入選
〃	〃	〃	〃	洋画4年	京極 正範 〃
〃	〃	〃	〃	洋画3年	中島 彰良 〃
〃	〃	「シネドライブ2010」	シネ・ヌーヴォX、PLANET+1	映画卒	宮川幸大 劇場公開
〃	〃	「第8回横濱映画祭2009」『今日の家族』	横濱映画祭	映画4年	上野 真虎 上映
〃	〃	第8回Made In Osaka CM Award	サントリー	〃	金子 友美 テレビCM優秀賞
〃	〃	『お袋さん』、夕張国際学生映画祭	夕張国際学生映画祭	〃	山本 聖 ノミネート
〃	〃	『妙子まで八メートル』、第3回広島映画祭	広島映画祭	〃	〃 入賞
〃	〃	第56回全関西美術展	大阪市立美術館	修士修了	田中 達也 全関西美術賞

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名
2010	7 第56回全関西美術展	大阪市立美術館	修士1年	城戸 啓吾	入選
〃	〃	〃	〃	中川 真一	〃
〃	〃	〃	日本画卒	今邨阿佐美	〃
〃	〃	〃	〃	塩野麻衣子	〃
〃	〃	〃	日本画4年	志垣 玲奈	〃
〃	〃	〃	修士2年	池尻 篤志	青光社賞
〃	〃	加古川総合文化センター	日本画3年	山田 愛	入選
〃	8 第48回2010兵庫県展	兵庫県立美術館原田の森ギャラリー	写真卒修2年	田中 健作	写真部門・兵庫県芸術文化協会賞
〃	〃	〃	洋画4年	川口 祥大	入選
〃	〃	〃	〃	立見 祐一	〃
〃	〃	〃	洋画3年	中島 彰	〃
〃	〃	〃	洋画2年	高田 寛久	〃
〃	〃	KDK京都服飾デザイナー協会/京都新聞社文化ホール	ファッション1年	堀江 遥	入賞
〃	〃	〃	〃	則岡 那美	佳作
〃	〃	〃	〃	木村 朱里	〃
〃	〃	京都市立美術館	彫刻卒	西村 大喜	関西国画賞
〃	〃	スクウェア・エニックス「月刊Gファンタジー」	東京マンガアニメ4年	和田 浩子	奨励賞
〃	〃	講談社	東京マンガ3年	清水 詩帆	佳作
〃	〃	小学館「少年サンデー」	東京マンガ4年	黒郷ほとり	グランプリ
〃	9 「姉小路界隈のシンボルマーク」	京都景観まちづくり・学生コンペ	プロダクト2年	福田 竜也	佳作
〃	〃	〃	〃	福田 竜也	佳作・朝日新聞社賞
〃	〃	日本デザイン文化協会大阪支部/NHK大阪ホール	ファッション3年	中尾 有希	優秀賞
〃	〃	〃	〃	木曾 彩乃	佳作
〃	〃	〃	ファッション4年	藤井 絵理	〃
〃	〃	〃	〃	高橋みのり	〃
〃	〃	日本デザイン文化協会大阪支部/NHK大阪ホール	〃	原田 美喜	織研新聞社賞
〃	〃	〃	ファッション1年	村田有佐未	佳作
〃	〃	〃	〃	中田 弓子	〃
〃	〃	〃	ファッション2年	岡崎 雄飛	〃
〃	〃	〃	〃	王 瀾舒	〃
〃	〃	〃	〃	都築 紗希	〃
〃	〃	〃	〃	清水 雄介	〃
〃	〃	〃	〃	綾戸 香奈	〃
〃	〃	〃	〃	細貝実花子	〃
〃	〃	〃	ファッション3年	酒谷 真奈	〃
〃	〃	〃	〃	藤田 恵理	〃
〃	〃	〃	〃	山口 司	〃
〃	〃	新制作/国立新美術館	洋画卒	多養 麻子	入選
〃	〃	〃	〃	今崎 順生	〃
〃	〃	〃	修士修了	大原 陽子	〃
〃	〃	〃	洋画卒	藤岡 正浩	〃
〃	〃	〃	洋画4年	川口 祥大	〃
〃	〃	〃	〃	澁川 元気	〃
〃	〃	〃	彫刻卒	田中 和之	〃
〃	〃	行動美術協会/国立新美術館	修士修了	新谷友佳子	会友推挙
〃	〃	猪名川町立文化体育館	日本画4年	松井 優美	観光協会長賞
〃	10 福井ファッショングランプリ2010	テキスタイル福井協議会/福井県民ホール	ファッション3年	中尾 有希	入選

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名
2010	10 第42回日展	日展/国立新美術館	修士修了	田中 達也	入選
〃	〃	〃	修士1年	中川 真一	〃
〃	〃	〃	修士1年	城戸 啓吾	〃
〃	〃 WE3ビエンナーレ展	〃	イラスト2年	山崎 歩	〃
〃	〃 7月期マンガグランプリ	講談社	マンガ2年	黒河 佑弥	奨励賞
〃	〃 少年サンデー8月期 まんがカレッジ	小学館	マンガ卒	中島 決	努力賞
〃	11 第45回伊丹市展	伊丹市/社会中央公民館	日本画4年	志垣 玲奈	伊丹賞
〃	〃	〃	〃	松井 優美	教育長賞
〃	〃	〃	日本画3年	山田 愛	入選
〃	〃 京都国際学生映画祭	大学コンソーシアム京都	映画卒	山本 聖	審査員奨励賞
〃	12 『天空のエリュシオン』 キャラクターデザインコンテスト	株式会社ユビキタスエンターテインメント	東京マンガ4年	遠藤 香織	特別賞
〃	〃	〃	東京アニメ4年	三宅絵美子	〃
〃	〃 日本タイポグラフィ年鑑 学生部門	日本タイポグラフィ協会	VD&A4年	村上 翔悟	入選
〃	〃	〃	VD&A3年	前田 裕貴	〃
〃	〃	〃	〃	向後 史朗	〃
〃	〃	〃	〃	木村 亮	〃
2011	2 第19回川西市展	川西市中央公民館・文化会館	写真卒修2年	田中 健作	現代美術部門第三席
〃	〃	〃	ビジュアル院修了	岩田 綾	現代美術部門第二席
〃	〃 第20回GET THE SUN 新人賞	小学館コミック	東京マンガ4年	斉藤 ゆう	ゲッサン新人賞佳作
〃	〃	〃	マンガ4年	五百森祐馬	〃
〃	〃 手づくり絵本コンクール	兵庫県立こどもの館	VD&A3年	山崎 知美	毎日新聞社賞
〃	〃 第12回Supreme Comic大賞	Supreme Comic	マンガ3年	渡部 友紀	最終候補作賞
〃	3 第46回日春展	日展日本画部	修士2年	池尻 篤志	入選
〃	〃	〃	修士1年	中川 真一	〃
〃	〃	〃	〃	城戸 啓吾	〃
〃	〃	〃	日本画4年	志垣 玲奈	〃
〃	〃	〃	日本画卒	塩野麻衣子	〃
〃	〃 第5回奈良県万葉日本画大賞展	奈良県立万葉文化館	修士1年	中川 真一	〃
〃	5 第15回JPPA AWARDS 2011	〃	メディア・コンテツツ4年	佐藤 潤	カテゴリー2部門ゴールド賞
〃	6 尼崎商工会議所100周年記念ポスターコンペ	尼崎商工会議所	ビジュアルデザイン&アドバタイジング4年	木村 亮	最優秀賞・採用
〃	〃	〃	〃	常葉 葵	採用
〃	〃	〃	ビジュアルデザイン&アドバタイジング3年	中岩 結加	〃
〃	〃	〃	ビジュアルデザイン&アドバタイジング卒	三浦 万知	〃
〃	〃 宝塚記念GIグランプリ	JRA	ビジュアルデザイン&アドバタイジング3年	木村 亮	採用
〃	8 第2回神戸ファッションリメイクコンテスト	神戸ファッションウィーク推進協議会	デザイン領域1年	前羽 らみ	入選
〃	〃	〃	〃	西川 知江	〃
〃	〃 第1回Gカップ 新・ギャグマンガ賞	週刊少年ジャンプ	マンガ3年	南 貴大	Dカップ(優秀作)
〃	9 阪急今津線ええはがきコンテスト	阪急電鉄株式会社、共催：阪急阪神ホールディングス株式会社	写真コース2年	河内谷混介	学生優秀賞
〃	〃 第75回記念新制作展	新制作協会	洋画3年	窪田 沙織	入選・絵画部
〃	〃	〃	洋画4年	中井 祥子	〃
〃	〃	〃	〃	中島 彰良	〃
〃	〃	〃	卒業生	藤岡 正浩	入選
〃	〃	〃	〃	今崎 順生	〃
〃	〃	〃	〃	田中 和之	〃
〃	〃 第68回NDKファッションデザインコンテスト	日本デザイン文化協会大阪支部/NHK大阪ホール	ファッション3年	細具実花子	佳作
〃	〃	〃	〃	岡崎 雄飛	〃
〃	〃	〃	デザイン領域1年	西川 知江	〃

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名
2011	9	第14回NDKヤングダイナミックシ ーンコンテスト	日本デザイン文化協会大 阪支部/NHK大阪ホール	ファッション3年 清水 雄介	大阪府知事賞
〃	〃	〃	〃	ファッション4年 中尾 有希	奨励賞
〃	〃	〃	〃	〃 木曾 彩乃	努力賞
〃	〃	〃	〃	ファッション3年 綾戸 香奈	努力賞
〃	〃	〃	〃	〃 王 瀾舒	佳作
〃	〃	〃	〃	ファッション2年 尾方ゆかり	〃
〃	〃	〃	〃	〃 木村 朱里	〃
〃	〃	〃	〃	ビジュアルデザイン& アドタイピング3年 北野 博也	佳作
〃	〃	〃	〃	〃 楠見 知佳	佳作
〃	〃	〃	〃	〃 城戸 啓吾	入選
〃	〃	〃	〃	〃 橋田 真季	〃
〃	〃	〃	〃	〃 中川 真一	〃
〃	〃	〃	〃	〃 田中 達也	〃
〃	〃	〃	〃	〃 志垣 玲奈	〃
〃	〃	〃	〃	日本画卒	〃
2011	10	MADE IN OSAKA CM AWARDS2011	(社)大阪広告協会、CM合同研究 会、協賛:(社)日本アド・コンテ ンツ制作社連盟(JAC) 関西支部、 協力:(社)関西スポンサー協会・ 株式会社IMAGICAウエスト	アニメーション 大山 繭	テレビCM優秀賞
〃	〃	第1回カワイイアート☆オーデイシ ョン	(株)アートプリントジャパン	イラスト3年 富田 千尋	審査員特別賞(美術手帳 賞)
〃	〃	ロックマンアワード2011動画部門	経済産業省、(財)デジタルコンテ ンツ協会	ゲーム3年 江幡 直之	準優秀作品
〃	〃	月刊アフタヌーン2011年秋のコンテ スト	講談社	〃 悠木 灯(ゆうきとも) 本名 上村さん	佳作
〃	〃	メディア・コンテンツ大賞2011	毎日新聞 宝塚大学	イラスト 織田夕加里	松本零士賞
〃	〃	〃	〃	〃 寺田 美紀	毎日新聞社賞
〃	〃	〃	〃	マンガ3年 北山 亜希	最優秀賞
〃	〃	〃	〃	新宿 林 楓	〃
〃	〃	〃	〃	イラスト 中田 紗樹	〃
〃	〃	〃	〃	マンガ3年 出口 啓	奨励賞
〃	〃	〃	〃	アート・デザイ ン1年 吉原 冬織	佳作
〃	〃	〃	〃	新宿 清水 葵	〃
〃	〃	〃	〃	イラスト 本田 翔馬	〃
2011	11	JCF学生映画祭コンペティションプロ グラム、〈学生アニメアワード部門〉 第11回福知山市佐藤太清賞、公募美 術展日本画部	JCF学生映画祭実行委員会、 企画制作・株式会社JCF 京都府福知山市、福知山 市佐藤太清記念美術館	芸術情報卒 井上 有希	グランプリ
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	日本画院2年 中川 真一	入選
〃	〃	〃	〃	〃 橋田 真季	〃
〃	〃	〃	〃	美術専攻2年 小田さくら	優秀賞
〃	〃	〃	〃	〃 河野 遥夏	奨励賞
2012	1	第55回宝塚市展(1/27-31)写真部 門	〃	写真専攻2年 原田 雄介	優秀賞
〃	3	羊パレット実行委員 会	羊パレット実行委員 会	ファッション2年 木村 朱里	出展
〃	〃	第85回国展(国画会彫刻部)	国画会	〃 高田 治	損保ジャパン美術財団奨 励賞
〃	〃	〃	〃	〃 安川 弘造	会員推挙
〃	〃	〃	〃	〃 辰巳 忠良	〃
〃	〃	〃	〃	卒業生 西村 大喜	国画賞・準会員推薦
〃	〃	〃	〃	〃 前原 涼輔	入選
〃	〃	〃	〃	〃 桑名 汰輝	〃
〃	〃	〃	〃	アートセラピー3 年 大城 弥久	〃
〃	〃	〃	〃	〃 鷹野 絵里	〃
〃	〃	〃	〃	〃 修了 大原 陽子	〃
〃	〃	〃	〃	〃 修了 下倉 剛史	〃
〃	〃	〃	〃	〃 修了 山岸 恒雄	〃
〃	〃	〃	〃	〃 修了 北浦 直美	〃
〃	〃	〃	〃	〃 卒業生	〃

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名	
2012	3	第64回関西新制作展	関西新制作研究会	卒業生	林 恭子	入選
		第61回モダンアート展	モダンアート協会	洋画4年	中島 彰良	〃
		〃	〃	洋画3年	阿部 れい	〃
		〃	〃	博士	一羽 惇	〃
		第57回全関西美術展	大阪市立美術館 読 売新聞大阪本社	洋画4年	中島 彰良	入選（洋画部門）
		〃	〃	卒業生	志垣 玲奈	入選（日本画部門）
		第61回西宮市展	益財団法人西宮市文 化振興財団	洋画3年	前原 涼輔	西宮芸術文化協会賞
		〃	〃	洋画4年	秦 弘明	西宮市展若手奨励賞
		第22回臥龍桜日本画大賞展	岐阜県高山市	修士2年	中川 真一	奨励賞
		第64回全関西行動美術展	行動美術協会（関西・ 中国四国・山陰事務所）	修士修了	新谷友佳子	会友出品
		第46回関西国展	〃	彫刻3年	吉田 和真	入選
		〃	〃	彫刻4年	入江 慎吾	新人賞
		〃	〃	大学院修了	櫛下町祥吾	関西国画賞
		〃	〃	〃	高田 治	準会員出品
		〃	〃	卒業生	西村 大喜	〃
		第66回行動展	行動美術協会	修士修了	新谷友佳子	会友出品
2012	5	第86回国展（国画会彫刻部）	国画会	卒業生	堀 拓馬	入選
〃	〃	〃	〃	〃	櫛下町祥吾	〃
〃	7	第58回全関西美術展	大阪市立美術館、読 売新聞社	〃	橋田 真季	〃
〃	〃	〃	〃	〃	館石美和子	〃
〃	〃	〃	〃	〃	田中 達也	〃
〃	〃	第62回西宮市展	西宮市	〃	岡部 秀子	デザイン部門西宮市芸術 文化協会賞
〃	〃	〃	〃	〃	秦 弘明	洋画部門佳作
〃	〃	〃	〃	アートセラピー4 年次生	大城 弥久	洋画部門入選
〃	〃	〃	〃	洋画研究室2年次 生	吉原 冬織	〃
〃	〃	おおしま国際手づくり絵本コンク ール2012	公益財団法人 射水 市絵本文化振興財団	4年次	宇治川倫子	入選
〃	〃	〃	〃	〃	竹内 春香	〃
〃	8	2012兵庫県展	兵庫県、兵庫県立美 術館、神戸新聞社、 （公財）兵庫県芸術 文化協会	洋画研究室2年次 生	小野結貴花	佳作
〃	〃	〃	〃	洋画研究室4年次 生	高田 寛久	入選
〃	〃	〃	〃	〃	前原 涼輔	〃
〃	〃	〃	〃	洋画研究室3年次 生	小田 さくら	〃
〃	〃	DOLL EXPO 2012 大人形博展	読売新聞社、東映、 グランドプリンスホ テル新高輪、ぴあ	洋画研究室4年次 生	小野結貴花	〃
2013	1	平成24年度手作り絵本コンクール	兵庫県立こどもの館	イラストレーションコース4年 次生	藤田 沙織	毎日新聞社賞
〃	〃	〃	〃	イラストレーション研究室 3年次生	三羽 桃子	優秀賞
〃	〃	〃	〃	〃	野亀 美幸	奨励賞
〃	〃	〃	〃	ビジュアルデザイン研 究室3年次生	佐々木文哉	〃
〃	〃	宝塚市展	宝塚市、（財）宝塚 市文化振興財団	写真研究室3年次 生	原田 雄介	優秀賞
〃	〃	第22回 臥龍桜日本画大賞展	岐阜県高山市	大学院修士課程 2年	中川 真一	奨励賞
〃	〃	ドールアート展2012inうつくしま	ドールアート展 2012inうつくしま実 行委員会	洋画研究室4年次 生	小野結貴花	入選

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名
2013	6 全日本アートサロン大賞展	全日本アートサロン 絵画大賞展実行委員 会、産経新聞社	彫刻研究室2年次 生	土居麻利江	大阪府知事賞
	7 第63回西宮市展	西宮市	〃	加藤 優作	西宮市展若手奨励賞
	7 第59回全関西美術展	大阪市立美術館、読 売新聞社	大学院修士課程1 年次生	田村 佳加	入選
	〃 〃 〃	〃	卒業生	田中 達也	〃
	〃 〃 2013県展（第51回県展）	兵庫県、兵庫県立美 術館、神戸新聞社、 公益財団法人兵庫県 芸術文化協会	洋画研究室3年次 生	吉原 冬織	〃
	〃 〃 〃	〃	大学院修士課程1 年次生	田村 佳加	〃
	〃 〃 〃	〃	洋画研究室3年次 生	光森 千咲	〃
	〃 〃 〃	〃	大学院修士課程1 年次生	田村 佳加	〃
	〃 〃 〃	〃	写真研究室2年次 生	桑田 紗季	〃
	〃 〃 〃	〃	〃	松本 真依	〃
2014	8 世界絵画大賞展	世界絵画大賞展実行 委員会	彫刻研究室3年次 生	土井麻利江	協賛社賞
	1 第57回宝塚市展（写真部門）	宝塚市、公益財団法 人宝塚市文化財団	大学院修士課程1 年次生	八木慎二郎	優秀賞
	〃 〃 〃	〃	舞台芸術研究室1 年次生	北村 歩美	佳作
	〃 〃 〃	〃	〃	〃	〃

学生による公募展等への応募作品入賞状況（2012年4月～）

東京新宿キャンパス

開催年月	美術展またはコンテスト等の名称	主催者	学科、 コース・学年	氏名	受賞名
2012	5 第1回ガリバー旅行記はがき絵コンクール	横浜バロック関内サ ロン	マンガ2年	八幡英理子	特別賞
	少年ライバル 月例コミック新人賞	月刊少年ライバル （講談社）	マンガ2年	岡崎 真澄	奨励賞
2013	9 新宿クリエイターズ・フェスタ2012	新宿区	マンガ2012卒 アニメ2012卒	川口 藍 太田 奈緒 片瀬 央子 濱本 愛果	期待賞 デジタル映像部門・佳作 〃 〃
	〃 〃 第12回漫画アクション新人賞	漫画アクション（双 葉社）	マンガ4年	川上 祐樹	佳作
	〃 〃 ASIAGRAPH REALLUSION AWARD2012	経済産業省、デジタ ルコンテンツ協会	ゲーム4年	江幡 直之	イーフロンティア賞
	3 第31回そつせい祭	日本映画テレビ技術 協会・学生部会	映画2013卒	吉際 健	学生部会運営委員賞
2013	6 第4回クラサン杯	小学館	マンガ2012卒	森下 史織	3位
	9 第25回少年シリウス新人賞	講談社	マンガ4年	千葉 奈央	奨励賞
	10 第12回JCF学生映画祭マンガアワード	JCF学生映画祭実行 委員会	マンガ4年	松永 有未	グランプリ

16-3 学生の地方自治体への協力

学生の地域社会行事等への協力は自発的かつ積極的で、開学以来定着しているものは下記の通りである。

- ① 毎年1回行なわれている宝塚市市民フェスティバルに、メイン演出企画・教員の推薦による学生の作品の展示・似顔絵コーナーの設置などを通じて参画し、宝塚市と大学との連帯意識の高揚に貢献している。
- ② 宝塚市市役所内の常設展示場に学生の作品が数点以上展示されており、市民の芸術と文化の向上のために一役を担っている。
- ③ 毎年1回行われる本学大学祭に近隣の花屋敷つつじカ丘、長尾台、満願寺各自治会が「金魚すくい」「野菜売店」等に参加、学生と住民との交流をはかっている。
- ④ 平成9年より長尾台小学校区「コミュニティーひばり」主催のコミュニティーひばり祭に本学の学生が「似顔絵コーナー」等を出展し、地域との融和をはかっている。
- ⑤ 第6回川西市市民オペラ公演に本学映像造形学科の学生が舞台美術及び衣装のスタッフとして参加した。
- ⑥ 宝塚市立長尾台小学校児童の水泳教室で身体不自由児に対するボランティアとして参加。
- ⑦ 近隣3自治会（長尾台、万願寺、藤が丘）合同盆踊り大会のポスターを学生が毎年作成している。
- ⑧ 宝塚市長尾台に市が多目的公園を作るにあたり彫刻作品（学生作品）を5点設置した。
- ⑨ 伊丹市立神津福祉センター主催の第9回「ときめきフェスティバル」に本学の学生が「似顔絵コーナー」を出展。
- ⑩ 伊丹市主催伊丹商工会議所後援伊丹ちょこリンピックの記録撮影を本学のメディア・コンテンツ学部生が担当。
- ⑪ 近隣の花屋敷つつじが丘自治会主催の夏祭りの事前準備及び当日の記録撮影を本学のメディア・コンテンツ学部生が担当。
- ⑫ 梅田スノーマンフェスティバル実行委員会主催の「梅田コネクト・プロジェクト」へ参加し、梅田地区の魅力向上、エリア活性化に向けた実践活動に取り組んだ。（大阪梅田キャンパスと共催）
- ⑬ 近隣3自治会（長尾台自治会、ふじが丘自治会、満願寺町自治会）主催「満願の里 こどもみこし行列」の開催告知ポスターデザインを、地域交流の一環としてビジュアルデザインを学ぶ学生たちが担当。
- ⑭ 金太郎伝説に縁のある川西市の歴史的背景を広く市民に知ってもらう事を目的としている川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」。本学教員と舞台芸術を学ぶ学生たちが担当し、市の活性化に貢献。
- ⑮ “生産者から消費者へより安く”をモットーに毎年開催されている忠岡町商工カーニバル。マンガを学ぶ学生たちによる「似顔絵コーナー」の出店協力。
- ⑯ 皮革素材を中心とした手作りの品即売会「川西皮革工房」に本学のプロダクトデザインを学ぶ学生たちを中心に革製品を制作・出品し、川西市の産業とまちづくりの発展に協力。
- ⑰ 「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」（100万人のキャンドルナイト@オオサカシティ実行委員会主催）へ、造形芸術学部の学生が参加し、エリア活性化に貢献。
- ⑱ 川西市の都市開発事業の一環で、川西市の芸術と文化意識の向上のため、都市開発事業エリアに彫刻作品（学生作品）展示。
- ⑲ 地域連携の一環として、出張授業を行い、学生との交流ならびに芸術教育の向上に貢献。

東京新宿キャンパス

- ① 東京を中心とした各地で地域の催しや、イベントなどに学生有志が参加し、「似顔絵描き」「似顔絵缶場缶バッジ」「ボディペインティング」のブースを出展し、地域振興、街のにぎわいづくりに貢献している。
- ② 新宿区が主催して毎年夏に開催している「新宿クリエイターズ・フェスタ」（2013）で、学生達が制作した作品がアートカフェのテーブルクロスとして使用された。また、コンペティション部門にも数名の学生がエントリーした。
- ③ 新宿区にある大学と専門学校（合計16校）の学生たちが東京都や警視庁と連携し安全な街づくりを実現するためのボランティアグループ「シャイニング・スターズ」を結成し、本学からも有志数名が参加した。主たる活動として、新宿警察署や鉄道各社が共催する「痴漢撲滅キャンペーン」などに参加している。
- ④ 新宿区の柏木地区協議会まちづくり分科会が推進する「落書き消しお絵描き事業」にイラストレーションコースの2年生が協力した。落書きが多かった北新宿公園の壁一面に絵を描き、落書きするスペースをなくして落書きを防止しようというもの。区内の小学生が画用紙に描いた動物や植物の絵を再構成し、本学学生と小学生のコラボレーションで壁画に仕上げた。

大阪梅田キャンパス

- ① 神戸大学地域連携センター管轄「発達支援モデル教室 ほっとらっく」に参加される保護者の方が安心して講習会に参加できるよう、「子どもプログラム」が実施されており、ボランティアスタッフとして参加する。
- ② 平成24年5月から7月の毎週水曜日の午前中、西宮市立苦楽園中学校 特別支援学級の子どもの付き添い、授業補助を行うボランティアに参加。

17. 卒業生の進路状況

17-1 卒業生の進路状況・就職ガイダンス実施状況・インターンシップ参加状況

平成22年度卒業生進路状況（平成23年3月卒業）（宝塚キャンパス）

平成23年3月31日現在
(人)

学科名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者	就職者
美術	36	0	23	4	9	15
産業デザイン	154	0	79	2	73	46
芸術情報	38	0	20	4	14	8
映像造形	172	0	104	5	63	40
コンテンツ・プロデューサ	3	0	2	0	1	1
合計	403	0	228	15	160	110

平成22年度卒業生進路状況（平成23年3月卒業）（東京新宿キャンパス）

平成23年3月31日現在
(人)

コース名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者	就職者
マンガ	39	10	9	6	15	7
アニメ	32	3	2	1	27	10
ゲーム	22	0	6	1	16	9
映画	27	7	2	2	16	12
合計	120	20	19	10	74	38

(教務助手に採用の3名は、就職希望者数・内定者数・進学者数に含まれる。)

平成23年度卒業生進路状況（平成24年3月卒業）（宝塚キャンパス）

平成24年5月1日現在
(人)

学科名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者 (作家活動含む)	就職者
美術	18	3	1	1	16	11
産業デザイン	89	5	8	5	76	36
芸術情報	26	2	0	2	24	11
メディア・コンテンツ	123	21	15	1	107	63
合計	256	31	24	9	223	121

平成23年度卒業生進路状況（平成24年3月卒業）（東京新宿キャンパス）

平成24年5月1日現在
(人)

コース名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者 (作家活動含む)	就職者
マンガ	52	12	14	5	33	27
アニメ	26	4	6	1	19	10
ゲーム	28	1	3	0	25	15
映画	9	0	1	0	8	4
イラスト	30	6	7	1	22	14
合計	145	23	31	7	107	70

平成24年度卒業生進路状況（平成25年3月卒業）（宝塚キャンパス）

平成25年5月1日現在
(人)

学科名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者 (作家活動含む)	就職者
美術	16	4	3	2	11	6
産業デザイン	87	3	24	2	61	36
芸術情報	30	1	7	2	21	11
メディア・コンテンツ	93	11	29	7	57	37
合計	226	19	63	13	150	90

平成24年度卒業生進路状況（平成25年3月卒業）（東京新宿キャンパス）

平成25年5月1日現在
(人)

コース名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者 (作家活動含む)	就職者
マンガ	44	14	12	2	30	26
アニメ	21	0	1	1	19	10
ゲーム	25	0	4	2	19	7
映画	11	1	1	0	10	8
イラスト	35	4	10	1	24	14
合計	136	19	28	6	102	65

平成25年度卒業生進路状況（平成26年3月卒業）（宝塚キャンパス）

平成26年4月17日現在
(人)

学科名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者 (作家活動含む)	就職者
アート・デザイン	65	5	2	4	59	31
メディア・デザイン	55	11	10	4	41	26
合計	120	16	12	8	100	63

平成25年度卒業生進路状況（平成26年3月卒業）（東京新宿キャンパス）

平成26年4月17日現在
(人)

コース名	卒業生	作家活動	その他	進学者 (大学院等)	就職希望者 (作家活動含む)	就職者
マンガ	43	23	1	1	41	33
アニメ	17	0	0	0	17	11
ゲーム	23	0	1	0	22	13
映画	4	0	0	0	4	4
イラスト	33	9	1	3	29	20
合計	120	32	3	4	113	81

平成25年度卒業生進路状況（平成26年3月卒業）（大阪梅田キャンパス）

平成26年3月31日現在
(人)

学科名	卒業生	進学 (専攻科等)	その他	就職希望者	就職者
看護学科	97	5	11	86	86

○平成23年度 学内就職ガイダンス実施状況 (宝塚キャンパス)

4月18日 (対象3年次生)	就職活動スタートアップ講座	参加人数	20名
4月21日 (対象3年次生)	自己分析・自己発見講座	参加人数	33名
10月1日 (対象3年次生)	もうすぐ本番! 頑張れ就活&リクナビ登録会	参加人数	201名
10月24日 (対象4年次生)	ハローワークの活用の仕方	参加人数	17名
10月24日 (対象3年次生)	業界・仕事研究について	参加人数	27名
10月31日 (対象3年次生)	企業の仕組み・仕事の意味について	参加人数	15名
11月14日 (対象3年次生)	企業は採用で何を見ているか、求める人物像の重要性	参加人数	10名
11月18日 (対象3年次生)	就職情報サイト マイナビ 徹底活用術	参加人数	5名
11月28日 (対象3年次生)	自己アピール・志望動機の重要性とまとめ方について	参加人数	29名
12月5日 (対象3年次生)	エントリーシートの書き方・面接試験のポイント①	参加人数	37名
12月12日 (対象3年次生)	面接試験のポイント②・グループディスカッション	参加人数	26名
12月19日 (対象1・2年次生)	就活はもう始まっている! 学生時代にやっておくこと	参加人数	3名
1月14日 (対象3年次生)	第1回 模擬面接 (個人)	参加人数	11名
1月28日 (対象3年次生)	第2回 模擬面接 (グループ)	参加人数	5名
2月13日 (対象3年次生)	面接官がおっ!と思うエントリーシートの書き方・面接のポイント	参加人数	124名
2月20日 (対象3年次生)	模擬グループディスカッション	参加人数	6名
2月20日 (対象3年次生)	模擬面接総復習	参加人数	8名

○平成23年度 就職活動(就活)応援企画(宝塚キャンパス)

10月24日~10月28日	リクルートスーツ学内販売会		
11月15日	女子学生のための就活メイクアップ講座	参加人数	24名
11月25日	学内就活証明写真撮影会	参加人数	19名

○平成23年度 チームTセミナー(宝塚キャンパス)

「チームT」とは、学生がチームを編成し、協力・助け合いながら共に内定獲得をめざしていくものであり、教職員はアドバイザーとして就職支援を行っている。

また、社会人基礎力(チームで働く力・前に踏み出す力・考え抜く力)の養成も目的としています。

10月26日	自己分析・自己アピール	参加人数	30名
11月16日	SPI、企業が求める視点(説明)	参加人数	14名
11月30日	SPI、企業が求める視点(発言)	参加人数	14名
12月7日	業界・組織・仕事・大手中小企業について	参加人数	14名
12月21日	魅力ある志望動機・エントリーシート作成	参加人数	14名
1月18日	模擬面接(個別)	参加人数	8名
2月13日	模擬面接(グループ)	参加人数	9名
2月29日	グループディスカッション	参加人数	14名
3月13日	内定獲得! チームを活かした相互協力	参加人数	3名

○平成23年度 学内会社説明会(宝塚キャンパス)

4月14日 (対象4年次生全学年参加可)	株式会社 ラクジン	参加人数	22名
4月25日 (対象4年次生全学年参加可)	株式会社 トーセ	参加人数	30名
6月9日 (対象4年次生全学年参加可)	株式会社 グッド・フィール	参加人数	8名
12月13日 (対象3年次生全学年参加可)	株式会社 ワコール	参加人数	60名
12月13日 (対象3・4年次生全学年参加可)	テレビ業界セミナー(株式会社 クリーク・アンド・リバー社)	参加人数	7名
12月20日 (対象3年次生全学年参加可)	株式会社 毎日放送 美術部	参加人数	48名

12月20日 (対象3年次生全学年参加可)	ダイハツ工業 株式会社 デザイン部	参加人数	12名
1月13日 (対象3年次生全学年参加可)	株式会社 カミオジャパン	参加人数	31名

○平成23年度 学内就職相談会 (宝塚キャンパス)

【主催 ハローワーク西宮 & 宝塚キャンパス 就職課】

3月7日 (対象 学部4年次生・修士2年次生・博士3年次生)	就職相談 & 求人紹介 等	参加人数	42名
--------------------------------	---------------	------	-----

○平成23年度 学内デザインセミナー (宝塚キャンパス)

1月16日	サントリー デザイン部 (サントリービジネスエキスパート株式会社)	参加人数	90名	【講師】	本学卒業生 (1期生)
-------	-----------------------------------	------	-----	------	-------------

○平成23年度 FD・SD講座【就職支援講座】 (宝塚キャンパス)

10月12日	就職支援の現状、芸大生と一般企業 他	参加人数	56名
11月9日	教職員として就活力アップに向けてできること 他	参加人数	38名
12月14日	学生につけて欲しい力 他	参加人数	40名

○平成23年度 学内キャリアアップ資格取得講座 (宝塚キャンパス)

5月6日～6月21日	色彩検定2・3級対策講座	受講生	24名
5月12日～6月9日	秘書検定2級対策講座	受講生	12名
6月7日～7月29日	医療事務対策講座	受講生	4名
7月16日～9月24日	ITパスポート対策講座	受講生	4名
7月26日～8月30日	WORD 2003対策講座	受講生	16名
9月27日～12月9日	色彩検定1級対策講座	受講生	5名
11月25日～1月17日	EXCEL 2003対策講座	受講生	15名

○平成23年度 トライやるウィーク 受け入れ実績 (宝塚キャンパス)

中学生の就業体験の場として、近隣の中学校 (2校) の生徒を受け入れた。

【学校名】宝塚市立南ひばりガ丘中学校 2年生 (参加人数 5名)

【期間】平成23年5月16日 ～ 5月20日

【内容】図書館・コンビニ・就職室等での就業体験

本学での授業体験 (①ペーパークラフトメイキング ②キャラクターをつくってみよう)

【学校名】川西市立川西南中学校 2年生 (参加人数 8名)

【期間】平成23年5月16日 ～ 5月20日

【内容】図書館・コンビニ・就職室・事務局等での就業体験

本学での授業体験 (①ペーパークラフトメイキング ②キャラクターをつくってみよう)

○平成23年度 学内就職ガイダンス実施状況 (東京新宿キャンパス)

7月6日 (対象1・2年次生)	クリエイティブ業界で働くこと	参加人数	9名
7月7日 (対象3年次生)	適性テスト	参加人数	20名
7月8日 (対象3年次生)	適性テスト	参加人数	20名
7月12日 (対象3年次生)	自己経験の棚卸し-エントリーシートを書くために	参加人数	20名
10月19日 (対象2年次生)	業界研究 (ゲーム・アニメ・CG)	参加人数	60名
10月25日 (対象3年次生)	女子学生のための就活にふさわしいメイク講座	参加人数	20名
10月26日 (対象2年次生)	業界研究 (映画・Web・広告業界)	参加人数	20名
10月28日 (対象3年次生)	女子学生のための就活にふさわしいメイク講座	参加人数	17名
11月1日 (対象3年次生)	美大生のための就活スタートアップ講座	参加人数	45名
11月7日 (対象1・2年次生)	ポートフォリオの重要性	参加人数	23名
11月15日 (対象3年次生)	SPI対策セミナー	参加人数	13名
11月29日 (対象3年次生)	エントリーシート・セミナー	参加人数	43名

12月1日 (対象3年次生)	エントリーシート・セミナー	参加人数	45名
12月6日 (対象3年次生)	内定した先輩から学ぶポートフォリオ	参加人数	28名
12月19日 (対象3年次生)	ポートフォリオの基礎	参加人数	30名
1月20日 (対象3年次生)	内定した学生から学ぶポートフォリオ	参加人数	13名
1月27日 (対象3年次生)	面接・就活マナー講座	参加人数	40名

○平成24年度 学内就職ガイダンス実施状況 (宝塚キャンパス)

9月29日 (対象3年次生・全学年参加可)	就職活動スタートアップセミナー ~今から始める就活講座~	参加人数	101名
11月16日 (対象3年次生・全学年参加可)	内定獲得を目指した、自己PRを考えよう!! (職務適正テスト実施)	参加人数	36名
2月12日 (対象3年次生)	マナー講座「今、求められる人になるために」、ハローワークの活用の仕方	参加人数	67名

○平成24年度 就職活動(就活)応援企画(宝塚キャンパス)

4月25日 (対象全学年)	あなたの面接力UP! 面接官が見ているポイントがよくわかる!	参加人数	9名
5月16日 (対象全学年)	みなさんの就活の不安・疑問をその場で解決します!	参加人数	11名
6月13日 (対象全学年)	就活・進路に関する不安・疑問にお答えします!	参加人数	2名
7月11日 (対象全学年)	必見! エントリーシートのポイント、自己アピール・志望動機のポイント、企業研究のポイント	参加人数	10名
8月1日 (対象全学年)	総復習! 合格する面接のポイント、自分の就活の課題チェックシート、模擬面接の実施(見学だけでも面接力アップ)	参加人数	6名

○平成24年度 チームTセミナー(宝塚キャンパス)

「チームT」とは、宝塚キャンパス独自の就職支援であり、学生がチームを編成し、協力・助け合いながら、共に内定獲得を目指していくものである。教職員はアドバイザーとして学生をサポートし、社会人基礎力(チームで働く力・前に踏み出す力・考え抜く力)の養成も目的としている。

(対象学年 学部: 3年次生)

4月25日	チームT	1期生	第10回	内定獲得! チームを活かした相互協力(チームTの目的、メリット、活動内容)	登録人数	19名
5月16日	チームT	1期生	第11回	内定獲得! チームを活かした相互協力(どのような社員を求めているか!)	登録人数	19名
6月13日	チームT	1期生	第12回	内定獲得! チームを活かした相互協力(ポジティブシンキング)	登録人数	19名
7月11日	チームT	1期生	第13回	内定獲得! チームを活かした相互協力(模擬面接)	登録人数	19名
8月1日	チームT	1期生	第14回	内定獲得! チームを活かした相互協力(自己チェックシート、模擬面接)	登録人数	19名
9月5日	チームT	1期生	第15回	内定獲得! チームを活かした相互協力(就活! 進捗状況、模擬面接)	登録人数	19名
9月26日	チームT	1期生	第16回	チームT 1年間を振り返って!	登録人数	19名
10月5日	チームT	2期生募集について	(チームT 1期生からの活動報告)		参加人数	12名
10月18日	チームT	2期生	第1回	オリエンテーション	登録人数	32名
10月25日	チームT	2期生	第2回	チームで行動するとは、自己アピールのポイント	登録人数	32名
11月8日	チームT	2期生	第3回	自己アピール、キャリアアンカー	登録人数	32名
11月22日	チームT	2期生	第4回	自己アピール、ソーシャルスタイル	登録人数	32名
12月6日	チームT	2期生	第5回	志望動機のまとめ方	登録人数	32名

12月20日	チームT	2期生	第6回	志望動機の実践練習、ポジティブシンキング	登録人数	32名
1月10日	チームT	2期生	第7回	自己アピール、志望動機のまとめ	登録人数	32名
1月24日	チームT	2期生	第8回	行動計画、相互面接	登録人数	32名
2月7日	チームT	2期生	第9回	経験学習、模擬グループ面接	登録人数	32名
2月21日	チームT	2期生	第10回	グループディスカッション	登録人数	32名
3月7日(3限)	チームT	2期生	第11回	模擬面接①	登録人数	32名
3月7日(4限)	チームT	2期生	第12回	模擬面接②	登録人数	32名

○平成24年度 芸活支援講座 (宝塚キャンパス)

「芸活支援」とは、卒業後に、芸術活動(作家等)を目指す学生への宝塚キャンパス独自の進路支援であり、本学教員や活躍している卒業生、また、学内外のクリエイターの方を招き、講座を開催している。
(対象学年 全学年)

7月13日	第1回講座	ポートフォリオセミナー (アドビ・キャンパスデイプログラム)	参加人数	101名
10月27日	第2回講座	クリエイターズスタディ (公開講座) 本学卒業生による講演 (ファッションデザイナー、イラストレーター)	参加人数	61名
11月10日	第3回講座	クリエイターズスタディ (公開講座) 本学卒業生による講演 (ファッションデザイナー、家具デザイナー)	参加人数	74名
12月7日	第4回講座	テーマ:就職以外で生きていく道? 講演:本学 楠田雅史 (本学准教授)	参加人数	34名
1月25日	第5回講座	テーマ:芸大卒10年後の1モデル ~流されつつながら見てきたもの~ 講演:上田順平 (本学非常勤講師)	参加人数	9名

○平成24年度 学内会社説明会 (宝塚キャンパス)

7月3日	株式会社	藤商事	参加人数	21名
7月3日	株式会社	サイバーエージェント	参加人数	7名
7月9日	株式会社	ニューロンエイジ	参加人数	47名
9月19日	古林紙工	株式会社	参加人数	10名
11月2日	株式会社	サイバーエージェント	参加人数	14名
11月21日	株式会社	オンワード樫山	参加人数	12名
11月26日	有限会社	カイカイキキ	参加人数	8名
12月11日	ジェイコム	株式会社	参加人数	5名
12月14日	株式会社	アサヒディード	参加人数	2名
1月16日	グリー	株式会社	参加人数	19名
1月17日	株式会社	ディンプス	参加人数	13名
1月30日	株式会社	ジーン	参加人数	7名
1月31日	株式会社	ラゼスト	参加人数	8名
2月5日	株式会社	サンエーインターナショナル	参加人数	7名
2月15日	株式会社	カミオジャパン	参加人数	14名

○平成24年度 ハローワーク西宮 学内就職相談会 (宝塚キャンパス)

【学卒ジョブサポーターによる、就職相談・企業紹介等】

12月20日	第1回 (対象 4年次生)	参加者	3名
1月15日	第2回 (対象 4年次生)	参加者	3名
2月12日	第3回 (対象 4年次生)	参加者	3名
3月8日	就職相談会 (対象 4年次生)	参加者	20~30名 (予定)

○平成24年度 インターンシップ参加状況【抜粋】 (宝塚キャンパス)

有限会社ゼリビヤク	平成24年6月25日~7月6日	イラストレーションコース	4年次生
株式会社デジタルナレッジ	平成24年7月2日~7月13日	コンテンツプロデュースコース	4年次生
株式会社サイバーエージェント	平成24年8月1日~8月14日	イラストレーションコース	3年次生
アシードンクラウド	平成24年8月12日~9月27日	ファッションデザインコース	3年次生

クローバーラボ株式会社	平成24年8月18日～平成25年3月31日	ゲームコース	4年次生
有限会社サンアート	平成24年8月20日～8月30日	イラストレーションコース	4年次生
株式会社スタイルバンク東京	平成24年10月5日～10月18日	ファッションデザインコース	3年次生
株式会社モダンパラダイス	平成24年10月1日～10月19日	イラストレーションコース	4年次生

○平成24年度 学内キャリアアップ資格取得 開講講座 (宝塚キャンパス)

4月23日～6月19日 (13回実施)	色彩検定2・3級対策講座	受講生	6名
7月11日～9月26日 (11回実施)	ITパスポート講座	受講生	4名

(開講予定講座)

MOS Word 2007講座
MOS Excel 2007講座
MOS Powerpoint 2007講座
CAD利用技術者試験2級講座
プライダプランナー2級講座
JNEネイリスト3級講座
秘書検定2級集中講座

○平成24年度 トライやるウィーク 受け入れ実績 (宝塚キャンパス)

(地域との連携) 中学生の就業体験の場として、近隣の中学校(2校)の生徒を受け入れた。

平成24年5月21日	～	5月25日	宝塚市立南ひばりガ丘中学校	2年生	5名参加
平成24年6月4日	～	6月8日	川西市立川西南中学校	2年生	6名参加

○平成24年度 学内就職ガイダンス実施状況 (東京新宿キャンパス)

5月29日 (対象3年次生)	自分を知ろう。自分の道を考えよう!	参加人数	38名
6月4日 (対象3年次生)	適正テスト1回目	参加人数	20名
6月7日 (対象3年次生)	適正テスト2回目	参加人数	33名
6月14日 (対象1・2年次生)	充実した学生生活を送る、未来の自分をデザインする	参加人数	29名
6月21日 (対象1・2・3年次生)	世の中の仕組み・業界を知るセミナー	参加人数	48名
6月26日 (対象3年次生)	就活まるわかり&内定者情報共有セミナー	参加人数	28名
6月28日 (対象1・2年次生)	クリエイティブ業界で働くということ	参加人数	30名
6月29日 (対象3年次生)	3年生向け就職ガイダンス(ゲーム)	参加人数	15名
7月3日 (対象3年次生)	3年生向け就職ガイダンス(アニメ)	参加人数	16名
7月4日 (対象3年次生)	3年生向け就職ガイダンス(マンガ)	参加人数	24名
7月5日 (対象3年次生)	3年生向け就職ガイダンス(イラスト)	参加人数	13名
7月9日 (対象4年次生)	4年生向け就職ガイダンス(アニメ)	参加人数	11名
7月10日 (対象2年次生)	業界研究(ゲーム・アニメ・CG)	参加人数	11名
7月11日 (対象4年次生)	4年生向け就職ガイダンス(マンガ)	参加人数	9名
7月12日 (対象4年次生)	4年生向け就職ガイダンス(ゲーム)	参加人数	11名
7月12日 (対象4年次生)	4年生向け就職ガイダンス(イラスト)	参加人数	7名
7月13日 (対象2年次生)	業界研究(映画、web、広告)	参加人数	2名
7月19日 (対象4年次生)	ハローワーク説明会	参加人数	17名
9月28日 (対象3年次生)	自己経験のたな卸し	参加人数	59名
10月19日 (対象2年次生)	ゲーム・アニメ・CG業界の職種について	参加人数	21名
10月26日 (対象2年次生)	映画・Web・広告業界の職種について	参加人数	14名
12月4日 (対象2年次生)	ポートフォリオの重要性	参加人数	30名
12月19日 (対象2年次生)	先輩から学ぶポートフォリオ制作	参加人数	19名
12月21日 (対象2年次生)	ポートフォリオの基礎	参加人数	34名
1月29日 (対象2年次生)	プレ就活ガイダンス	参加人数	40名

○平成24年度 学内会社説明会 (東京新宿キャンパス)

4月8日 (対象3・4年次生)	株式会社 サイバーエージェント	参加人数	15名
6月9日 (対象3・4年次生)	株式会社 グッド・フィール	参加人数	20名

7月15日 (対象3・4年次生)	株式会社 フロム・ソフトウェア	参加人数	27名
8月8日 (対象4年次生)	株式会社 エイタロウソフト	参加人数	11名
1月27日 (対象3・4年次生)	株式会社 エージェント	参加人数	20名

○平成24年度 インターンシップ参加状況 (東京新宿キャンパス)

エクセレントフィルムズ「喧嘩の花道」(石川均監督)の制作現場実習による就業体験(映画監督協会などの「映画スタッフ育成事業」の一環)

平成24年7月31日～8月14日 映画コース3年次生 2名

デザイン制作会社「株式会社テイ・デイ・エス」の業務補助による就業体験(本学とのインターンシップ契約締結)

平成24年8月20日～8月31日 マンガコース3年次生 1名

○平成24年度 資格取得講座実績一覧 (東京新宿キャンパス)

8月18日～8月28日	MOS EXCEL 2007対策講座	受講生	5名
2月12日～2月22日	色彩検定2・3級対策講座	受講生	13名
2月25日～3月2日	秘書技能検定2級対策講座	受講生	5名
2月12日～2月21日	MOS WORD 2007対策講座	受講生	3名
2月15日～3月6日	MOS EXCEL 2007対策講座	受講生	5名
3月12日～3月28日	DTPベーシック講座	受講生	6名

○平成25年度 学内就職ガイダンス (宝塚キャンパス)

9月25日 (対象3年次生)「就職活動におけるスケジュールについて・本学の就職状況について」
参加人数 60名

2月12日 (対象3年次生)「就職活動 今!すべきこと、これからやるべきこと・・・
就職活動における疑問に内定学生&教員・就職課職員がお答えします。」 参加人数 49名

3月24日 (対象1年次生)ワークショップ「自分の人生・進路を考えることへの意識づけと自己理解、
自分への気づきを深める」 参加人数 59名

3月25日 (対象2年次生)「自己分析・企業検索の仕方&就職活動におけるスケジュールについて」
参加人数 51名

3月26日 (対象3年次生)ワークショップ「進路を考えることへの意識づけと就活への意欲を高める」
参加人数 64名

○平成25年度 就職活動(就活)応援企画 (宝塚キャンパス)

1月20日	ザ・バック株式会社 大阪包装資料館見学	参加人数	19名
11月25日	学内履歴書用写真撮影会	参加人数	12名

○平成25年度 チームTセミナー (宝塚キャンパス)

6月13日	「就職活動の流れ・・・就活ってどうすればよいの?」	参加人数	1名
6月24日	「エントリーシートの書き方」	参加人数	1名
7月11日	「エントリーシートと履歴書の書き方」	参加人数	2名

○平成25年度 芸活支援講座 (宝塚キャンパス)

6月27日 第1回 「企業内クリエイター(劇団・背景職)を経験後、作家(画家)になった・・・私」
参加人数 8名

7月25日 第2回 「本学卒業生(フォトグラファー・イラストレーター)からの講演」
参加人数 9名

○平成25年度 学内会社説明会 (宝塚キャンパス)

4月15日	ナツメ株式会社	参加人数	16名
4月16日	株式会社 トーセ	参加人数	28名
5月14日	株式会社 サファリゲームズ	参加人数	18名
5月20日	株式会社 グッドフィール	参加人数	21名
5月27日	株式会社 サイバーエージェント	参加人数	8名

6月19日	株式会社	オンワード樫山	参加人数	11名
7月12日	有限会社	カイカイキキ	参加人数	10名
11月25日	株式会社	クレヨン	参加人数	6名
12月3日	株式会社	オンワード樫山	参加人数	6名
12月9日	株式会社	サイバーエージェント	参加人数	11名
1月24日	株式会社	ボノス	参加人数	13名
3月28日	株式会社	カミオジャパン	参加人数	15名

○平成25年度 ハローワーク西宮 学内就職相談会 (宝塚キャンパス)
【学卒ジョブサポーターによる、就職相談・企業紹介等】

2月13日	参加人数	4名
2月27日	参加人数	1名
3月5日	参加人数	未定

○平成25年度 インターンシップ参加状況 【抜粋】 (宝塚キャンパス)

8月19日～8月26日	株式会社スター	人形の衣装制作ならびに販売	1名参加
-------------	---------	---------------	------

○平成25年度 学内キャリアアップ資格取得 開講講座 (宝塚キャンパス)

色彩検定2・3級対策講座 (5月～6月 13回)	受講生	5名
秘書検定2級対策講座 (5月～6月 10回)	受講生	6名

○平成25年度 トライやるウィーク 受け入れ実績 (宝塚キャンパス)

5月27日～5月31日	川西市立川西南学校	2年生	5名参加
6月3日～6月7日	宝塚市立南ひばりガ丘中学校	2年生	6名参加

○平成25年度 学内就職ガイダンス (東京新宿キャンパス)

4月4日 (対象1年次生)	自分の未来をデザインする (キャリア入門編)	参加人数	70名
5月10日 (対象3年次生)	プレ就活ガイダンス①	参加人数	6名
5月16日 (対象3年次生)	プレ就活ガイダンス②	参加人数	27名
6月25日 (対象4年次生)	ポートフォリオフォローアップ道場 第1回目	参加人数	8名
7月2日 (対象1年次生)	クリエイティブ業界ってどんなところ?	参加人数	31名
7月5日 (対象3年次生)	就活スタートアップ-世の中の仕事を知らう	参加人数	27名
7月9日 (対象2年次生)	クリエイティブ業界研究セミナー	参加人数	48名
7月16日 (対象3年次生)	ポートフォリオフォローアップ道場 第2回目	参加人数	8名
8月6日 (対象3年次生)	ポートフォリオフォローアップ道場 第3回目	参加人数	8名
9月24日 (対象1・2年次生)	ポートフォリオの重要性	参加人数	101名
9月25日 (対象3年次生)	ES、面接、何を伝えればいいの?	参加人数	74名
9月25日 (対象4年次生)	新卒応援ハローワーク説明・登録会	参加人数	27名
10月16日 (対象4年次生)	新卒者就職応援プロジェクト説明・登録会	参加人数	39名
11月8日 (対象3年次生)	就活サイトを使った12/1からのエントリーの仕方	参加人数	20名
11月11日 (対象3年次生)	SPI対策	参加人数	30名
11月29日 (対象3年次生)	ES対策①	参加人数	17名
12月3日 (対象3年次生)	ES対策②	参加人数	25名
12月13日 (対象3年次生)	ES対策③	参加人数	28名
1月29日 (対象3年次生)	面接対策	参加人数	22名
2月4日 (対象2年次生)	ポートフォリオの作り方	参加人数	23名
2月10日 (対象3・2・1年次生)	内定者から学ぶ!ポートフォリオと就活プロセス	参加人数	38名
2月25日 (対象3年次生)	ポートフォリオフォローアップ道場 Vol.2 第1回目	参加人数	8名
3月18日 (対象3年次生)	ポートフォリオフォローアップ道場 Vol.2 第2回目	参加人数	8名

○平成25年度 就職活動（就活）応援企画（東京新宿キャンパス）

11月25日 学内就活証明写真撮影会 参加人数 23名

○平成25年度 学内会社説明会（東京新宿キャンパス）

11月1日（対象4・3年次生）株式会社エクストリーム 参加人数 19名

11月7日（対象4・3年次生）有限会社カイカイキキ 参加人数 14名

11月22日（対象4年次生）株式会社ビビビット 参加人数 19名

○平成25年度 インターンシップ参加状況（東京新宿キャンパス）

デザイン制作会社「株式会社セル・ディビジョン」の業務補助による就業体験

平成25年8月28日～9月30日 イラストレーションコース3年次生 1名

ゲーム制作会社「スマイキーゲームス株式会社」の業務補助による就業体験

平成25年11月11日～12月6日 ゲームコース3年次生 1名

コンテンツ制作会社「株式会社エクストリーム」のコンテンツ開発業務補助による就業体験

平成25年12月16日～平成26年1月15日 ゲームコース4年次生 1名

○平成25年度 資格取得講座実績一覧（東京新宿キャンパス）

8月19日～8月30日 色彩検定2・3級対策講座 受講生 5名

○平成25年度 就職ガイダンス等 実施状況（大阪梅田キャンパス）

3月19日（対象4年次生）就職支援ガイダンス 就活マナー講座・エントリーシートの書き方

参加人数 100名

4月5日（対象1～4年次生）病院合同説明会 実習先18病院（ブース形式）

参加人数 67名

5月7日～7月（対象4年次生）学生面談 進路希望調査・個人面談・模擬面接

参加人数 102名

9月27日（対象2年次生）キャリアデザイン 「成長に必要な意識」 参加人数 104名

9月27日（対象3年次生）キャリアデザイン 「あなたの人生のキャリアデザインのために」

参加人数 116名

9月27日（対象4年次生）キャリアデザイン 「大学卒業後のキャリア形成」・体験談・グループワーク

参加人数 102名

17-2 卒業生の就職企業リスト

主な就職先リスト 五十音順

株式会社アートスタジオ	株式会社インテリアマエダ	オグラン株式会社
株式会社アイテクノ	有限会社W i s h	オペラ株式会社
有限会社アイテールシステム	株式会社ウイズ・ワン	株式会社おまちどう
青山商事株式会社	株式会社ヴィジュアルイズ	株式会社オリゾンティ
明石市公立中学校教員	株式会社ウィル	株式会社オンワード樫山
明石市公立小学校教員（図工）	内田写真株式会社	花王化粧品販売株式会社
赤川英株式会社	株式会社ウラノ	カタヤマ株式会社
アクセルマーク株式会社	永昌堂印刷株式会社	兼松グランクス株式会社
株式会社アクトサイン	株式会社エース広告	株式会社カプコン
株式会社アクトス	株式会社エイタロウソフト	株式会社カマタ
株式会社アサヒディード	株式会社エイトビット	株式会社カミオジャパン
朝日放送株式会社	株式会社エクスプレスブレンズ	株式会社亀山デザイン
株式会社アシスト	株式会社エクストリーム	カリモク株式会社
株式会社アシックス	E X Y S 株式会社	川崎重工業株式会社
味の素パッケージング	株式会社エクアラニマル	川西市公立中学校教員
株式会社アスクプランニングセンター	N H K（日本放送協会）	川西市公立小学校教員（図工）
株式会社アストラカン	株式会社エムアイシステム	カワノ株式会社
株式会社アバン	株式会社M B S 企画	関西テレビ放送株式会社
株式会社アルテクナ	株式会社エフリード	関西ペイント株式会社
アロー株式会社	株式会社絵里奈	木戸紙業株式会社
株式会社アルテックジャパン	aDsFactory株式会社	株式会社キネマシトラス
株式会社アンサー・スタジオ	株式会社オー・エー・ディー	株式会社ギャラリー・ド・ポップ
株式会社アンビション	大阪ガス住宅設備株式会社	株式会社キュービックス
イオン株式会社	株式会社大阪共立	株式会社京都アニメーション
株式会社イズム	大阪国際大和田高等学校教員	共進パッケージ株式会社
株式会社伊藤園	株式会社大阪コクヨ	株式会社京映アーツサンズデコール
伊藤産業有限会社	大阪シーリング印刷株式会社	株式会社銀座コージーコーナー
株式会社伊藤農園	株式会社大阪宣伝研究所	株式会社銀座マギー
株式会社イトキン	株式会社大阪デザインスタジオ	株式会社近鉄百貨店
株式会社 I M A G I C A ウエスト	株式会社大阪西川	近鉄ホーム建設株式会社
株式会社イマジカ	大阪府公立高等学校教員	株式会社グッド・フィール
株式会社 I M A G I C A Pb	大塚化学株式会社	クツワ株式会社
株式会社イメージスタジオ109	大塚家具株式会社	株式会社クボタ
有限会社イメージファクトリー	株式会社岡本	株式会社クラウディア
株式会社インテックショリユーションパワー	株式会社オカハシ	株式会社クラフテリオ

株式会社クラフト	株式会社サクセス	真生印刷株式会社
株式会社クラブデザイン	さくらクリエイティブ株式会社	株式会社スウィッシュ・ジャパン
クリエイティブコミュニケーションズ	株式会社サクラクレパス	学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ東京
株式会社レマン	ザ・バック株式会社	株式会社鈴丹
CLINKS株式会社	株式会社さわの道玄	株式会社鈴屋
株式会社クレオ	株式会社三愛	株式会社スタジオアリス
株式会社クレヨン	株式会社サンエーインターナショナル	有限会社スタジオたくらんげ
グローリー株式会社	株式会社SANKYO energy	住友林業株式会社
株式会社クロスカンパニー	株式会社サンシャインコーポレーション	住友林業緑化株式会社
株式会社クロスゲームズ	株式会社サンテレビジョン	住之江織物株式会社
クロス工業株式会社	サントリー株式会社	株式会社スペース
グンゼ株式会社	株式会社サンライズ	株式会社スペースラボ
株式会社グラフィック	サンスター文具株式会社	スルガ株式会社
株式会社クリエイティブシャワー	株式会社サン・フレール	株式会社誠興業不動産
京阪ゼロファン株式会社	株式会社サンプロス	Zeus株式会社
株式会社ケイ・ブックス	株式会社CRドットアイ	株式会社セガエンタープライゼズ
劇団「四季」	株式会社ジー・エイチ	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
興人不動産販売株式会社	株式会社シーガル・リゾート・イノベーション	積水ハウス株式会社
株式会社GoHands	株式会社シェフ	積水ハウス木造株式会社
株式会社コール・トゥ・ウェブ	株式会社 ジュー・シー・スタッフ	瀬古写真株式会社
コクヨ株式会社	株式会社シグナル広告	株式会社ゼネラルアサヒ
コナミ株式会社	四国リコー株式会社	株式会社創
小西マーク株式会社	株式会社資生堂	株式会社ソフトデバイス
株式会社コムデギャルソン	資生堂化粧品販売株式会社	ソフトバンクモバイル株式会社
株式会社斎憲TVB	司法書士法人新宿事務所	ソニーPCL株式会社
社団法人しののめホーム	シャープ株式会社	有限会社TAPプランニング
株式会社庄田スタジオ	株式会社ジーン	第一紙工株式会社
株式会社せいき（キタバ薬局）	ジャヴァグループ	タイガー魔法瓶工業株式会社
医療生協さいたま生活協同組合	ジャパンプリント株式会社	ダイケンホーム株式会社
株式会社サイバーエージェント	株式会社ジャパンプリントシステムズ	株式会社大広
株式会社サインズファクトリー	株式会社ジュピター	大宏商事株式会社
株式会社サウンズ・アート	株式会社ジーユー	株式会社タイタン・アート
株式会社サウンドマン	上新電機株式会社	株式会社タイトー
サカティンクス株式会社	松竹衣装株式会社	株式会社ダイナム
坂本デニム株式会社	社団法人自立支援協会	大日本塗料株式会社
株式会社サクラ	シンエイ動画株式会社	大日本プリンテックス株式会社
株式会社サトー	株式会社シンカコミュニケーションズ	ダイハツ工業株式会社

株式会社大丸	株式会社ドウファミリイ	株式会社日本レジャーチャンネル
株式会社大丸装工事業部	株式会社トゥールズ	株式会社ニューテレス
株式会社タイムロマン（神戸ドルミュージアム）	東光商事株式会社	株式会社NATURE BOY
株式会社ダイヤケミカル	東光リミイ株式会社	ネクストウェア株式会社
株式会社太陽企画	株式会社東通エーヴィセンター	株式会社ノジマ
大和シャッター株式会社	株式会社トーセ	株式会社ノーリーズ
大和リビング株式会社	トータルシステム株式会社	バイオマス・ジャパン株式会社
ダイクラクダ工業株式会社	TOTOアクエア株式会社	株式会社ハウスメイトパートナーズ
高砂電器産業株式会社	株式会社Donuts	株式会社博報堂プロダクツ
株式会社高島屋	株式会社特撮研究所	パールマネキン株式会社
宝塚歌劇団（衣裳）	トクダ株式会社	株式会社橋爪商店（神楽坂KIMURAYA）
宝塚市公立中学校教員	株式会社東北新社	株式会社長谷工アーベスト
宝塚市公立小学校教員（図工）	株式会社東通企画	株式会社長谷工コーポレーション
株式会社宝塚舞台	東洋ゴム工業株式会社	株式会社バスク
瀧定大阪株式会社	東洋紙業株式会社	株式会社ハヴァナイストリップ
株式会社竹中工務店	藤和不動産株式会社	株式会社バル
田崎真珠株式会社	凸版印刷株式会社	パルスモ株式会社
株式会社田辺製薬	豊橋製版株式会社	株式会社阪急百貨店
辰己電子工業株式会社	株式会社トランスアーツ	株式会社阪急デザインシステムズ
株式会社玉屋	株式会社トランスコスモス	株式会社ハ・ン・ド
タリーズコーヒージャパン株式会社	ドリームベッド株式会社	株式会社光通信
ツネイシヒューマンサービス株式会社	株式会社トレンディ	株式会社ピアス
株式会社丹青社	株式会社トンブウ	株式会社ピーエーワークス
つむら工芸株式会社	株式会社ナイキ	株式会社びえろ
株式会社テイクワン	株式会社ナイスクラブ	株式会社ひとみ
T I S 株式会社	株式会社ナウプロダクション	株式会社ビームス
株式会社T・D・S	名古屋市交通局	ビービーネット株式会社
株式会社ディースタンド	株式会社名古屋東通	株式会社ファイブ・フォックス
株式会社ディンプス	株式会社ナックイメージテクノロジー	有限会社ファーストシーン
株式会社ディレクターズ・カンパニーレモン	奈良県警察	株式会社ファミリア
株式会社デジタリオ	株式会社成美	株式会社フィット
東映太秦映画村	株式会社ニシキプリント	株式会社フェリシモ
東映京都撮影所	西日本旅客鉄道株式会社	株式会社フォーラム
株式会社動画工房	株式会社日建設計	福井工業大学附属福井高等学校教員
東京衣裳株式会社	株式会社ニチリン	株式会社福屋工務店
株式会社東京モバイルコム	日本アート印刷株式会社	株式会社福田武環境デザイン研究所
株式会社東具	日本生命保険相互会社	株式会社富士アドシステム

株式会社富士通S S L C	株式会社マルハン	よみうりテレビ映像株式会社
株式会社ブーム	株式会社ミエデンシステムソリューション	株式会社ライカ
株式会社フランドル	三木健デザイン事務所	株式会社ライト・オン
株式会社ブリッジ	株式会社ミサワホーム	株式会社ライフコーポレーション
古林紙工株式会社	株式会社三鈴	株式会社Razest
株式会社フルフィル	株式会社三越	株式会社ラクジン
株式会社プログレス	株式会社ミドリ電化	株式会社ラッキートレンディ
株式会社プロダクション・アイジー	株式会社三松	株式会社ララ・プラン
株式会社プロデュースアンドディレクション	株式会社未来屋書店	株式会社リード
株式会社フロム・ソフトウェア	株式会社明響社	株式会社リオ横山
ペーパーリー株式会社	株式会社武蔵野テーブル	株式会社リクルート
株式会社バツセル	株式会社メイクアップ	リコー関西株式会社
株式会社ベネフィット	株式会社モード・パピヨン	株式会社リュリュ
株式会社ベベ	株式会社モーリショップ	株式会社リラックス
株式会社ポイント	株式会社元林	株式会社類設計室
防衛省自衛隊	株式会社モトヤ	株式会社レ・イン
防衛省海上自衛隊	株式会社森設計	株式会社レッドバロン
株式会社ボムフード	森下仁丹株式会社	株式会社ロートレアモン
株式会社ホークバット	モロゾフ株式会社	ローランド株式会社
報徳学園中学校教員	株式会社ヤガミ	株式会社ロックオン
株式会社北星社	株式会社ヤマイチ	株式会社ロベリア
株式会社ポポラマーマ	山佐株式会社	株式会社和心
株式会社堀内カラー	株式会社山喜	ワーナーマイカルシネマズ株式会社
株式会社ボルテージ	山田照明株式会社	株式会社ワールドストアパートナーズ
株式会社ボンズ	株式会社ヤマダ電機	株式会社ワコール
株式会社ホンダカーズ群馬中央	株式会社ヤマノホールディングス	株式会社綿半ホームエイド
株式会社本田技術研究所 和光研究所	株式会社ヤマヒサ	株式会社わだち
株式会社HONDA progetta	山和食品株式会社	ワタミ株式会社
株式会社マーグラ	株式会社ユーフィット	
毎日マーク株式会社	ユーフォーテーブル有限公司	
株式会社マックスレイ	株式会社ユナイテッドアローズ	
松下通信工業株式会社	株式会社ユニオンクラフト	
松下電器産業株式会社	株式会社ヨウジヤマモト	
松下電工株式会社	株式会社ヨークマート	
株式会社マトリックス	吉忠マネキン株式会社	
マルイ造形家具工業株式会社	株式会社ヨドバシカメラ	
丸善株式会社	ヨネックス株式会社	

看護学部 進路内定状況

地域別	就職先
大阪府	関西医科大学附属枚方病院
	淀川キリスト教病院
	関西電力病院
	大阪府立母子保健総合医療センター
	大阪暁明館病院
	北野病院
	山本病院（八尾こころのホスピタル）
	大阪脳神経外科病院
	愛仁会高槻病院
	国立循環器病研究センター
	大阪市立総合医療センター
	医誠会病院
	JR大阪鉄道病院
	石切生喜病院
	大阪府立成人病センター
	加納総合病院
	市立堺病院
	多根総合病院
	野崎徳州会病院
	友愛会病院
	東大阪市立総合病院
	東住吉森本病院
	ベルランド総合病院
八尾市立病院	
大阪府立急性期・総合医療センター	
大阪府立中河内救命救急センター	
兵庫県	兵庫県立こども病院
	協立病院
	神鋼病院
	兵庫医科大学病院
	笹生病院
	済生会兵庫県病院
	兵庫県立淡路医療センター
	神戸労災病院
	神戸市立医療センター中央市民病院
	兵庫県立加古川医療センター
	関西ろうさい病院
	北播磨総合医療センター
	兵庫県立塚口病院
	三菱神戸病院
京都府	京都大学医学部附属病院
	京都府立医科大学附属病院
	宇治おうばく病院
	京都市立病院
	京都民医連中央病院
滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院
	草津総合病院
奈良県	高井病院
	西の京病院
	奈良医療センター
和歌山県	和歌山労災病院
神奈川県	新百合ヶ丘総合病院

18. 校地・校舎の概要

■校地面積

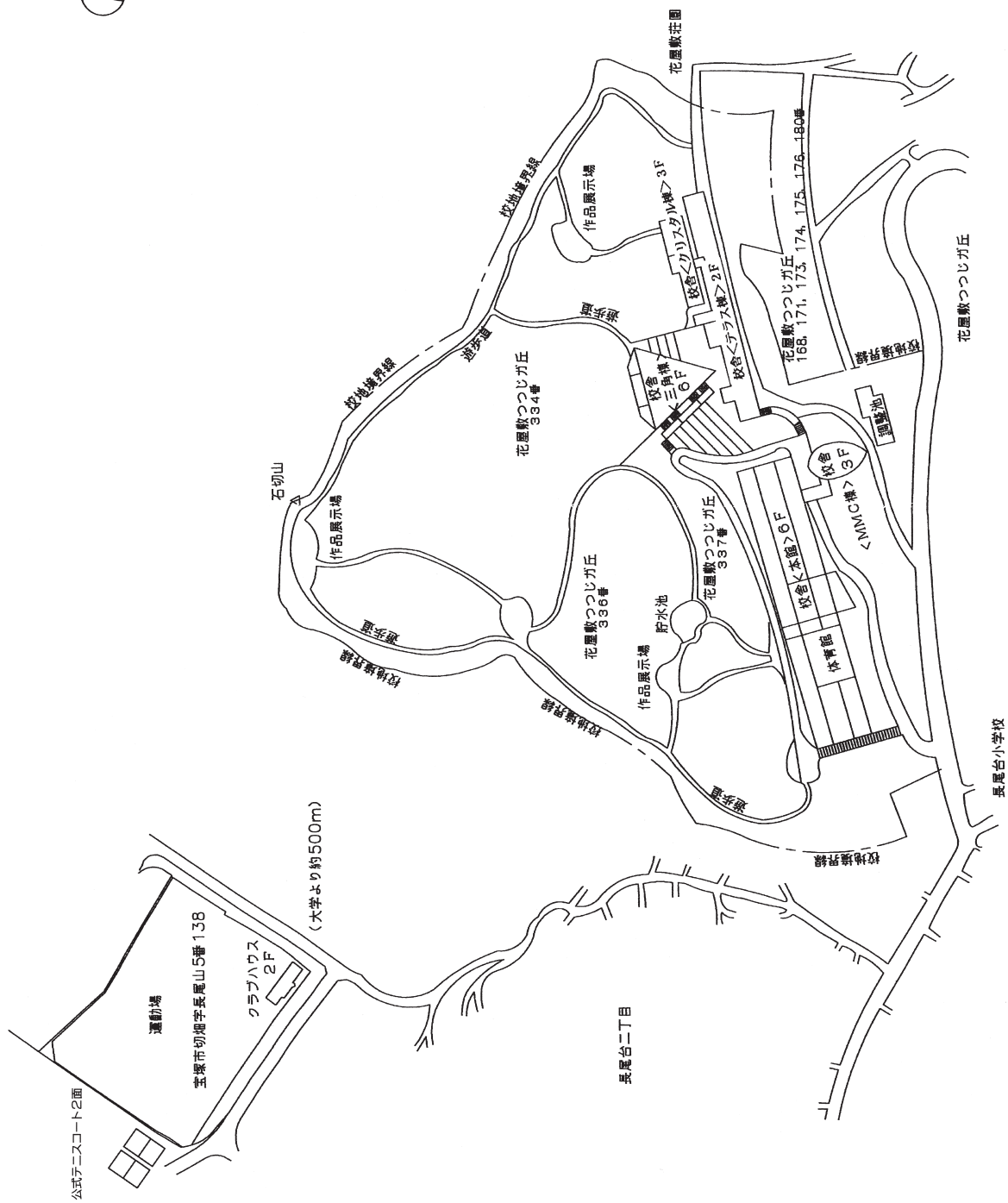
地 番	地 目	面積 (㎡)	備 考
宝塚市花屋敷つつじガ丘334	学校用地	47,477	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘336	学校用地	18,718	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘337	学校用地	28,760	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘173-1	学校用地	22	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘173-2	学校用地	15	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘174	学校用地	439	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘175	学校用地	403	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘176	学校用地	436	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘180	学校用地	36	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘168	学校用地	60	自己所有地
宝塚市花屋敷つつじガ丘171	学校用地	718	自己所有地
	小 計	97,084	
宝塚市切畑字長尾山5番138	運動場用地	16,002	宝塚市借地
大阪市北区芝田一丁目13-16 大阪梅田キャンパス	学校用地	1,285	自己所有地
東京都新宿区西新宿7丁目2番地5 東京新宿キャンパス	校地	911	自己所有地
総 計		115,282	

■校舎面積

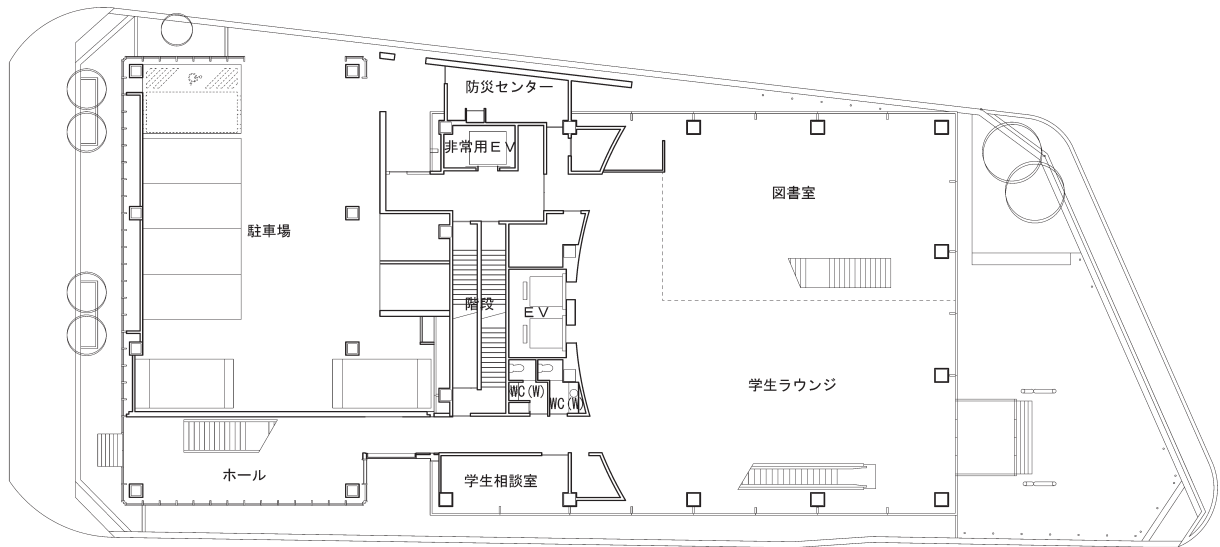
区 分	面 積 (㎡)	室 数
本 館	2 階	19
	3 階	16
	4 階	21
	5 階	28
	6 階	27
	小計	111
円形棟	1 階	3
	2 階	4
	3 階	1
	小計	8
テラス棟	1 階	7
	2 階	14
	小計	21
クリスタル棟	1 階	16
	2 階	10
	3 階	8
	小計	34
三角棟	3(1)階	4
	4(2)階	6
	5(3)階	10
	6(4)階	3
	7(5)階	22
	8(6)階	5
	小計	50
大阪梅田キャンパス	1 階	2
	2 階	1
	3 階	5
	4 階	2
	5 階	2
	6 階	3
	7 階	2
	8 階	5
	9 階	5
	10 階	8
	11 階	5
	12 階	1
	地下1階	1
小計	42	

東京新宿キャンパス	1 階	610.38	1
	2 階	605.72	4
	3 階	592.84	4
	4 階	592.84	5
	5 階	592.84	4
	6 階	592.84	9
	7 階	592.84	4
	8 階	592.84	13
	9 階	592.84	4
	10 階	592.84	5
	地下1階	657.03	駐車場
地下2階	700.55	〃	
小計	7316.40	53	
クラブハウス	1 階	5.44	1
	2 階	101.25	6
	小計	106.69	7
総	計	34,116.76	

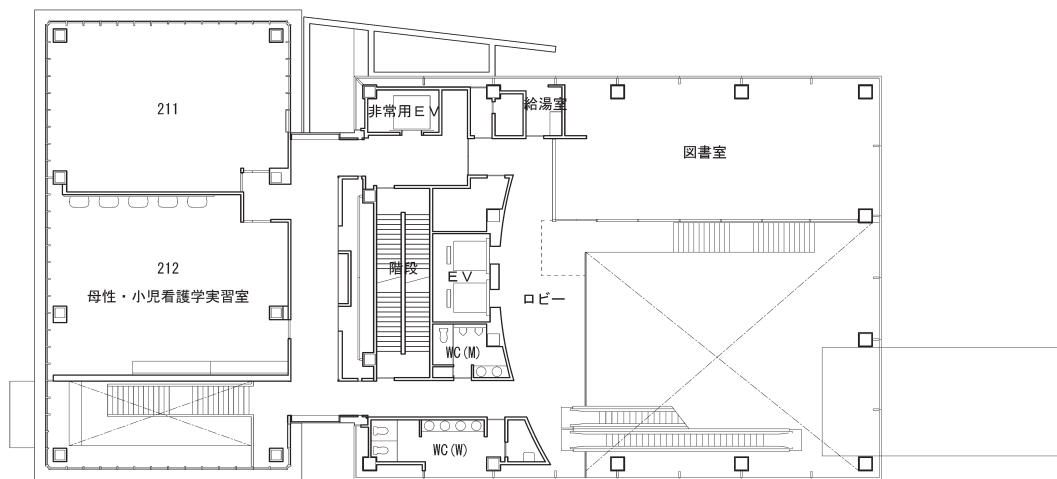
■校地 配置図 宝塚キャンパス



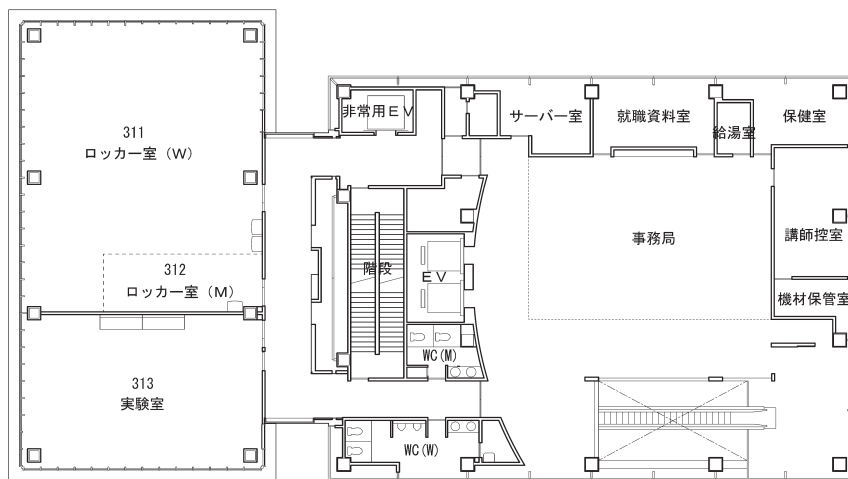
■配置図 大阪梅田キャンパス



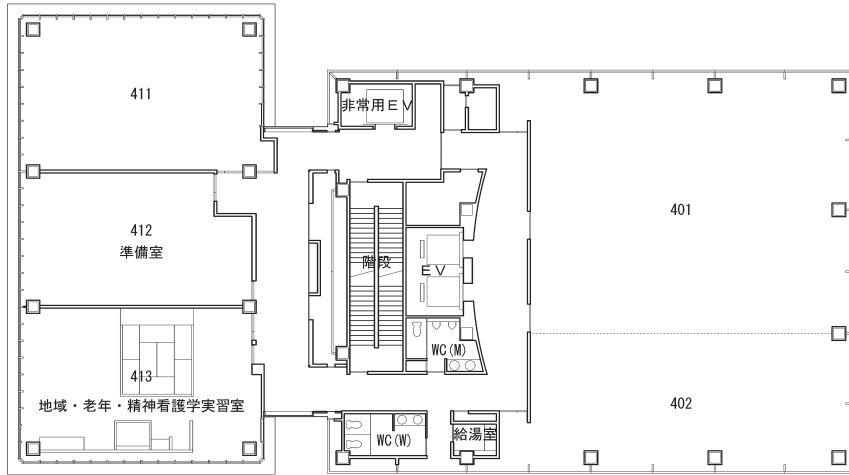
1F 平面図



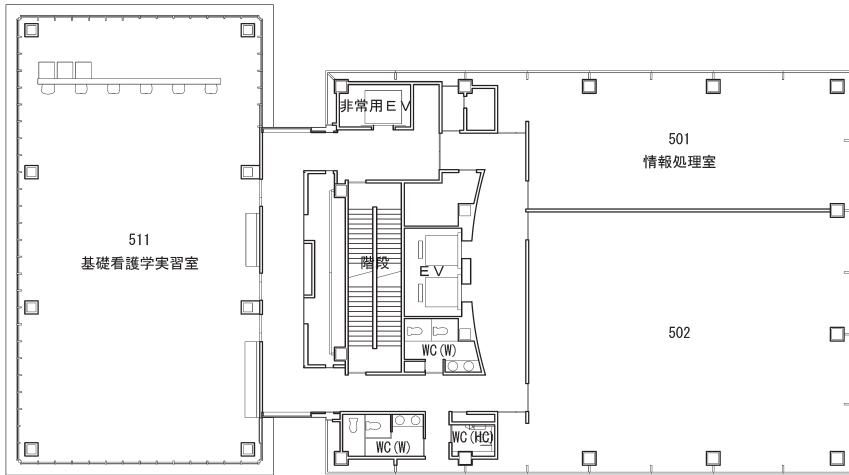
2F 平面図



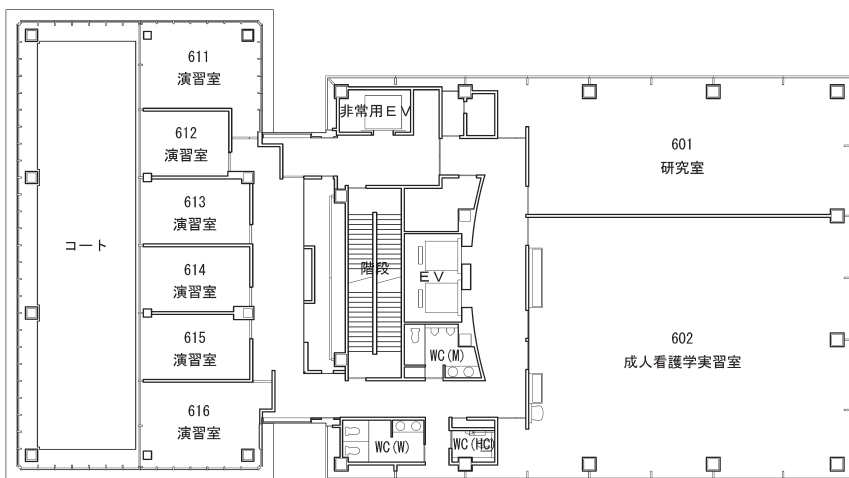
3F 平面図



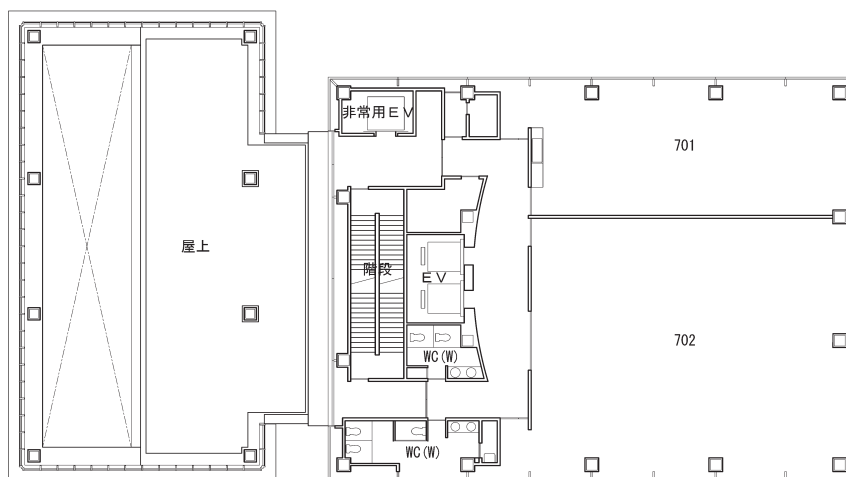
4F 平面図



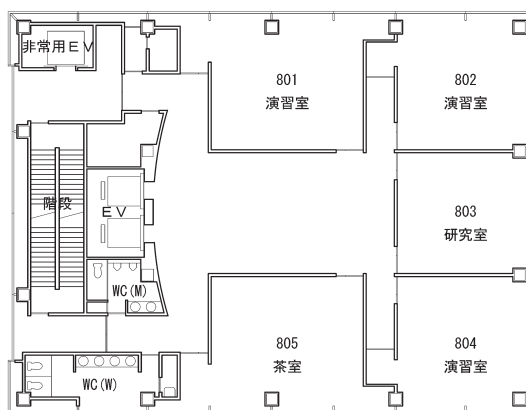
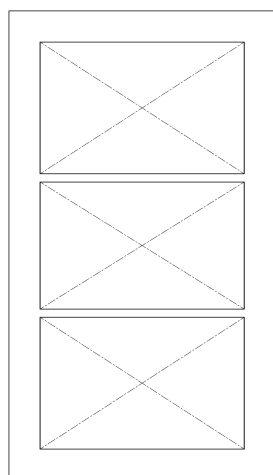
5F 平面図



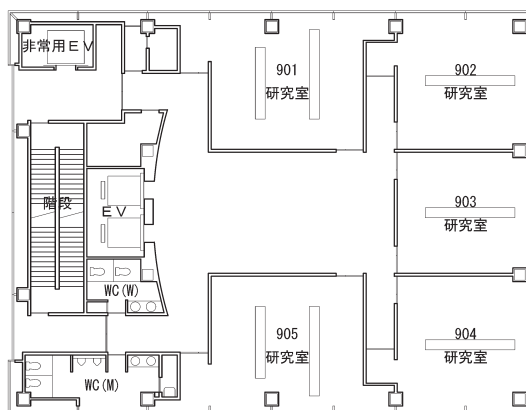
6F 平面図



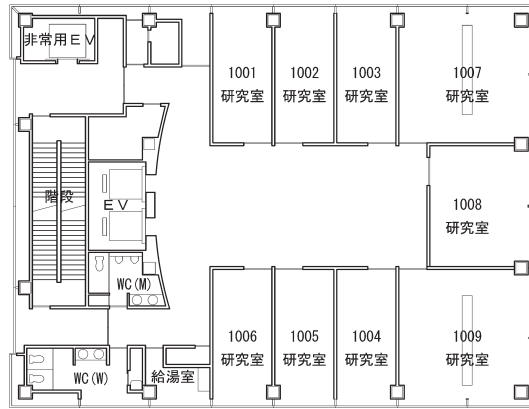
7F 平面图



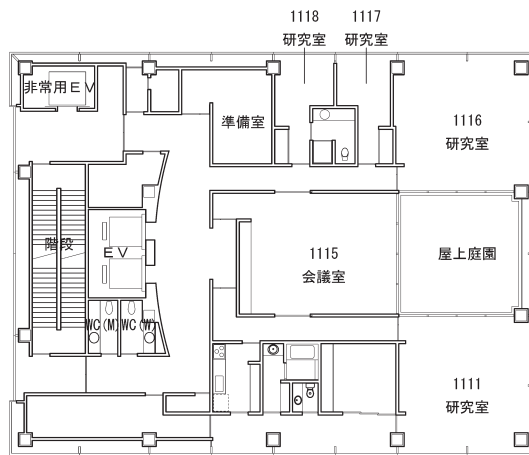
8F 平面图



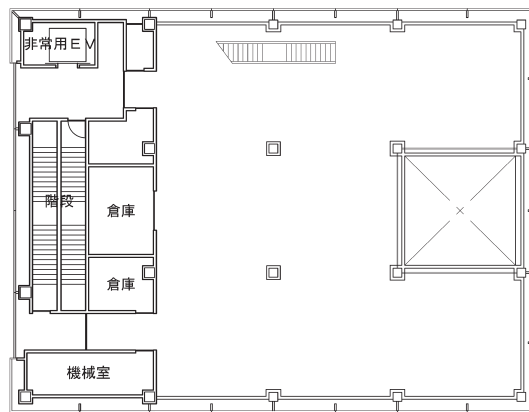
9F 平面图



10F 平面図



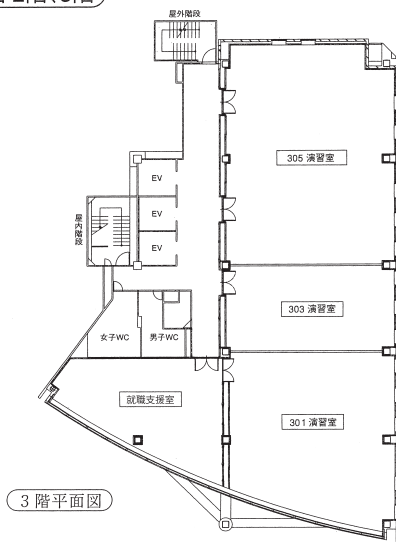
11F 平面図



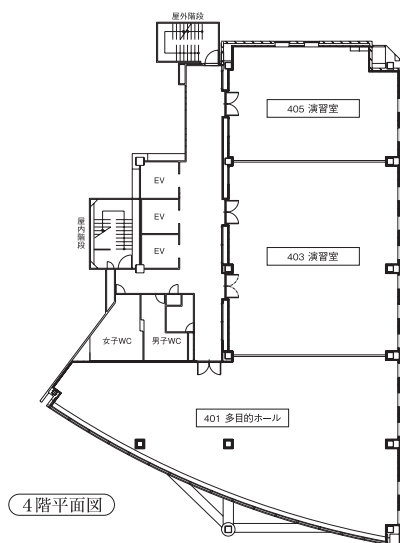
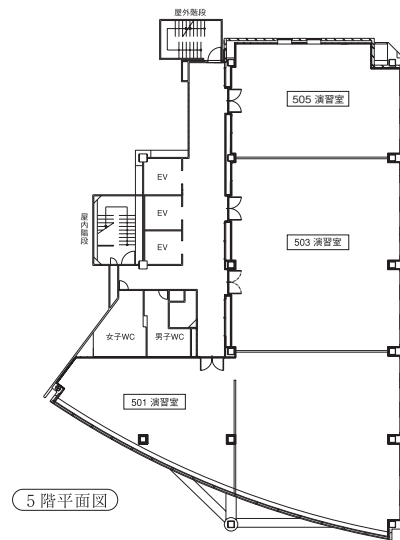
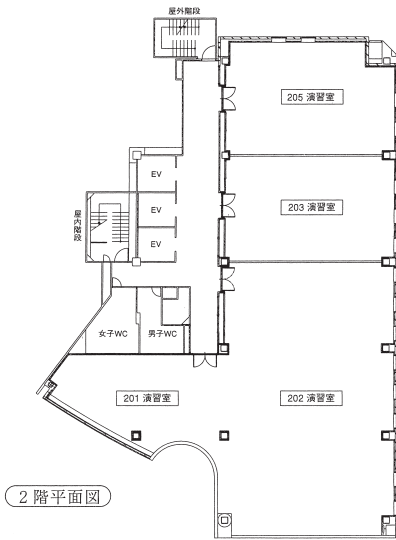
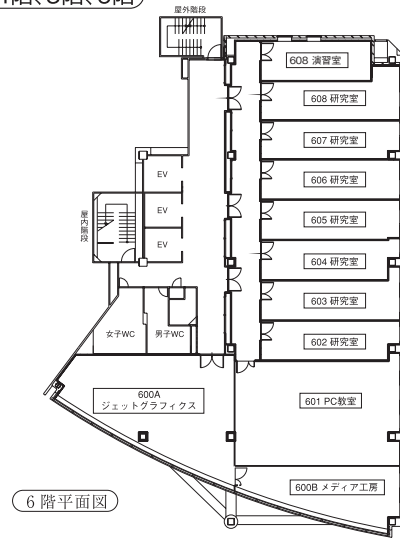
12F 平面図

■配置図 東京新宿キャンパス

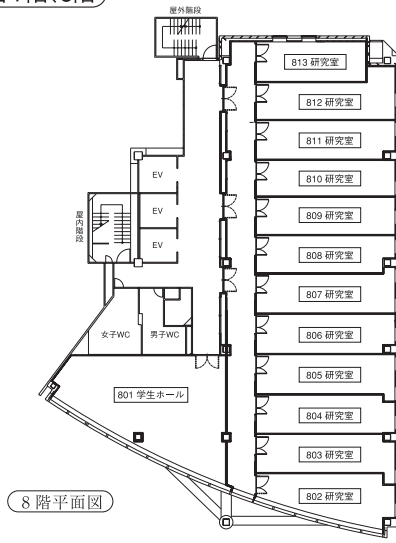
教室配置図 2階、3階



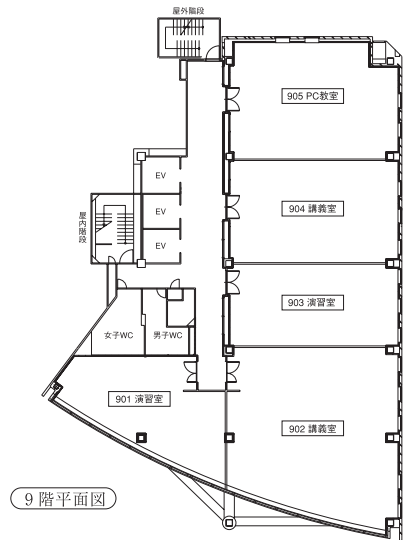
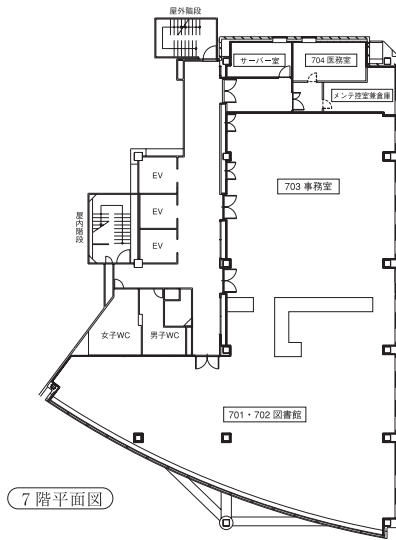
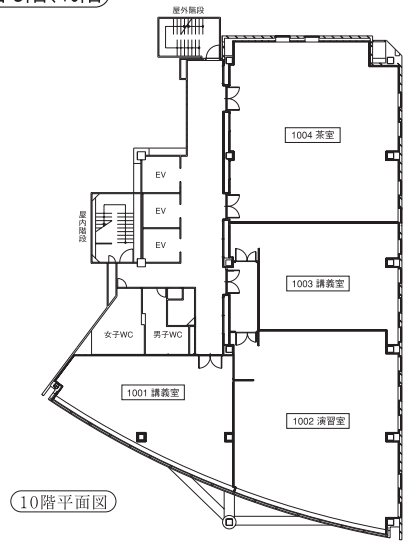
教室配置図 4階、5階、6階



教室配置図 7階、8階



教室配置図 9階、10階



19. 大学自己点検・評価委員会の設置

平成3年の大学設置基準の改正により大学の自己点検と評価が求められるようになり、本学はいち早く準備委員会を発足させ、教授会の審議を経て理事会に上申し、平成5年4月に「自己点検運営委員会規定」および「大学評価審議会規定」を制定した。学校教育法の改正で平成16年からは自己点検と評価および結果の公表が義務化され、各大学は認証評価機関による審査を7年以内ごとに受けることになり、本学は平成20年度に受審し「基準を満たしている」と認定された。大学自身による内部質保証と情報公開は国の施策として強く求められていて、本学としては平成26年度の次回受審への対応とともに不断の大学改革を進めるうえで本委員会の役割は一層重要性を増している。

宝塚大学 自己点検・評価委員会規程

(設置)

第1条 本学に自己点検・評価委員会（以下「委員会」という）を置く

(目的)

第2条 委員会は 教育研究活動及び管理運営について 自己点検を行うことを目的とする

(任務)

第3条 委員会は 本学学部及び大学院における教育課程及び教育活動・研究活動・学生の受入れ・教員組織・施設設備・管理運営・国際交流・社会との連携及び自己点検体制等について絶えず現状を正確に検討・把握し 毎年度適切な項目を設定し 逐次改善するための点検を行い 報告書を作成する

(組織)

第4条 委員会は 次の委員をもって組織する

1. 学長・副学長・学部長及び研究科長
2. 教授会及び研究科委員会で選出された本学教授 若干名
3. 法人事務局長
4. 大学事務局長
5. その他学長が指名した者

2 委員長は 学長とする 委員長に事故あるときは 予め互選された委員長代理がその職務を遂行する

(任期)

第5条 委員の任期は 前条第1項第1号の委員を除き2年とし 再任を妨げない ただし 欠員を生じた場合 後任の委員の任期は前任者の残任期間とする

(措置)

第6条 学長は 委員会の点検の結果について 教授会・研究科委員会及び大学評価審議会に報告するとともに公表する

(細則)

第7条 委員会の運営に関し その他必要な事項は委員会が別に定める

(事務)

第8条 委員会に関する事務は 大学事務局が担当する

(改正)

第9条 この規程は 教授会及び研究科委員会の議を経て改正することができる

附則

この規程は 平成4年10月1日から施行する

平成5年4月1日 改正

平成22年6月2日 改正

宝塚大学 自己点検・評価委員会委員

(平成24年4月現在)

委員長 (学 長)	小清水 漸
委員 (副学 長)	大 村 皓 一
委員 (副学 長)	柴 田 恭 亮
委員 (教 授)	朝 野 富 三
委員 (教 授)	川 村 順 一
委員 (教 授)	竹 内 一 郎
委員 (教 授)	内 山 和 美
委員 (教 授)	吉 川 直 哉
委員 (法人事務局長)	玉 本 隆 一
委員 (大学事務局長)	宮 川 伊佐生

(平成25年4月現在)

委員長 (学 長)	小清水 漸
委員 (副学長兼看護学部長)	柴田 恭亮
委員 (造形芸術学部長兼大学院研究科長)	吉川 直哉
委員 (東京メディア・コンテンツ学部長)	竹内 一郎
委員 (教 授)	朝野 富三
委員 (教 授)	内山 和美
委員 (法人事務局長)	玉本 隆一
委員 (大学事務局長)	宮川 伊佐生

20. 大学評価審議会の設置

宝塚大学 大学評価審議会規程

(設置)

第1条 本学に大学評価審議会（以下「審議会」という）を置く。

(目的)

第2条 審議会は、本学の教育研究水準の向上を図り本学の目的と使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営について第三者評価を行うことを目的とする。

(審議事項)

第3条 審議会の審議事項は、次のとおりとする。

- 一 自己点検・評価に関する大綱の設定
- 二 自己点検に関する報告の検討・評価
- 三 その他自己点検・評価に関し必要な事項

(組織)

第4条 審議会は、理事会で選出された本学以外の学識経験者の委員をもって組織する。

- 2 委員は、18名以内とする。
- 3 審議会には、委員代表を置き委員の互選により定める。委員代表に事故あるときは、あらかじめ委員代表が指名した委員が、職務を代行する。
- 4 必要なときは 委員代表に加えて委員副代表を 置くことができる

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とし再任を妨げない。

但し、欠員を生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員代表は、年1回以上会議を招集しその議長となる。

(措置)

第7条 審議会は、評価の結果を理事会に答申する。

- 2 理事会は、答申により改善を要すると認められる事項について、改善の具体化について適切な措置を講ずる。

(細則)

第8条 審議会の運営に関し、その他必要な事項は審議会が別に定める。

(事務)

第9条 審議会に関する事務は、大学事務局が担当する。

(改正)

第10条 この規程の改正は、理事会の議を経てすることができる。

附 則 この規程は平成4年10月1日から施行する

平成10年1月18日 一部改正

平成11年11月14日 一部改正

平成12年1月15日 一部改正

平成22年4月1日 改正（大学名称変更）

平成24年4月14日 一部改正

平成24年5月26日 一部改正

宝塚大学 大学評価審議会委員

(平成24年5月現在)

(敬称略)

氏 名	経 歴	備考
井 上 通 敏	元 国立大阪病院 院長	
大 塩 民 生	川西市長	
大 橋 太 朗	元 阪急電鉄(株) 代表取締役社長	
栗 田 孝	(財) 大阪腎臓バンク 理事長	
田 淵 晉 也	宝塚大学名誉教授	
碩 省 三	弁護士 御堂筋法律事務所	
玉 越 良 介	元 (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役会長	
出 口 正 作	元 毎日新聞社 取締役副社長大阪本社代表	
西 村 嘉 郎	元 朝日放送(株) 代表取締役社長	
野 村 正 朗	元 りそな銀行 副頭取	
日 笠 修 宏	朝日ビルディング(株)社外・常勤監査役	
松 島 裕 治	毎日放送代表取締役専務取締役	
領 木 新一郎	元 大阪瓦斯(株) 代表取締役社長	

(平成25年6月8日現在)

(敬称略)

氏 名	経 歴	備考
大 橋 太 朗	元 阪急電鉄(株) 代表取締役社長	委員代表
田 淵 晉 也	大阪府立大学名誉教授	
井 上 通 敏	大阪薬科大学理事長	
大 塩 民 生	川西市長	
栗 田 孝	(財) 大阪腎臓バンク 理事長	
碩 省 三	弁護士 御堂筋法律事務所	
玉 越 良 介	三菱東京 UFJ 銀行 特別顧問	
出 口 正 作	元 毎日新聞社 取締役副社長大阪本社代表	
西 村 嘉 郎	元 朝日放送(株) 代表取締役社長	
野 村 正 朗	(財) りそなアジア・オセアニア財団 理事長	
日 笠 修 宏	朝日ビルディング (株) 常勤監査役	
松 島 裕 治	毎日放送代表取締役専務取締役	
領 木 新一郎	元 大阪瓦斯(株) 代表取締役社長	

平成24年度の自己点検・評価委員会は、本学の教育研究活動および管理運営について自己点検を行い、その結果を下記のようにまとめましたので、ご報告いたします。

1. 本学は、建学の精神「芸術と科学の協調」に基づき、「人間の『生きる力』を支える、心に働きかける芸術と看護教育」を教育理念として掲げ、宝塚・新宿・梅田の3キャンパスで造形芸術、メディア・コンテンツ、看護という3つの分野で教育を行っている。開学から25年、3キャンパス・3学部個性を保ちつつ、一方で全学的な統一性・整合性をどう図っていくのか、それを本学の特色にどうつなげていくのかが問われている。とりわけカリキュラムの構成、授業の相互活用等の工夫を一層進めたい。

2. 造形芸術学部と東京メディア・コンテンツ学部において学生数の急激な減少が起きており、歯止めがかかっている。募集対策の強化とともに学科名の変更とカリキュラムの見直しおよび入学定員の削減（いずれも造形芸術学部）、大学院においても専門職大学院の廃止と教員体制の強化等、改革に着手した。しかしながら中長期的な方向性と将来像がまだ見えておらず、教職員の力を結集できる体制づくりが必要だと認識で一致した。

3. 教学の改革には授業内容の質的向上が不可欠であることは言うまでもなく、不断の点検と見直しが求められている。本学は平成22年度から学生による授業評価アンケートの実施方法について大幅な見直しを行い、客観性・透明性を高めた。アンケート結果の教員へのフィードバック、それに基づく授業の改善、カリキュラムの見直し、教員配置の適正化を進めるとともに、客観性のある業績評価と連動させたこれら改革に向けた本学らしい手法・システムの開発が必要になっている。

4. 教育と研究を向上させるには大学紀要（ARTES）の質と量の水準が求められる。本学の「紀要編集に関する内規」によれば、専任教員については「教授は2年に1回、准教授・講師は毎年投稿すること」を原則としている。しかし、過去の実績を見ると、内規通りになっていない実態がある。文部科学省の科学研究費の採用実績が大学評価に大きく関わっている点からも、その基盤となる紀要の活性化を図りたい。

5. 地域社会との連携および貢献が大学評価の柱の一つになっている。平成22年度から取り組みが強化され、平成23年1年間だけでも69件のほり、きめの細かい事業の展開が行われるようになった。本学の特色に育ちつつあり、今後この方向を一層進めていきたい。

6. 社会に役立つ人材の育成が本学に課せられた責務である以上、就職に向けた学生のモチベーションの向上と支援がきわめて重要である。就職実績は大学の社会的評価にもつながっている。本学は平成20年度から就職ガイダンス、就職活動セミナー、インターンシップへの取り組みが強化され、さらに学生のグルーピングによる就活対策「チームT」の発足、ハローワークとの連携、資格取得講座の開催等が順次実施されてきた。これら諸活動を一層促進させていくとともに、平成25年度に完成年度を迎える看護学部は国家試験への対応が強く求められており、早急に準備を始めたい。

7. 国際化の中で各大学とも積極的に外国人学生の受け入れを進めている。本学は現時点（平成24年5月末）で学部・大学院に37名の外国人学生が在籍し、全学生の2・6％になっている。今後さらに増えることが予想され、学内規程の整備、専門担当者の配置、生活・学業への支援体制の構築が必要な時期に来ている。

8. 平成21年3月に財団法人高等教育評価機構から大学評価基準を満たしているとの認定を受けた。平成26年に次回受審が予定されているが、前回認定の際に、いくつかの指摘を受けている。教職員の年齢構成のアンバランスと配置の是正、また資質向上への取り組みと教育研究支援のための事務体制について「一層の強化」を求められた。FD・SD活動は専門業者による教職員対象のセミナーの実施等により一定の前進を見せている。若手教職員の登用、人材育成にも着手したが、事務体制と関連諸規程の整備とあわせ、さらなる取り組みが必要だと認識を持っている。

以上

平成24年度自己点検・評価委員会

委員長：小清水 漸（学長）

委員：大村 皓一（副学長）

柴田 恭亮（副学長・看護学部長）

吉川 直哉（造形芸術学部長）

川村 順一（東京メディア・コンテンツ学部長）

朝野 富三（造形芸術学部教授）

竹内 一郎（東京メディア・コンテンツ学部教授）

内山 和美（看護学部教授）

玉本 隆一（法人事務局長）

宮川伊佐生（大学事務局長）

宝塚大学 自己点検・評価委員会
委員長 小清水 漸

宝塚大学自己点検・評価委員会は、平成25年1月22日（火）に第1回を、4月11日（木）に第2回の会合をいずれも宝塚キャンパスで開催し、本学の教育研究活動および管理運営について点検し、問題点ならびに改善点等について話し合いました。また、受審予定の日本高等教育評価機構が開催した平成24年7月の「評価充実協議会」および同25年4月の「大学評価セミナー」に参加しました。以下、ご報告します。

第1回委員会では、平成27年度に受審を予定している日本高等教育評価機構による次回認証評価に向けた全体状況について認識を共有し、基礎データの収集等は各キャンパスが責任をもって取り組むこと、学内の諸課題について点検を進めることが話し合われました。また、平成25年度のアクレディテーションの作成の日程および担当分担等を決めました。

第2回委員会では、前回認証評価で受けた指摘事項（改善意見・参考意見）について項目ごとに点検を行いました。教育体制および環境の整備、学生サービスの向上、大学院の整理、情報公開、専任教員の年齢のアンバランス是正等が進んでいることを確認しました。一方で、指摘された事項の未達項目もまだ残っており、これらの達成と、大学の認証評価機関が求めている新基準を満たすことにとどまらず、経営の安定と教育の質を上げるために下記の項目について、体制を一層強化して取り組むことを決めました。

【対応を急ぐべき主な項目】

- ・使命・目的等の明文化
看護学部の設定とそれに伴う大学の使命・目的の修正や整合性について
- ・大学の個性と特色の表現
2分野・3キャンパスの個性を保ちつつ、全学的な特色・役割のわかりやすい明文化
- ・中長期経営計画の策定
将来ビジョンづくりと、それに基づく中長期的な経営安定化計画の作成
- ・学生数の確保の方策
宝塚と新宿キャンパスでの定員割れの分析とその歯止め策、学生募集の方法の改革などについて
- ・教育方法改善の体制づくり
宝塚と新宿キャンパスの学生の基礎学力向上とキャリア教育の充実
- ・学生の意見汲み上げの仕組みづくり
学生満足度を向上させるための体制づくり
- ・教養教育の強化とその体制づくり
教養教育の位置づけの再確認とカリキュラムの見直し
- ・教員の採用・昇任の基準づくり
給与表の作成と客観性のある業績評価方法の確立
- ・情報公開の方向性
財務情報等の公開について
- ・業務執行体制の整備と学長のリーダーシップ
権限の分散と責任の明確化および学長のリーダーシップの支援体制づくり
- ・教職員の意見汲み上げと能力開発
FDとSD活動の一層の充実
- ・外部資金導入の方策
経営基盤強化のための補助金、寄付金および科学教育研究費等の獲得

以上

平成25年度 自己点検・評価委員会

委員長：小清水 漸（学長）

委員：柴田 恭亮（副学長・看護学部長）

吉川 直哉（造形芸術学部長）

竹内 一郎（東京メディア・コンテンツ学部長）

朝野 富三（造形芸術学部教授）

内山 和美（看護学部教授）

玉本 隆一（法人事務局長）

宮川伊佐生（大学事務局長）

宝塚大学 大学評価審議会答申

平成22年7月24日

学校法人 関西女子学園
理事長 崎 田 喜美枝 殿

宝塚大学
学 長 西 村 武 殿

大学評価審議会
委員代表 奥 田 進

平成22年7月3日に行われた大学評価審議会の概要を下記のようにまとめましたので報告いたします。

- 1 新しく再出発した本大学の建学の精神と大学の基本理念を「アルスの大学」として世間にアピールする姿勢には満腔の賛意を表したい。
- 2 大学認証評価報告書で指摘された「改善すべき事項」および「参考意見」の要点を的確にまとめられた上迅速に対応策が講じられつつある努力は敬服に値する
- 3 大学の経営再構築第一期計画は大学の危機的状況を忌憚なくクローズアップした上いかにして立ち直るべきかが理路整然と纏め上げられている。
- 4 上記第3項の経営再構築第一期～第三期計画が単なる理想像に終わってしまわないよう大学人全員のモチベーションを高め、各個人が滅私的積極的な努力を惜しまないことが必須である。なお、これまで初代理事長の一極集中的経営方針を看過容認あるいは同調してきた一部要人の真摯な反省に裏打ちされた再構築案であって欲しい。
- 5 大学評価審議会の各委員から以下のような4項目に亘る広範囲な提言があった。なお、大学側からはこれらの提言に沿ったある程度の努力が払われていることの明示があったが更なる推進が期待される。
 - 5-1 学生のボランティア精神の昂揚は人間的成長の上にも極めて大切である。この点に関連して地域との連携をさらに強めていって欲しい。
 - 5-2 卒業生の活動状況をクローズアップして在学生にも知悉させる努力が大切である。
 - 5-3 学生の満足度（Student Satisfaction）を明確に標榜することは重要である。特に看護学部では国家試験の合格率を高める努力が要求される。
 - 5-4 特色ある大学として世間から刮目されるためには、学内・学外活動も含め注意を引く企画と、その実績などを外部に知らしめる広報活動が重要。マスコミへの情報活動を積極的に行うことは極めて効果が大きい。なおこれらのために良い材料・企画を編み出していく努力が欲しい。

宝塚大学 大学評価審議会答申

平成23年6月17日

学校法人 関西女子学園
理事長 崎 田 喜美枝 殿

宝塚大学
学 長 西 村 武 殿

大学評価審議会
委員代表 奥 田 進

平成23年6月11日に行われた大学評価審議会の概要を下記のようにまとめましたので報告いたします。

- 1 昨年度にスタートした3年間に亘る経営構築第1期計画の本年度修正計画は、よく纏められているが若干総花的の嫌いがある。大学存亡の危機を打開するための緩急順序、重要度、達成度目標などをさらに明確にしたい。
- 2 平成10年度ごろから、学生の応募数、確保数が逡減ではなく、激減という異常的な変動があった。この原因を掘り下げると同時に、執行部の十分な認識と深い反省が求められる。
- 3 産官学の連携事業では目新しい多くの実績をあげており、企業体、地方官庁のご協力の下、学生の自発的、積極的参加で、大学の活性化と学生のスキルアップに資していることは高く評価したい。
- 4 教育内容では、受講科目の思い切った全選択制を取り入れ、入学以後のコース変更、学生個人別の指導アドバイスをするなど地道な努力の積み重ねで、学生の勉強意欲や学内生活におけるモチベーションアップの兆しが見られるのは大変貴重である。
- 5 大学評価審議会の委員から以下の諸項目に関して提言があり、大学当局と意見交換、討論があった。
 - 5-1 教職員の待遇改善
 - 5-2 若手教員の確保と育成
 - 5-3 公開講座、公演の実施
 - 5-4 卒業生あるいは地域住民と大学との結びつきの強化
 - 5-5 通信教育の利点
 - 5-6 卒業生の就職率の向上これらの内容を大学運営に生かしていくことが望まれる。

以 上

宝塚大学 大学評価審議会答申

平成24年7月17日

学校法人 関西女子学園
理事長 崎田 喜美枝 殿

宝塚大学
学 長 小清水 漸 殿

大 学 評 価 審 議 会
委員代表 大橋 太朗

平成24年6月9日に行われた大学評価審議会の概要を下記のようにまとめましたので報告いたします。

1. 平成22年度より、学内外の困難な状況のもとで、看護学部新設と3地域・3学部構成、および、学科縮小改組など抜本的経営再構築計画が実施されているが、効果の視点からすると、成果の具体的実現にむけてさらなる努力を期待する。
2. 平成24年度は創立25周年を迎え、各種記念事業や同窓会組織の確立がなされたのはよろこばしいところであるが、これを、教育充実と学外への発展貢献を高めるチャンスととらえられたい。一方、経年に伴う無駄、硬直が顕在化する時期でもあることを、真摯に顧みるべき時でもあろう。
3. 芸術系2学部、殊に「造形芸術学部」の学生応募者数・入学者数減少について
 - 3-1 減少は、看護学部増設に伴う大学改組による固有の要因によるだけでなく、18歳人口の低減と経済不安、さらには、芸術系大学に全国的に生じている事態であり、改善は一朝にしてなされるものではないが、学内充実、対外宣伝のさらなる促進とともに、他大学との比較等の客観的分析をおこない、財政基盤の検討をあわせて、現実的将来像の構築が必要である。
 - 3-2 造形芸術学部の入学定員を平成25年度より150名に削減する変更計画は、現実的に時宜を得たものであり、それにとともなう学科名変更、および、教育・教員組織としての分野別「研究室」制度、「独立工房」の設置は教育機会の多様化という面から評価できるが、それらがカリキュラム等に具体的に反映されることを期待する。
 - 3-3 これら経営再構築計画の修正は、対処的方策にとどめることなく、学生数削減と学科縮小による教員数の適正化および組織の再編と、教職員の待遇是正、懸案の教員の年齢構成適正・若年化をとともなう、財政基盤健全化に通じる実践に直結させることが必須である。
4. 来年の平成25年度は、平成22年度にはじまる経営再構築計画の枢軸を担った看護学部の完成年度であり、日本高等教育評価機構の次回認証評価申請を翌年にひかえた年である。

看護学部については、人事配置等の設置条件をみatusのは当然のことながら、社会の動向を勘案するとき、設備、施設、教育の一層の充実にも勉め、さらには、国家試験支援、就職支援など学生支援に、組織として十分配慮されることを期待する。

認証評価については、平成22年度再構築計画が成功裏に実施・運営されることが必須であり、また、前回平成20年度の認証評価において指摘された項目のうち、未達成の項目があれば早急に是正しておかなければならない。
5. 全学的に学生の生活支援、就職支援を組織的に、かつ、教職員レベルにおいても積極的に試みられているのは十分評価できるが、これらは恒常的に地道な営為があっはじめて効果を発揮するものであるから、一喜一憂することなく継続することが望ましい。
6. 社会人のリフレッシュ、資格の底上げ、あるいは、コンピュータ技術等の学習機会の提供など、大学のもつ潜在力を、学外、地域社会に提供することが、大学の繁栄に通底することを鑑み、その仕組みの検討をされたい。

総評

「学内自己点検・自己評価」が示しているように、宝塚大学の特色は、宝塚キャンパス「造形芸術学部」、東京・新宿キャンパス「東京メディア・コンテンツ学部」、大阪・梅田キャンパス「看護学部」の地域的に首都、副首都を擁する鼎立構造と、芸術と看護という従来異種とされた分野を、「芸術と科学の協調」という建学の精神に基づき融合する、わが国では類を見ない高等教育組織を構築していることである。

この特色を活かすために、カリキュラムの内容・構成、授業の相互利用、教職員間の交流が行われているが、この特色をさらに活性化すべく、現実的な中・長期的な展望を鮮明にする努力が望まれる。

創立25周年を機に「“反転角”-意思をもって反転する」のテーマ通り頑張り続けてほしい。

以上

宝塚大学 大学評価審議会答申 (平成25年度)

平成25年7月11日

学校法人 関西女子学園
理事長 崎田 喜美枝 殿

宝塚大学
学長 小清水 漸 殿

大学評価審議会
委員代表 大橋 太朗

平成25年6月8日に行われた大学評価審議会の概要を下記のようにまとめましたので報告いたします。

1. 平成25年度の宝塚大学の位置は、大学教育・経営基盤強化のため、平成22年度になされた、大学名変更、看護学部新設、宝塚キャンパス芸術系2学部4学科を1学部2学科に改組する大改革の完成年度であり、改革の成否を検討し、つぎのステップへ向う年である。
この年にあたり、さらに、宝塚・造形芸術学部では、学生入学定員を150名に減員し、学科名変更等を実施した。改革の個別の是非、成果の判定はなおし難いところであるが、当大学評価審議会では、この改革に関して以下の指摘がなされた。
 - 1-1 新設看護学部は初年度から十分な定員を確保し、本年度は第一回卒業生を送り出す年であるが、看護師資格国家試験の洗礼を受ける年でもある。創設学部が一般的にもつ不利な条件を克服され、十全の成果をあげられることを期待し、さらには、看護師、保健師のみならず、看護学部教育が育成する人材のいっそうの輩出を希望するものである。
 - 1-2 宝塚・造形芸術学部の改組については、経営上、改革は、増強より縮小に多大の困難をとまなうものである。ことに分野の統廃合と要員の縮小・整理の達成である。これらに対して、積年懸案の教員年齢構成是正と人員削減については、平成21年度教員数の55パーセントまで縮小を実現されたのには、多大の犠牲と苦痛をはらわれたのちの成果であると敬服する。ただし、この改革の方向は、今後は教員の人数とともに教員の質（能力、資格、熱意）にも配慮されることを期待する。
 - 1-3 宝塚—造形芸術学部・東京—メディア・コンテンツ学部の芸術系2学部の新教育体制についても、将来の豊かな成果が期待できる改革を指向されている。学外第三者委員会としては、改革の教育内容活性化の意図は十分に評価するものであるが、大学制度的には未だ若干不分明なところがあるとおもわれる。第一に、改革の主眼となる、入学時から全学生が所属するとする「研究室」制度のもつ、教育・教員組織と学生修学制度の両義性である。それは「研究室」制度と学生の単位取得科目で構成されるカリキュラムとの関連であり、東京・メディア・コンテンツ学部の「研究室」制度と「領域」との関連である。これらを含む新規の「研究室」制度の明確な定義や履修義務については、学生の修学指針である「学生便覧」や科目内容「シラバス」からはうかがうことができない。第二に、カリキュラム改革として新設された「宝塚・造形芸術学部」1科目、「東京メディア・コンテンツ学部」3科目の履修上の扱いである。これを「専門科目」としているが、学生便覧記載の「教養科目 20単位」に算定できる内容もある。学生便覧では、卒業要件として「教養科目」「外国語科目」「専門科目」として配分記載しているが、周知のように、平成19年の大学設置基準大綱化以来、それらの区分は厳密ではなくなっている。カリキュラム構成にあたっては、科目内容のみならず、学生履修に直接関係する単位等の制度的考慮をなすべきであろう。なお、そのような見地に立つと、宝塚・造形芸術学部と東京・メディア・コンテンツ学部では、教養教育科目・専門科目のカリキュラムにはなお整理の可能性と、並立する芸術系2学部間に整合性をもたせる必要があるようにおもわれる。
2. 学生志願者数・入学者数の減少は、大学名変更等の本学固有の要因によるだけではなく、全国的に芸術系大学に生じている事態であるが、改組以来4年目にいたっても改善の兆しはなお顕著には見られない。宝塚・造形芸術学部では、25年度では、前年比1名増を改革以来はじめて達成したのはよろこばしいところである。しかし、下降傾向にあった東京・メディア・コンテンツ学部では、前年比20パーセントの減少を示している。大学3学部中2学部が、学生定員充足については、憂慮すべき事態にあるといっても過言ではない。両キャンパスにおいて、この事態にたいし鋭意工夫と尽力をはらわれていることはじゅうぶん理解するものではあるが、経営・財政上の展望のもとで、定員充足率70パーセントを最低ラインとするような、目標設定等の検討の必要があるとおもわれる。
3. 現代社会は、「科学を本来の姿に再建することが求められる」エネルギー文明社会であるとともに、わが国の高齢化・少子化問題に端的に現れているような、生体文明社会に移行しつつある。こうした現代社会にふさわしい大学教育が、「芸術と科学の協調」をわが国で唯一建学の精神とする宝塚大学の高等専門教育であると信じる。この精神を特性として掲げ、ひるむことのない具体的な教育活動の遂行を希望する。すなわち、他大学ではなし得ない、

「芸術学部のある看護学部教育」であり「看護学部のある芸術学部教育」の積極的遂行である。

4. 一方、現代日本の少子化傾向のもとでは、大学進学者数は5年後の2018年の65万人から、2031年ではその73パーセントの48万人に減少するとの予想もある。その20年後の展望のもとで、教育活動充実とさらなる改革を模索し検討していただきたい。たとえば、そのような事態にある時、一大学が、芸術系2学部を擁する社会的意義の明確な確立である。そのような展望も加味して、現在すすめられている宝塚・造形芸術学部と東京・メディア・コンテンツ学部の改革をなされることを期待する。
5. 宝塚大学の構成の特色は、地域的に兵庫・宝塚キャンパス「造形芸術学部」と東京・新宿キャンパス「東京メディア・コンテンツ学部」、大阪・梅田キャンパス「看護学部」の首都、副首都を擁する鼎立構造である。この遠隔地にある3学部を統合したうえに成立する、ひとつの大学組織であることの特色と意味をよく自覚され活用されることを期待する。
6. 以上は、平成27年度の日本高等教育評価機構次回認定評価を視野においた指摘である。

21. 大学機関別認証評価

21-1 認証評価結果

【判定】

評価の結果、宝塚造形芸術大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

【認定期間】

平成20（2008）年4月1日から平成27（2015）年3月31日までとする。

【条件】

特になし。

21-2 総評

建学の精神・大学の基本理念は大学設置の趣旨を基に定められており、大学の使命・目的も学則条文に定められている。それらの内容は、大学ホームページ及び自己点検・評価報告書、学生便覧、大学案内などの各種印刷物により公表され、学内外に周知されている。

教育研究の基本的な組織は、宝塚及び東京新宿キャンパスに学部及び大学院、大阪梅田キャンパスに大学院及び専門職大学院が設置され相互の連携が図られている。教養教育の組織的措置に課題は残るが、学内意思決定は、学内協議組織と教授会の連携に依っている。

学部、大学院及び専門職大学院の教育目的は、大学学則、大学院及び専門職大学院学則に定められ、各教育課程や教育方法などに反映されている。教育課程は、学部及び大学院の教育目的に沿って編成され、教養教育について課題が残るものの適切に設定されている。

アドミッションポリシーは、建学の精神に基づき運用されているが、明文化が望まれる。学習支援体制、学生サービス体制、就職・進学支援などは、教員の個別対応や学生部により概ね適切に行われている。今後に向けて、組織的な対応体制の整備が課題となっている。

専任教員は、大学設置基準を充足しているが、年齢構成などへの配慮が求められる。教員採用基準などは規程に基づき運用されている。教員の教育担当時間は概ね適切であり、教育研究活動の支援体制は整えられている。教育研究活動の活性化に向けた取組みも評価できる。

職員事務組織は法人の管理運営規程に基づいて運営されている。年齢構成のバランスや配置については、今後、中長期的な視点に基づく計画が求められる。また、職員の資質向上のための取組み及び教育研究支援のための事務体制については、一層の強化が望まれる。

管理運営体制は、大学及び設置者の責任者で構成する「管理運営協議会」を中心として適切に運営されており、当該協議会を通じて管理部門と教学部門の連携が行われている。大学の自己点検・評価活動に早くから着手し、評価組織を整えていることは評価できる。

学生生徒等納付金収入による一定の財政基盤を有し、支出バランスに考慮した運営がなされている。会計処理は会計基準及び経理規程に基づいて適切に行われており、財務情報は閲覧体制を整えている。ホームページでの財務諸表公開や外部資金導入に課題が残っている。

校地及び校舎面積は大学設置基準を充足している。教育研究目的を達成するための施設設備は、3つのキャンパスがそれぞれの立地条件の中で整備され運営されている。また、「サイバーキャンパス」というキャンパス相互の連携は、大学の特色として評価できる。

宝塚キャンパスを中心として各キャンパスにおいて、地域社会との連携・協力に実績を有し、施設開放や公開講座などによる物的・人的資源を社会提供する努力がなされている。地元自治体や他大学との協力関係の構築、地域社会との協力事業などに実績をあげている。

組織倫理は就業規則を基本に諸規程も概ね制定され、危機管理体制も整備されている。また、大学の教育研究成果は大学紀要などで発表され、大学情報はホームページに掲載されるなど広報活動は適切に行われている。更に、諸規程の見直しと広報体制の強化が望まれる。

総じて、大学の建学の精神を基軸として、教育研究にかかわる制度と運営において大学の特色と独自性が発揮されていると評価できる。しかし、経営主導型の大学運営において、教学の自主性・自律性に求められるものが残る。建学の精神に基づく今日的な大学の使命・目的の点検を行い、複合した教育組織の全体構造の整理が望まれる。改善を要する点及び参考意見などは、大学の教育研究の質の改善と向上及び発展を図るために参考とされたい。

21-3 基準ごとの評価

基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

【判定】

基準 1 を満たしている。

【判定理由】

建学の精神・大学の基本理念は、大学の創立時に掲げられた設置趣旨に示されており、その内容は「芸術と科学の協調」という文言に集約されている。この建学の精神・大学の基本理念は、大学ホームページ、「UNIVERSITY ACCREDITATION（大学自己点検評価報告書）」、学生便覧、大学案内などにより学内外に示されている。

大学院、専門職大学院、学部・学科構成において、段階的に発展した歴史を持つ大学にとって、創立時に定めた大学の建学の精神・大学の基本理念に基づく使命・目的の有効性については、常に点検作業が必要である。教育機関として多様な形態を有する現段階において、創設時の建学の精神・大学の基本理念を確認するとともに、今日の教育組織に即した大学の使命・目的について、その全体関係を総合的に整理することが求められている。

建学の精神・大学の基本理念を踏まえた大学の使命・目的は、大学学則及び大学院学則に明確に定められている。それらの内容は大学ホームページをはじめとして、大学案内などのさまざまな刊行物を通じて学内外に周知されている。

【参考意見】

- ・段階的発展により複合的な構成を持つ現在の教育組織に対して、建学の精神に基づいた大学の使命・目的の再点検を行うとともに、総合的な整理が行われることが望まれる。

基準 2. 教育研究組織

【判定】

基準 2 を満たしている。

【判定理由】

学部は、造形学部、メディア・コンテンツ学部、東京メディア・コンテンツ学部の3学部で構成されている。教授会は専任教授のみで構成し、准教授、専任講師は、議決権のないオブザーバーとして参加、全学部を1教授会として運営している。東京メディア・コンテンツ学部は、学年進行中であり、宝塚キャンパスのメディア・コンテンツ学部とは別構成の教学諸組織を整備中である。大学院は、宝塚キャンパスにメディア・造形研究科として修士課程及び博士課程（後期）を設置し、東京新宿キャンパスにサテライトとして修士課程及び博士課程（後期）を、大阪梅田キャンパスにサテライトとして修士課程を設置している。大学院研究科長のもとに大学院研究科委員会が置かれ、学部教授会の後に開催している。必要に応じて学部のみ担当の教員も参加した拡大大学院研究科委員会として運営、教員全体に学部、大学院を通じた教育研究活動についての認識を共有できるよう配慮している。大阪梅田キャンパスには、専門職大学院デザイン経営研究科を設置、専任教員及び兼任教員からなるデザイン経営研究科委員会を構成し、運営している。宝塚、大阪梅田、東京新宿の3キャンパスを回線で結び、相互に授業を提供する「サイバーキャンパス」を実施し、遠隔地にあるキャンパス間の連携統合を図る先進的取組を行っている。

教養教育は、組織的措置は取っていないが、基礎科目担当教員の間で連絡を密にし、充実を図っている。

教育研究に関わる重要な案件は、学科で検討された後、毎週定期的に開催される管理運営協議会で意見の交換を行い、教授会に提案されている。

【優れた点】

- ・遠隔地にある3キャンパスを結ぶ「サイバー授業」を行っており、キャンパス間の連携を進めているのは先進的取組として評価できる。

【改善を要する点】

- ・教養教育を含む教育課程の検討を行う大学全体及び学部ごとの責任体制を確立する組織上の措置を講じ、明文化されていない点について改善を要する。

基準 3. 教育課程

【判定】

基準 3 を満たしている。

【判定理由】

学部、大学院の教育目的は、大学学則及び大学院学則に明記されている。学部の各学科及び大学院の各課程、専攻科の教育課程の編成は、各学科及び各課程、専攻から目的を定め、それに沿って組まれている。教育課程は、造形・芸術についての理論的講義科目と実技実習科目とが設定され、学年進行に伴い修得すべき科目、単位数が設定されている。必修科目は低学年で専門基礎的内容、高学年では専門的各論的内容とし、学年進行が適切になるように配慮し、職能的に細分化された専門教育にも対応している。毎年教育課程の見直し及び改訂を行い、社会の要請に応えるべく対応している。

教養教育については課題が残るが、大学の特色と結びついた新たな伝統芸術を教養教育に位置付けようとしている。単位に関する諸規程について、改定し、明文化すべき点はあるが、改善に意欲的かつ積極的に取り組んでいる。

【改善を要する点】

・年次別履修単位数の上限を設定されていない点について改善を要する。

基準 4. 学生

【判定】

基準 4 を満たしている。

【判定理由】

アドミッションポリシーに基づき、各種の入学選抜が「入学者選抜委員会規程」に沿って行われている。

学生への学習支援体制は、学習支援のための全専任教員による教員打合わせ会を毎年新学期直前に行っている。そして、学生に対しては各学期の単位修得状況確認と次期の学習計画の指導を学期初めと学期末のガイダンスで行い、更に各年度末には指導教員を中心に 1 年間の勉強の進捗度を学生に再確認してもらう仕組みをとっている。

学生サービスの体制は、学生部を中心に行われているが、支援組織としては更なる努力が期待される。しかし、教員はオフィスアワーや演習、実習を通して学生個々の状況を十分に把握しており、学生生活一般に関して学生の意見を汲上げ、相談に対応している。

就職・進学支援などについては、組織的対応体制は弱いのが、全教員が連携し学生個別に就職支援を行っている。支援の内容としては、就職ガイダンス、職務適性テスト、就職支援や資格取得プログラムの一部の授業への取組みがある。また、特徴的取組として、宝塚キャンパスと新宿キャンパスとインターネット・サーバーで結び、企業との相互ガイダンスが可能なシステムを使って「サイバー就職ガイダンス」を実施している。

基準 5. 教員

【判定】

基準 5 を満たしている。

【判定理由】

教育課程を遂行するために必要な教員は、大学設置基準で求められている専任教員数を満たしており、教授数も確保されている。主要科目は専任の教授又は准教授が担当し、学位の種類及び分野に応じた各学科の専門教員をコースごとに適切に配置している。

教員の採用・昇任の方針は、「宝塚造形芸術大学教員資格審査規程」により明確に示されかつ適切に運用されている。教員の教育担当時間は概ね適正である。教員の教育研究活動を支援する体制は、演習・実習科目では大学院生による TA (Teaching Assistant) 制度の活用がある。また、学会活動、展覧会出品、調査・視察などには専任教員研究費が支給されている。

教員の教育研究活動を活性化するための取組みとして、教員各自による「ティーチング・ポートフォリオ」の作成提出、FD (Faculty Development) 委員会主催の「教員間相互の授業見学・参加」そして、授業の内容及び方法の改善を図るために前・後期各 1 回学生による授業評価アンケートを実施している。また、団体展への応募、個展開催、紀要や論文への投稿を促し教員の資質向上にも力を入れている。

基準 6. 職員

【判定】

基準 6 を満たしている。

【判定理由】

職員事務組織は、「学校法人関西女子学園管理運営規程」に則り、法人事務局は宝塚キャンパスに、大学事務局は宝塚・大阪梅田・東京新宿の各キャンパスに置き、法人本部事務局と大学事務局の2局方式で必要な部署を配置している。キャンパスが3か所に分散していることもあり、限られた職員数のなかで円滑な運営ができるように、その組織編制と人員配置には努力しているが、組織の統廃合を含め、更に効率的な組織体制の検討が望まれる。特に、新宿キャンパスにおいては東京メディア・コンテンツ学部が学年進行中であるが、今後完成年度に向けて職員人員体制の充実が望まれる。

事務職員の採用、昇任、異動の方針及び運用は「学校法人関西女子学園就業規則」及び「人事審議会設置要項」に則り理事長が決定しているが、それらの必要条件について一定の明文化した規程の整備の必要性があるとの認識がなされているので、その早期実現に期待したい。

職員の資質向上のために、大学独自の職員研修は行っていないが、外部団体が実施する各種研修会には計画的、継続的に職員を派遣している。

教育研究支援のための事務組織は、教員の科学研究費補助金の申請・執行事務を法人本部の財務課で行い、教員と連携して適正な執行に当たっている。また、教務部教務課やメディア関係の講義・演習系の補助業務として事務局庶務課の分室の設置、実習系授業の補助を行う教務助手の配置などにより、学生及び教員に対する教育研究支援を行っているが、より一層の体制の整備が求められる。今後は教務助手の採用や、現在採用している大学院生によるTA (Teaching Assistant) 制度の構築などを優先課題として検討することとしており、教員との協力体制のもとで事務体制を機能させている。

【参考意見】

- ・救急体制の整備の視点から、医務室に専門的な資格を持った常勤の職員を配置することが望まれる。
- ・職員の資質向上のために、多様な研修制度の整備が望まれる。

基準 7. 管理運営

【判定】

基準 7 を満たしている。

【判定理由】

理事会は、監事の出席のもとに8月を除き毎月定期的で開催されており、評議員会も必要に応じて適宜開催されている。

理事、監事、評議員は、私立学校法及び「学校法人関西女子学園寄附行為」に則り、必要人数が教育界、法曹界、実業界、同窓会及び学園教職員内からバランスよく選任されている。

管理運営に関する方針を具現化するために、法人本部及び大学の管理教育部門の責任者で構成する「管理運営協議会」を設け、重要事案の審議、大学の現状報告、課題の討論など、法人・大学の業務に関する協議を行う場を設けている。また、大学事務局内では「部署連絡会議」を開催して、部署間の情報交換や教授会「管理運営協議会」及び理事会、評議員会の報告を行っており、管理運営体制は整備されている。また、学長は、8月を除き毎月開催する教授会で、学長報告として、理事会、評議員会及び「管理運営協議会」の内容報告を行っている。

理事会・評議員会で審議・承認された予算・決算などの学園財政や将来構想などの大学運営に関する事項は、理事会開催後「管理運営協議会」又は教授会で学長を通じて教員に報告・説明されている。また、各種会議などでの意見や提案事項は学長などを通じて理事長や理事会に報告、処理されており、管理部門と教学部門の連携が適切になされている。

平成6 (1994) 年度から毎年、自己点検・評価を実施し「UNIVERSITY ACCREDITATION (大学自己点検評価報告書)」を作成し、公表している。自己点検・評価の結果は、第三者評価を目的に学外の学識経験者の委員をもって構成されている「大学評価審議会」に報告され、審議された事項は答申として理事会に報告されており、大学の運営に反映する体制ができている。

【優れた点】

- ・平成6 (1994) 年度から毎年、自己点検・評価を実施し、その報告書として「UNIVERSITY ACCREDITATION」を作成、公表していることは評価できる。

- ・自己点検・評価の結果を、第三者評価を行うことを目的に学外の有識者によって構成された「大学評価審議会」に報告し、そこで審議され理事会に答申された評価の結果を教育研究活動、管理運営の改善に資していることは高く評価できる。

基準 8. 財務

【判定】

基準 8 を満たしている。

【判定理由】

学生生徒等納付金収入及び手数料収入は、過去 5 年間少しずつではあるが増加しており、借入金については長期的な返済計画を立て実行し、一定割合の支払い資金を確保して財政状況の安定を図っている。学生確保においては、東京メディア・コンテンツ学部を除いて厳しい状況が続いており、今後、長期的な消費収支の均衡を図り、内部留保資産比率を高めるために、学生の確保のための対策と適正な各学部学科規模及び内容の検討が望まれる。また、施設設備及び新規事業への投資に重きを置いているが、教育研究水準の維持・向上に必要な教育研究経費及び人件費への配分など、支出構成については配慮が望まれる。

会計処理は「学校法人会計基準」に基づき「学校法人関西女子学園経理規程」を定め、適正になされており、また、決算期には、監査法人による会計監査時に、公認会計士の資格を有する監事が立会って監査機能の強化を図っている。

財務情報の公開については、教職員や在学生、保護者などの利害関係者に対しては、すべてのキャンパスで閲覧できるよう、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書を常備し、開示請求があれば閲覧できるようにしている。今後、ホームページ上での財務情報の公開を検討しており、早急にその実現が望まれる。

帰属収入は学生生徒等納付金に大きく依存しており、帰属収入の多様化を図るために寄附金依頼や受託事業研究受入れの再構築の検討を行うこととしており、外部資金の導入に努力している。

【参考意見】

- ・経営状況、財務状況の透明性を図るために、財務書類などをホームページで公開することが望まれる。
- ・外部資金として、文部科学省による公的研究費、受託研究費、共同研究費などを積極的に導入する取組みが期待される。

基準 9. 教育研究環境

【判定】

基準 9 を満たしている。

【判定理由】

宝塚、大阪梅田、東京新宿の各キャンパスとも校地面積、校舎面積は大学設置基準を満たし、各キャンパスの教員研究室、学生自習室、医務室、図書館（情報メディアセンター）など、必要な施設設備も整備されている。学年進行中の東京新宿キャンパスは、学生の課外活動のためのスペースなどについて今後充実させることとなっている。

大学を特色づける 3 キャンパスの IT による連携は、「サイバーキャンパス」として整備されている。

なお、宝塚キャンパスについては、空間、施設、設備のバリアフリー化の整備計画を作成し、順次実施することが望まれる。

施設設備の管理は、所轄課と外部委託によっているが、適切に維持、運営され、法定及び任意の保全点検を毎年定期的実施し、災害発生への備えとその対処のために「危機管理規程」に基づいて防災研修会を年 2 回実施しているなど、安全性の確保に努めている。

【優れた点】

- ・コンピュータの IT 設備は、3 キャンパスとも整備され、「サイバー授業」を積極的に実施していることは評価できる。

【参考意見】

- ・大阪梅田キャンパス、東京新宿キャンパスは、バリアフリー対応に配慮しているが、宝塚キャンパスにおいても、障害のある学生の受入れが可能なように施設設備のバリアフリー化の計画を作成し、整備を進めることが望まれる。

基準10. 社会連携

【判定】

基準10を満たしている。

【判定理由】

大学が持っている物的・人的資源の社会への提供については、図書館を含めた大学施設の市民への開放を積極的に行之っており、また、継続的に社会人を対象とした公開講座やキャリアアップ・生涯学習の提供・芸術分野における自己実現・能力開発などの学習ニーズに応える目的の「エクステンション講座」を開講している。

企業や他大学との関係構築については、芸術を社会のなかで活用させることを目的に企業や他大学と連携した各種の企画・立案を通しての協力関係の中で育まれている。

大学と地域社会との協力関係では、大学は近接行政地区である川西市と「宝塚造形芸術大学と川西市の連携協力に関する協定書」を締結し、人的・知的資源の交流、協働調査・研究及び事業の実施、両者の主催事業に対する相互の協力・支援などの協力関係を構築している。また、地元自治体とのリフレッシュ教育では、制作実習を通じての番組制作など、自治体や企業と連携した各種の企画・立案に協力している。更に、大学通学区域内にある小・中・高等学校の児童・生徒を対象にした大学体験実習・学内施設見学や、地元自治会商店街へのさまざまなアイデアの提案やプロジェクト参画などを通して、地域の活性化に協力している。

基準11. 社会的責務

【判定】

基準11を満たしている。

【判定理由】

社会的機関として求められる組織倫理については、就業規則をはじめとして、「管理運営規程」「綱紀委員会規程」「懲戒検討委員会規程」「個人情報保護に関する規則」などが定められており、適切な運営がなされている。

危機管理体制については、危機管理規則、「安全の手引き」「施設管理規程」「防火管理規程」「災害防止規則」などを定めている。災害危機管理、健康危機管理、社会危機管理などについて基本的な対応体制は整えられている。

大学の教育研究成果は、専任教員の教育研究に関する学術発表の機関誌である「宝塚造形芸術大学紀要」を中心として、在学生、卒業生、教職員などの教育研究活動などの情報誌である「アートヒルニュース」などの印刷物や大学ホームページを通じた学内外情報の掲載などにより、学内外に広報活動する体制が整えられている。



お わ り に

大学を取り巻く環境はいま、きわめて厳しい状況の下にある。18歳人口は減少の一途をたどり、大学進学率が55%付近で頭打ちになったまま、志願者の争奪合戦ともいべき現象が、国公立を問わず、日本中で起きている。志願者争奪戦は確実に大学生の質の低下を招く結果をもたらす。

こうした中、文部科学省は、大学の質保証のために各大学における教育情報の公表促進が必須として、教育研究活動のうち具体的に公表すべき9項目にわたる事項を、学校教育法施行規則に明記する改正案が平成23年4月1日に施行された。

上記、9項目には大学の教育研究上の目的、教員の有する学位及び業績、入学者の受入方針と入学者数、収容定員と在学者数、就職者数と就職、進学状況、学習の成果に係る評価及び卒業又は修了認定の基準などを具体的に明記することが求められている。これまで大学によってはあいまいにされてきたこともすべて白日のもとにさらされることになる。

情報公開はいまや大学がその機能を果たしてゆくために必須のものとなっている。

本学は毎年University Accreditationを発刊し、教育研究に関する情報公開に努めている。加えて自己点検・評価報告書の作成やWEBサイト上への供覧などにより、より具体的かつ詳細な情報公開を進めているところである。

2014年3月

宝 塚 大 学

発 行 2014年 4月 1日

発行者 宝塚大学
宝塚市花屋敷つつじガ丘7番27号

T E L 072-756-1231

F A X 072-758-7869

